

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策政策研究事業

男性同性間のHIV感染予防対策と その介入効果の評価に関する研究

—平成26年度～28年度 総合研究報告書—

研究代表者

市 川 誠 一

人間環境大学

平成 29 (2017) 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

- 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究…………… 1
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

II. 分担研究報告

1. CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究…………… 39
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）、他
2. 男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点
および早期検査・受診に関する研究…………… 53
研究分担者 健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、他
3. MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（1）…………… 59
MSM における検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動
研究分担者 金子典代（名古屋市立大学看護学部）、他
4. MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（2）…………… 83
Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価
研究分担者 本間隆之（山梨県立大学看護学部）、他
5. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価…………… 105
研究分担者 塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）、他
6. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析…………… 125
研究分担者 佐野貴子（神奈川衛生研究所微生物部）、他
7. 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査…………… 139
研究分担者 今井光信（田園調布学園大学）、他
8. HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究…………… 165
研究分担者 木村 哲（東京医療保健大学）、他

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表…………… 183

男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

研究代表者:市川 誠一(人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授)

研究要旨

本研究では、地域の MSM への HIV 感染対策を評価する研究(研究 1、3)、予防啓発や早期検査等の新たな取組みを開発する研究(研究 2、4、5)、MSM の早期検査・早期治療の促進を図る研究(研究 6、7、8)を行った。3 年間の研究成果は以下の通りである。

研究 1: CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

7 地域の CBOs は、全地域で 1,000 店舗を超えるゲイバーの 60%、およそ 100 店舗の商業系ハッテン場の 74%、若年層 MSM が利用するクラブ系ゲイナイトなどで啓発資材配布を継続した。3 年度には、6 地域の CBO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄)は、初年度から開発してきた若年層向け予防啓発プログラム「やる!プロジェクト」と東京で実施している「Safer Sex Campaign」を連動し、コンドーム使用促進を目標に「つけていこう」の ALL JAPAN CAMPAIGN を商業施設や Web を介して展開した。また CBOs は自治体・保健所と連携して MSM 向けの検査情報資材の作成・配布、HIV 検査担当者研修会への協力を行った。東京、名古屋、大阪、愛媛の CBO は自治体、医療機関、他の研究班と共同して MSM 向けの臨時 HIV 検査を実施した。

研究 2: 男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

沖縄 44 名、福岡 25 名、仙台 19 名、計 88 名の陽性者から協力を得て、感染判明前の受検行動、医療機関受診、啓発との接点などを調査した。HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが 3 地域で判明した。特に急性 HIV 感染症は、感染拡大の要因でもあり、HIV 検査勧奨について、医療者への教育啓発が必要である。また HIV 検査歴は地域で異なっており、地方では検査施設へのアクセスを妨げる要因を改善する必要がある。

研究 3-1: MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

各地域の CBO を通じて主にクラブイベント等に参加する MSM を対象に予防行動、受検行動、CBO の啓発資材認知に関する横断的インターネット調査(GCQ)を実施した。過去 6 か月の居住地以外への訪問経験は地方から大都市への傾向が示され、移動先でのアナルセックス経験は 34.3%であった。過去 6 か月の外国籍 MSM とのアナルセックス経験は 21%、その 75%が国内での経験であった。地域間連携「やる!プロ」の認知は 52%で、早期に開始した地域は資材認知や受け取り率が高かった。MSM の国内移動、それに伴う性行動、また外国国籍 MSM との性行動等が明らかになり、これらの状況を踏まえた啓発活動が必要である。また、若者層は予防行動や受検行動が低い傾向にあり、今後の HIV 感染の拡大を抑えるうえで、若年層への啓発を強化する必要がある。

研究 3-2: コミュニティを基盤とした CBO 活動の評価

CBO・akta のコミュニティへの活動に対して、新宿 2 丁目の MSM は「akta の活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿 2 丁目に溶け込んだ活動をしている」の項目で 3 年以内の HIV 検査受検と関連していた。CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感(empathy)と信頼を持っていることが重要であることが確認された。

研究 4: 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価

若年層 MSM への予防啓発を目標に大阪地域を軸に「やる!プロジェクト」を開発・展開した。2 年度は他地域 CBO と協議してネット展開のプログラムを導入し、3 年度は 6 地域で『「やる!プロ」+Safer Sex キャンペーン』を企画、商業施設への資材配布や Web 上での啓発展開を 6 地域で行った。大阪地域での MSM 対象の連続横断質問紙調査では、「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇し、29 歳以下の認知群では HIV 検査行動、コンドーム使用が上昇していた。大阪府・市の保健所受検者調査では受検者中の MSM 割合、介入プログラム資材の認知割合が上昇しており、「やる!プロジェクト」は若年層 MSM に訴求し、検査行動を促進させたことが示唆された。

研究 5: 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究

研究 5-1: 外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査

参加者の望む言語で回答が可能な 7 言語によるインターネット調査システムを構築し、MSM およびそれ以外の回答者別に滞日外国人の行動調査を可能とした。滞日外国人を対象とするクラブイベントでの調査(有効回答 96 件)から、MSM は、生涯の HIV 検査受検経験が 68.6%で MSM 以外男性 27.8%、女性 35.0%に比して高く($p=0.006$)、日本に来てから HIV や性感染症の検査を受けたと思った割合も 88.6%と他の群より高かった($p<0.001$)。過去 6 か月の性経験率は 3 群で差異はないが、最後にセックスした相手は MSM ではその場限りの相手が 42.9%で他の群よりも高い。

研究 5-2: 中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査

中・四国地域の MSM への対策として、CBO・HaaT えひめは岡山県で県・市・クリニックと協力し、市中クリニックで MSM 向けの臨時 HIV 検査を 2 年継続した。HIV 抗体検査受検者対象の質問紙調査から、岡山県の検査広報カードの認知率は MSM が他の群より有意に高く、CBO の認知や MSM 向け啓発資材の認知も MSM に訴求していることが示された。HIV 抗体検査受検者調査は、受検者における MSM の動向や広報活動への反応を把握し、地域の HIV 感染対策の資料となった。

研究 6: HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

年間サイトアクセス数は、2016 年は 151 万件、2015 年の 186 万件と比較して 19%減となったが、2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方が当サイトを利用している。検索エンジンでは HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、信頼性の高いサイトとして多くの国民に利用されている。

研究 7: 保健所等における HIV 検査相談の全国調査

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。検査結果の対面による説明と医療機関への受診に繋がっていく保健所等の HIV 検査相談体制は HIV 感染者の早期発見と早期治療の役割を果たしている。

研究 8: HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、2016 年の郵送検査数は 90,807 件で過去最高であった。2 年間で 8 社に対して外部精度管理調査を行い、8 社中 6 社が感度、特異度が 100%であった。郵送検査の精度管理は民間の検査精度管理会社の参画を得つつ継続実施すべきと思われる。また、受検者にとって信頼性のある検査とするために、検査に係る十分な情報提供、医療機関・相談機関の案内、個人情報保護、精度管理、血液採取・郵送・検査過程の安全性、製造・販売・測定に係る法遵守の 6 点を軸に、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめた。

研究分担者(50音順)

今井 光信

(田園調布学園大学・副学長)

金子 典代

(名古屋市立大学看護学部・准教授)

木村 哲

(東京医療保健大学・学長)

佐野 貴子

(神奈川県衛生研究所・主任研究員)

塩野 徳史

(名古屋市立大学看護学部・助教)

健山 正男

(琉球大学大学院医学研究科・准教授)

本間 隆之

(山梨県立大学看護学部・講師)

A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向年報によれば、わが国の AIDS 患者及び未発症 HIV 感染者(以下、HIV 感染者)の報告は、サーベイランスが開始されて以来、増加が続いてきた。しかし、この数年間は 1,500 人前後で推移し、横ばいの傾向となっている。これは、1990 年代半ばから増加が続いた男性同性間性的接触(以下、MSM)による HIV 感染者の報告が 2009 年から、また AIDS 患者報告が 2011 以降横ばいとなったことが要因となっている。

2015 年の報告では HIV 感染者(1,006 件)の 68.7%、AIDS 患者(428 件)の 58.4%を MSM による感染が占め、報告地域としては、東京を中心とした関東地域、大阪を中心とした近畿地域、愛知県を中心とした東海地域などの大都市地域に加え、近年では九州や中四国地域からの報告も目立っている。感染者・患者の報告数が横ばいになったとはいえ、わが国の HIV 感染対策において MSM への取り組みは最も重要な課題といえる。

日本人成人男性(20 歳～59 歳)を対象とした質問紙調査から、MSM は 4.6%、その内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を利用する者が 34.6%、そしてこれら利用者は

性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを前身の研究班(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012 年度報告書)で報告した。このことは、商業施設を介した MSM への予防啓発の必要性を示唆している。

また、前身の研究班では、MSM における HIV 感染は 1970 年代、1960 年代出生層は増加が抑制されつつあるが 1980 年代出生層(20 代)で広がりが見られていることを示した。性行動が活発化する時期に商業施設を利用する若年層 MSM に対しては新たな介入手法が必要と考える。また AIDS 患者報告が多くを占める地域では、MSM への啓発や施策における課題を探りその対策を構築する必要がある。

本研究では、初年度において、「CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究」「男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究」「MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較」「商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価」の 4 研究を開始した。これらの研究は、各地域の CBO による商業施設を介した啓発普及対策とその評価、若年層 MSM への予防介入の開発とその評価に主眼をおいたものである。

一方、近年のエイズ発生動向の特徴は、地方の MSM での HIV/AIDS 報告例の増加、若年層 MSM および外国国籍 MSM の報告例(国内感染例が過半数)の増加が示されている。わが国の感染者・患者の大半を占める MSM において再び増加することなく減少に転じさせるためには、これらの MSM 層への予防啓発の促進と共に、MSM 全体への早期 HIV 検査と治療の推進が重要である。MSM の HIV 検査についてみると、一般成人男性を対象としたインターネット調査で、MSM の生涯 HIV 受検経験割合は 23.8%、商業施設利用の MSM ではおよそ 50%程度であ

B. 研究方法

研究1~8の3年間の流れと関連を図1に示した。各研究の方法は以下の通りである。

研究1: CBOの予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

分担: 市川誠一、協力: 太田貴、伊藤俊広、荒木順子、岩橋恒太、石田敏彦、塩野徳史、町登志雄、新山賢、牧園祐也、山本政弘、金城健、玉城祐貴、健山正男

地域でMSMに向けて啓発活動を行っているCBOを対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、活動状況(11月末時点)を3年間把握した。対象としたCBOは、東北地域のCBO・やろっこ、東京地域のNPO・akta、東海地域のCBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)、近畿地域のCBO・MASH大阪、中四国地域のCBO・HaaT えひめ、九州地域のCBO・Love Act Fukuoka(LAF)、沖縄地域のCBO・nankr 沖縄である。調査票の内容については12月あるいは1月に実施した研究班会議で討議し、7地域のCBOの情報共有を図った。

研究2: 男性同性間性的接触によるHIV陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

分担: 健山正男、協力: 山本政弘、伊藤俊広、仲村秀太、原永修作、藤田次郎、宮城京子、前田サオリ、椎木創一、豊川貴生

拠点病院等に受診するHIV陽性者を対象に、予防行動に影響した要因、受検のきっかけ、検査機関と選択理由、感染判明前の予防啓発との接点等の質問紙調査を行った。初年度に調査項目、調査手法を検討し、2年度は琉球大学大学院医学研究の研究倫理に関する審査承認を得たのち、沖縄地域の拠点病院に受診する男性のHIV陽性者を対象に本調査を実施した。3年度は独立行政法人国立病院機構九州医療センターと独立行政法人国立病院機構仙台医療センターにて受診中のHIV陽性者に

質問紙調査を行い、3地域88名を分析した。

研究3: MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

研究3-1: MSMにおける検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動

分担: 金子典代、本間隆之、協力: 塩野徳史、太田貴、岩橋恒太、荒木順子、石田敏彦、町登志雄、後藤大輔、新山賢、牧園祐也、金城健、玉城祐貴

CBOが啓発活動をしている地域、東北、関東、東海、近畿、中四国、九州、沖縄県に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象者に、インターネットによる横断調査(GCQ)を実施した。2015年は9イベント、2016年は12イベントと協働し、各イベント固有の調査サイトを開設し調査を実施した。対象者のリクルートは、各地域のCBOがゲイ向けクラブイベントのオーガナイザーと協力し、本調査の回答協力依頼の広告を掲載する方法をとった。

質問項目は基本属性、資材認知、HIV検査受検、過去6か月の外国籍MSMとの性行動経験、移動先での行動規範、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等、2015年は総計85問、2016年は総計50問であった。地域間移動、移動に伴う性行動に関する分析、25歳未満、25歳~35歳未満、35歳以上の年齢3群の分析を実施した。

分析対象は、初回答者に限定し、2015年は869名、2016年は1,111名であった。

本研究は、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得た(承認番号14025-3)。

研究3-2. Community-Based OrganizationによるHIV予防啓発活動のプログラム評価

分担: 本間隆之、金子典代、協力: 岩橋恒太、荒木順子、木南拓也、佐久間久弘、柴田恵、阿部甚兵、大島岳、市川誠一
東京のCBOの介入地域のひとつである新宿

二丁目の商業施設等を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を、平成 27 年、28 年に実施した。

1. 平成 27 年調査

新宿二丁目のゲイ向けのバーおよびコミュニティセンターakta 来場者に調査を行った。CBO がアウトリーチを行っている店舗、これまでに CBO と関係性のなかった店舗に対して調査強力の依頼とリクルートを行った。質問項目は、年齢、新宿二丁目を訪れる頻度、HIV 感染予防行動、国内旅行と旅行先での性行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感(5 項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚(4 項目)である。分析対象数は 328 件であった。

2. 平成 28 年調査

新宿二丁目で開催された「東京レインボー祭り」の会場にて調査を行った。質問項目は、年齢、居住地、利用施設、コミュニティセンターの認知、コミュニティペーパー等の認知、キャンペーンの認知、HIV 感染予防行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感(5 項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚(4 項目)である。回収数は 248 件、有効回答 190 件を分析した。

3. 若年層 MSM の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象

参加者リクルートは NPO 法人 akta が運営するコミュニティセンターに依頼し、ボランティアスタッフやその知人等に呼びかけた。調査方法は半構造的グループインタビュー、グループは 5 名以内、話しやすさとプライバシー確保に配慮して行った。

名古屋市立大学看護学部(14025-3)、山梨県立大学看護学部(1629)の倫理審査承認を得た。

研究 4: 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を

対象とした予防啓発介入の開発と効果評価
分担: 塩野徳史、協力: 鬼塚哲郎、町登志雄、

後藤大輔、宮田りりい、大畑泰次郎、伴仲昭彦、飯塚諒、新山賢、松本健二、半羽宏之、安井典子、柴田敏之

大阪を介入モデルの開発地域とし、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とする介入モデル「やる!プロジェクト」を MASH 大阪、HaaT えひめと共同開発し、その後他の地域に拡大する計画とした。

初年度は、紙資材を中心とした従来型予防啓発を 6 ヶ月間実施し、その前後に、予防意識、知識、性行動、初性交時の環境、相手との関係性、商業施設利用状況、予防行動、受検行動等の基礎調査を実施した。また男性との初性交時の相手との関係性や予防に関する状況とその後の性行為における予防行動や意図との関連を明らかにし、若年層 MSM を対象とする新規介入モデルを検討した。

2 年度はホームページ「やる!プロ TV」を開発し東海、沖縄地域の CBO も加えて Web 展開した。3 年度は東北、東京を加え、「やる!プロジェクト」と「SaferSex キャンペーン」をあわせた All Japan キャンペーンを実施した。

大阪地域では、啓発展開前後に予防意識・知識、性行動、受検行動等の質問紙調査(GCQ)を経年実施し、また、大阪府、大阪市の協力を得て定点保健所を設け、HIV 抗体検査受検者を対象とする質問紙調査により経年的な MSM 受検者動向を把握した。本研究は名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得た(承認番号 14025-3、14032-4)。

研究 5: 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究
分担: 市川誠一

研究 5-1: 外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査

協力: 高久道子、金子典代、岩木エリーザ、他
母国語によるアンケートを可能とするための多言語によるインターネット質問紙調査のシステムを構築し(研究 2 年度)、研究費軽減

を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変し、日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語に翻訳しシステムを完成した。国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の活用状況等に関する質問項目について、滞日外国人への支援活動を行っているCBOと共に内容や調査方法等について検討した。

愛知県内で外国国籍LGBTQを対象に開催されるクラブイベント、ブラジル国籍対象のイベント参加者に調査を行い、有効回答96件を得た。本研究は、人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得た(UHE-2016021)。

研究5-2:中・四国地方におけるMSMのHIV検査状況に関する調査

協力:新山賢、岡崎好晃、大山治彦、塩野徳史、後藤大輔、町登志雄、永田佳奈子、坂本三貴、石原千嘉、村中沙織、和田秀穂
コミュニティセンターの無い地方のMSMへの予防啓発、自治体事業連携、MSM向けHIV検査について(岡山県クリニック検査等)に取り組んだ。本研究では、岡山県、岡山市、倉敷市、医療機関、CBO・HaaT えひめとの連携によるMSM対象のクリニック検査キャンペーン及び保健所等のHIV検査受検者対象の質問紙調査を分析しMSM受検者の動向を把握した。

保健所等の質問紙調査は、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より承認を得た(承認番号14032-4)。

研究6:HIV検査・相談マップを用いたHIV検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

分担:佐野貴子、協力:今井光信、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾、星野慎二、井戸田一郎、清水茂徳、杉浦太一、市川誠一
保健所等のHIV検査相談施設やHIV検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民のHIV/AIDSへの理解

促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.HIVkensa.com>)の管理・運営を行った。ページ更新作業としては、新年度前に自治体等詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、3月下旬から4月下旬にかけて定期修正を行った。また随時、新規掲載作業、掲載情報修正作業、検査イベント情報の掲載作業等を行った。

本サイトによるHIV検査情報提供の効果調査には、Google Analyticsを用い、サイトアクセス数(年別、月別、日別)、キャリア別、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査した。また、検索エンジンにおける検索用語別の表示順位、問い合わせ内容の調査、特設検査施設受検者へのアンケート調査、保健所HIV/エイズ担当者へのアンケート調査を行った。

研究7:保健所等におけるHIV検査相談の全国調査

分担:今井光信、協力:近藤真規子、佐野貴子、大野理恵、須藤弘二、加藤真吾、市川誠一
全国の保健所のHIV検査相談施設と特設HIV検査相談施設を対象に、HIV検査相談及び梅毒検査(平成28年のみ)に関するアンケート調査票を郵送し、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

1月~12月までの1年間のデータを解析するため、平成27年度は、全国の保健所およびその支所等565施設、特設検査相談施設24施設を対象に、平成28年1月5日にアンケート調査票を郵送し、平成28年1月23日を締め切り日とした。平成28年度は、全国保健所およびその支所等563施設、特設検査相談施設21箇所を対象に、平成29年1月4日にHIV検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成29年1月20日を締め切り日とした。

研究 8:HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

分担:木村哲、協力:生島嗣、今村顕史、岡慎一、加藤真吾、要友紀子、白阪琢磨、杉山真一、高久陽介、福武勝幸、松下修三、渡會睦子

1)HIV 郵送検査の実態調査

自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社 12~13 社を抽出し、これらの郵送検査会社に対しアンケート調査を行った。

2)外部精度調査

「第三者による外部精度調査」を実施した。この調査では実際の HIV 郵送検査に用いられる指定の汙紙又は容器、陽性 51 検体、陰性 49 検体、合計 100 検体を HIV 郵送検査会社に送付した。各社による判定結果から感度・特異度等を検定した。

3)HIV 郵送検査在り方検討会

「HIV 郵送検査在り方検討会」を開催し、HIV 郵送検査の問題点を抽出し、備えるべき条件として、「在り方について」に盛り込むべき内容を検討した。

郵送検査に関する研究全体は東京医療保健大学の研究倫理委員会の承認を受けた(教 27-32)。精度調査に用いる HIV 陽性検体、陰性検体については慶応義塾大学医学部の倫理審査委員会の承認を得た(20150176)。

(倫理面への配慮)

当事者や CBO と調査、啓発等の内容を検討し、対象者への倫理的配慮を持ちつつ研究を行った。調査や啓発プログラムの実施には商業施設の協力が必須で、主旨を協力施設等に説明し、相互理解、信頼関係を構築して実施した。各研究者所属施設の倫理委員会審査承認を受けた。

研究全体については人間環境大学(承認番号 UHE-2016020)、研究 2 は琉球大学大学院医学研究科(858)、研究 3 は名古屋市立大学看護学部(14025-2、14025-3)、山梨県立大学看護

学部(1629)、研究 4 は名古屋市立大学看護学部(14025-3、14032-4)、研究 5 の滞日外国人対象の研究は人間環境大学(UHE-2016021)、保健所等の質問紙調査は名古屋市立大学看護学部(14032-4)、研究 8 は東京医療保健大学(教 27-32)、慶応義塾大学医学部(20150176)で承認を得た。

C. 研究結果

研究 1: CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

1)背景と目的

20 歳~59 歳までの日本人成人男性を対象とした質問紙調査によれば MSM は 4.6%であり、その内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を利用する者は性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを前身の研究班で報告した(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012 年度報告書)。このことは、商業施設を介した MSM への予防啓発の必要性を示唆している。

本研究では、7 地域で MSM に向けて啓発活動を行っている地域ボランティア団体(CBO)を対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携について把握した。

2)結果の概要

各 CBO は地域のゲイ向け商業施設と連携をとり利用者への啓発普及を行っている。ゲイバーとの連携率(連携店舗数/把握店舗数)は地域によって異なり、店舗数の多い東京、大阪は 50~67%、東北、東海、中四国、福岡、東海 80%~100%であった。2016 年は、全地域で 1080 店舗中 643 店舗(59.5%)に CBO は作成した啓発資材を配布していた(表 1)。また、2016 年は全 7 地域の商業系ハッテン場 101 店舗中 75 店舗(74.3%)と CBO は関係を継続し、このほかゲイ関連のショップ店、若年層 MSM の利用が多いクラブ系ゲイナイトなど

表1 地域のCBOの商業施設等との連携状況

地域 CBO	施設等 年	ゲイバー			商業系ハッテン場			ゲイナイト			ゲイショップ			備 考(2016年)
		2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	
東北 やろっこ	施設数	28	30	27	4	4	4	0	1	1	2	2	1	・東北レインボーSUMMERで各サークル団体(約30団体)と連携 ・東北地域の自治体と連携
	連携数	26	29	27	2	2	2	0	0	1	1	1	1	
	連携率	92.9	96.7	100	50.0	50.0	50.0	0	0.0	100	50.0	50.0	100	
東京 akta	施設数	591	581	613	50	51	53	—	—	—	37	37	36	・ゲイ雑誌、ウェブサイトなど ・TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE、TOKYO RAINBOW WEEK、新宿二丁目振興会/東京レインボー祭り、他と連携 ・啓発イベントNLGR+を開催し、ゲイコミュニティ、LGBT関連団体、エイズ関連団体、行政と連携、同時にHIV検査会実施 ・岐阜県のMSM向け検査協働
	連携数	247	257	263	34	34	35	—	3	—	12	10	10	
	連携率	41.8	44.2	44.2	68.0	66.7	66.6	—	—	—	32.4	27.0	27.0	
東海 ALN	施設数	43	48	47	5	5	5	5	8	5	—	2	2	・啓発イベントNLGR+を開催し、ゲイコミュニティ、LGBT関連団体、エイズ関連団体、行政と連携、同時にHIV検査会実施 ・岐阜県のMSM向け検査協働
	連携数	38	42	39	3	3	3	5	6	4	—	1	1	
	連携率	88.4	87.5	83.0	60.0	60.0	60.0	100	75.0	80.0	—	50.0	50.0	
近畿 MASH 大阪	施設数	227	235	233	20	23	19	4	8	17	12	12	12	・若年層MSM向けの予防啓発資材をクラブイベントと連携して配布 ・中国や東南アジアからのdista来場者が徐々に増加
	連携数	149	150	156	18	17	15	4	8	17	10	8	9	
	連携率	65.6	63.8	67.0	90.0	73.9	78.9	100	100	100	83.3	66.7	75.0	
福岡 LAF	施設数	70	68	66	12	12	12	6	3	2	4	2	2	・ゲイナイトとは関係はあるが、イベント自体への協力は特に実施していない
	連携数	68	67	65	12	12	12	3	0	0	4	2	2	
	連携率	97.1	98.5	98.5	100	100	100	50.0	0.0	0.0	100	100	100	
沖縄 nankr 沖縄	施設数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	・店舗開催のスポーツイベント、クラブイベントでの資材配布依頼がある
	連携数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	
	連携率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
中四国 HaaT えひめ	施設数	49	53	51	7	5	5	9	10	10	1	1	1	・一部の施設は郵送対応 ・地域のゲイ情報サイトとの連携 ・岡山県とクリニック検査を協働 ・中四国自治体と連携会議継続
	連携数	49	52	50	5	5	5	9	9	10	1	1	1	
	連携率	100	98.1	98.0	71.4	100	100	100	90.0	100	100	100	100	
合計	施設数	1050	1058	1080	101	104	101	27	35	41	57	57	55	CBOは前年度同様に多様な商業施設とのコンタクトを維持し、利用者への啓発資材を配布している
	連携数	619	640	643	77	77	75	24	31	38	29	24	25	
	連携率	59.0	60.5	59.5	76.2	74.0	74.3	88.9	88.6	92.7	50.9	42.1	45.5	

注1)2014年は11月末、2015年は12月末現在、2016年は11月末現在の状況、施設数はCBOが把握した数。表中の「—」は不明もしくは記録なし。

を介して啓発資材の配布を行っていた。

6 地域の CBO/NPO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ、nankr 沖縄)は、 Condom 使用の促進を目標に「つけていこう」の キャッチコピーによる ALL JAPAN CAMPAIGN (東京の「Safer Sex Campaign」と「やる！ プロジェクト」の合同キャンペーン)を 2016 年 10 月～2017 年 1 月末まで商業施設や Web を介して展開した。

7 地域の CBO は自治体・保健所の事業と連携して、MSM 向けの検査促進の広報資材作成 や配布、HIV 検査担当者研修会への協力を継続した。MSM 向けの HIV 検査(臨時)の実施、検査広報のチラシ等の作成、MSM 向け検査担当者研修会などについて予算化する自治体もみられ、自治体側で CBO との連携に対応する 傾向も見られている。

3)まとめ

商業施設を利用する MSM においては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない 割合が高いことが示されており、CBO による

コミュニティベースの啓発活動はエイズ対策 において大切な役割を担っている。

地方の MSM において HIV/AIDS が増加している ことは、MSM の国内移動による感染の拡が りを示唆している。東京、大阪、名古屋など の都市部と他の地方地域では、HIV 検査環境 や治療環境、HIV 関連の CBO や NPO 団体など の支援環境が異なること、社会の性的指向や HIV 陽性者への対応が異なっていることから、 MSM における HIV/AIDS 対策を同一に考えるこ とはできない。こうした状況に対して、各地域のコミュニティセンターや CBO は相互の情報や啓発資材やプログラムを共有し、それぞ れの地域の状況に沿った取り組みを検討して いくことが望まれる。

近年、HIV 感染症に対する抗 HIV 薬や治療 法の進歩により TasP (Treatment as Prevention)、PrEP (Pre-exposure Prophylaxis) が推 奨されている。HIV 感染を抑えることに加え、 梅毒、HBV、HPV などの性感染症予防プログラ ムも PrEP 導入に際しては必要である。CBO は

MSM のセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報の提供などに取り組んできた。こうした取り組みは PrEP などの新たな手法の導入においても基盤としていくことが必要と考える。

わが国においては、MSM における HIV/AIDS 報告数はやっとな横ばいとなった状況にある。頭打ちになってきたかに見える新規 HIV 感染者数、エイズ発症者数が再び急増してくることがないように、わが国の MSM への HIV 感染対策として、CBO による啓発活動の継続は重要と考える。

研究 2: 男性同性間性的接触による HIV 陽性者における予防啓発との接点と感染リスク行動に関する調査

1) 背景と目的

男性の HIV 陽性者を対象としてアンケート調査を実施し、HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とした。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の個別施策層に対する HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とした。

2) 結果の概要

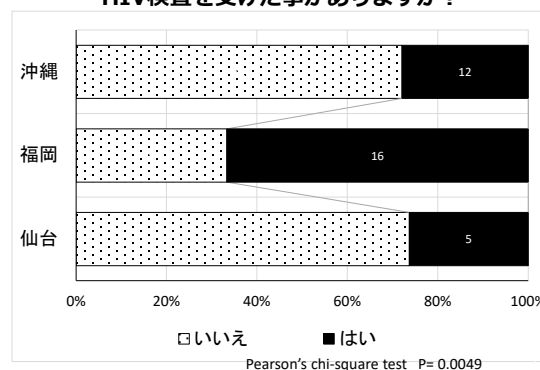
独立行政法人国立病院機構九州医療センター(以下、福岡)25 名、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター(以下、仙台)19 名の受診中の HIV 陽性者から質問紙調査の回答を得た。前年度に実施した沖縄県内 3 拠点病院(以下、沖縄)44 名、3 地域 88 名の HIV 陽性者から回答を得た。

回答者の年齢(平均値)は、沖縄 41.3 歳、福岡 43.5 歳、仙台 49.2 歳であった。自認するセクシャリティは、ゲイと回答したものが沖縄、福岡、仙台は 73%、84%、74%であった。

自身が HIV 感染する可能性についての自覚度は沖縄、福岡、仙台は 73%、79%、64%であった。過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、

仙台は 28%、66%、26%であり(図 2)、地域間の有意差を認めた(P=0.0049)。

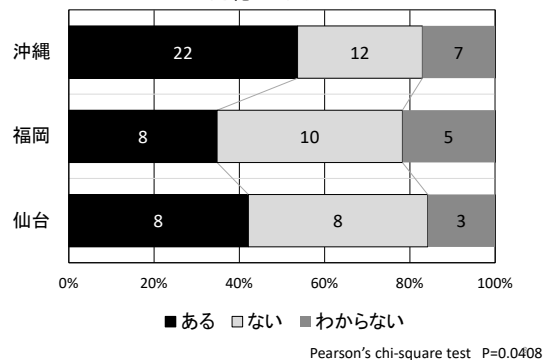
図 2. 感染が判明する前に HIV 検査を受けた事がありますか？



感染が判明する前に、医療機関を受診した経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78%であり、その内 HIV 関連症状または STI が理由であった者は 52%、50%、56%であった。また医療機関を受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25%であり、HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。HIV 感染が判明する前の生涯の性感染症歴は、沖縄、福岡、仙台は 70%、76%、77%であった。

急性 HIV 感染症の記憶が有る者は沖縄、福岡、仙台は 54%、35%、42%であった(図 3)。急性 HIV 感染を理由としての受診時、HIV 検査を勧められ受検したのは沖縄、福岡、仙台は 26%、42%、11%であった。

図 3. 急性 HIV 感染症について示されているようなことの記憶はありますか？



HIV 感染が判明する前の、同性間の HIV 関連情報の入手先は、ネット、同性間コミュニティ、新聞の報道の順に高かった。エイズ予

防指針にCBOとの連携の重要性が記載されているが、CBOの認知度は沖縄、福岡、仙台それぞれ69%、57%、45%であった。仙台はHIV検査受検体制、広報活動など、HIV検査へのアクセスが阻害されている傾向があった。

3) まとめ

感染が判明する前にHIV関連症状またはSTIを理由として50%以上は医療機関受診歴があり、HIV陽性者はHIV検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため早期発見の機会を逸失していることが判明した。特に急性HIV感染症については、感染拡大の要因となる観点からも、医療者への検査勧奨に関する教育啓発が必要である。

研究3: MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

研究3-1: MSMにおける検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動

1) 背景と目的

本研究では、東北、東京、東海、近畿、中四国、福岡、沖縄でMSMを対象とするHIV感染対策に取り組むCBOと協力し、各地域のMSMにおける予防行動、検査行動、CBOによる予防啓発の認知を把握する横断調査を継続するとともに、MSMの国内移動およびそれに伴う性行動、また外国籍MSMとの性行動等を把握することとした。

2) 結果の概要

初回回答者を分析対象者とし、2015年は869名、2016年は1,111名であった。

(1) HIV検査受検経験

2016年調査では、HIV検査受検経験割合は、生涯受検経験、過去1年間受検経験ともに地域間で差異があった(図4)。生涯受検経験割合は関東が78%、次いで関西、東海、東北、沖縄、九州、中四国の順であった。過去1年受検経験割合は関西43.4%、次いで東海、東北、関東、沖縄、九州、中四国の順であった。

人口規模が小さい都道府県居住者、コミュ

ニティセンターが設置されていない都道府県居住者は、HIV検査は居住地以外が受けやすいと回答する割合が有意に高かった(図5)。

図4 調査地域別HIV抗体検査受検経験の比較 (2016年調査)

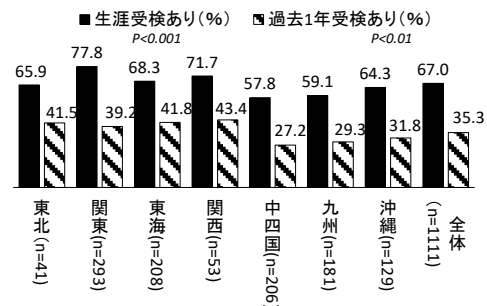
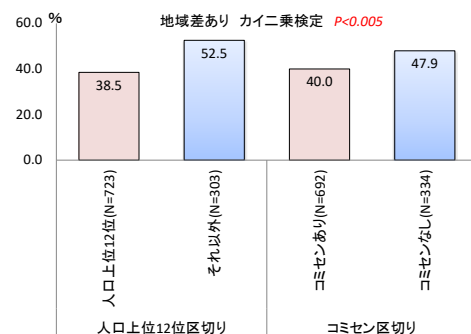


図5 居住地以外の方がHIV検査を受けやすい (居住地規模別)



(2) 過去6か月間の居住地以外の都市への移動

2016年調査では72.5%が過去6か月に居住地以外の都市(仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)を訪れた経験があった。過去6か月の居住地以外の都市への移動経験については、東北地域在住者は61%、東海地域在住者は40%が東京都への訪問経験があり、中四国在住者では46%が大崎市への訪問経験があった(図6、7)。

図6 居住地別の過去6か月での東京都、名古屋市訪問経験割合 (2016年調査)

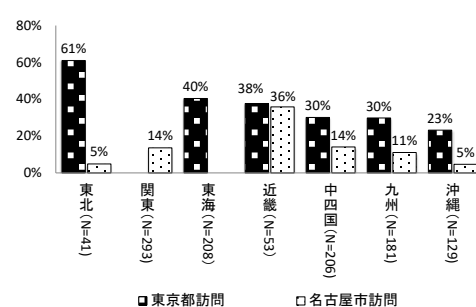
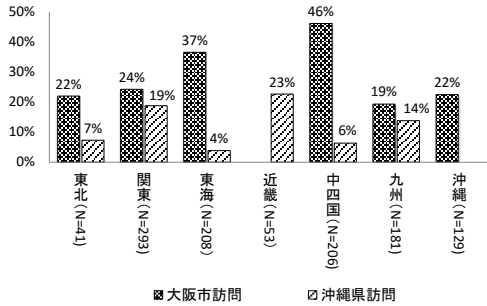


図7 居住地別の過去6か月での大阪市、沖縄県訪問経験割合（2016年調査）



過去6か月に直近に移動した先でのゲイ向け商業施設利用では、ゲイバーの利用割合が全体で63.4%と最も高かった。過去6か月間に居住地以外への移動経験があるもののうち、21.7%が有料ハッテン場を利用していた。

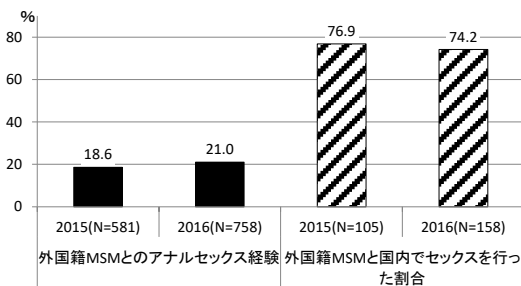
(3) 過去6か月に直近に移動した先での性行動

過去6か月に性行動経験があるものに限定し、居住地以外に直近の訪問地でアナルセックスを経験したものは全体で34.3%であった。訪問時のアナルセックスでのコンドーム使用割合は68.6%、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合は65.6%で差はなかった。

(4) 過去6か月に外国国籍MSMとの性行為経験

外国国籍MSMとのアナルセックス経験割合は2015年調査では18.6%、2016年調査では21.0%であった(図8)。そのうち75%が国内でセックス経験を有していた。

図8 過去6か月の外国籍MSMとのアナルセックス経験および国内で経験した割合（2015年、2016年調査）

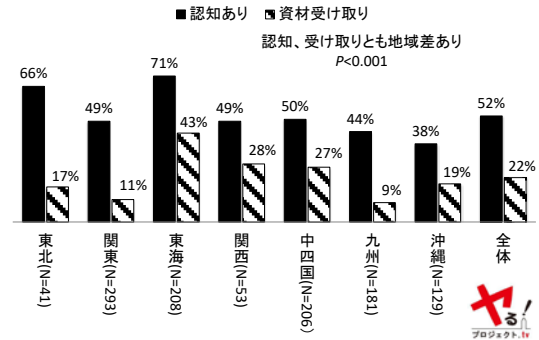


(5) やる!プロのロゴ認知と資料受け取り

研究4では、若年層向けに大阪で開発された「やる!プロジェクト」は、最終年には6地域連携の取り組みを試行した。「やる!プロ

」のロゴ認知は全体では52%、「やる!プロ」資料の受け取り率は22%であった(図9)。資料受け取り率は早期に開始した地域に高いことが示されている。

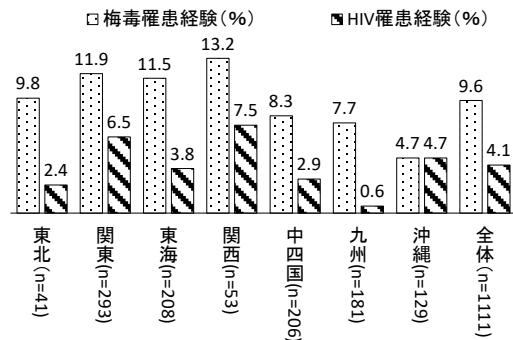
図9 やる!プロのロゴ認知と資料受け取り (N=1,111)



(6) 性感染症の罹患経験(自己申告)

梅毒は全体で9.6%、HIV感染症は4.1%であった(図10)。梅毒は沖縄4.7%から関西13.2% (p=0.215)、HIV感染症は九州0.6%から関西7.5% (p=0.044)と地域間で異なっていた。九州地域ではHIV感染症の自己申告率が他の地域よりも低い結果であったが、梅毒では差異はなく、九州地域ではHIV陽性者の調査参加が少なかったものとする。

図10 調査地域別 梅毒、HIV感染症罹患経験(自己申告)



3) まとめ

東北、関東、東海、関西、中四国、九州、沖縄地域のコミュニティイベントと連動した調査を実施し介入評価とツーリズムに関する基礎資料を得た。コミュニティセンターの無い地域では、センターがある都市と比べて検査行動の低さや受検のしづらさが確認された。

MSM の国内移動、それに伴う性行動、また外国国籍 MSM との性行動等が明らかになった。

MSM における HIV/AIDS は、都市部に加え、地方地域でも増加が見られ、また外国国籍 MSM での国内感染も増加している。地方都市の MSM や外国国籍の MSM の状況を踏まえた啓発活動が必要となっている。

研究 3-2. Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価

1) 背景と目的

新宿二丁目のゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV/AIDS の予防啓発を担う CBO・akta は、啓発活動を行うにあたり、おおまかに 2つのプロセスを重視して活動している。一つ目は、新宿二丁目の文化や価値観、文脈を尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員(仲間)としての存在感を示し、コミュニティからの信頼と共感を得るプロセスである。二つ目は、信頼における身近な仲間が、自分たちの街を盛り上げながら行っている HIV 予防啓発活動として受け入れてもらうことによって、CBO が出すメッセージは自分たちに対するメッセージだと感じてもらうことである。

本研究では、CBO が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」という CBO 活動のコンセプトと予防行動との関連性を検討した。

2) 結果の概要

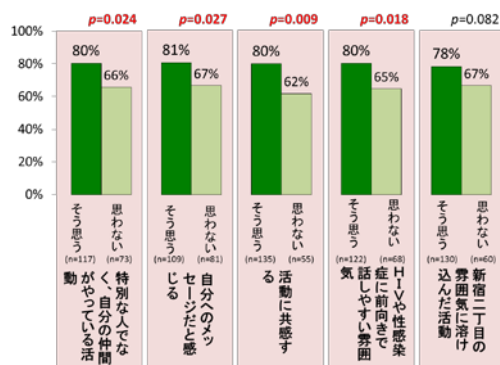
(1) 2015 年調査：CBO 活動に対する共感や受け入れが高いほど生涯検査受検経験および過去 1 年以内の検査受検経験が高かった。過去 6 か月間に友達や知り合い、あるいは彼氏や恋人と HIV/AIDS について話したことがあると答えた人はそれ以外の人に比べて検査受検経験が高かった。

(2) 2016 年調査：コミュニティ活動への共感に関する 5 項目は、「雰囲気溶け込んだ活動を

している」を除き、有意に生涯の HIV 検査受検経験があることと関連しており、検査受検群では CBO による予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった(図 11)。また、「akta の活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿 2 丁目に溶け込んだ活動をしている」の項目で 3 年以内の HIV 検査受検と関連していた。

一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の 60.5%であり、HIV や性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。

図11 CBO・aktaの活動コンセプトへの共感とHIV検査受検HIV抗体検査の生涯受検経験割合



(3) 若年層 MSM の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象

30 歳未満のゲイ・バイセクシュアル男性のグループインタビューから以下の結果を得た。

- ・検査を受けることによって、ゲイであることを近親者にカミングアウトしなければならないと考えており、検査に行っても感染がわかることよりも、ゲイであることをカミングアウトすることに障壁を感じていた
- ・ゲイであることのカミングアウトに関して親に理解があれば検査に支障を感じない
- ・感染した後の生活について具体的なイメージが持てないため、検査の意義を見出すことができていない
- ・AV などのメディアの影響を示唆する語りが複数見られた。
- ・知識が不足していることや経済的に自立し

ていないために、検査受検や保険、医療費について負担を懸念していた

3) まとめ

CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感(empathy)と信頼を持っていることが重要であることが確認された。

コミュニティセンターは、コミュニティの課題をわかりやすい形で提示するとともに課題の重要性や緊急性を共有すること、双方向の自由かつ対等なコミュニケーションの場を提供することによって、信頼あるセンターとして機能することができる。HIV/AIDS のあらゆる予防としての PrEP や PEP についてもコミュニティへのヘルスコミュニケーションの場として、コミュニティセンターの役割を強化していくことが期待される。

図12. 商業施設を利用しはじめる若年層MSMを対象とした予防啓発介入の開発と効果評価
-初性交時周辺に焦点をあてた予防介入-

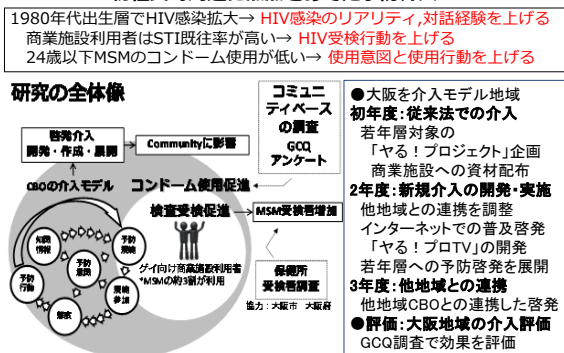
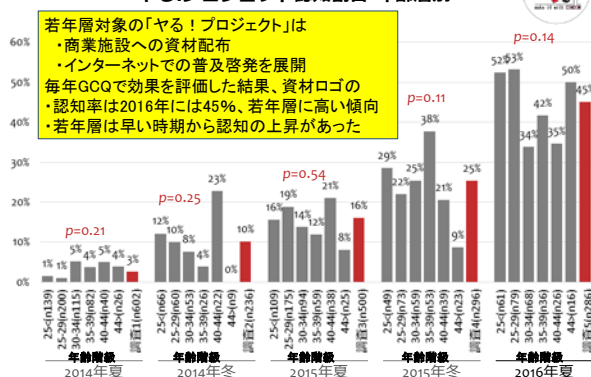


図13 大阪地域のMSMを対象としたGQJ調査
やる!プロジェクト認知割合-年齢層別



研究 4: 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価

1) 背景と目的

本研究では、若年層 MSM における HIV 感染に対して、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とする新規介入方法を開発、試行し、連続横断研究デザインを用いて評価した。

初年度は初性交時の状況を明らかにし、若年層 MSM を対象とした従来型啓発介入を実施し、得られたデータを基に評価指標を確立することを目的とした。得られたデータを基に2年度から新規介入を開発・実施し、その効果を従来型啓発介入と比較検証し、3年度には新規開発介入の持続性評価と他地域への応用を図った(図12)。

介入にあたって、以下の目標を設定した。

- ①HIV 感染のリアリティ、対話経験を上げる
- ②HIV 受検行動を上げる
- ③コンドーム使用意図と使用行動を上げる

2) 結果の概要

(1) 「やる!プロジェクト」認知の評価

「やる!プロジェクト」の大阪地域での評価 啓発介入は CBO と協働により実施され、その評価は年に2回(夏・冬)のコミュニティベース調査(GCQ)と大阪市・大阪府の協力による保健所等の HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査によって行われた。

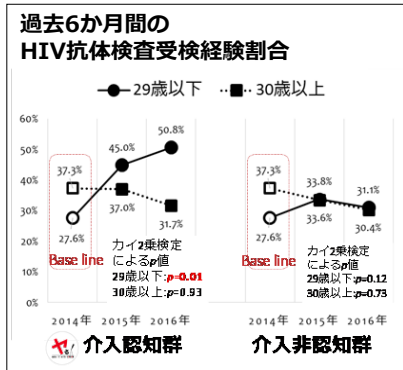
大阪地域で連続横断調査を用いて啓発介入の効果評価を実施した結果、介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は2.7%(調査1)、10.2%(調査2)、16.0%(調査3)、25.3%(調査4)、45.1%(調査5)と上昇し(図13)、調査6では52.3%に達した。2年目の新規に開発した介入以降で上昇が顕著であった。

(2) 介入認知別の行動への影響評価

調査時期が同一の調査1、調査2、調査3について、調査1のデータをベースラインデータとして年齢層・介入認知別に分析をした結果、29歳以下の若年層の認知群では過去1年間の受検経験(2014年41.5%、2015年

図14 やる!プロジェクト介入前をBase line
とした介入資材認知群と非認知群の比較
(大阪地域、横断調査)

目標: 商業施設利用者はSTI既往率が高い
→HIV受検行動を上げる



52.5%、2016年61.9%、以下同順)、過去6ヶ月間の受検経験(27.6%、45.0%、50.8%、図14)、一番最近のアナルセックスにおけるコンドーム使用割合(54.4%、67.5%、74.6%、図15)で有意差がみられた。一方非認知群では検査行動、コンドーム使用行動に有意差はみられず、過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験のみ有意差がみられ、低下していた(65.0%、58.6%、42.2%)。

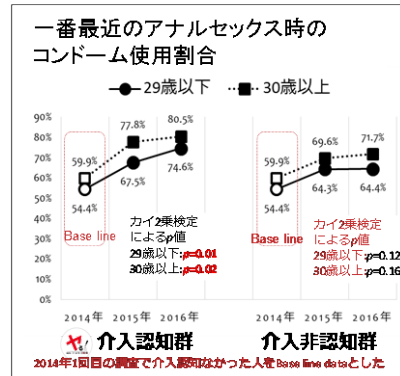
(3) 保健所受検者調査による評価

また大阪府内の保健所等のHIV抗体検査受検者調査によって、介入機関別のMSM割合の推移を比較したところ、介入機関では2014年上半期10.1%から2016年上半期15.7%と5.6%上昇した(p=0.04)。一方で非介入機関、大阪市保健福祉センターでは著変はなかった。

(3) ALL JAPAN CAMPAIGN

図15 やる!プロジェクト介入前をBase line
とした介入資材認知群と非認知群の比較
(大阪地域、横断調査)

目標: 24歳以下MSMのコンドーム使用が低い
→使用意図と使用行動を上げる



「やる!プロジェクト」は、2年度から他の地域に広げ、3年度の10月下旬からはALL JAPANの枠組みで各地のCBOと共に「つけていこう」キャンペーンを展開した(図16)。

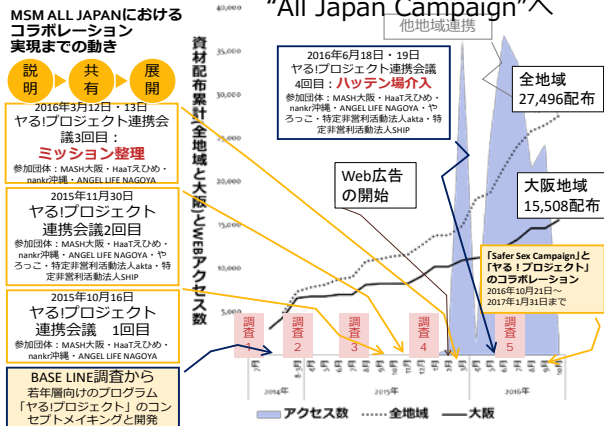
ALL JAPANのコラボレーションでは、全国にあるゲイタウンをつなぐネットワークを見据えて取り組み、全国紙であるゲイメディアの協力、コミュニティセンターや各地域にある約1000軒のゲイ向け商業施設でキャンペーングッズが配布された。また情報提供には、連動したウェブサイトを作成した。

ALL JAPANのキャンペーンに参加したCBOにとって、この取り組みは、地域のコミュニティで、また日本全国で、HIVの予防啓発においてどのようなメッセージを出していくかを検討するボードを構築する経験となった。

3) まとめ

大阪地域では、連続横断調査を用いて従来型啓発介入の効果評価を実施した結果、介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇し、20歳以上の年齢層にも広がった。29歳以下の認知群ではHIV抗体検査受検経験割合、最近のアナルセックスでのコンドーム使用が上昇した。また保健所受検者においても介入プログラム資材の認知割合やMSM割合が高くなっていった。「やる!プロジェクト」は若年層MSMの検査行動、予防行動を促進させたことが示唆された。

図16 「やる!プロ」 「SaferSexCampaign」から
「All Japan Campaign」へ



**研究5:近年のエイズ発生動向に基づくMSM層
(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究
研究5-1:外国国籍MSMの動向とHIV関連情報
活用に関する調査**

1)背景と目的

エイズ発生動向調査では、外国国籍MSMのHIV感染者が増加している。国内での感染例が50%以上であり、外国国籍MSMへの対策が必要となっている。国内で実施されている滞日外国人対象のHIV関連の調査研究では、外国籍者の多くは日本語への対応が困難であることを示している。そこで本研究では、母国語によるアンケートを可能とする多言語でのインターネット質問紙調査のシステムを構築した(研究2年度)。なお、研究費軽減を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変した。調査項目(国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV関連情報の活用状況等)の内容や調査方法等については、滞日外国人への支援活動を行っているCBOと共に検討した。

日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語に翻訳し、システムを完成した。日本語から翻訳された各言語は2名のネイティブによる確認、また翻訳者とは異なるネイティブ(研究者、外国人支援NGOスタッフ、大学院生など)による確認を加えて確定した。

2)結果の概要

愛知県内で毎月、外国国籍のLGBTQを対象に開催されるクラブイベントと、滞日ブラジル人が多く集うクラブイベントでインターネット調査を実施した。有効回答は96件、回答者の属性は男性66.7%、女性30.2%、その他3.1%であった。性経験を有する者は76人(79.2%)で、MSM46.1%、MSM以外男性23.7%、女性26.3%の3群に分類して分析を行った。

分析対象者の属性では、年齢層に有意な関連があり、24歳以下がMSM34.3%、MSM以外男性5.6%、女性15.0%であった(p=0.042)。

日本語能力はMSMが「読むこと」「話すこと」ともに「よくできる」の回答が42.9%、48.6%で、他の群より有意に高かった(p=0.003)。

日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思った経験は、MSMの方が他の群より高かった(p<0.001、表2)。一方で、MSMに限らずMSM以外男性と女性においても母国語で受けられる検査を希望していた(91.4%、72.2%、75.0%、p=0.137)。生涯のHIV検査受検経験はMSM68.6%、MSM以外男性27.8%、女性35.0%であった(p=0.006)。日本での受検経験は3群間で有意差はなかった。

過去6か月の性経験は、MSMで97.1%、MSM以外男性94.4%、女性80.0%で(p=0.075)、必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった(p=0.014)。最後にセックスをした相手は、MSMはその場限りの相手が42.9%と最も高く、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人などの特定相手が72.2%、75.5%であった(p=0.007)。

表2 滞日外国人のHIV/エイズに関する情報について
(MSMとMSM以外男性、女性別)

	MSM n=35	MSM以外 男性 n=18	女性 n=20	P値
日本でHIVに関する情報を得た	62.9	38.9	35.0	.082
日本に来てからHIVや性感染症の相談をしたいと思った	65.7	33.3	45.0	.063
日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思った	88.6	33.3	40.0	.000
母国語で受けられる検査があれば受けたい	91.4	72.2	75.0	.137
外国人向けのHIVや性感染症の予防啓発NGOを知っている	22.9	11.1	15.0	.530
ゲイ/バイ男性向けのHIVや性感染症の予防啓発NGOを知っている	28.6	16.7	10.0	.233
生涯のHIV検査受検経験あり	68.6	27.8	35.0	.006
日本でのHIV検査を受けた(受検経験者のうち)	66.7	40.0	57.1	.523

3)まとめ

参加者の望む言語で回答できるインターネット調査システムを構築したことで、滞日外国人を対象とするクラブイベント参加者から回答を得ることができ、MSMおよびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。

研究 5-2: 中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査

1) 背景と目的

近年、東京、大阪、名古屋などの都市部では減少や横ばい傾向がみられている一方、他の地域において、男性同性間の性的接触による HIV 感染者、AIDS 患者報告数が増加傾向にある。特に AIDS 患者が占める割合が高いことが地方の特徴であり、早期検査と治療の促進を図ることが必要となっている。

岡山県は、岡山市、倉敷市の自治体と連携し、MSM を対象に啓発活動に取り組む CBO・HaaT えひめ、MASH 大阪、あうとぴーちと協力関係を構築し、エイズ拠点病院および泌尿器科クリニック(2015年3施設、2016年4施設)の協力を得て、MSM 向けのクリニック検査キャンペーン「もんげ～性病検査」を年2回実施した。CBO・HaaT えひめは、MSM 向けの広報資材を作成し、岡山の当事者団体あうとぴーちと連携して地域の MSM への広報を行い、クリニック検査への誘導を図った。

2) 結果の概要

「もんげ～性病検査」受検者数は、2015年31件(内、HIV 陽性判明1件(3.2%))、2016年は46件(HIV 陽性判明数0件)であった。

研究班は、岡山県・岡山市・倉敷市、CBO・HaaT えひめに協力し、地方における MSM へのエイズ対策事例として、その効果を HIV 抗体検査受検者調査により評価した。県内保健所の受検者では、MSM 以外の男性は 2015年59.0%、2016年57.1%、女性は各年29.8%、31.6%、MSM は各年10.8%、10.9%であった。

保健所と拠点病院の受検者を MSM、MSM 以外男性、女性に分類したところ、岡山県の検査広報カードの認知率は MSM が 22.0%と高く($p < 0.01$)、CBO が配布した場所で認知していることが分かった(表3)。また CBO や MSM 向け啓発資材の認知も MSM に訴求していることが示された。

受検者を対象とする質問紙調査は、地域の

HIV 検査受検者の特性、特に MSM の動向および地域の広報活動への反応などの知見を得ることができ、地域の HIV 感染対策の資料となった。

3) まとめ

中国・四国地域では、MSM の HIV 感染者や AIDS 患者の増加が報告されており、MSM の早期検査と早期治療は喫緊の課題となっている。

コミュニティセンターの無い地方において、MSM への予防啓発、MSM 向け HIV 検査について、地域の CBO・HaaT えひめと大阪のコミュニティセンター dista (MASH 大阪)、自治体(県・市)が事業連携して岡山県クリニック検査に取り組んだ。

岡山県での行政・CBO・エイズ拠点病院・クリニックが協力した取り組みは、地方の MSM の HIV 感染に対するモデル対策事業の一つといえる。岡山県では、本検査キャンペーンを今後も継続するとともに、他の地域にも拡大していくことが望まれる。

表3 保健所・拠点病院受検者における検査広報、啓発資材・情報、CBO等の認知について

	MSM以外の男性 n=493	女性 n=267	MSM n=100	Pearson カイ2乗
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?				
ある	4.7%	3.4%	22.0%	<0.01
ない	93.9%	95.9%	78.0%	
無回答	1.4%	0.7%	0.0%	
検査広報カードをどこでみましたか? ²				
トイレ	30.4%	44.4%	27.3%	0.64
会社	13.0%	0.0%	0.0%	0.12
学校・大学	0.0%	11.1%	4.5%	0.31
病院	39.1%	33.3%	22.7%	0.49
クラブイベント	0.0%	0.0%	31.8%	<0.01
ゲイバー	0.0%	0.0%	27.3%	0.01
その他	17.4%	33.3%	40.9%	0.22
検査に来る前に以下の印刷物、ロゴ、ホームページを見た				
岡山県のホームページ	17.4%	13.5%	20.0%	0.23
岡山市のホームページ	18.5%	15.7%	25.0%	0.12
倉敷市のホームページ	11.2%	12.0%	16.0%	0.40
CBO/あうとぴーち	0.4%	0.0%	15.0%	<0.01
CBO/HaaTえひめ	0.4%	0.0%	22.0%	<0.01
fight!! (CBOの情報誌)	0.2%	0.4%	17.0%	<0.01
やる!プロジェクト	0.0%	0.4%	19.0%	<0.01
もんげー性病検査	0.9%	0.0%	28.1%	<0.01

研究 6:HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の 情報提供と利用状況の解析

1) 背景と目的

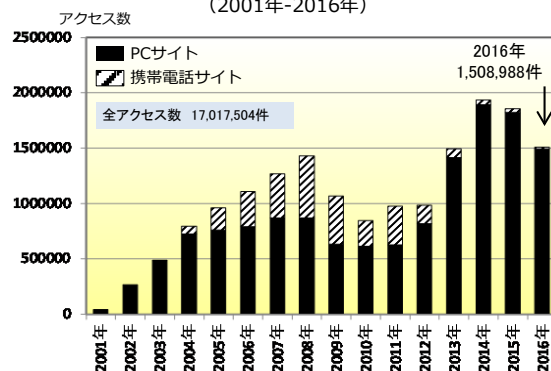
保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.HIVkensa.com>)の管理・運営を行った。本サイトによる情報提供の効果を調査するため、サイトアクセス解析と受検者および検査担当者へのアンケート調査を行った。また、3 年度には外国語ページ(8 か国語)の新規作成を行った。

2) 結果の概要

年間サイトアクセス数は、2015 年は 186 万件、2016 年は 151 万件となり、2016 年のアクセス数は 2015 年と比較して 19%減となった(図 17)。

スマートフォンからの訪問数は、2015 年は 144 万件、2016 年は 122 万件であり、総アクセス数の約 8 割を占めた。訪問者別割合では新規訪問者が約 6 割、リピーターが約 4 割であり、一定数の複数回利用者の存在が分かった。月別アクセス数では、2015 年は 5 月から 10 月までは前年度を下回っていたが、11 月は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより前年度比 40%増となったのに対し、2016 年は毎月 11~14 万件とほぼ横ばいであった。日別アクセス数でも、2015 年は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより、報道後 4 日間で約 9 万件のアクセスがあったが、2016 年は、11 月 30 日に STI/HIV 検査啓発資材(セーラームーン)の報道により一日に約 18,000 件のアクセスがあった以外には、突出してアクセス数が高い日は無かった。一日に 5,000 件を超えた日は、2015 年は年間を通して 107 日あったが、2016 年は 26 日しかなく、2016 年は国民に対して HIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

図17 HIV検査相談マップのサイトアクセス数
(2001年-2016年)



受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、35%は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。

3) まとめ

2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方に利用していただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等において多方面で紹介されており、自治体等で実施されている HIV 検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。

検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくことで、HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与するものと考えている。

研究7:保健所等におけるHIV検査相談の全国調査

1)背景と目的

男性同性間のHIV感染予防対策を考える上で、重要な位置を占めている保健所等におけるHIV検査相談体制の実状を把握し、また、その充実を図るため、全国の保健所等HIV無料匿名検査実施施設を対象としたHIV検査・相談に関するアンケート調査を実施した。

なお、平成28年度は梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。

2)結果の概要

平成27年(2015年)、平成28年(2016年)のHIV検査件数等の調査結果を表4に示した。

(1)平成27年の結果

全国保健所アンケート調査では、565保健所等施設のうち484施設(86%)から回答を得た。HIV検査を実施している全国483施設で87,856件のHIV検査が実施され、そのうち254件(0.29%)が陽性で、238件(94%)が陽性結果を受け取り、その後208件(87%)が医療機関に受診していることが確認されていた。感染症法に基づく届け出は、陽性254件中143件(56%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、24施設のうち20施設(83%)から回答があり、HIV検査件数24,412件のうち陽性は129件(0.53%)で、121件(94%)が結果を受け取り、このうち113件(93%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届け出は、129件中103件(80%)が自施設からの報告であった。

(2)平成28年の結果

i)HIV検査相談事業

全国の保健所・支所等563施設のうち469施設(83%)から回答を得た。HIV検査相談を実施していた467施設で75,584件のHIV検査が実施され、陽性221件(0.29%)のうち209件(95%)が陽性結果を受け取り、その後162件(78%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出は221件中121件(55%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、21施設のうち17施設(81%)から回答があり、HIV検査件数22,183件のうち陽性が138件(0.62%)で、そのうち128件(93%)に結果が伝えられ、その後108件(84%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった138件中119件(86%)について自施設から報告されていた。

表4 保健所等におけるHIV検査体制に関する全国調査結果

	2014	2015	2016
保健所 アンケート回答数	469/577(81%)	484/565(86%)	469/563(83%)
HIV検査を実施した保健所数	467/469(99.6%)	483/484(99.8%)	467/469(99.6%)
陽性結果のあった保健所数	114/467(24%)	119/483(25%)	111/467(24%)
陽性件数	231/94,419 (陽性率0.24%)	254/87,856 (陽性率0.29%)	221/75,584 (陽性率0.29%)
陽性結果を伝えられた件数	215/231(93%)	238/254(94%)	209/221(95%)
内、受診を把握できた件数	182/215(85%)	208/238(87%)	162/209(78%)
発生動向調査への報告件数	131/231(57%)	143/254(56%)	121/221(55%)
陰性結果を伝えられた件数	92,665/94,188 (98%)	85,919/87,602 (98%)	73,550/75,363 (98%)
特設検査機関アンケート回答数	18/23(78%)	20/24(83%)	17/21(81%)
陽性結果のあった特設検査機関	14/18	14/20	13/17
陽性件数	147/23,926 (陽性率0.6%)	129/24,412 (陽性率0.5%)	138/22,183 (陽性率0.6%)
陽性結果を伝えられた件数	138/147(94%)	121/129(94%)	128/138(93%)
内、受診を把握できた件数	124/138(90%)	113/121(93%)	108/128(84%)
発生動向調査への報告件数	-	103/129(80%)	119/138(86%)
陰性結果を伝えられた件数	23,241/23,779 (98%)	23,914/24,283 (98%)	23,914/24,412 (98%)

ii) 梅毒検査

HIV 検査と共に梅毒検査を実施している保健所等施設は 469 施設中 327 施設(70%)で、特設検査相談施設では 17 施設中 6 施設(35%)であった。梅毒検査を行っている保健所の実施状況は、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 施設(84%)で、有料検査が 44 施設(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 施設(34%)、有料検査が 47 施設(14%)であった。HIV 検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

梅毒検査を実施していない保健所で実施可能となる条件としては、「自治体本庁の方針があれば」の回答が最も多く 94 施設(74%)、予算の増額 54 施設(43%)、マニュアルの配布 31 施設(24%)、職員の増員 31 施設(24%)、医療機関の協力・連携 24 施設(19%)等の意見であった。

3) まとめ

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。HIV 陽性判明件数のうち感染症発生病向に報告されたのは、保健所では平成 27 年が 56%、平成 28 年が 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。

近年の郵送検査等での HIV 受検件数の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についての検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、

HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

研究 8: HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

1) 背景と目的

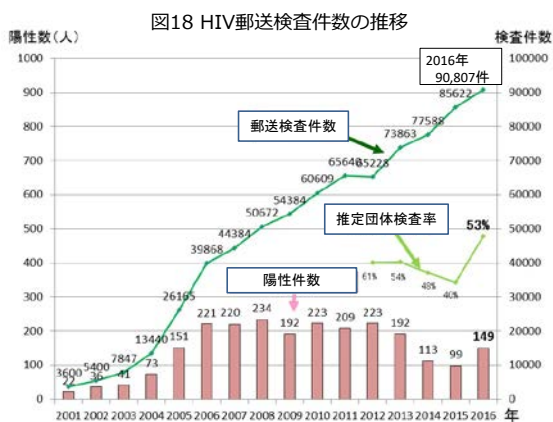
HIV 感染の早期発見(検査)と早期治療は AIDS 発症を予防し、また、新たな HIV 伝播を減らす重要な手段である。全国の保健所および自治体検査相談施設(以下、保健所等)で行っている HIV 抗体検査件数は 2009 年以降減少し、2015 年に至るまで 13~14 万件前後にとどまっている。一方、「HIV 郵送検査」による検査件数は年々増加し、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高まっていることが窺える。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられていることから、HIV 郵送検査の在り方を検討し、HIV 郵送検査を信頼性が高く、安心して受けられる検査として行くことを目的とし、本研究を計画した。2 年間にわたり HIV 郵送検査事業者(以下、会社)に対するアンケート調査及び HIV 郵送検査精度に対する第三者精度調査を行った。また、HIV 郵送検査在り方検討会では法律家を新たに加え、「郵送検査の在り方について」をまとめた。

2) 結果の概要

(1) HIV 郵送検査の実態調査

「アンケート調査」では自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社 12~13 社にアンケートを依頼し、9~11 社から回答が得られた。2016 年の HIV 郵送検査全体の年間検査件数は 90,807 件で過去最高であった。団体検査の推定受検者率は 40~53%であった。HIV スクリーニング検査陽性件数は 2015 年 99 件、2016 年 149 件であった。検査結果は郵送、e-mail、ネットでの通知が選択できる事業者

が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査事業者で病院あるいは保健所での検査を勧めていた。



(2) 外部精度調査

郵送検査の「外部精度調査」を2年間で計8社に対し実施した。各施設が実際に使用している濾紙あるいは容器にランダムに陽性検体、陰性検体、合計100検体をスポットし、あるいは指定の容器に入れ、郵送し検査を実施してもらった。8社中、6社は陽性検体、陰性検体を全て正しく判定しており、感度、特異度とも100%であった（判定保留を日本エイズ学会の推奨法に従い陽性と仮定）。残る2社で感度100%・特異度88%と感度94%・特異度100%であった。

(3) HIV 郵送検査在り方検討会

貴重な意見が数多く出され、HIV 郵送検査の在り方に関する留意事項として以下の6点をまとめた。なお「HIV 郵送検査の在り方について」の全文は分担研究者の報告末尾に記載してある。

- (1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること
- (2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること
- (3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること

(4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること

(5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること

(6) HIV 郵送検査キット(セット)の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること

3) まとめ

HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、2016年の郵送検査数は90,807件で過去最高であった。5社に対する外部精度調査では一部に判定保留が認められたが、これを日本エイズ学会の検査結果判断基準に従い陽性扱と仮定すると、5社とも感度、特異度が100%であった。郵送検査は、HIV 検査全体での割合も徐々に大きくなりつつあることから、今後、外部精度管理調査会社等の参画を得、継続的に精度管理が確認できる体制を構築する必要がある。

HIV 郵送検査在り方検討会を当初の計画通り開催し、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめた。HIV 郵送検査が受検者にとって信頼性のある検査となることが、わが国のエイズ対策にとって有用なものになるものと考えられる。そのためにも、現状の課題を整理し、改善して、利用者に提供することが望まれる。

D. 考察

1. 地域の MSM への HIV 感染対策の評価

7地域のCBOは、商業施設を介した啓発活動を継続し、自治体との事業連携を進めていた。商業施設を利用するMSMにおいては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない割合の高いことが示されており、CBOによるコミュニティベースの啓発活動はエイズ対策において大切な役割を担っている。

地方のMSMにおいてHIV/AIDSが増加していることは、MSMの国内移動による感染の拡がりを示唆している。研究3(分担:金子典代)の調査結果では、MSMの地域間移動と移動先での性行動を把握した。その結果によれば、居

住地以外の国内の都市に移動し、移動先ではゲイバーを利用する割合が高いこと、また地方から東京都、大阪市への訪問経験者の割合が高いこと、訪問先ではアナルセックスを経験していることが示された。これらのことは、国内の移動も考慮に入れた予防啓発が必要であることを示唆している。各地域のコミュニティセンターやCBOはそれぞれの地域の状況に沿った取り組みに加え、相互に情報や啓発プログラムを共有して取り組んでいくことが望まれる。

2. 予防啓発や早期検査等の新たな取り組み

本研究では、MSMのHIV陽性者の協力により、陽性判明前の状況に関する情報を得ることができた。昨年度の沖縄地域での調査に加え、東北、九州からも協力が得られ88名のHIV陽性者から、受検のきっかけ、検査機関と選択理由、感染判明前の予防啓発との接点などの情報を得た。

急性HIV感染症の症状について、医療機関に受診していたが、HIV検査が適切に提供されるべき時期に検査機会を逸失していることが判明した。保健所のHIV検査を自発的に受検することを啓発するに加え、医療機関における早期発見について、医療者の急性HIV感染症への認識について教育啓発する必要があるものと考えられる。なお他の地域でも同様の状況があると推察されるため、同様の調査を他地域でも実施する必要がある。

近年、抗HIV薬や治療法の進歩によりTasP (Treatment as Prevention)、PrEP (Pre-exposure Prophylaxis) が推奨され、わが国でもMSMはその対象に挙げられている。しかし、HIV感染を抑えることに加え、梅毒、HBV、HPVなどの性感染症を予防することも必要である。CBOはMSMのセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報の提供などに取り組んできており、

PrEPなどの新たな手法の導入においても、この基盤を生かしてコミュニティにとって有用な情報を提供していくことが必要である。

3. MSMを対象とした性行動、検査行動調査

当研究班の前身の研究班では、各地域のMSMを対象とした横断調査を継続し、MSMの予防行動、受検行動、CBO活動との接触を観察し、CBO活動の効果を評価してきた。本研究班でも同様の調査を継続して、CBOによる啓発の効果評価調査を研究3が担当した。

各地域のMSMの性行動、検査行動、CBO啓発資材等の認知を評価するには、各々の地域から少なくとも500人、東京、大阪では1000人規模の回答者を得る必要がある。これまでの研究班では、ゲイバーを利用するMSMやクラブイベントに参加するMSM、またCBOのネットワークを活用したインターネットによるアンケート調査(GCQ)を実施してきた。しかし、当研究班の研究3で実施した行動調査は、研究費規模を考慮して地域で100~200人程度の調査となっている。そのため検査行動や予防行動に関する観測値は変動が大きく、経年的な変化や啓発効果を評価することが困難となっている。CBO活動を評価するに十分な調査が不可能であることは、CBO活動の成果を示すことができず、CBOにとってもCBO自身の活動の方向性を検討する材料を失うこととなる。初年度は、予算規模を考慮して全地域を対象とする調査を行うことはしなかったが、CBOからの希望もあり、2年度から東京、東北、東海、九州、沖縄、中四国地域で小規模の調査を実施した。なお、大阪地域は研究4で実施している。

本研究のGCQアンケートでは、MSMの地域間移動と移動先での性行動に関する質問に加え、MSMの移動に伴うリスク行動や啓発への接点を把握した。これは地方のMSMにおいてHIV/AIDS、特にAIDSが増加していることから、MSMの国内移動とHIV感染の拡がりについて

検討するために各地域の CBO と実施したものである。

首都圏での質問紙調査は、akta のアウトリーチ活動を評価することを目的に実施した。この調査からは、CBO の啓発活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感 (empathy) を持っていることが重要であることがわかった。CBO をコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持ち、発信されるメッセージは自分に向けたメッセージだと感じる事が、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していることが示された。

東京に限らず、各地域の CBO は、地域のコミュニティの文化や空気感を把握し、それを活動に反映し、多様なコミュニティから共感を得る HIV/AIDS 予防啓発メッセージを発信しており、東京での調査結果は、その活動の意義を示していると思われる。

CBO によるコミュニティベースの活動が、コミュニティのニーズに沿ったものであるか、またその活動による効果が見えているか、課題は何かなどを把握するには、CBO 活動の対象であるコミュニティの MSM を対象にした調査や研究は欠かすことができない。CBO による啓発活動と行動疫学調査を HIV 感染対策の両輪としてとらえていく必要がある。

4. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入

大阪を介入モデルの開発地域とし、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とする介入モデル「やる！」プロジェクトを企画した。近年の若年層での HIV 感染の拡大防止を視野に入れて始まった研究である。初年度は大阪を軸に新たなプログラムの企画と試行を行い、2 年度目からは他の地域の CBO との協働会議を設けて他地域への展開を模索し、3

年度目にはそれを 6 地域で展開することを進めた。またコミュニティセンターの無い地域で、予算的バックアップが乏しい中四国 CBO・HaaT えひめと当初から協働体制をとった。

研究としては、大阪地域を介入モデル地域とし、初年度は紙資材を中心とした従来型予防啓発を 6 ヶ月間実施し、その前後に、予防意識、知識、性行動、初性交時の環境、相手との関係性、商業施設利用状況、予防行動、受検行動等の基礎調査を実施した。啓発プログラムを展開する前後（夏と冬）に MSM 対象の GCQ アンケート調査を毎年実施し、介入効果を評価した。また、大阪地域の MSM の受検行動については、大阪府、大阪市の協力を得て定点保健所を設け、HIV 抗体検査受検者を対象とする質問紙調査により経時的な MSM 受検者動向を把握した。

MSM 対象の行動調査から、男性との初性交時の相手との関係性や予防に関する状況とその後の性行為における予防行動や意図との関連を明らかにし、若年層 MSM を対象とする新規介入モデルを検討し、2 年度目には MSM に必要な情報として、薬物使用に関するもの、HIV 陽性に関するものを加えた。また新型啓発介入として、本プロジェクトのホームページ「やる!プロ TV」の作成を進めた。

大阪地域の MSM 対象の調査結果から、本研究が対象とした若年層では介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合が有意に上昇し、浸透は 20 歳代から 30 歳代へと徐々に拡がり、特に新型プログラム導入以降は顕著であった。認知上昇とともに 29 歳以下認知群で、生涯および過去 1 年間、6 か月の受検割合が認知群で上昇し、最近のアナルセックスでのコンドーム使用も上昇した。また保健所受検者における MSM 割合も上昇していた。これらのことは、「やる!プロジェクト」が若年層 MSM に訴求し、受検行動や予防行動に効果を示したことを示唆する。

性行動が活発になる若年層 MSM への啓発は、MSM における HIV 感染を抑制する上で重要であり、継続して取り組んでいく必要がある。

5. MSM の早期検査・早期治療の促進

HIV 検査・相談マップは、2001 年の開設から 2015 年末で 1,700 万アクセスを超えた。現在も全国で多くの方が当サイトを利用している。保健所を軸に特設 HIV 検査施設、臨時 HIV 検査、クリニックなどを掲載し、全国の HIV 検査機関の情報を提供している。この研究は、HIV 検査体制に関する研究班で行われていたが、昨年から当研究班で継続した。MSM を対象とする当研究班の CBO と共に、MSM 向けサイトとの連携など、MSM の受検行動を促進する機会となった。また近年の外国国籍 MSM の HIV 感染者の増加から、外国国籍の人々に向けたサイトコンテンツも作成した。

保健所で行われている HIV 抗体検査・相談の実態についてほぼ全数を把握した。陽性件数は、保健所と特設検査相談施設を合わせると、2016 年は 359 件の陽性件中 337 件 (93.9%) に陽性の結果が伝えられ、そのうちの 270 件 (80.1%) に医療機関受診が確認されていた。保健所等の HIV 検査は、HIV 感染症の早期検査・受診を極めて高い状況で実施していることから、わが国のエイズ対策の上で極めて重要な役割を果たしている。

一方保健所では、性的指向に関する相談等が十分とは言えないことが明らかとなった。当研究班の CBO は、自治体と連携して MSM への検査普及活動を行っている。HIV 検査担当者を対象とする研修会では、性的指向、薬物使用、HIV 陽性者への対応に関するプログラムを提供している。CBO によるこうした取り組みを全国の地域に展開することは容易ではない。しかし、性的指向等に関する情報や対応スキルなどを検査担当者が持つことは、保健所の MSM 受検者にとって受けやすい環境となる。とくに、コミュニティセンターや CBO

の無い地域では、MSM へのかかわりが課題となっている。エイズ担当者向けの研修を実施している (予定している) 自治体においては、当研究班の CBO と共に研修内容の企画を検討するなどの取り組みも一つの方法と考える。

HIV 郵送検査は 2001 年頃からほぼ直線的に増加を続け、2016 年は過去最高の件数となっていた。HIV 郵送検査は、保健所等に出向いて保健所職員や他の受検者等と対面することなく、差別偏見の目を意識せずに、一人でも受けられるといったことが検査件数の増加の一因と思われる。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられている。

当研究班の先行研究によれば、郵送検査受検者中の MSM 割合は 6% 程度と低いが陽性判定例はすべて男性であった。日本の HIV 感染者の大半が MSM であることから、陽性例の殆どは MSM と推定される。郵送検査はその利便性から、MSM のほかに薬物使用者、性産業従事者・利用者などの利用も考えられる。これらの背景を踏まえ、「HIV 郵送検査の在り方」を作成した。受検者にとって信頼性のある検査となることが、わが国のエイズ対策にとって有用なものになると考える。

6. 自己評価

1) 達成度について

7 地域の CBOs の啓発活動とその評価、MSM における行動疫学、地域間移動と性行動の評価、若年層 MSM への新たな予防介入「やる！プロジェクト」の開発・多地域展開・効果評価、HIV 陽性判明前の受検契機について、外国籍 MSM の多言語による行動調査、地方の MSM への取り組み、保健所等の HIV 検査体制の実態、HIV 検査・相談マップの有用性、郵送検査のあり方について、計画した研究はほぼ計画通り実施した。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義

CBO と自治体の連携に関する調査はエイズ予防指針の行政連携の資料となる。また、MSM の行動疫学調査は地域の MSM の予防行動や検査行動の動向を把握し、CBO 活動やエイズ対策の評価資料となる。

20 歳代の MSM への取組みは、わが国の MSM における HIV 感染を抑制する上で重要であり、意識して継続することが必要である。

保健所等の HIV 検査の実態、HIV 検査・相談マップの活用、郵送検査に関する研究は国民へのエイズ対策に資する。

3) 今後の展望について(提言)

MSM を対象とした HIV 感染対策はわが国のエイズ対策の要である。MSM における HIV 感染に対して、以下の取組みが望まれる。

・20 歳代の MSM への継続的な取組み

若年層向け「やる！プロジェクト」により、モデル地域の大阪では若年層 MSM で検査行動、予防行動が上昇した。また他地域の CBO と連携した「やる！プロジェクト」を試行し、6 地域の CBO が協働して啓発展開する基盤を構築した。性行動が活発になる若年層 MSM への啓発は MSM における HIV 感染を抑制する上で重要であり、継続した取組みが必要である。

・コミュニティセンターを軸にした CBO 活動

MSM の居住地以外の地域への移動、特に地方から東京、大阪などの都市部に訪問する傾向が高いことから、各地域のコミュニティセンターや CBO はそれぞれの地域の状況に沿った取組みに加え、地域間で協働して啓発に取り組むことが望まれる。特にコミュニティセンターを軸に取り組んでいる CBO は、コミュニティセンターの無い地域の CBO と連携し、全国的な啓発体制を構築していく必要がある。

・AIDS 患者が多い地方の MSM への取組み

AIDS 患者報告例が多い地方では、MSM の早期検査促進が急務である。性感染症等で受診

した際の医療機関での HIV 検査勧奨を促進する取り組み、また岡山県のクリニック検査をモデルとした MSM 向け検査機会提供などに取り組むことも有用と考える。

保健所等においては梅毒検査の体制を整えるとともに、HIV 検査相談マップによる HIV、梅毒検査の情報の普及が望まれる。

・CBO 活動、疫学研究、医療・行政の協働体制

MSM の HIV 感染対策には、当事者 CBO による訴求性のある普及啓発、医療機関や保健所等と連携した早期検査・早期受診の促進が軸となる。さらに、地域の MSM の行動等を把握し、評価する疫学研究が不可欠で、CBO、医療者、疫学研究者、行政担当者の研究体制で取り組むことが重要と考える。

E. 結論

性行動が活発化する時期に商業施設を利用する若年層 MSM に対しては新たな介入手法が必要となっている。また AIDS 患者報告が多くを占める地方では、MSM への啓発や施策における課題を探り対策を構築する必要がある。

本研究では、各地域の CBO による商業施設を介した啓発普及対策とその評価、若年層 MSM への予防介入の開発とその評価に主眼において、初年度から以下の 4 研究を継続した。研究 1「CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究」

研究 2「男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究」

研究 3「MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較」

研究 4「商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価」

地域の MSM を対象に商業施設を介した啓発を行っている CBO は、MSM 集団への予防啓発に加え、自治体・保健所等と連携し、CBO のネットワークを活用して検査普及等を行っていた(研究 1)。その啓発活動については研究 3

で評価し、CBO の啓発活動コンセプトへの共感が MSM の受検行動に影響していることが示された。また研究 3 では、初めて MSM の国内移動に伴う性行動を把握し、各地域の CBO が連携して予防啓発に取り組むことの必要性を示した。さらに、研究 4 では、新たに開発された「やる！プロジェクト」について、若年層 MSM での認知が高く、認知群では受検行動や予防行動に影響していた。他地域への導入も 3 年間で達成し、新たな啓発による効果が期待された。

研究 2 では HIV 陽性者の協力を得た調査から、HIV 検査が適切に提供されるべき時期に検査機会を逸失していることが判明した。医療者の HIV 感染症への認識不足に対する教育啓発が必要であった。

研究 2 年度目からは、エイズ発生動向調査において地方の MSM での HIV/AIDS 報告例の増加、若年層 MSM および外国国籍 MSM (国内感染例が過半数) の報告が増加していること、HIV 検査体制として保健所等の HIV 検査の普及と MSM の受検の向上、郵送 HIV 検査に伴う課題の解決などが望まれていることから、新たに 4 研究を開始した。

研究 5 「近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層

(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究」

研究 6 「HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析」

研究 7 「保健所等における HIV 検査相談の全国調査」

研究 8 「HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究」

研究 5 ではコミュニティセンターが無い岡山県で、CBO と自治体・保健所、クリニックが協働し、MSM 向けのクリニック検査キャンペーンを導入した。外国国籍 MSM については、現状を把握するために多言語アンケートシステムを開発し、多国籍対応の行動疫学調査を可能とした。また若年層 MSM については先行研究における性行動、受検行動等を総括し、

質的調査によりこれらの阻害要因を探った。

保健所等の HIV 検査施設を掲載している HIV 検査・相談マップは広く国民に活用されており(研究 6)、保健所と特設検査相談施設の HIV 検査は陽性件数がエイズ発生動向調査の HIV 感染者の 40%程度を占め、その殆どの方が陽性結果を受け取り、医療機関を受診していた(研究 7)。保健所等では HIV 感染症の早期検査・受診を高い状況で実施しており、わが国のエイズ対策の上で重要な役割を果たしている。

一方 HIV 郵送検査は利用件数が増加している一方、検査精度管理、個人情報保護、陽性者の医療機関等への結びつけの課題などがある。これら課題について吟味し、「HIV 郵送検査の在り方について」を作成した(研究 8)。

F. 健康危険情報

なし

G. 発表論文等

研究代表者

市川誠一

1. 論文発表

1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一.

成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態- 2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19 巻 1 号, 16-23, 2017.

2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域, 32(5): 1029-1038, 2016.

3) Nigel Sherriff1, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international

- approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015.
- 4) 高久道子, 市川誠一, 金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015.
 - 5) 岡慎一, 市川誠一, 松下修三: HIV 検査と感染予防(座談会), HIV 感染症と AIDS の治療, 6(2), 4-11, 2015.
 - 6) Mayumi Imahashi, Taisuke Izumi, Dai Watanabe, Junji Imamura, Kazuhiro Matsuoka, Hirotaka Ode, Takashi Masaoka, Kei Sato, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa, Yoshio Koyanagi, Akifumi Takaori-Kondo, Makoto Utsumi, Yoshiyuki Yokomaku, Takuma Shirasaka, Wataru Sugiura, Yasumasa Iwatani, Tomoki Naoe: Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk, PLoS One, 25:9(3):e92861. doi:10.1371/journal.pone.0092861, eCollection, 2014.
 - 7) Yasuharu Hidaka, Don Operario, Hiroyuki Tsuji, Mie Takenaka, Hirokazu Kimura, Mitsuhiro Kamakura, Seiichi Ichikawa: Prevalence of Sexual Victimization and Correlates of Forced Sex in Japanese Men Who Have Sex with Men, PLoS ONE 9(5): e95675. doi:10.1371/journal.pone.0095675, May 2014.
 - 8) 瀬瀬ゆき, 金子典代, 市川誠一: 若年女性における過去と現在の性感染症予防行動と情報入手状況の比較, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 13(1), 53-62, 2014.
 - 9) 松下修三, 市川誠一, 生島嗣, 木村哲, 荒木順子: 治療が予防になる時代のコミュニティセンター事業(座談会), HIV 感染症と AIDS の治療, 5(2), 4-19, 2014.
2. 学会発表(国内)
 - 1) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016 年.
 - 2) 高野操, 橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 生島嗣, 佐藤郁夫, 中山保世, 小日向弘雄, 友成喜代美, 土屋亮人, 杉野祐子, 池田和子, 小形幹子, 田中和子, 市川誠一, 菊池嘉, 岡慎一. 医療機関と NGO の連携による郵送検査の手法を用いた HIV 検査の取り組み. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016 年.
 - 3) 岩橋恒太, 高野操, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 生島嗣, 市川誠一, 岡慎一. 医療機関と NGO の連携による、MSM を対象とした HIV 検査“HIVcheck”における啓発とキット配布体制に関する検討. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016 年.
 - 4) Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Michiko Takaku, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: Studies on NGO 's HIV Prevention Activities for MSM in Mongolia , 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
 - 5) Michiko Takaku, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: "We are living under the same sky "in Mongolia: Adopting Japan original project for HIV

- prevention “Living Together” 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
- 6) 佐々木由理，市川誠一，塩野徳史，金子典代，萬田和志，全国 8 都道府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について，第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
- 7) 木南拓也，岩橋恒太，荒木順子，佐久間久弘，大島岳，金子典代，本間隆之，市川誠一：コミュニティセンターakta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較—，第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
- 8) 本間隆之，岩橋恒太，木南拓也，荒木順子，佐久間久弘，大島岳，金子典代，市川誠一：コミュニティを基盤とした組織(CBO)の受け入れとコミュニティ感覚—akta を基点とするアウトリーチの評価—，第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
- 9) 塩野徳史，金子典代，市川誠一，伴仲昭彦，鬼塚哲郎，町登志雄，後藤大輔，宮田りりい. 近畿地域在住の MSM (Men who have sex with men) における初性交時の予防行動に関連した要因—10 年間の変化—. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
- 10) 荒木順子，佐久間久弘，木南拓也，岩橋恒太，大島岳，柴田恵，阿部甚兵，金子典代，塩野徳史，市川誠一：MSM を対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
- 11) 岩橋恒太，高野操，大島岳，阿部甚兵，柴田恵，矢島嵩，加藤悠二，佐久間久弘，大木幸子，塩野徳史，金子典代，市川誠一，生島嗣，荒木順子：首都圏居住の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査リサーチ」の構成とその検討，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
- 12) 大畑泰次郎，判仲昭彦，田中信雄，後藤大輔，尾崎拓治，野崎丈晴，塩野徳史，市川誠一，鬼塚哲郎：地方自治体と NGO の協働による中高年 MSM 層を対象とした HIV 予防啓発定期刊行物の発行および発行を促進した要因，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
- 13) 宮田良，塩野徳史，市川誠一，金子典代：セックスワーカー女性の実態調査 - インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
- 14) 矢島嵩，岩橋恒太，柴田恵，阿部甚兵，加藤悠二，大島岳，佐久間久弘，市川誠一，生島嗣，荒木順子：HIV マップ—「HIV お役立ちナビ」の改訂に関する考察—，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
- 15) 市川誠一：「個別施策層に見られる層を越えた取り組みへのニーズ」，シンポジウム 4 (社会) 個別施策層へのエイズ対策～層を超えた取り組み，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014.
3. 学会発表 (国外)
- 1) J. Koerner, S. Ichikawa, N. Kaneko, S. Shiono, I. Kai: An internet survey investigating the HIV information needs and travel related risk behaviors of English speaking foreign gay and bisexual men in Japan, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.
- 2) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research ‘We can do it! 2010’ campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.

研究分担者

健山正男

1. 論文発表

- 1) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y. : A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. *AIDS Res Hum Retroviruses*. 32(3):284-9, 2016.
- 2) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. *日本エイズ学会誌*. 19 巻 1 号、16-23、2017.
- 3) Nakamura H, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Ishimine T, Higa F, Kaneshima H, Fujita J. The prevalence of airway obstruction among Japanese HIV-positive male patients compared with general population; a case-control study of single center analysis. *J Infect Chemother*. 20(6):361-4. 2014.
- 4) Nakamura K, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Tamayose M, Yara S, Higa F, Fujita J. Pure red cell aplasia induced by lamivudine without the influence of zidovudine in a patient infected with human immunodeficiency virus. *Intern Med*. 53(15): 1705-8. 2014

2. 学会発表

- 1) 健山正男. HIV 陽性患者のアンケート解析からみた性感染症診断における医師の課題. 日本性感染症学会、シンポジウム、日本性感染症学会誌 27 巻 2 抄録集、岡山市、2016

金子典代

1. 論文発表

- 1) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. *日本エイズ学会誌*. 19 巻 1 号、16-23、2017.
- 2) 市川誠一、塩野徳史、金子典代、本間隆之、岩橋恒太. MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. *化学療法の領域* 32(5): 1029-1038, 2016.
- 3) 高久道子、市川誠一、金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, *日本公衆衛生学会誌*, 62(11), 684-693, 2015.
- 4) 金子典代: 第 15 回日本エイズ学会 ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞受賞研究 MSM を対象とするコミュニティベースでの HIV 感染予防活動の評価研究の推進, *日本エイズ学会誌*, 17 (2), 82-86, 2015.
- 5) Nigel Sherriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, Seiichi Ichikawa : Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention, *Health Promotion International*, 2015 Nov doi: 10.1093/heapro/dav096
- 6) 金子典代: MPH の取得とエイズ予防研究の 10 年, MPH (マスター・オブ・パブリックヘルス) 留学へのパスポート: 世界を目指すヘルスプロフェッション, 公益財団法人日米医学医療交流財団編 (分担執筆), 181-197, はる書房, 東京, 2014.
- 7) Mayumi Imahashi, Taisuke Izumi, Dai Watanabe, Junji Imamura, Kazuhiro

- Matsuoka, Hiroataka Ode, Takashi Masaoka, Kei Sato, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa, Yoshio Koyanagi, Akifumi Takaori-Kondo, Makoto Utsumi, Yoshiyuki Yokomaku, Takuma Shirasaka, Wataru Sugiura, Yasumasa Iwatani, Tomoki Naoe: Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk, PLoS One, 2014 Mar 25;9(3):e92861. doi: 10.1371/journal.pone.0092861, eCollection 2014.
- 8) 瀨瀬ゆき, 金子典代, 市川誠一: 若年女性における過去と現在の性感染症予防行動と情報入手状況の比較, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 13 (1), 53-62, 2014.
2. 学会発表 (国内)
- 1) 横幕能行, 金子典代, 石田敏彦. 名古屋市無料 HIV 検査会が HIV 感染症対策に関し個別施策層へ及ぼした効果と今後の課題. 第 30 回日本エイズ学会総会, 2016 年, 鹿児島県, 2016.
- 2) Michiko Takaku, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: "We are living under the same sky" in Mongolia: Adopting Japan original project for HIV prevention "Living Together" 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 3) Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Michiko Takaku, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: Studies on NGO's HIV Prevention Activities for MSM in Mongolia, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 4) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志, 全国 8 都道府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 5) 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 金子典代, 市川誠一: 近畿地域在住の MSM における初交時の予防行動に関連した要因—10 年間の変化—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 木南拓也, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティを基盤とした組織 (CBO) の受け入れとコミュニティ感覚—akta を基点とするアウトリーチの評価—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 7) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一: コミュニティセンター—akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 8) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 岩橋恒太, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: MSM を対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンター—akta, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014.
- 9) 岩橋恒太, 高野操, 大島岳, 阿部甚兵, 柴田恵, 矢島嵩, 加藤悠二, 佐久間久弘, 大木幸子, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 生島嗣, 荒木順子: 首都圏居住の MSM を対象とした、HIV 抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査リサーチ」の構成とその検討, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014.
- 10) 宮田良, 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代:

セックスワーカー女性の実態調査 - インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014

3. 学会発表 (国外)

- 1) Noriyo Kaneko: Correlates of cervical cancer screening behavior among unmarried sexually active Japanese women aged 20-29 years old: Results from an Internet-based survey, 19th IUSTI ASIA PACIFIC conference, Okayama, 2016.
- 2) J. Koerner, S. Ichikawa, N. Kaneko, S. Shiono, I. Kai: An internet survey investigating the HIV information needs and travel related risk behaviors of English speaking foreign gay and bisexual men in Japan, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.
- 3) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research 'We can do it! 2010' campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.

本間隆之

1. 論文発表

- 1) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域, 32(5): 1029-1038, 2016.

2. 学会発表

- 1) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久

弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一: コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.

- 2) 本間隆之, 岩橋恒太, 木南拓也, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティを基盤とした組織 (CBO) の受け入れとコミュニティ感覚—akta を基点とするアウトリーチの評価—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.

塩野徳史

1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態—2009 年調査と 2012 年調査の比較—. 日本エイズ学会誌, 日本エイズ学会誌, 19 巻 1 号, 16-23, 2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32 (5) : 1029-1038, 2016

- 3) Nigel Sherriff¹, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi: 10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015

2. 学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. エイズとコミュニティ—MASH 大阪とは何か?. 第 75 回日本公衆衛生学会

- 総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」大阪, 2016
- 2) 鬼塚哲郎. MASH 大阪のはじまりと 10 年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」大阪, 2016
 - 3) 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下 優. 塩野 徳史. 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 27 年度実績報告. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島, 2016
 - 4) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志: 全国 8 都府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 5) 細井舞子, 安井典子, 青木理恵, 安保貴行, 松村直樹, 奥町彰礼, 廣川秀徹, 半羽宏之, 松本健二, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 塩野徳史: ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 検査受検経験及び関連する要因, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 6) 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子: コミュニティセンターdista における HIV 抗体検査の意義, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 7) 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子: コミュニティセンターdista 来場者の特性, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 8) 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 大畑泰次郎, 塩野徳史, 町登志雄, 後藤大輔: コミュニティセンターdista における中高年層 MSM 来場者誘致プログラム「南界堂茶会」の効果評価, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 9) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい: 近畿地域在住の MSM (Men who have sex with men) における初性交時の予防行動に関連した要因-10 年間の変化-, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 10) 川畑拓也, 森治代, 小島洋子, 駒野淳, 古林敬一, 岩佐厚, 田端運久, 亀岡博, 中村幸生, 杉本賢二, 近藤雅彦, 高田昌彦, 菅野展史, 塩野徳史, 柴田敏之: MSM 向け HIV 即日抗体検査における急性感染期の抗体陰性例の検出, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
 - 11) 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 田中信雄, 後藤大輔, 尾崎拓治, 野崎丈晴, 塩野徳史, 市川誠一, 鬼塚哲郎: 地方自治体と NGO の協働による中高年 MSM 層を対象とした HIV 予防啓発定期刊行物の発行および発行を促進した要因, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2014
 - 12) 川畑拓也, 森治代, 小島洋子, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一: 診療所を窓口とした MSM 向け検査キャンペーン(2013 年度), 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2014
 - 13) 岩橋恒太, 高野操, 大島岳, 阿部甚兵, 柴田恵, 矢島嵩, 加藤悠二, 佐久間久弘, 大木幸子, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 生島嗣, 荒木順子: 首都圏居住の MSM を対象とした、HIV 抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査サーチ」の構成とその検討, 第 28 回日本エイズ学

会学術集会・総会，大阪，2014

- 14) 荒木順子，佐久間久弘，木南拓也，岩橋恒太，大島岳，柴田恵，阿部甚兵，塩野徳史，金子典代，市川誠一：MSMを対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014
- 15) 宮田良，塩野徳史，市川誠一，金子典代：セックスワーカー女性の実態調査-インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014
- 16) 塩野徳史：HIV抗体検査受検者の特性-8都府県の保健所受検者調査の結果から-(HIV検査の体制-早期発見と早期治療に向けて)，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014

3. 学会発表 (国外)

- 1) J. Koerner, S. Ichikawa, N. Kaneko, S. Shiono, I. Kai: An internet survey investigating the HIV information needs and travel related risk behaviors of English speaking foreign gay and bisexual men in Japan, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.
- 2) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research 'We can do it! 2010' campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.

佐野貴子

1. 論文発表

- 1) 佐野貴子，加藤真吾，今井光信．HIV無料・

匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—．日本エイズ学会誌，17:125-132，2015.

- 2) 須藤弘二，佐野貴子，近藤真規子，今井光信，加藤真吾．HIV 郵送検査の現状と展望．日本エイズ学会誌，17:138-142，2015.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 近藤真規子，佐野貴子，吉村幸浩，立川夏夫，岩室紳也，井戸田一朗，山中 晃，武部 豊，今井光信，加藤真吾．中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散．第30回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島，2016.
- 2) 星野慎二，井戸田一朗，佐野貴子，近藤真規子，今井光信，加藤真吾．全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査．第30回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島，2016.
- 3) 須藤弘二，佐野貴子，近藤真規子，今井光信，木村 哲，加藤真吾．HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2015)．第30回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島，2016.
- 4) 加藤真吾，須藤弘二，佐野貴子，近藤真規子，藤原 宏，長谷川直樹．CDC が推奨する HIV 検査手順の検討と HIV-1/2 鑑別検査キット Geenius の検討．第30回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島，2016.
- 5) 佐野貴子，近藤真規子，須藤弘二，今井光信，加藤真吾．民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査．第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2015.
- 6) 近藤真規子，佐野貴子，井戸田一朗，山中晃，川畑拓也，森 治代，岩室紳也，吉村幸浩，立川夏夫，今井光信．新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移．第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2015.

7) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015.

今井光信

1. 論文発表

- 1) 佐野貴子, 加藤真吾, 今井光信. HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—. 日本エイズ学会誌, 17:125-132, 2015.
- 2) 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 加藤真吾. HIV 郵送検査の現状と展望. 日本エイズ学会誌, 17:138-142, 2015.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 近藤真規子, 佐野貴子, 吉村幸浩, 立川夏夫, 岩室紳也, 井戸田一朗, 山中 晃, 武部 豊, 今井光信, 加藤真吾. 中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016.
- 2) 星野慎二, 井戸田一朗, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 加藤真吾. 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016.
- 3) 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 木村 哲, 加藤真吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2015). 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016.
- 4) 加藤真吾, 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 藤原 宏, 長谷川直樹. CDC が推奨する HIV 検査手順の検討と HIV-1/2 鑑別検査キット Geenius の検討. 第 30 回日本エイズ

学会学術集会・総会, 鹿児島, 2016.

- 5) 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 今井光信, 加藤真吾. 民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015.
- 6) 近藤真規子, 佐野貴子, 井戸田一朗, 山中晃, 川畑拓也, 森 治代, 岩室紳也, 吉村幸浩, 立川夏夫, 今井光信. 新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015.
- 7) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015.

木村 哲

1. 論文発表

- 1) Wada K, Yoshikawa T, Lee J. J., Mitsuda T, Kidouchi K, Kurosu H, Morisawa Y, Aminaka M, Okubo T, Kimura S, Moriya K; Sharp injuries in Japanese operating theaters of HIV/AIDS referral hospitals 2009-2011. *Industrial Health* 54: 224-229, 2016
- 2) 木村哲; 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規 HIV 感染者報告数の関連. 日本エイズ学会誌 18 (1) : 79-85, 2016
- 3) 木村哲; HIV 感染症の最近の動向—世界と日本の疫学状況、抗 HIV 療法 (ART) の進歩等—. *感染制御* 11 (3) : 223-229, 2015
- 4) 木村哲; HIV 感染症について. *感染と消毒* 23 (2) : 86-92, 2016
- 5) 木村哲 (監訳); 成人および青少年 HIV-1 感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン 2016 年 7 月 14 日版. テクノミック, 東京, 2016

- 6) Ogishi M, Yotsuyanagi H, et al; Deconvoluting the composition of low-frequency hepatitis C viral quasispecies: Comparison of genotypes and NS3 resistance-associated variants between HCV/HIV coinfecting hemophiliacs and HCV monoinfected patients in Japan. Plos One 10 (3) : e0119145. doi: 10.1371/journal.pone.0119145, 2015
- 7) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 藤谷順子, 大金美和, 大平勝美, 木村哲; ICF (国際生活機能分類) コアセット 7 項目版尺度の信頼性と因子妥当性の検証—血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者を対象とした分析—. 日本エイズ学会誌 17 (2) : 90-96, 2015

3. 学会発表 (国外)

- 1) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research 'We can do it! 2010' campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.

2. 学会発表 (国内)

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

研究代表者：市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授）

研究協力者：太田貴(やろっこ)、伊藤俊広(仙台医療センター)、荒木順子、岩橋恒太（NPO 法人 akta）、石田敏彦(ANGEL LIFE NAGOYA)、塩野徳史、町登志雄(MASH 大阪)、新山賢(HaaT えひめ)、牧園祐也(Love Act Fukuoka)、山本政弘(九州医療センター)、玉城祐貴(nankr 沖縄)、健山正男(琉球大学大学院医学研究科)

研究要旨

わが国の未発症 HIV 感染者(以下、HIV 感染者)、AIDS 患者は、男性同性間性的接触(以下、MSM)による報告例が大半を占めている。報告地域としては、東京を中心とした関東地域、大阪を中心とした近畿地域、愛知県を中心とした東海地域などの大都市地域に加え、九州地域や中四国地域からの報告も目立ってきている。本研究では、7 地域で MSM に向けて啓発活動を行っている地域ボランティア団体(CBO)を対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2014 年から各年の活動状況を把握した。

対象とした CBO は、東北地域の CBO・やろっこ、東京地域の NPO・akta、東海地域の CBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)、近畿地域の CBO・MASH 大阪、中四国地域の CBO・HaaT えひめ、九州地域の CBO・Love Act Fukuoka(LAF)、沖縄地域の CBO・nankr 沖縄である。

各 CBO は地域のゲイ向け商業施設と連携をとり利用者への啓発普及を行っている。ゲイバーとの連携率(連携店舗数/把握店舗数)は地域によって異なり、店舗数の多い東京、大阪は 50~67%、東北、東海、中四国、福岡、東海 80%~100%であった。2016 年は、全地域で 1080 店舗中 643 店舗(59.5%)に CBO は作成した啓発資材を配布していた。また、2016 年は全 7 地域の商業系ハッテン場 101 店舗中 75 店舗(74.3%)と CBO は関係を継続し、このほかゲイ関連のショップ店、若年層 MSM の利用が多いクラブ系ゲイナイトなどを介して啓発資材の配布を行っていた。

6 地域の CBO/NPO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ、nankr 沖縄)は、コンドーム使用の促進を目標に「つけていこう」のキャッチコピーによる ALL JAPAN CAMPAIGN(東京の「Safer Sex Campaign」と「やる！プロジェクト」の合同キャンペーン)を 2016 年 10 月~2017 年 1 月末まで商業施設や Web を介して展開した。

7 地域の CBO は自治体・保健所の事業と連携して、MSM 向けの検査促進の広報資材作成や配布、HIV 検査担当者研修会への協力を継続した。MSM 向けの HIV 検査(臨時)の実施、検査広報のチラシ等の作成、MSM 向け検査担当者研修会などについて予算化する自治体もみられ、自治体側で CBO との連携に対応する傾向も見られている。

頭打ちになってきたかに見える新規 HIV 感染者数、エイズ発症者数が再び増加してくることがないように、わが国の MSM への HIV 感染対策として、CBO による啓発活動を継続することは重要と考える。CBO は、国内外の MSM における HIV 感染動向を把握しつつ、コミュニティ(商業施設等)や国及び地域自治体と連携し、各々の地域の特性に合わせた対策とともに、地域間で連携した取り組み、外国国籍 MSM を含めた取り組みなどを進めていく必要がある。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向年報によれば、わが国の AIDS 患者及び未発症 HIV 感染者(以下、HIV 感染者)は、サーベイランスを開始してから報告数の増加が続いたが、この数年間は 1,500 人前後の報告数で横ばいとなっている。その背景として、1990 年代半ばから増加が続いた男性同性間性的接触(以下、MSM)による HIV 感染者の報告が 2009 年以降に横ばいとなったことにある。しかし、2015 年の報告では HIV 感染者(1,006 件)の 68.7%、AIDS 患者(428 件)の 58.4%を MSM による感染が占めており、報告地域としては、東京を中心とした関東地域、大阪を中心とした近畿地域、愛知県を中心とした東海地域などの大都市地域に加え、九州地域や中四国地域からの報告も目立ってきている。特に地方では AIDS 患者として報告される割合が高く、MSM の早期検査に向けた取り組みが望まれる。

前身の研究班(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012 年度報告書)では、20 歳～59 歳の日本人成人男性の質問紙調査から、MSM の内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を利用する者は 34.6%で、性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを報告した。これは、商業施設を利用する MSM への予防啓発が日本の HIV 感染対策として重要であることを示唆する。

2002 年、厚生労働省は HIV 感染者の半数以上を MSM が占めたことを鑑み、東京、大阪、名古屋の同性愛者等で構成する NGO/NPO メンバーを委員とする「同性間性的接触におけるエイズ予防対策に関する検討会」を設置し、2003 年 3 月には、男性同性愛者等に訴求性のある啓発や当事者の事情に詳しい NGO 等との協力関係の必要性などを示す中間報告を発表した。2003 年度には厚生労働省委託エイズ予防対策事業エイズ知識啓発普及事業の一環と

して、現在の公益財団法人エイズ予防財団を通じて男性同性愛者等への啓発を促進する NGO 活動拠点としてのコミュニティセンターが東京と大阪に設置された。コミュニティセンター事業は、当初、エイズ予防対策事業の一環として取り組まれ、2008 年度までに東京(akta)、大阪(dista)、名古屋(rise)、福岡(haco)の 4 地域に設置され、2009 年度からは、厚生労働省委託事業「同性愛者等に対する HIV/エイズ予防対策事業」として、仙台(ZEL)、沖縄(mabui)を加えた 6 地域となった。2011 年度からは厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業」(コミュニティセンター事業)として、施設運営費、運営に係る人件費、啓発資材作成等の費用などを含む事業となった。公益財団法人エイズ予防財団が 6 カ所のコミュニティセンター事業を受託し、センター運営を担う各地域の CBO(CBO・やろっこ、NPO・akta、CBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)、CBO・MASH 大阪、CBO・Love Act Fukuoka(LAF)、CBO・nankr)と共に、商業施設を介した予防啓発、自治体等と連携した HIV 検査促進の啓発活動を進めている。一方、中四国地域では、CBO・HaaT えひめが独自の活動を展開し、ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設を介したアウトリーチ、自治体・保健所と連携した HIV 抗体検査促進などの取り組みを行っている。

本研究では、2014、2015 年度に続き、これらの 7 地域において、MSM を対象に商業施設を介した啓発普及活動、地域の自治体・保健所等、他の関連機関と連携した CBO の取り組みについて調査し、その現状を把握することとした。

B. 研究方法

地域で MSM に向けて啓発活動を行っている CBO を対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2014 年～

2016年の活動状況について回答を得た。CBOには各年の実施状況（年度内予定の企画を含む内容）の記載を依頼した。なお、本報告の表では、各CBOの記述の表現を統一し、CBOの確認を得て作成した。また各CBOの回答内容については、研究班会議において説明してもらい、CBO間での情報共有の機会を設けた。

対象としたCBOは、東北地域のCBO・やろっこ、東京地域のNP0・akta、東海地域のCBO・ALN、近畿地域のCBO・MASH 大阪、中四国地域のCBO・HaaT えひめ、九州地域のCBO・LAF、沖縄地域のCBO・nankr 沖縄である。

C. 研究結果

1. CBOの商業施設等との連携状況

7地域のCBOは、それぞれの地域でゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設やサークルなどとコンタクトをとり、それらを介したアウトリーチ活動を継続していた。施設については、ゲイバー、商業系ハッテン場、ゲイナイト、ウリ専、ショップ、サウナ・ホテル、サークル、ゲイ雑誌、ウェブサイトとさまざまであった。これらの中から、ゲイバー、商業系ハッテン場、ゲイナイト、ゲイショップ、サークルについて、CBOが把握する地域での施設数(店舗数)、アウトリーチ活動等の協力を得ている施設数(連携数)、およびその連携率を表1に示した。

ゲイバーとの連携では、地域の施設数は3年間ほぼ同規模で、連携率も同様の実施状況であった。2016年は、全地域で1080店舗内の643店舗(59.5%)にCBOは作成した啓発資材を配布していた。ゲイバーは、2014年に比べて、協力関係を構築した施設・団体等はやや増加している傾向にあった。全体では2014年1050施設から2016年1080施設に増加したが、連携施設数も619施設から643施設に増加している。

商業系ハッテン場では、2016年は全地域の101店舗中75店舗(74.3%)とCBOは関係を継

続し、このほかにゲイ関連のショップ店、若年層MSMの利用が多いクラブ系ゲイナイトなどの商業施設を介して啓発資材を配布していた。

地域で活動しているゲイサークルやゲイナイト等のすべてをCBOが把握することは容易ではないが、CBOのネットワークを活用して団体に接触し、資材等の配布を依頼している。

2. MSMへの啓発普及活動拠点・コミュニティセンターの状況

厚生労働省は2011年度から、委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」を開始し、公益財団法人エイズ予防財団がこれを受託している。全国6地域のコミュニティセンター(ZEL、akta、rise、dista、haco、mabui)は、当研究で調査を依頼したCBO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、LAF、nankr)がコミュニティセンターの運営と啓発資材作成とアウトリーチ活動を行っている。

コミュニティセンターは、ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設が集積する地域にあり、CBOはセンターを軸にゲイバー、ハッテン場、ゲイショップ、メディア、サークルなどのネットワークを介したコミュニティベースの啓発活動を進めている。また、CBOは、センターを当事者が集う「場」、予防活動の「拠点」、関係機関との連携の「ハブ」としての機能を持たせている。

6地域のコミュニティセンターの利用状況を表2に示した。各年11月あるいは12月末の来場者数ではあるが、3年間ほぼ同様の利用状況であることが伺える。

仙台のZEL、大阪のdistaは、将来的なセンター運営経費を考慮して、2015年にスペース面積を大幅に縮小した。そのため、2015年度調査では来場者数が減少したことが報告された。しかし、2016年度の報告では、ZELでは、来場者を増加させる企画を設けるなどの

工夫によりセンターの周知を図ったことで増加したことが報告されている。

運営にかかわる専従スタッフの人数や、アウトリーチ活動に関わるボランティアスタッフの人数は地域によって異なるが、多くのセンターは午後4時から10時まで、また土曜日、日曜日に開館し、MSM が利用しやすい環境を整えて運営している。ボランティア活動に関わる人材の確保は、引き続き各地域での共通課題となっていた。

3. CBO による啓発普及活動と自治体との連携

7 地域の CBO が商業施設を介して実施している啓発活動は、商業施設等を介したコミュニティベースの予防啓発活動、MSM の HIV 検査を促進するための啓発普及活動、自治体や保健所と連携した HIV 感染対策の取り組みに大別される。

各 CBO の活動概要は以下のものであった。

1) 東北地域の CBO・やろっこ

東北地域では発症後のエイズ患者の報告数が多く見られることから中高年層向けの啓発プログラムに重点をおいている。また 2011 年 3 月 11 日の東北大震災後の復興需要から転入者が増えたことに対処したプログラムなどを企画していた。

コミュニティセンター ZEL のスペース縮小は来場者の減少を招くこととなったが、2016 年にはセクシュアリティフリーの日を設ける、東北各県からの来館を促すセンター告知のポスターなどの工夫により、初来館者の増加や県外からの来場者が前年比 129%となるなど、東北地域をカバーする企画を展開している。

CBO・やろっこは、仙台市と協力して MSM に向けて HIV 検査促進の資材作成と配布を継続している。6 月実施の仙台市エイズ即日検査会の受検者に占める MSM の割合は、ZEL 開設当初は 10%前後であったが、2013 年 6 月 28%、2015 年 6 月 41.6%、2016 年 43.8%と CBO による広報活動の成果を示している。ま

た、郡山市保健所(HIV 検査)、いわき市保健所(HIV/梅毒検査)との連携も始まっている。

CBO・やろっこは、エイズ患者の報告割合が高い東北地域で、早期検査・早期治療に向けた取り組みを行っている。

2) 東京地域の NPO・akta

2003 年に始まった新宿 2 丁目のゲイバー等を介したデリバリーヘルスポーイ(通称デリヘルボーイ)によるアウトリーチ活動を中心に、コミュニティペーパーやコンドーム配布、HIV 陽性者の手記を用いた Living Together プログラム、ハッテン場等への Safer Sex キャンペーン、セーフターセックスガイド「HAVE A NICE SEX」の配布など、コミュニティベースの予防啓発を展開している。

日本の HIV 感染者において多くを占める首都圏地域において、MSM の HIV 検査促進は重要であり、2006 年～2010 年度のエイズ予防のための戦略研究では、エイズ患者の増加を止めるために「エイズ発症予防『できる!』キャンペーン」を展開した。その後も、NPO 法人・ぷれいす東京、NPO 法人・akta、そして当研究班は協働体制(首都圏グループ)を継続し、MSM 対策のための行政・自治体・NGO の意見交換会、検査担当者向け MSM 対応の研修会、MSM に向けた HIV 検査機関を紹介する「ヤローページ」の配布、そして MSM 向けの HIV 検査・相談・医療等に関する総合情報サイト HIV マップを継続している。

自治体・保健所が行う MSM 向け HIV 検査については、akta 開設当時から始まった新宿区保健所の「ゲイのためのエイズ・性感染症検査」の広報に加え、千葉県休日検査会、新橋あんしん検査(みなと保健所)、埼玉県保健医療部、埼玉県草加市保健所などと連携し、検査広報を商業施設やゲイ向けアプリバナー、ゲイ向けサイトに行っている。

また、2015 年度には、国立国際医療研究センター・エイズ治療開発センター(ACC)と協働

し、「あんしん HIV チェック」の検査キット配布を開始した。これは自己穿刺の血液ろ紙を ACC に郵送して、ACC での検査結果を専用 Web ページで ID、パスワードで知る方法で、結果が陽性の場合には ACC もしくは協力医療機関・東新宿こころのクリニックに受診するプログラムである。検査キットをセンターで配布する際に、検査の流れを説明し、相談が必要な人には対面相談に応じている。

PEP、PrEP など新しい予防の時代を迎えていることに対して、コミュニティセンター akta ではこれらをテーマにした「トークイベント」を開くなどの対応を始めている。

コミュニティセンター akta には、全国からの訪問者や外国人ツーリストの訪問が多く、各地の CBO やアジア地域との連携が大切な状況となっている。

3) 東海地域の CBO・ANGEL LIFE NAGOYA (ALN)

CBO・ALN は、コミュニティセンター rise を軸に、啓発用コンドームの配布、コミュニティペーパー「HANA」の発行(年4回)、NLGR+ (Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus)などを行っている。

2001年からALNが中心となって始めた啓発イベントNLGRは、MSM対象の無料HIV検査会を併設したプログラムで、毎年5月末あるいは6月初めに実施している。無料HIV検査会は2008年に当研究班(前身の研究班)から名古屋市のMSM向けのエイズ対策事業となり、名古屋医療センターが受託して継続している。また同事業には12月に実施する「M検 in 名古屋」が追加され、自治体、保健所、名古屋医療センター、CBOが協働して、東海地域のMSMへの検査促進に取り組んでいる。

東海地域ではエイズ発症で判明する報告割合が高く、早期検査の普及が必要となっていることから、ALNは岐阜県のMSM向け無料HIV検査会「M検 in 岐阜」に協力している。

4) 近畿地域の CBO・MASH 大阪

MASH 大阪は、近畿地域のMSMにおいてセクシュアルヘルスを促進することをミッションとして1998年に設立された。それ以来、主に堂山、新世界、ミナミの地域にあるゲイ向け商業施設を介して利用者への啓発活動を継続している。若年層から中高年層まで、各々に向けたプログラムを企画して展開している。中高年層MSM向けとして開発されたHIV関連のコミュニティ情報紙「南界堂通信」は、医療のみならず福祉、法律など幅広い情報が提供されている。

若年層MSMにおいてHIV感染が拡大していることから、MASH大阪はHaaT えひめと協働して、商業施設を利用し始める年齢層を対象に予防行動、受検行動を促進する啓発プログラム「やる!プロジェクト」を企画し、実施してきた。2年度目からは、Webを活用した新規介入プログラムを開発し、名古屋、沖縄の地域を加えてWebを介した啓発を進め、3年度目となる本年は、aktaのsafer sex campaignと「やる!プロジェクト」によるALL JAPANの広域キャンペーンを実施し、若年層MSMと国内ツーリストを対象層に「つけていこう」を共通キャッチコピーとして、ポスター、コンドーム3種類、WEBサイト+広報カードにて普及を図った。大阪地域での「やる!プロジェクト」の効果評価は研究4で報告しているが、若年層MSMへの訴求性があったこと、受検行動が上がったこと、予防行動にも変化がみられたことが示されている。

エイズ予防のための戦略研究で開発した「クリニック検査キャンペーン」は、MASH大阪のコミュニティとの連携によってHIV陽性率がおおよそ5%といった成果を収め、戦略研究終了後は大阪府の事業として継続され、2014年から一部厚生労働省エイズ対策政策研究事業の協力のもとワンコイン検査キャンペーンとして展開された。さらに、昨年度から試行的に開始したMSMのHIV検査受検の

ハードルを下げることを目標とする「distaでちえっくん」は、大阪市保健所、厚生労働省エイズ対策政策研究事業の協力のもと、「distaでピタッとちえっくん」として継続している。

MASH大阪は、distaでHIV検査を実施することによって、HIV検査を身近なものにとらせる機会とし、検査に対する敷居を下げたいと考えている。

5) 中四国地域のCBO・HaaT えひめ

コミュニティセンターを有しない中四国地域では、CBO・HaaT えひめが商業施設等を介した啓発として、ゲイコミュニティペーパー「Fight!」の発行・配布、コンドームアウトリーチ、10代MSM支援予防介入「+TALK10」(愛媛地域)、Living Together イベント(愛媛地域)、10代MSM向けネット環境整備、「やる!プロジェクト」など、一部は郵送による配布方法によりアウトリーチ活動を行っている。

しかし、CBO・HaaT えひめの活動に対する資金が不足していることから、10代のMSMを対象とした企画をはじめいくつかの活動が寄付金等による自己資金となっている。HaaT えひめは、活動計画を縮小して実施しているのが現状である。

HaaT えひめは、当研究班の研究4の「やる!プロジェクト」においてMASH大阪と連携して取り組むこと、コミュニティ情報紙「Fight!」の一部を研究費により発行すること、MASH大阪の同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業による資料作成に協力し中四国地域への啓発を行うこと、「やる!プロジェクトTV」の制作を担当することなどに積極的にかかわり、中四国地域のMSMへの普及啓発を行っている。

CBO・HaaT えひめは、中四国地域の広範囲なエリアにも関わらず、MSMのHIV感染対策ネットワークを構築するために自治体を訪問し(出張懇談)、中四国地域のMSMのHIV対策

の試行としてHIV検査情報ガイドの発行・配布を行っている。

CBO・HaaT えひめは、2015年度には、岡山県がMSM向けに新たに取り組んだクリニック検査の企画・実施に参画し、「もんげ〜性病検査」の広報を行った。岡山県ではMSMを対象としたCBOとの協働による初めてのHIV検査であり、その後も継続している。

6) 福岡地域のCBO・Love act Fukuoka

CBO・Love act Fukuoka (LAF)は、情報紙コミュニティペーパーseason、HIV基礎講座、ウェブサイトの更新、若年層対象のうえるはこ、HIV検査受検促進の広報、HIV・エイズ検査相談研修会を継続している。「うえるはこ(若年層向け)」、「HIV陽性者交流会」などは、昨年度調査と同様にCBO・LAFの独自予算で実施されている。

コミュニティセンターhacoを利用する団体等は、LGBT交流会(月1~2回)、手話サークル(月1回)、ゲイ交流会(不定期)、イベント企画(企画前ミーティング、ダンス練習)などがある。しかし、サークル自体が解散し、施設を利用するサークルが無くなる傾向にあり、そのため来場者が減少していることが2015年度に指摘されていた。

コミュニティセンターhacoでは、10~20代で新規感染が増加している現状から、学生を重点対象とした開館時間3時に変更して運営されている。また相談体制強化のためにLGBT団体との地域内連携を進めている。

7) 沖縄地域のCBO・nankr 沖縄

沖縄本島に加え、離島にある商業施設にもコンタクトを取り、コミュニティペーパー「nankr」や啓発ポスター、フライヤー等のアウトリーチをほとんどの商業施設やクラブイベントなどに継続している。

コミュニティセンターを活用したプログラムとして、Living Togetherプログラム、HIV

等に関するワークショップ、勉強会、講演会などが実施されている。

Living Together の実施、検査促進のための MSM 対象検査会(保健所)の広報、中高年向けの啓発資材となる情報誌の作成などは、資金源として、厚生労働省・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業に加え、沖縄県委託費を受けて実施していた。

沖縄県の特徴として、東京をはじめとした他地域から訪ねてくる MSM が多いことがあげられる。本研究 3 の GCQ アンケート調査の国内移動に関する結果では、沖縄クラブイベントでの回答者の 33%以上が関東地域居住者で、他地域居住者が半数であったことから沖縄の特徴がうかがえる。

CBO・nankr 沖縄の活動は、こうした沖縄地域の背景を踏まえ、沖縄地域に加え、他地域の CBO と連携した取り組みが必要と考える。

D. 考察

1. コミュニティセンター事業について

コミュニティセンター事業は、当初、エイズ予防対策事業の一環として取り込まれ、2008 年度までに東京 (akta)、大阪 (dista)、名古屋 (rise)、福岡 (haco) の 4 地域に設置され、2009 年度からの厚生労働省委託事業「同性愛者等に対する HIV/エイズ予防対策事業」により仙台 (ZEL)、沖縄 (mabui) が追加された。この間、CBO の啓発介入プログラムは、厚生労働省エイズ対策研究事業による MSM の HIV 感染対策に関する研究班との協働により実施されてきた。2011 年度からは厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」となり、施設運営費、運営に係る人件費、啓発資材作成等の費用などを含む事業となった。事業は、公益財団法人エイズ予防財団が受託し、各地域の CBO と共に男性同性間の HIV 感染予防啓発を進めており、2016 年度で 6 年目となる。

地方自治体からは男性同性愛者等を対象とするエイズ対策推進においてコミュニティセンター事業の有効性が評価され、昨年度の報告に続き、いくつかの自治体は CBO と連携した MSM への取り組みについて予算化するなどの変化が見られている。地域の実情に詳しい自治体と共にコミュニティセンター事業や CBO による普及活動が継続されることは地域の MSM への HIV 感染対策として大切と考える。しかし、自治体のエイズ担当者が CBO 連携の必要性を理解はしても、エイズ対策予算が厳しい自治体の現状にあっては、あらたに MSM への対策事業のための予算を設けることは困難な状況にある。加えて、担当者が 2-3 年ごとに異動することで、CBO との連携や MSM への HIV 感染対策への理解が異なってしまう場面が生じることも課題としてあげられる。

2. コミュニティベースの活動について

各地域の CBO は商業施設を介した啓発活動を継続し、自治体との事業連携も進めていた。ゲイバーとの連携では、全 CBO が把握している店舗数 1080 店舗の内 643 店舗 (59.5%) にアウトリーチ活動を行っている (2016 年)。その他、商業系ハッテン場、ショップ、クラブイベント、サークルと様々な施設や団体を介してアウトリーチを展開していた。この連携状況は 2014 年からほぼ同様の状況を維持している。商業施設を利用する MSM においては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない割合が高いことが示されており、CBO によるコミュニティベースの啓発活動はエイズ対策において大切な役割を担っている。

2014 年 12 月に開催した当研究班会議では、コミュニティセンター事業の将来的な見通しが見えないことが課題として挙げられていた。その後、2016 年度までコミュニティセンター事業は継続され、2017 年度も委託事業として公募が継続されている。わが国では MSM による HIV 感染が大半を占めており、また、当研

究班の研究3では国内移動による性行動、外国籍 MSM との性経験なども明らかになってきていることから、コミュニティセンターを軸とした MSM への HIV 感染予防への普及活動は重要と考える。

自治体と CBO の連携が進み、MSM に対する HIV 感染対策として、MSM 向けの HIV 検査の実施や、啓発用チラシや情報誌の作成などの変化が見られている。その一方、東北、中四国、福岡の CBO はいくつかのプログラムを縮小、中断せざるを得ない状況が続いている。特に中四国では CBO・HaaT えひめは、自己資金を軸にした活動を余儀なくされており、当研究班でも十分な対応ができていない。厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」によりコミュニティセンター活動を担っている CBO は、コミュニティセンターの無い他の地域の CBO と連携し、これらの地域においても啓発普及が展開できる工夫が望まれる。

3. MSM におけるセクシュアルヘルスの推進

近年、HIV 感染症に対する抗 HIV 薬や治療法の進歩により TasP (Treatment as Prevention) が言われている。UNAIDS は、HIV 検査による診断、HIV 陽性者の治療、治療継続という一連のそれぞれを 90%以上に達成する Cascade “90-90-90” を提唱している。商業施設を介して実施した MSM 対象のアンケート調査によれば、MSM の生涯受検割合は、50~70%程度で、90%に達するにはさらに MSM に検査を普及させなければならない。また WHO は、感染リスクの高い MSM における包括的な感染予防プログラムの一つとして PrEP (Pre-exposure Prophylaxis) を推奨している。HIV 感染を抑えることに加え、梅毒、HBV、HPV などの性感染症予防も重要であり、PrEP を導入する場合は、コンドーム・ローションの使用、定期的な HIV 検査、リスク軽減のためのカウンセリング、服薬アドヒアラ

ンスの指導などのプログラムが含まれる必要がある。

CBO は、コミュニティセンターを拠点にして、関連団体や商業施設等と協力して MSM のセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報の提供などに取り組んでいる。これらの取り組みは PrEP などの新たな手法の導入においても大切な基盤として確保していくことが必要と考える。

4. CBO 連携と地域を越えた MSM への取り組み

MSM での HIV/AIDS は地方でも増加している。このことは地方においても MSM に向けた予防啓発や検査促進などの対策が必要となっていることを示している。しかし、東京、大阪、名古屋などの都市部と異なり、地方地域では、HIV 検査環境や治療環境、HIV 関連の CBO や NPO 団体などの支援環境が十分ではなく、また社会の性的指向や HIV 陽性者への対応も異なっているため、MSM における HIV/AIDS 対策を都市部と同一とすることはできない。こうした状況に対しては、各地域のコミュニティセンターや CBO は相互の情報や啓発資材やプログラムを共有し、それぞれの地域の状況に沿った取り組みを検討していくことが望まれる。欧州では、国境や地域を越えた MSM へのセクシュアルヘルスプロモーションを目的に “Everywhere” プロジェクトが展開されている。日本においても、全国的な MSM への対策を構築していくことが望まれる。

6 地域の CBO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ、nankr 沖縄)は、コンドーム使用の促進を目標とする「つけていこう」のキャッチコピーで、ALL JAPAN CAMPAIGN (「Safer Sex Campaign」と「やる!プロジェクト」)の合同キャンペーン)を 2016 年 10 月~1 月末まで商業施設や Web を介して展開した。この取り組みは、MSM を対象とした HIV 感染

対策を全国的に普及させていくうえで重要と考える。

E. 結論

わが国においては、MSMにおけるHIV/AIDS報告数はやっとならばいとなった状況にあるが、中四国や九州などの地方の地域では、MSMのHIV/AIDSは増加している。また、若年層MSMではHIV感染が増加してきており、外国国籍MSMにおいてもHIV感染者報告が増加してきている。これらのことは、MSMへのHIV感染対策には恒常的な取り組みが必要であることを示唆している。

頭打ちになってきたかに見える新規HIV感染者数、エイズ発症者数が再び増加してくることがないように、わが国のMSMへのHIV感染対策として、CBOによる啓発活動を継続することは重要と考える。

CBOは、国内外のMSMにおけるHIV感染動向を把握しつつ、コミュニティ(商業施設等)や国及び地域自治体と連携し、各々の地域の特性に合わせた対策とともに、地域間で連携した取り組み、外国国籍MSMを含めた取り組みなどを進めていく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 発表論文等

市川誠一
論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性のHIV検査受検、知識、HIV関連情報入手状況、HIV陽性者の身近さの実態-2009年調査と2012年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19巻1号, 16-23, 2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men)におけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域, 32(5): 1029-1038, 2016.
- 3) Nigel Sherriff1, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015.
- 4) 高久道子, 市川誠一, 金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015.
- 5) 岡慎一, 市川誠一, 松下修三: HIV検査と感染予防(座談会), HIV感染症とAIDSの治療, 6(2), 4-11, 2015.
- 6) Mayumi Imahashi, Taisuke Izumi, Dai Watanabe, Junji Imamura, Kazuhiro Matsuoka, Hiroataka Ode, Takashi Masaoka, Kei Sato, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa, Yoshio Koyanagi, Akifumi Takaori-Kondo, Makoto Utsumi, Yoshiyuki Yokomaku, Takuma Shirasaka, Wataru Sugiura, Yasumasa Iwatani, Tomoki Naoe: Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk, PLoS One, 25;9(3):e92861. doi:10.1371/journal.pone.0092861, eCollection, 2014.
- 7) Yasuharu Hidaka, Don Operario, Hiroyuki Tsuji, Mie Takenaka, Hirokazu Kimura, Mitsuhiro Kamakura, Seiichi Ichikawa: Prevalence of Sexual Victimization and Correlates of Forced Sex in Japanese Men Who Have Sex with Men, PLoS ONE 9(5): e95675. doi:10.1371/journal.pone.0095675, May 2014.

- 8) 瀨瀨ゆき, 金子典代, 市川誠一: 若年女性における過去と現在の性感染症予防行動と情報入手状況の比較, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 13(1), 53-62, 2014.
- 9) 松下修三, 市川誠一, 生島嗣, 木村哲, 荒木順子: 治療が予防になる時代のコミュニティセンター事業(座談会), HIV 感染症と AIDS の治療, 5(2), 4-19, 2014.

学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016 年, 鹿児島.
- 2) 高野操, 橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 生島嗣, 佐藤郁夫, 中山保世, 小日向弘雄, 友成喜代美, 土屋亮人, 杉野祐子, 池田和子, 小形幹子, 田中和子, 市川誠一, 菊池嘉, 岡慎一. 医療機関と NGO の連携による郵送検査の手法を用いた HIV 検査の取り組み. 日本エイズ学会, 2016 年, 鹿児島.
- 3) 岩橋恒太, 高野操, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 生島嗣, 市川誠一, 岡慎一. 医療機関と NGO の連携による、MSM を対象とした HIV 検査“HIVcheck”における啓発とキット配布体制に関する検討. 日本エイズ学会, 2016 年, 鹿児島.
- 4) Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Michiko Takaku, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: Studies on NGO 's HIV Prevention Activities for MSM in Mongolia, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.
- 5) Michiko Takaku, Seiichi Ichikawa,

Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren:” We are living under the same sky “in Mongolia: Adopting Japan original project for HIV prevention “Living Together” 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.

- 6) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志, 全国 8 都道府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.
- 7) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一: コミュニティセンターakta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.
- 8) 本間隆之, 岩橋恒太, 木南拓也, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティを基盤とした組織(CBO)の受け入れとコミュニティ感覚—akta を基点とするアウトリーチの評価—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京都.
- 9) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい. 近畿地域在住の MSM(Men who have sex with men)における初性交時の予防行動に関連した要因—10 年間の変化—. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2015, 東京.
- 10) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 岩橋恒太, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: MSM を対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.
- 11) 岩橋恒太, 高野操, 大島岳, 阿部甚兵, 柴

田恵, 矢島嵩, 加藤悠二, 佐久間久弘, 大木幸子, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 生島嗣, 荒木順子: 首都圏居住のMSMを対象としたHIV抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしんHIV検査リサーチ」の構成とその検討, 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.

12) 大畑泰次郎, 判仲昭彦, 田中信雄, 後藤大輔, 尾崎拓治, 野崎丈晴, 塩野徳史, 市川誠一, 鬼塚哲郎: 地方自治体とNGOの協働による中高年MSM層を対象としたHIV予防啓発定期刊行物の発行および発行を促進した要因, 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.

13) 宮田良, 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: セックスワーカー女性の実態調査 - インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-, 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.

14) 矢島嵩, 岩橋恒太, 柴田恵, 阿部甚兵, 加藤悠二, 大島岳, 佐久間久弘, 市川誠一, 生島嗣, 荒木順子: HIVマップ「HIVお役立ちナビ」の改訂に関する考察-, 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.

15) 市川誠一: 「個別施策層に見られる層を越えた取り組みへのニーズ」, シンポジウム4(社会)個別施策層へのエイズ対策～層を越えた取り組み, 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 2014, 大阪市.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1 地域 CBO の商業施設等との連携（2014 年～2016 年）

地域 CBO	施設等 年	ゲイバー			商業系ハッテン場			ゲイナイト			ゲイショップ			備 考(2016 年)
		2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	
東北 やろっこ	施設数	28	30	27	4	4	4	0	1	1	2	2	1	・東北レインボー-SUMMER で各サークル団体(約 30 団体) と連携
	連携数	26	29	27	2	2	2	0	0	1	1	1	1	
	連携率	92.9	96.7	100	50.0	50.0	50.0	0	0.0	100	50.0	50.0	100	
東京 Akta	施設数	591	581	613	50	51	53	-	-	-	37	37	36	・サウナ・ホテル(3 施設)、ウリ専(3 施設)、ゲイ雑誌(3 誌)、ウェブサイトなど ・TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE&FESTA、TOKYO RAINBOW WEEK、レインボー・リール東京、新宿二丁目振興会主催/東京レインボー祭りなど
	連携数	247	257	263	34	34	35	-	3	-	12	10	10	
	連携率	41.8	44.2	44.2	68.0	66.7	66.6	-	-	-	32.4	27.0	27.0	
東海 ALN	施設数	43	48	47	5	5	5	5	8	5	-	2	2	・ゲイ雑誌(2 誌)、虹色どまんなかパレード、LGBT 成人式、ゲイアーティスト展 ・啓発イベント NLGR+を開催し、ゲイコミュニティ、LGBT 関連団体、エイズ関連団体、行政と連携
	連携数	38	42	39	3	3	3	5	6	4	-	1	1	
	連携率	88.4	87.5	83.0	60.0	60.0	60.0	100	75.0	80.0	-	50.0	50.0	
近畿 MASH 大阪	施設数	227	235	233	20	23	19	4	8	17	12	12	12	・若年層 MSM 向けの予防啓発資材をクラブイベントと連携して配布 ・中国や東南アジアからの dista 来場者が徐々に増えている
	連携数	149	150	156	18	17	15	4	8	17	10	8	9	
	連携率	65.6	63.8	67.0	90.0	73.9	78.9	100	100	100	83.3	66.7	75.0	
福岡 LAF	施設数	70	68	66	12	12	12	6	3	2	4	2	2	ゲイナイトは関係はあるが、イベント自体への協力は特に実施していない
	連携数	68	67	65	12	12	12	3	0	0	4	2	2	
	連携率	97.1	98.5	98.5	100	100	100	50.0	0.0	0.0	100	100	100	
沖縄 nankr 沖縄	施設数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	・店舗開催のスポーツイベント、クラブイベントでの資材配布依頼がある
	連携数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	
	連携率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
中四国 HaaT えひめ	施設数	49	53	51	7	5	5	9	10	10	1	1	1	・一部の施設は郵送対応 ・地域のゲイ情報サイトとの連携 ・中四国の自治体とコンタクトをとり、愛媛、岡山では MSM 向けの HIV 検査促進の広報を担っている
	連携数	49	52	50	5	5	5	9	9	10	1	1	1	
	連携率	100	98.1	98.0	71.4	100	100	100	90.0	100	100	100	100	
合計	施設数	1050	1058	1080	101	104	101	27	35	41	57	57	55	・CBO は前年度同様に多様な商業施設とのコンタクトを維持し、利用者への啓発資材を配布している
	連携数	619	640	643	77	77	75	24	31	38	29	24	25	
	連携率	59.0	60.5	59.5	76.2	74.0	74.3	88.9	88.6	92.7	50.9	42.1	45.5	

注 1) 2014 年は 11 月末、2015 年は 12 月末現在、2016 年は 11 月末現在の状況、施設数は CBO が把握した数。表中の「-」は不明もしくは記録なしを意味する。

注 2) 東京では、「TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE&FESTA」「TOKYO RAINBOW WEEK」「レインボー・リール東京(旧東京国際レズビアン&ゲイ映画祭)」「プレリユード」「新宿二丁目振興会主催/東京レインボー祭り」「TOKYO AIDS WEEKS」「Flying Stage」などと連携した。

表2 MSMへの啓発普及活動の拠点・コミュニティセンターの運営状況（2014年～2016年）

ZEL (やろっこ)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、HIV、LGBT関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所等、仙台医療センター
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ2名(常勤/非常勤)、開館は月、火、金～日曜日、日・祝日15時～20時、他の曜日は18時～22時で運営 ・来場者数は、2014年1146名(内76名が初来場)、2015年1173名(内51名が初来場)、2016年865名(内63名が初来場) ・2011年震災後の復興需要から転入者が増えていることに対応したプログラムを工夫するなど特徴としてあげられる ・2015年のスペース縮小で来場者減少となったが、東北各県からの来館を促すポスターを作成し県外来場者(前年比129%)を増やした
akta (akta)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、HIV・LGBT等関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、教育機関、企業、ゲイメディア等 HIV関連医療機関・拠点病院等
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ常勤3名、非常勤3名、開館は月、木～日曜日、16時～22時で運営 ・来場者数は、2014年4347名(初来場1096名)、2015年5912名(同1545名)、2016年5348名(同1499名) ・MSMのHIV感染対策のための自治体・NGOの意見交換会、検査担当者向けMSM対応の研修会、HIV関連総合情報サイトHIVマップを継続 ・2016年にはMSM向け検査「HIVcheck」(毎週木曜日19:00-22:00)を実施、同時にぶれいず東京による専門相談を実施
rise (ALN)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、HIV等関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、教育機関、ゲイメディア等、名古屋医療センター
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ非常勤4-5名、開館は月、木～日曜日、月18時～21時、木・金19時～23時、土16時～22時、日14時～20時で運営 ・来場者数は、2014年2263名(初来場115名)、2015年3064名(同144名)、2016年2250名(同132名) ・啓発イベントNLGR+と共にMSM向けHIV検査を2001年から継続
dista (MASH 大阪)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、HIV等関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、教育機関、メディア等、HIV関連医療機関等
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ常勤1名、非常勤2-5名、他ボランティア、開館は日、月、水～土曜日、開館時間17時～22時30分で運営 ・来場者数は、2014年5838名(初来場377名)、2015年4796名(同302名)、2016年3785名(同499名推計) ・大阪市と協働でdistaでのHIV検査を実施、大阪府クリニック検査キャンペーン広報を継続、大阪府・市の保健所のMSM受検割合が増加傾向
haco (LAF)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、HIV等関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所等、九州医療センター等
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ2名(常勤/非常勤)、開館は日、月、木～土曜日(最終日曜休館)、開館時間18時～22時、2016年は15時～20時で運営 ・来場者数は、2014年1540名(初来場201名)、2015年1237名(同104名)、2016年1369名(同214名) ・観光目的のアジア圏(中国、韓国、台湾)からの来場者が増加傾向(2014)
mabui (nankr 沖縄)	連携機関	ゲイ向け商業施設等、関連団体、厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、琉球大学医学部
	運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ6名(常勤/非常勤)、開館は日、木、金、土曜日、開館時間木・金18:00～22:00、土17:00～22:00 ・来場者数は、2014年1282名(初来場64名)、2015年1864名(同100名)、2016年1864名(同100名) ・沖縄本島に加え、離島にある商業施設にも啓発資材を配布

*コミュニティセンターは、厚生労働省・同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティ事業)を公益財団法人エイズ予防財団が受託し、各地域のCBOが運営を担っている。

*運営状況は、2014年11月末、2015年12月末、2016年11月末の調査回答である。

男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および 早期検査・受診に関する研究(平成 26~28 年度)

分担研究者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学 准教授）
研究協力者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）、伊藤俊広（独立行政法人
国立病院機構仙台医療センター）、仲村秀太学、原永修作、藤田次郎（琉球大学大
学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科）、宮城京子、前田サオリ（琉球大学
医学部附属病院看護部）、椎木創一（沖縄県立中部病院）、豊川貴生（沖縄県立南部
医療センター・こども医療センター）

研究要旨

研究目的：男性の HIV 陽性者を対象としてアンケート調査を実施し、HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とする。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の個別施策層に対する HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とする。

研究方法：平成 26~27 年度において沖縄県のエイズ 3 拠点病院（以下、沖縄）において、また平成 28 年度は独立行政法人国立病院機構九州医療センター（以下、福岡）および独立行政法人国立病院機構仙台医療センター（以下、仙台）において受診している HIV 陽性者に質問紙調査を行った。これら 3 地域の結果を比較検討した。

研究結果と考察：3 地域 88 名の HIV 陽性者から回答を得た。回答者の年齢(平均値)は、沖縄 41.3 歳、福岡 43.5 歳、仙台 49.2 歳であった。自認するセクシャリティは、ゲイと回答したものが沖縄、福岡、仙台は 73%、84%、74%であった。自身が HIV 感染する可能性についての自覚度は沖縄、福岡、仙台は 73%、79%、64%であった。過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、仙台は 28%、66%、26%であり、地域間の有意差を認めた(P=0.0049)。感染が判明する前に、医療機関を受診した経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78%であり、その内 HIV 関連症状または STI が理由であった者は 52%、50%、56%であった。また医療機関を受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25%であり、HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。HIV 感染が判明する前の生涯の性感染症歴は、沖縄、福岡、仙台は 70%、76%、77%であった。急性 HIV 感染症の記憶が有る者は沖縄、福岡、仙台は 54%、35%、42%であった。急性 HIV 感染を理由としての受診時、HIV 検査を勧められ受検したのは沖縄、福岡、仙台は 26%、42%、11%であった。

結論：HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが判明した。特に急性 HIV 陽性者は、感染拡大の重要な要因であり、医療者への教育啓発が必要である。また HIV 検査歴にも地域間の差が大きく、検査施設へのアクセスを妨げる要因を改善する必要がある。

A. 研究の背景と目的

新規 HIV 陽性者数の抑制には、感染リスクの

高い個別施策層（以下、MSM：men who have sex with men）における感染機会の最大要因を明ら

かにし、それに基づいた啓発活動と診断体制構築に注力することが費用対効果の観点からも重要である。

従来の調査は感染リスクの高い個別施策層を対象としたが、当事者である HIV 陽性者を直接対象とした研究ではないため、実際に HIV に感染した層においては、未だ明らかにされていないリスク要因の存在が推察される。

本研究は、非 HIV 陽性者から得られた情報を演繹的に積み上げるのではなく、HIV 陽性者の情報から、帰納的に効果的な予防啓発と診断体制を構築するための HIV 感染リスク要因を調査するものである。

主目的として、診断機会のある時期に医療側が HIV 検査を適切に提供したかに関する調査も行った。これは、HIV と診断された患者からしか得ることのできない情報であり、医師への HIV 教育の重要な資料となりうる。

本研究は、男性の HIV 陽性者を対象として、エイズ拠点病院がアンケート調査を実施し、HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とする。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とした。

B. 研究方法

HIV 検査は地域環境との関連が強いことから、沖縄、福岡、仙台の3地域において実施し、ローカルファクターを明らかにすべく比較検討した。

平成 26～27 年度において沖縄県のエイズ 3 拠点病院においてアンケート調査を実施し、HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失している実態を明らかにした。また、平成 28 年度は、福岡および仙台のブロック拠点病院において同じ質問紙による調査を実施し、3 地域間の比較を行った。

1. 本研究の観察・評価項目

アンケートの属性（自認する性、年齢）、陽性者の HIV 感染判明前の HIV 受検行動、医療機関の HIV に対する理解度の年度別比較（急性 HIV 感染時の受診行動、医療機関の診断精度、HIV 検査の勧奨度）、HIV 関連情報の入手方法、薬物の使用歴。

2. 適格基準

- 1) 福岡および仙台にて加療中の HIV 感染または AIDS 患者である。
- 2) 年齢および感染経路は問わない。
- 3) 主治医よりアンケート受け取った患者に限る。
- 4) 男性患者である。

3. 除外規定

- 1) 主治医からの口頭説明で同意が得られなかった患者
- 2) その他、主治医が不相当と判断した患者
- 3) 感染経路は異性間と回答した者は解析対象から除外した。

4. 患者の同意

アンケートに際し趣旨を十分に説明し、本アンケートの参加については患者本人の自由意志に基づき、同意が得られた患者。同意はアンケートの返信があった場合に得られたものとした。

・患者に対する説明事項

- 1) 本アンケートの趣旨
- 2) 不参加でも何ら不利な取り扱いを受けないこと
- 3) 同意は随時撤回できること
- 4) 患者の人権保護に関する必要事項

アンケート参加者を特定できる個人情報には回収せず、また個別の回答表は一切公表しないこと

アンケートは無記名かつ、記入後は同時に配布した切手付き封筒に入れて投函してもらうことで匿名性を担保することにより人権保護に最大限配慮すること

5. アンケート実施期間

2015 年臨床研究倫理審査委員会による承認確定日より 2016 年 10 月末

6. アンケート結果の公表

本研究で得られた成果は厚生労働科学研究費補助金事業で報告するとともに、行政会議、学会や論文等で広く社会に情報提供を行う。

7. 研究資金

厚生労働省エイズ対策政策研究事業 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究 (H26-エイズ一般-005)

8. 利益相反

無し。

9. 研究の実施体制

1) 研究責任者：健山正男、所属機関、琉球大学 医学部附属病院第一内科、准教授

2) 研究組織構成者：原永修作、琉球大学医学部 附属病院第一内科、講師

3) アンケート配布協力病院

独立行政法人国立病院機構九州医療センター（担当者 山本政弘）、
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター（担当者 伊藤俊広）

（倫理面への配慮）

自由意思による研究の参加・非参加を保障する。または口頭同意した後にアンケートを提出しないことができる。研究に参加しなくても、その後の診療にいかなる不利益も生じない。被験者の個人情報保護に十分配慮する。

琉球大学の倫理委員会審査承認（858）。

C. 研究結果と考察

1. 平成 26-27 年度 沖縄県内の調査

1) 男性同性愛者で HIV に感染した群は、感染しなかった群と特徴的な行動様式があるかについては、HIV 受検率が低い、心因的な検査のハードルが高い、情報の入手の量と質が足りないなどの傾向がみられた。

2) MSM への HIV 関連情報の伝達は、行政が主導している個別施策層を意識しない、画一的な方法では訴求性が低いことが示唆された。

3) 今回の調査では、HIV 感染者早期発見のために、感染リスクの高い患者に対する医療機関の

対応について、初めて質問項目を作成した。特に急性 HIV 感染症時期では予想以上の受診歴があり、これらの症状に対する医療機関の啓蒙が必要と思われた。

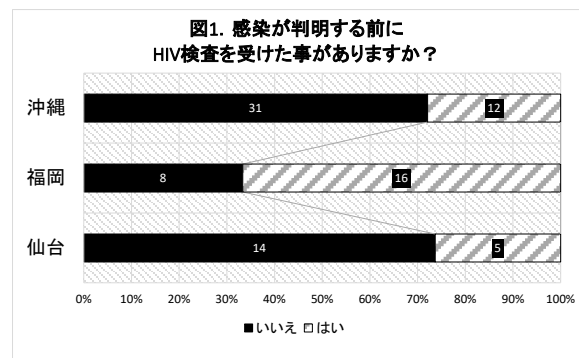
4) 急性 HIV 感染症を自覚して受診した際に、担当医より HIV 検査を勧められたかを問う、質問を追加すべきと思われた。

2. 平成 28 年度 福岡、仙台的調査

前年度の沖縄県の調査を終えて、平成 28 年度は、九州医療センター、仙台医療センターにおいて、アンケートを 100 名に配布し、44 名から回答を得た（44%）。前年度の沖縄県の調査（44 名）と比較した。

1) 自身が感染する可能性について沖縄、福岡は 73%、79%が自覚していたが、有意差は認めないものの仙台では 64%と低かった。

2) 過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、仙台は 28%、66%、26%であり（図 1）、地域間の有意差を認めた ($P=0.0049$)。複数回の受検歴は沖縄、福岡、仙台は 42%、60%、25%であっ

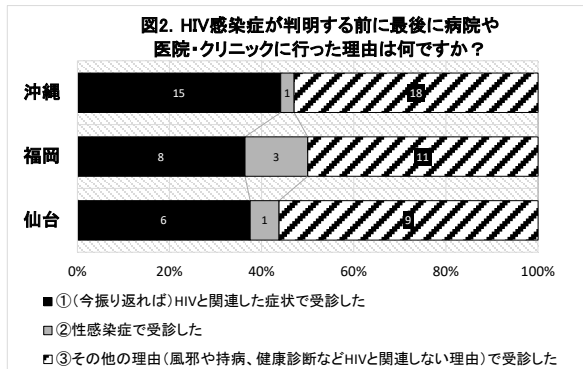


た。

3) HIV に感染が判明した時の検査地域は沖縄、福岡は 84%、83%であり当該県の状況を反映していた。一方、仙台は 57%と他の 2 地域と比べて有意差を認めないものの地元の割合が低かった。仙台は感染が判明する前の HIV 検査に対して、心理的な受けにくさも高く、実際に過去の HIV 受検歴は沖縄、福岡は従来の MSM 調査と同じ水準であったが、仙台は 25%と有意に低かった。

これらのことから、東北地方におけるプライベートなど検査施設へのアクセスを妨げる要因が推察される。

- 4) 感染が判明する前に HIV 関連症状または STI を理由としておよそ 50%が、医療機関受診歴があり(図 2)、HIV 陽性者の早期発見の機会を逸失していた。医師の教育・啓発が必要である。特に急性 HIV 感染症の時期に 3 地域とも高い受診歴があり、医療機関へのこれら



の症状に伴う早期検査を勧奨する取り組みの必要性が示唆された。

わが国の「エイズ予防指針における発生の予防及びまん延の防止」では医療従事者に対する HIV 教育は、中核拠点病院に委託すると記載されている。最初の患者報告から四半世紀が経過しても、HIV 陽性者に対する医療者の偏見差別が数多く報告されており、全国的に医療体制構築と医療者教育が遅々として進まない現況から、予算および法整備も含めた国の指導が必要と思われた。

- 5) HIV 関連情報へのアクセス度は従来の MSM を対象とした群と有意差はないが、今回の調査は定性的であり、今後は定量的、質的な差異について検討する必要がある。
- 6) 献血では HIV 検査の結果返しがなくこの認知度無は 33%であり、これらのグループは HIV 感染している場合には、結果返しがなく陰性と捉えるリスクがあり、2次伝播に繋がることが推察された。
- 7) HIV 感染が判明する前の、同性間の HIV 関連情報の入手先は、ネット、同性間コミュニ

ティ、新聞の報道の順に高かった。

- 8) エイズ予防指針に CBO との連携の重要性が記載されているが、CBO の認知度は沖縄、福岡、仙台それぞれ 69%、57%、45%であり、特に仙台は HIV 検査受検体制、広報活動など、HIV 検査へのアクセスを阻害する要因が多く、1次および2次予防の体制構築が喫緊の課題と思われる。

D. 結論

HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが 3 地域で判明した。特に急性 HIV 陽性者は、感染拡大の重要な要因であり、医療者への教育啓発が必要である。また HIV 検査歴には地域間の差が大きく、地方は検査施設へのアクセスを妨げる要因を改善する必要がある。

- E. 知的所有権の出願・取得状況 (予定を含む) なし。

F. 発表論文等

1. 論文発表

- 1) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y.: A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. *AIDS Res Hum Retroviruses*. 32(3):284-9, 2016.
- 2) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態- 2009 年調査と 2012 年調査の比較-. *日本エイズ学会誌*. 19 巻 1 号、16-23、2017.
- 3) Nakamura H, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Ishimine T, Higa F, Kaneshima H, Fujita

- J. The prevalence of airway obstruction among Japanese HIV-positive male patients compared with general population; a case-control study of single center analysis. *J Infect Chemother.* 20(6):361-4. 2014.
- 4) Nakamura K, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Tamayose M, Yara S, Higa F, Fujita J. Pure red cell aplasia induced by lamivudine without the influence of zidovudine in a patient infected with human immunodeficiency virus. *Intern Med.* 53(15): 1705-8. 2014
2. 学会発表
- 1) 健山正男. HIV 陽性患者のアンケート解析からみた性感染症診断における医師の課題. 日本性感染症学会、シンポジウム、岡山市、日本性感染症学会誌 27 巻 2 抄録集、2016

MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（1） － MSM における検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動 －

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

本間隆之（山梨県立看護大学 講師）

研究協力者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）、太田貴（やろっこ）、岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団）、荒木順子（特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団）、石田敏彦（ALN）、町登志雄（MASH 大阪/公益財団法人エイズ予防財団）、後藤大輔（MASH 大阪）、新山賢（HaaT えひめ）、牧園祐也（LAF/公益財団法人エイズ予防財団）、金城健、玉城祐貴（nankr）、市川誠一（人間環境大学）

研究要旨

本研究の目的は、東北、東京、名古屋、大阪、中四国、福岡、沖縄のゲイ向けイベントに参加した MSM の地域間移動の実態を明らかにすることである。平成 27 年（2015 年）、平成 28 年（2016 年）に各地域のクラブイベントと NGO が協働し対象者リクルートを行った。インターネット調査法を用い、対象者には研究班が独自にイベントごとに開設したアンケートサイトでの回答を依頼した。初回回答者に限定し、2015 年調査は 869 名、2016 年調査は 1,111 名が分析対象者となった。

過去 6 か月の居住地以外の都市（仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県）への訪問経験については、2015 年調査、2016 年調査ともに、東北地域、東海地域在住者は、東京都への移動経験が多く、西日本、中四国では大阪市への訪問経験があるものが 46% と高かった。直近の訪問先での商業施設利用については、ゲイバーの利用割合が 63.4% と最も高く、直近の訪問地でアナルセックスを行ったものは全体で 34.3% であった。訪問先でのアナルセックス時のコンドーム使用と直近のアナルセックス時のコンドーム使用は、訪問時のアナルセックス時は 68.2% であり、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合の 64.9% と有意差は認められなかった。

過去 6 か月間の外国籍 MSM とのアナルセックス経験を尋ねたところ、2015 年調査は 581 名のうち 18.6%、2016 年調査は 758 名のうち 21% に外国籍 MSM との性行為経験を有していた。また外国籍 MSM と性行為を行った場所は、2015 年調査は 76.9%、2016 年調査は 74.2% が日本国内であった。

A. 研究目的

近年のエイズ発生動向調査によれば、MSM における HIV 感染者、エイズ患者報告数は、東京、近畿、東海地域に加え、九州、中国・四国地域からの報告が増加している。特にエ

イズ患者では人口 10 万対あたりの報告数が増加している。さらに、外国籍 MSM の HIV 感染者の報告数も増加しており、国内感染によるものが多いことが示されている。

これらのことは、地方地域の MSM では早期検査・早期治療が十分ではないためにエイズ患者としての報告が多いこと、MSM の地域間移動に伴う感染の広がりがあること、滞日外国籍 MSM における国内での感染の広がりがあることを示唆する。

本研究では、東北、東京、東海、近畿、中四国、福岡、沖縄で MSM を対象とする HIV 感染対策に取り組む CBO と協力し、各地域の MSM における予防行動、検査行動、CBO による予防啓発の認知を把握する横断調査を継続するとともに、MSM の国内移動およびそれに伴う性行動、また外国籍 MSM との性行動等を把握することとした。

本報告では、2015 年 6 月～10 月、2016 年 5 月～11 月にかけて、東北、東京、名古屋、中四国、福岡、沖縄のゲイコミュニティ内で開催されたゲイ向けクラブイベントに参加した MSM を対象に実施したインターネットを介した横断調査により、MSM の地域間移動と移動に伴う性行動、外国籍 MSM との性行動を分析した。

B. 研究方法

本研究班が開発した GCQ アンケートシステムを用いてインターネットサイト上に本調査専用のサイトを開設した。本研究班の介入地域である東北、関東、東海、近畿、中四国、九州、沖縄県に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象者としてインターネットによる横断調査を実施した。2015 年調査は総計 9 イベント、2016 年調査は総計 12 イベントと協働し、各イベント固有の調査サイトを開設し調査を実施した。対象者のリクルートは、各地域の CBO がゲイ向けクラブイベントのオーガナイザーと協力し、広報資材やインターネットサイトに本調査の回答協力依頼の広告を掲載し対象者に調査実施と協力を依頼する方法をとった。イベント実施前から広報を開始し、イベント開始前の調査への回答を

依頼した。対象者は、調査回答終了画面（または画面を印刷したもの）をイベント入場時に受付に提示することで受ける入場料割引（1,000 円相当）を本調査の謝礼とした。

質問項目は基本属性、資材認知、HIV 検査受検、過去 6 か月の外国籍 MSM との性行動経験、ツーリズムに関する意識、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等、2015 年調査は総計 85 問、2016 年調査は総計 50 問であった。

地域間移動、移動に伴う性行動に関する分析については、重複回答を除く初回答者を対象者とした。2015 年調査は 869 名、2016 年調査は 1,111 名を対象に 25 歳未満、25 歳～35 歳未満、35 歳以上の 3 群に分けて分析を行った。

過去 6 か月の外国籍 MSM との性交経験、国内での過去 6 か月の他都市への移動経験と移動先での性行動、移動に伴う性行動や予防行動の規範に焦点を当てた。またコミュニティセンターがある地域、ない地域に居住地を 2 分した分析を適宜実施した。

データ集計には SPSS ver 21 を用い、項目間の関連を見る際にはカイ二乗検定を行った。ただし期待度数が 5 未満の際は Fisher の正確検定を行った。統計学的有意水準は 5% を採用した。

（倫理面への配慮）

本研究の研究計画については、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より実施の承認（14025-3）を得て実施した。

C. 研究結果

2015 年調査の年齢階級別分析結果を表 1、2016 年調査の年齢階級別分析結果を表 2、および調査地域別分析結果を表 3 に示した。

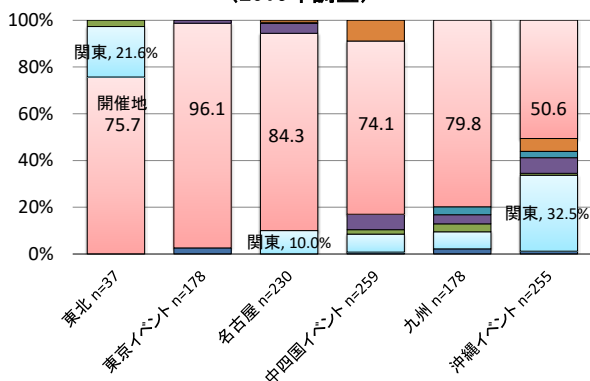
1) 回答者の基礎属性

2015 年調査の有効回答数は 1,101 件、2016

年調査の有効回答数は1,517件であった。収集したデータについて、複数調査地で回答したものが含まれていたため、初回答者に限定したところ2015年調査は869名、2016年調査は1,111名が分析対象者となった。

各イベントでの回答者について、イベント開催地に居住するものの割合を分析したところ、2016年調査では、沖縄地域では関東地域在住者が32.5%を占めておりツーリストの割合が高かった(図1)。2015年調査も沖縄地域のイベントでは同様の傾向であった。

図1 イベント地域別イベント開催地居住割合 (2016年調査)



過去6か月間のゲイ向け商業施設の利用については、2016年調査ではゲイバー利用について年齢との関連が見られ、25~35歳未満が最も利用割合が高かった。過去6か月のHIV/AIDSに関する対話経験は、2015年調査、2016年調査ともに、25歳未満群がそれぞれ58.2%、62.8%と最も高かった。

2) 年齢階級別の性行動、受検行動

過去6か月のアナルセックス時のコンドーム常用割合は、年齢による差異は見られなかったが、25歳未満群は2015年調査は40%、2016年調査は44%であった。

過去6か月間のセックス時の併用品は、バイグラの使用において年齢と有意な関連が見られ、35歳以上の群の使用割合は、2015年調査は12.4%、2016年調査は14.1%であった。

HIV 検査受検行動については、生涯の検査

経験は25歳未満が最も低く、2015年調査は49.7%、2016年調査は51.7%であった。

3) 過去6か月間の居住地以外の都市への移動経験

2016年調査から、対象者全体では72.5%のものが過去6か月に居住地以外の都市(仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)を訪れた経験があった。過去6か月の居住地以外の都市への移動経験については、2015年調査、2016年調査ともに、東日本地域居住者では、東京都への移動、西日本、中四国では大阪市への訪問経験があるものが多かった。2016年調査では東海地域在住者においては40%のものが過去6か月に東京都への訪問経験があり(図2)、中四国在住者では46%に過去6か月に大阪市への訪問経験が見られた(図3)。

図2 居住地別 過去6か月の東京都、名古屋市訪問経験 (2016年調査)

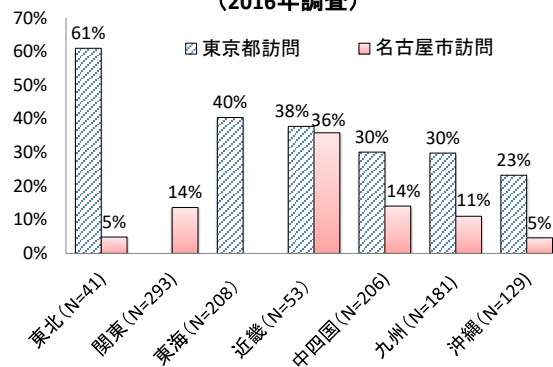
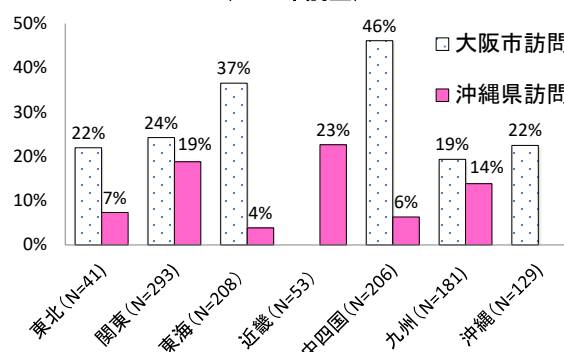


図3 居住地別 過去6か月の大阪市、沖縄県訪問経験 (2016年調査)



また過去6か月に直近に移動した先でのゲイ向け商業施設利用については、ゲイバーの利用割合が全体では63.4%と最も高かった。過去6か月間の居住地以外の移動先でのゲイバーの利用については年齢と関連が見られ、25～35歳未満が最も利用割合が高かった。過去6か月間に居住地以外への移動経験があるもののうち、21.7%が有料ハッテン場を利用していた。

4) 過去6か月に直近に移動した先での性行動

2016年調査において、過去6か月に性行動経験があるものに限定し、過去6か月に居住地以外に直近に訪問地でアナルセックスを行ったものは全体で34.3%であった。訪問先でのアナルセックス時のコンドーム使用と直近のアナルセックス時のコンドーム使用を比較すると、訪問時のアナルセックス時は68.2%であり、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合の64.9%と有意差は認められなかった。

5) 過去6か月の外国籍MSMとのアナルセックス経験

過去6か月に性行為経験があるものに限定し、過去6か月間の外国籍MSMとのアナルセックス経験を尋ねたところ、2015年調査は581名のうち18.6%、2016年調査は758名のうち21%に外国籍MSMとの性行為経験を有していた(図4)。また性行為を行った場所を国内、国外の2択で尋ねたところ、2015年調査は76.9%、2016年調査は74.2%が日本国内で性行為を行っていた(図4)。

また外国籍MSMとのアナルセックス経験割合について、対象者の居住地との関連を検討したところ、人口700万以上の都道府県居住者の外国籍MSMとの性交経験は24%と700万より少ない都道府県在住者の19%より割合は高かった(P=0.07)。居住地におけるコミュニティセンターの有無で比較しても外国籍

MSMとの性交経験割合に有意差は見られなかった(図5)。

図4 過去6か月 外国籍MSMとのアナルセックス経験割合, 国内での経験割合

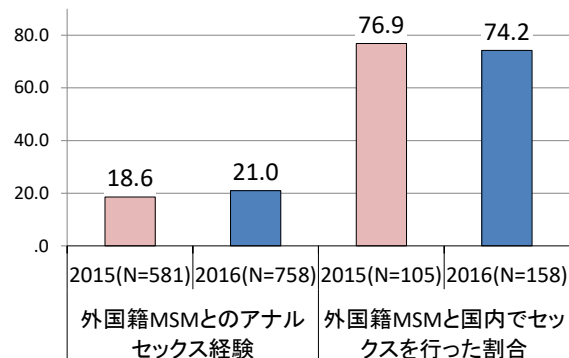
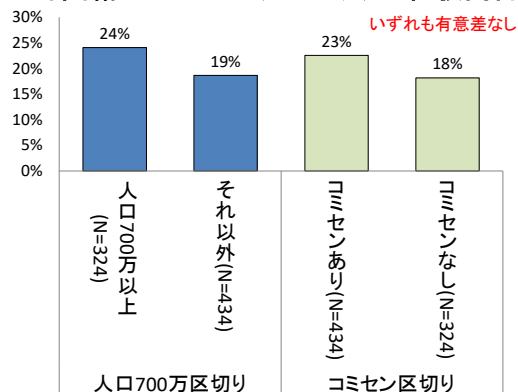


図5 居住都市規模、コミセンの有無別 外国籍MSMとのアナルセックス経験割合

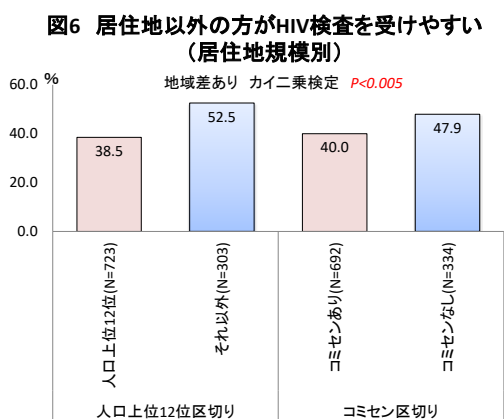


6) 移動先の性行動に関する規範

移動先における性行動や居住地以外でのHIV検査受検希望について尋ね、年齢3群別に分析を行った。2015年調査については、旅行するなら旅先のゲイと出会いたい、旅先に住む人とセックスしたい、旅行するならセックスドラッグを持っていく、旅行先では複数の人とセックスしたい、において年齢と関連が見られた。いずれも年齢層が上がるほど同意割合が高かった。また2015年調査、2016年調査双方において、旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報入手しておきたい、移動先でのハッテン場利用希望については年齢間で差が見られた。旅先での情報入手への同意度は年齢層が高いほど

高かった。移動先でのハッテン場の利用希望については、25～35 歳層において最も高かった。

2016 年調査について、居住地以外の場所での検査受検について尋ねたところ、人口規模が小さい都道府県居住者のほうが、またコミュニティセンターが設置されていない都道府県居住者のほうが居住地以外のほうが HIV 検査を受けやすいと同意している割合が有意に高かった(図 6)。



7) 調査地域別 HIV 検査行動、性感染症罹患経験について

2016 年調査では、HIV 抗体検査受検経験 (%) は、全体で生涯受検経験が 67.0%、過去 1 年間の受検経験が 35.3%であった(図 7)。調査地域別では差異が見られ、生涯受検経験、過去 1 年間受検経験ともに中四国地域は低かった。また、過去 1 年間の受検経験は九州地域もやや低い傾向にあった。

性感染症の罹患経験(自己申告)について、梅毒は全体で 9.6%、HIV 感染症は 4.1%であった(図 8)。梅毒は沖縄 4.7%から関西 13.2%と異なるが有意差はなかった($p=0.215$)。また、HIV 感染症も九州 0.6%から関西 7.5%と梅毒同様に地域によって異なり有意差があった($p=0.044$)。

図7 調査地域別HIV抗体検査受検経験の比較

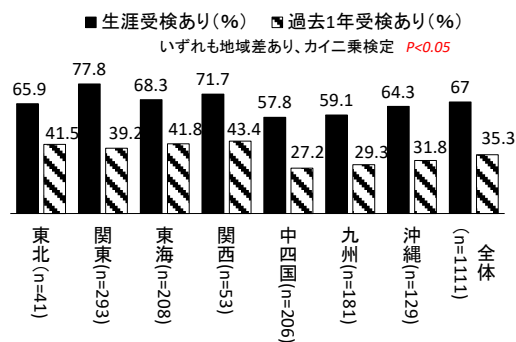
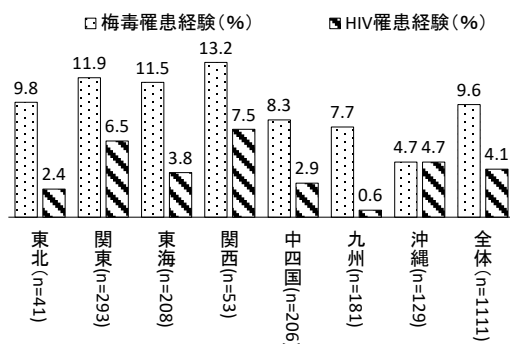


図8 調査地域別 梅毒、HIV感染症罹患経験(自己申告)



D. 考察

クラブイベント、ゲイコミュニティ内でのイベントに会場する MSM を対象に調査を実施し、全国から 1,000 件を超える有効回答を得ることができた。2016 年と同じ調査項目を用いて、各地域の検査、コンドーム使用の実態、NGO 資料の認知も評価し、コミュニティセンターや NGO が開発する資料認知、検査、コンドーム使用の地域別評価が可能となった。今後の介入のあり方を検討する資料として活用が期待できる。

昨年引き続き、外国籍 MSM との性交経験、国内移動や移動先での性行動についてもデータを得ることができた。性行為経験者において外国籍 MSM とのアナルセックス経験が 20% 程度あること、地方都市から東京都、大阪市をはじめとする大都市への活発な移動があることも確認され、全国地域かつ移動を考慮に入れた予防介入の実施が望まれる。

2016 年調査では、生涯受検経験、過去 1 年

受検経験が中四国地域は他の地域に比して低いことが示された。中四国地域は、近年になって MSM の HIV 感染者、エイズ患者の報告が増えてきており、特にエイズを発症してからの報告例が多いことが示されている。本研究で MSM の受検行動が低かったことから、この地域での MSM に向けた早期検査・早期治療は喫緊の課題といえる。

一方で、九州地域では HIV 感染症罹患経験の自己申告率が 0.6% と他の地域よりも低い結果であった。しかし梅毒ではそのような結果ではなかったことから、九州地域では HIV 陽性者の調査への参加が少なかったものと考えられる。

商業施設を利用する MSM における性行動、性感染症リスクは商業施設を利用しない MSM より高いことが本研究班の先行調査から示されている。商業施設利用者に対して現状に即した有用な情報提供を継続的に実施するためにも、また情報の浸透、行動変容におよぼす効果を評価するためにも、今後もコミュニティ内で実施されるイベントと協働した行動、介入評価調査は継続的に実施する必要がある

E. 結論

2015 年と 2016 年連続して、東北、関東、東海、関西、中四国、九州、沖縄地域のコミュニティイベントと連動した調査を実施し介入評価とツーリズムに関する基礎資料を得た。コミュニティセンターがある都市と比して、ない都市では検査行動の低さや検査の受検のしづらさも確認され、今後地方都市にも検査や予防行動をとりやすい介入展開が望まれる。

F. 発表論文等

1. 論文発表

1) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一、成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-

2009 年調査と 2012 年調査の比較-。日本エイズ学会誌。19 巻 1 号、16-23、2017。

2) 市川誠一、塩野徳史、金子典代、本間隆之、岩橋恒太。MSM(Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割。化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016。

3) 高久道子、市川誠一、金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015。

4) 金子典代: 第 15 回日本エイズ学会 ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞受賞研究 MSM を対象とするコミュニティベースでの HIV 感染予防活動の評価研究の推進, 日本エイズ学会誌, 17 (2), 82-86, 2015。

5) Nigel Sherriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, Seiichi Ichikawa : Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention, Health Promotion International, 2015 Nov doi: 10.1093/heapro/dav096

6) 金子典代: MPH の取得とエイズ予防研究の 10 年, MPH (マスター・オブ・パブリックヘルス) 留学へのパスポート: 世界を目指すヘルスプロフェッション, 公益財団法人日米医学医療交流財団編 (分担執筆), 181-197, はる書房, 東京, 2014。

7) Mayumi Imahashi, Taisuke Izumi, Dai Watanabe, Junji Imamura, Kazuhiro Matsuoka, Hirotaka Ode, Takashi Masaoka, Kei Sato, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa, Yoshio Koyanagi, Akifumi Takaori-Kondo, Makoto Utsumi, Yoshiyuki Yokomaku, Takuma Shirasaka, Wataru Sugiura, Yasumasa Iwatani, Tomoki Naoe: Lack of Association between

Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk, PLoS One, 2014 Mar 25;9(3):e92861. doi: 10.1371/journal.pone.0092861, eCollection 2014.

- 8) 瀨瀬ゆき, 金子典代, 市川誠一: 若年女性における過去と現在の性感染症予防行動と情報入手状況の比較, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 13 (1), 53-62, 2014.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 横幕能行, 金子典代, 石田敏彦. 名古屋市無料 HIV 検査会が HIV 感染症対策に関し個別施策層へ及ぼした効果と今後の課題. 第 30 回日本エイズ学会総会、2016 年、鹿児島県, 2016.
- 2) Michiko Takaku, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: "We are living under the same sky "in Mongolia: Adopting Japan original project for HIV prevention "Living Together" 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 3) Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Michiko Takaku, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: Studies on NGO ' s HIV Prevention Activities for MSM in Mongolia , 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 4) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志, 全国 8 都道府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 5) 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい,

伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 金子典代, 市川誠一: 近畿地域在住の MSM における初交時の予防行動に関連した要因—10 年間の変化—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.

- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 木南拓也, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティを基盤とした組織 (CBO) の受け入れとコミュニティ感覚—akta を基点とするアウトリーチの評価—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 7) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一: コミュニティセンターakta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較—, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.
- 8) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 岩橋恒太, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: MSM を対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014.
- 9) 岩橋恒太, 高野操, 大島岳, 阿部甚兵, 柴田恵, 矢島嵩, 加藤悠二, 佐久間久弘, 大木幸子, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 生島嗣, 荒木順子: 首都圏居住の MSM を対象とした、HIV 抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査リサーチ」の構成とその検討, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014.
- 10) 宮田良, 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: セックスワーカー女性の実態調査 - インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪市, 2014

3. 学会発表 (国外)

- 1) Noriyo Kaneko: Correlates of cervical

cancer screening behavior among unmarried sexually active Japanese women aged 20–29 years old: Results from an Internet-based survey, 19th IUSTI ASIA PACIFIC conference, Okayama, 2016.

- 2) J. Koerner, S. Ichikawa, N. Kaneko, S. Shiono, I. Kai: An internet survey investigating the HIV information needs and travel related risk behaviors of English speaking foreign gay and bisexual men in Japan, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.
- 3) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research ‘We can do it! 2010’ campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014.

表1-1 2015年GCQ 年齢階級別の対象者の基礎属性、施設等の利用、エイズの対話経験 (初回答者 N=869)

	25歳未満 (N=153)		25~35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)		χ^2 検定 有意差
現在居住地 居住期間									
産まれてからずっと	57	37%	119	31%	74	22%	250	29%	.000
1年未満	23	15%	46	12%	36	11%	105	12%	
1-5年未満	49	32%	90	24%	56	17%	195	22%	
5-10年未満	7	5%	43	11%	47	14%	97	11%	
10-20年未満	10	7%	26	7%	51	15%	87	10%	
20年以上	7	5%	54	14%	74	22%	135	16%	
セクシュアリティ									
ゲイ	108	71%	316	84%	286	85%	710	82%	.001
バイセクシュアル	39	25%	47	12%	35	10%	121	14%	
ヘテロセクシュアル	1	1%	1	0%	2	1%	4	0%	
分からない	4	3%	6	2%	12	4%	22	3%	
決めたくない	1	1%	7	2%	1	0%	9	1%	
その他	0	0%	1	0%	2	1%	3	0%	
過去6カ月間の商業施設利用									
ゲイバー	100	65%	282	75%	243	72%	625	72%	0.165
ゲイナイト	43	28%	198	52%	143	42%	384	44%	0.000
ゲイショップ	35	23%	92	24%	97	29%	224	26%	0.196
PC出会い系サイト	23	15%	65	17%	66	20%	154	18%	0.271
携帯出会い系サイト	38	25%	127	34%	113	33%	278	32%	0.072
mixiなどSNS	24	16%	86	23%	95	28%	205	24%	0.291
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	7	5%	31	8%	33	10%	71	8%	0.580
スマートフォンゲイ向けアプリ (Grindr等)	87	57%	249	66%	193	57%	529	61%	0.553
ゲイ向けサークル	12	8%	41	11%	37	11%	90	10%	0.987
ゲイ向け合コン	3	2%	22	6%	11	3%	36	4%	0.042
ゲイの乱パ	2	1%	20	5%	17	5%	39	4%	0.140
有料のハッテン場	51	33%	136	36%	111	33%	298	34%	0.381
野外のハッテン場	6	4%	30	8%	35	10%	71	8%	0.426
ハッテン場で有名な銭湯・プールなど	21	14%	68	18%	77	23%	166	19%	0.694
いずれもない	17	11%	17	4%	8	2%	42	5%	0.007
過去6カ月恋人・彼氏、友達とHIVエイズ対話経験									
ある	89	58%	215	57%	188	56%	492	57%	0.862
ない	64	42%	163	43%	150	44%	377	43%	

表1-2 2015年GCQ 年齢階級別の性行動、予防行動 (初回答者 N=869)

	25歳未満 (N=153)		25歳-35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)		χ ² 検定 有意差
生涯 男性とセックス(キスやフェラチオ含)経験									
ある	140	91.5%	366	96.8%	329	97.3%	835	96.1%	0.005
ない	13	8.5%	12	3.2%	9	2.7%	34	3.9%	
生涯の男性とアナルセックス経験									
ある	122	79.7%	353	93.4%	312	92.3%	787	90.6%	0.000
ない	31	20.3%	25	6.6%	26	7.7%	82	9.4%	
一番最近にアナルセックスした時期									
現在から過去6か月の間	89	73.0%	256	72.5%	187	59.9%	532	67.6%	0.000
過去6か月から過去1年の間	8	6.6%	42	11.9%	33	10.6%	83	10.5%	
一年以上前	20	16.4%	44	12.5%	86	27.6%	150	19.1%	
覚えていない	5	4.1%	11	3.1%	6	1.9%	22	2.8%	
一番最近にアナルセックスした相手									
彼氏や恋人	47	38.5%	106	30.0%	92	29.5%	245	31.1%	0.077
友達やセクフレ	44	36.1%	133	37.7%	95	30.4%	272	34.6%	
その場限りの相手	29	23.8%	107	30.3%	117	37.5%	253	32.1%	
その他	2	1.6%	7	2.0%	8	2.6%	17	2.2%	
一番最近アナルセックスした時コンドーム使用									
使った	81	66.4%	248	70.3%	230	73.7%	559	71.0%	0.054
使わなかった	40	32.8%	89	25.2%	76	24.4%	205	26.0%	
覚えていない	1	0.8%	16	4.5%	6	1.9%	23	2.9%	
過去6か月間男性とアナルセックスをしましたか？									
はい	96	78.7%	278	78.8%	207	66.3%	581	73.8%	0.001
いいえ	26	21.3%	75	21.2%	105	33.7%	206	26.2%	
過去6か月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？									
1人	37	38.5%	91	32.7%	76	36.7%	204	35.1%	0.359
2人	19	19.8%	51	18.3%	33	15.9%	103	17.7%	
3人	19	19.8%	40	14.4%	25	12.1%	84	14.5%	
4人	3	3.1%	14	5.0%	15	7.2%	32	5.5%	
5人	3	3.1%	14	5.0%	6	2.9%	23	4.0%	
6人以上	15	15.6%	68	24.5%	52	25.1%	135	23.2%	
過去6か月間のアナルセックスで、コンドームをどのくらい使いましたか？									
必ず使った	38	39.6%	123	44.2%	103	49.8%	264	45.4%	0.215
使うことが多かった	29	30.2%	67	24.1%	47	22.7%	143	24.6%	
五分五分	10	10.4%	39	14.0%	14	6.8%	63	10.8%	
使わないほうが多かった	7	7.3%	25	9.0%	20	9.7%	52	9.0%	
全く使わなかった	12	12.5%	24	8.6%	23	11.1%	59	10.2%	
過去6か月間に、外国の方とアナルセックスをした経験									
ある	18	18.8%	57	20.5%	33	15.9%	108	18.6%	0.442
ない	78	81.3%	221	79.5%	174	84.1%	473	81.4%	
外国籍MSMとセックスをした場所 (経験者のみ)									
日本国内	15	83.3%	44	77.2%	24	72.7%	83	76.9%	0.689
海外	3	16.7%	13	22.8%	9	27.3%	25	23.1%	
過去6か月間のセックス時の併用品									
ローション	116	75.8%	324	85.7%	259	76.6%	699	80.4%	0.010
ぼっき薬(バイアグラなど)	3	2.0%	25	6.6%	42	12.4%	70	8.1%	0.000
ラッシュ	0	0.0%	18	4.8%	22	6.5%	40	4.6%	0.094
5MEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)	1	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	-
いずれもなし	35	22.9%	49	13.0%	76	22.5%	160	18.4%	0.003

表1-3 2015年GCQ 年齢階級別の受検行動、性感染症既往 (初回答者 N=869)

	25歳未満 (N=153)		25歳-35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)		χ ² 検定 有意差
生涯でのHIV抗体検査（エイズ検査）受検経験									
ある	76	50%	278	74%	247	73%	601	69%	0.000
ない	77	50%	100	26%	91	27%	268	31%	
一番最近にHIV検査（エイズ検査）を受検した時期									
過去6か月の間	50	66%	114	41%	84	34%	248	41%	0.000
過去6か月から1年の間	14	18%	52	19%	38	15%	104	17%	
過去1年から3年の間	10	13%	74	27%	54	22%	138	23%	
過去3年以上前	2	3%	38	14%	71	29%	111	18%	
生涯STIでの罹患経験									
梅毒	10	7%	31	8%	49	14%	90	10%	0.000
A型肝炎	2	1%	1	0%	6	2%	9	1%	0.725
B型肝炎	2	1%	21	6%	37	11%	60	7%	0.013
C型肝炎	1	1%	2	1%	3	1%	6	1%	0.710
クラミジア	2	1%	27	7%	27	8%	56	6%	0.003
尖圭コンジローマ	2	1%	27	7%	16	5%	45	5%	0.023
淋病	1	1%	11	3%	14	4%	26	3%	0.103
HIV感染症	2	1%	23	6%	26	8%	51	6%	0.005
赤痢アメーバ	0	0%	0	0%	10	3%	10	1%	0.004
毛じらみ	10	7%	90	24%	113	33%	213	25%	0.000
性器ヘルペス	1	1%	3	1%	9	3%	13	1%	0.002
その他	0	0%	3	1%	7	2%	10	1%	0.155
いずれもない	129	84%	235	62%	157	46%	521	60%	

表1-4 2015年GCQ 年齢階級別の地域間移動、行動規範 (初回答者 N=869)

	25歳未満 (N=153)	25~35歳未満 (N= 378)	35歳以上 (N=338)	合計 (N=869)	χ^2 検定 有意差
過去6か月居住地以外訪問地域数 (仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)					
いずれもなし	47 31%	99 26%	87 26%	233 27%	.259
1地域のみ	61 40%	149 39%	113 33%	323 37%	
2地域	30 20%	85 22%	87 26%	202 23%	
3地域以上	15 10%	45 12%	51 15%	111 13%	
規範1 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい					
そう思う/ややそう思う	113 74%	294 78%	283 84%	690 79%	.025
あまりそう思わない/全くそう思わない	40 26%	84 22%	55 16%	179 21%	
規範2 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい					
そう思う/ややそう思う	80 52%	248 66%	229 68%	557 64%	.036
あまりそう思わない/全くそう思わない	73 48%	130 34%	109 32%	312 36%	
規範3 旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと思う					
そう思う/ややそう思う	11 7%	30 8%	44 13%	85 10%	.003
あまりそう思わない/全くそう思わない	142 93%	348 92%	294 87%	784 90%	
規範4 旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい					
そう思う/ややそう思う	31 20%	127 34%	119 35%	277 32%	.003
あまりそう思わない/全くそう思わない	122 80%	251 66%	219 65%	592 68%	
規範5 旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい					
そう思う/ややそう思う	92 60%	254 67%	261 77%	607 70%	.000
あまりそう思わない/全くそう思わない	61 40%	124 33%	77 23%	262 30%	
規範6 旅行に行く前や道中で旅先居住のゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す					
そう思う/ややそう思う	72 47%	196 52%	181 54%	449 52%	.409
あまりそう思わない/全くそう思わない	81 53%	182 48%	157 46%	420 48%	
規範7 旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う					
そう思う/ややそう思う	21 14%	94 25%	44 13%	159 18%	.000
あまりそう思わない/全くそう思わない	132 86%	284 75%	294 87%	710 82%	
規範8 旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる					
そう思う/ややそう思う	76 50%	209 55%	178 53%	463 53%	.481
あまりそう思わない/全くそう思わない	77 50%	169 45%	160 47%	406 47%	
規範9 旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる					
そう思う/ややそう思う	58 38%	181 48%	157 46%	396 46%	.103
あまりそう思わない/全くそう思わない	95 62%	197 52%	181 54%	473 54%	
規範10 旅先では、HIV抗体検査を利用しやすいと思う					
そう思う/ややそう思う	52 34%	115 30%	109 32%	276 32%	.705
あまりそう思わない/全くそう思わない	101 66%	263 70%	229 68%	593 68%	

表2-1 2016年GCQ 年齢階級別の対象者基礎属性、商業施設利用 (初回答者 N=1,111)

	初回答者限定 年齢3群								Pearson カイ2乗	
	25歳未満 (n=180)		25~35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)			
地域ブロック										
東北	8	4.4%	18	3.5%	15	3.6%	41	3.7%	<0.01	
関東	32	17.8%	115	22.1%	146	35.5%	293	26.4%		
東海	40	22.2%	107	20.6%	61	14.8%	208	18.7%		
関西	6	3.3%	23	4.4%	24	5.8%	53	4.8%		
中四国	36	20.0%	98	18.8%	72	17.5%	206	18.5%		
九州	37	20.6%	95	18.3%	49	11.9%	181	16.3%		
沖縄	21	11.7%	64	12.3%	44	10.7%	129	11.6%		
現在お住まいの地域にどれくらいの期間住んでいますか？										
産まれてからずっと	88	48.9%	165	31.7%	103	25.1%	356	32.0%	<0.01	
1年未満	20	11.1%	70	13.5%	44	10.7%	134	12.1%		
1-5年未満	40	22.2%	108	20.8%	62	15.1%	210	18.9%		
5-10年未満	10	5.6%	67	12.9%	44	10.7%	121	10.9%		
10-20年未満	13	7.2%	53	10.2%	85	20.7%	151	13.6%		
20年以上	9	5.0%	57	11.0%	73	17.8%	139	12.5%		
セクシュアリティ										
ゲイ	143	79.4%	437	84.0%	334	81.3%	914	82.3%	.265	
バイセクシュアル	25	13.9%	68	13.1%	52	12.7%	145	13.1%		
ヘテロセクシュアル	2	1.1%	1	.2%	5	1.2%	8	.7%		
分からない	6	3.3%	8	1.5%	7	1.7%	21	1.9%		
決めたくない	2	1.1%	5	1.0%	8	1.9%	15	1.4%		
その他	2	1.1%	1	.2%	5	1.2%	8	.7%		
過去6カ月間に、以下の施設やサービスを利用しましたか (複数回答)										
ゲイバー	134	74.4%	408	78.5%	290	70.6%	832	74.9%	.022	
ゲイナイト	69	38.3%	207	39.8%	143	34.8%	419	37.7%		
ゲイショップ	37	20.6%	99	19.0%	97	23.6%	233	21.0%		
PC出会い系サイト	18	10.0%	71	13.7%	60	14.6%	149	13.4%		
携帯出会い系サイト	43	23.9%	132	25.4%	127	30.9%	302	27.2%		
mixiなどSNS	33	18.3%	96	18.5%	96	23.4%	225	20.3%		
エロ系SNS	6	3.3%	28	5.4%	35	8.5%	69	6.2%		
スマホゲイ向けアプリ	101	56.1%	314	60.4%	237	57.7%	652	58.7%		
ゲイ向けサークル	25	13.9%	45	8.7%	42	10.2%	112	10.1%		
ゲイ向け合コン	6	3.3%	22	4.2%	7	1.7%	35	3.2%		
ゲイの乱パ	4	2.2%	13	2.5%	16	3.9%	33	3.0%		
有料のハッテン場	50	27.8%	160	30.8%	138	33.6%	348	31.3%		
野外のハッテン場	10	5.6%	37	7.1%	41	10.0%	88	7.9%		
ハッテン場で有名な銭湯・プール	17	9.4%	89	17.1%	95	23.1%	201	18.1%		
いずれもない	10	5.6%	17	3.3%	21	5.1%	48	4.3%		
過去6カ月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験										
ある	113	62.8%	270	51.9%	220	53.5%	603	54.3%		.039
ない	67	37.2%	250	48.1%	191	46.5%	508	45.7%		
過去6カ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？										
いつも持っていた	64	35.6%	194	37.3%	160	38.9%	418	37.6%		.468
時々持っていた	43	23.9%	150	28.8%	112	27.3%	305	27.5%		
持っていなかった	73	40.6%	176	33.8%	139	33.8%	388	34.9%		

表2-2 2016年GCQ 年齢階級別のコミュニティセンター、啓発資材等の認知 (初回答者 N=1,111)

	初回答者限定 年齢3群								Pearson カイ2乗
	25歳未満 (n=180)		25～35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)		
コミュニティセンターの認知 (複数回答)									
ZEL(宮城県仙台市)	10	5.6%	31	6.0%	33	8.0%	74	6.7%	.368
akta(東京都新宿区)	21	11.7%	122	23.5%	169	41.1%	312	28.1%	<0.01
rise(愛知県名古屋市)	20	11.1%	60	11.5%	63	15.3%	143	12.9%	.171
dista(大阪府大阪市)	12	6.7%	58	11.2%	76	18.5%	146	13.1%	<0.01
haco(福岡県福岡市)	21	11.7%	95	18.3%	71	17.3%	187	16.8%	.119
mabui(沖縄県那覇市)	21	11.7%	73	14.0%	66	16.1%	160	14.4%	.356
いずれも知らない	99	55.0%	217	41.7%	128	31.1%	444	40.0%	<0.01
コミュニティペーパーの認知 (複数回答)									
コミュニティペーパー-ZEL	12	6.7%	31	6.0%	28	6.8%	71	6.4%	.858
フリーペーパー-akta monthly paper	8	4.4%	76	14.6%	103	25.1%	187	16.8%	<0.01
コミュニティペーパー-h.a.n.a.	4	2.2%	24	4.6%	26	6.3%	54	4.9%	.096
南界堂通信	2	1.1%	8	1.5%	14	3.4%	24	2.2%	.086
ゲイコミュニティペーパー-Fight!!	5	2.8%	28	5.4%	26	6.3%	59	5.3%	.208
コミュニティペーパー-season	3	1.7%	30	5.8%	36	8.8%	69	6.2%	.004
コミュニティペーパー-nankr	14	7.8%	39	7.5%	47	11.4%	100	9.0%	.094
さくら通信	4	2.2%	10	1.9%	11	2.7%	25	2.3%	.743
いずれも知らない	142	78.9%	337	64.8%	226	55.0%	705	63.5%	<0.01
akta セーフアセックスキャンペーンを見たことがありますか?									
ある	37	20.6%	127	24.4%	122	29.7%	286	25.7%	.042
ない	143	79.4%	393	75.6%	289	70.3%	825	74.3%	
aktaが配布している、HIV検査キット、HIVチェックを知っていますか?									
利用した	10	5.6%	40	7.7%	17	4.1%	67	6.0%	.225
認知のみ、利用したことはない	68	37.8%	189	36.3%	164	39.9%	421	37.9%	
知らない	102	56.7%	291	56.0%	230	56.0%	623	56.1%	
やるプロキャンペーン画像を見たことがありますか?									
ある	109	60.6%	286	55.0%	178	43.3%	573	51.6%	<0.01
ない	71	39.4%	234	45.0%	233	56.7%	538	48.4%	
これまでに「やる!プロジェクト」で配布されている資材をもらったことがありますか?									
過去6か月以内にもらった	31	28.4%	100	35.0%	52	29.2%	183	31.9%	.024
過去6か月以前にもらった	4	3.7%	28	9.8%	25	14.0%	57	9.9%	
もらったことはない	74	67.9%	158	55.2%	101	56.7%	333	58.1%	

表2-3 2016年GCQ 年齢階級別の性行動、予防行動 (初回答者 N=1,111)

	初回答者限定 年齢3群								Pearson カイ2乗
	25歳未満 (n=180)		25~35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)		
男性とセックス(キスやフェラチオ、アナルセックス等)をしたことがありますか？									
ある	168	93.3%	504	96.9%	394	95.9%	1066	95.9%	.108
ない	12	6.7%	16	3.1%	17	4.1%	45	4.1%	
男性とアナルセックスをしたことがありますか？									
ある	159	88.3%	474	91.2%	371	90.3%	1004	90.4%	.541
ない	21	11.7%	46	8.8%	40	9.7%	107	9.6%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？									
現在から過去6か月の間	127	79.9%	338	71.3%	242	65.2%	707	70.4%	<0.01
過去6か月から過去1年の間	11	6.9%	47	9.9%	26	7.0%	84	8.4%	
一年以上前	17	10.7%	69	14.6%	93	25.1%	179	17.8%	
覚えていない	4	2.5%	20	4.2%	10	2.7%	34	3.4%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？									
彼氏や恋人	54	34.0%	171	36.1%	102	27.5%	327	32.6%	.066
友達やセクフレ	63	39.6%	161	34.0%	132	35.6%	356	35.5%	
その場限りの相手	40	25.2%	134	28.3%	126	34.0%	300	29.9%	
その他	2	1.3%	8	1.7%	11	3.0%	21	2.1%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使用しましたか？									
使った	110	69.2%	308	65.0%	234	63.1%	652	64.9%	.536
使わなかった	45	28.3%	148	31.2%	118	31.8%	311	31.0%	
覚えていない	4	2.5%	18	3.8%	19	5.1%	41	4.1%	
過去6か月間に、男性とアナルセックスをしましたか？									
はい	138	86.8%	366	77.2%	254	68.5%	758	75.5%	<0.01
いいえ	21	13.2%	108	22.8%	117	31.5%	246	24.5%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手(複数回答)									
彼氏恋人	49	27.2%	150	28.8%	71	17.3%	270	24.3%	<0.01
友達セフレ	66	36.7%	151	29.0%	121	29.4%	338	30.4%	
その場限りの相手	40	22.2%	112	21.5%	104	25.3%	256	23.0%	
その他	2	1.1%	7	1.3%	6	1.5%	15	1.4%	
過去6か月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？									
1人	47	34.1%	139	38.0%	74	29.1%	260	34.3%	.238
2人	24	17.4%	67	18.3%	48	18.9%	139	18.3%	
3人	24	17.4%	49	13.4%	30	11.8%	103	13.6%	
4人	8	5.8%	27	7.4%	17	6.7%	52	6.9%	
5人	6	4.3%	13	3.6%	11	4.3%	30	4.0%	
6人以上	29	21.0%	71	19.4%	74	29.1%	174	23.0%	
過去6か月間のアナルセックスで、コンドームをどのくらい使いましたか？									
必ず使った	61	44.2%	157	42.9%	111	43.7%	329	43.4%	.188
使うことが多かった	41	29.7%	94	25.7%	57	22.4%	192	25.3%	
五分五分	10	7.2%	52	14.2%	46	18.1%	108	14.2%	
使わないほうが多かった	14	10.1%	27	7.4%	21	8.3%	62	8.2%	
全く使わなかった	12	8.7%	36	9.8%	19	7.5%	67	8.8%	
過去6か月間に、外国の方とアナルセックスをしたことがありますか？									
ある	25	18.1%	79	21.6%	55	21.7%	159	21.0%	.659
ない	113	81.9%	287	78.4%	199	78.3%	599	79.0%	
外国の方とセックスをした場所は国内、海外のどちらですか？									
日本国内	18	72.0%	63	79.7%	37	67.3%	118	74.2%	.258
海外	7	28.0%	16	20.3%	18	32.7%	41	25.8%	
過去6か月間併用品(複数回答)									
ローション	141	78.3%	416	80.0%	308	74.9%	865	77.9%	.179
ハンドクリーム	3	1.7%	6	1.2%	3	.7%	12	1.1%	
ぼっき薬(バイアグラなど)	4	2.2%	29	5.6%	58	14.1%	91	8.2%	<0.01
ラッシュ	1	.6%	15	2.9%	9	2.2%	25	2.3%	
5MEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)	0	.0%	0	.0%	2	.5%	2	.2%	.182
スピード・エクスタシー(MDMAなど)	0	.0%	2	.4%	2	.5%	4	.4%	
その他セックスドラッグ(合ドラや威哥王)	0	.0%	5	1.0%	9	2.2%	14	1.3%	.063
脱法ハーブ	0	.0%	1	.2%	2	.5%	3	.3%	
静脈注射のドラッグ	0	.0%	1	.2%	1	.2%	2	.2%	.810
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等)	0	.0%	1	.2%	1	.2%	2	.2%	
いずれも使用していない	37	20.6%	100	19.2%	96	23.4%	233	21.0%	.304

表2-4 2016年GCQ 年齢階級別の受検行動、性感染症既往 (初回答者 N=1,111)

	初回答者限定 年齢3群				合計 (n=1111)		Pearson カイ2乗		
	25歳未満 (n=180)		25~35歳未満 (n=520)					35歳以上 (n=411)	
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?									
ある	93	51.7%	346	66.5%	305	74.2%	744	67.0%	<0.01
ない	87	48.3%	174	33.5%	106	25.8%	367	33.0%	
一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか?									
過去6か月の間	47	50.5%	140	40.5%	85	27.9%	272	36.6%	<0.01
過去6か月から1年の間	18	19.4%	52	15.0%	50	16.4%	120	16.1%	
過去1年から3年の間	25	26.9%	86	24.9%	84	27.5%	195	26.2%	
過去3年以上前	3	3.2%	68	19.7%	86	28.2%	157	21.1%	
生涯STI罹患(複数回答)									
梅毒	3	1.7%	39	7.5%	65	15.8%	107	9.6%	<0.01
A型肝炎	3	1.7%	1	.2%	10	2.4%	14	1.3%	.008
B型肝炎	5	2.8%	31	6.0%	49	11.9%	85	7.7%	<0.01
C型肝炎	0	.0%	3	.6%	7	1.7%	10	.9%	.074
クラミジア	6	3.3%	28	5.4%	39	9.5%	73	6.6%	.007
尖圭コンジローマ	1	.6%	19	3.7%	28	6.8%	48	4.3%	.002
淋病	4	2.2%	19	3.7%	27	6.6%	50	4.5%	.028
HIV感染症	4	2.2%	17	3.3%	24	5.8%	45	4.1%	.056
赤痢アメーバ	0	.0%	3	.6%	6	1.5%	9	.8%	.137
毛じらみ	18	10.0%	120	23.1%	145	35.3%	283	25.5%	<0.01
性器ヘルペス	1	.6%	6	1.2%	15	3.6%	22	2.0%	.008
その他	1	.6%	8	1.5%	7	1.7%	16	1.4%	.541
いずれもなし	147	81.7%	323	62.1%	171	41.6%	641	57.7%	<0.01

表2-5 2016年GCQ 年齢階級別の地域間移動と訪問先施設利用と性行動 (初回答者限定 N=1,111)

	初回答者限定 年齢3群						Pearson カイ2乗
	25歳未満 (n=180)	25~35歳未満 (n=520)	35歳以上 (n=411)	合計 (n=1111)			
旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい							
そう思わない	42 23.3%	112 21.5%	80 19.5%	234	21.1%	.533	
そう思う	138 76.7%	408 78.5%	331 80.5%	877	78.9%		
旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい							
そう思わない	67 37.2%	181 34.8%	137 33.3%	385	34.7%	.655	
そう思う	113 62.8%	339 65.2%	274 66.7%	726	65.3%		
旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと思う							
そう思わない	156 86.7%	455 87.5%	374 91.0%	985	88.7%	.162	
そう思う	24 13.3%	65 12.5%	37 9.0%	126	11.3%		
旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい							
そう思わない	122 67.8%	344 66.2%	259 63.0%	725	65.3%	.450	
そう思う	58 32.2%	176 33.8%	152 37.0%	386	34.7%		
旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい							
そう思わない	87 48.3%	181 34.8%	115 28.0%	383	34.5%	<0.01	
そう思う	93 51.7%	339 65.2%	296 72.0%	728	65.5%		
旅行に行く前や道中では、旅先に住んでいるゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す							
そう思わない	82 45.6%	240 46.2%	186 45.3%	508	45.7%	.962	
そう思う	98 54.4%	280 53.8%	225 54.7%	603	54.3%		
旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う							
そう思わない	136 75.6%	384 73.8%	344 83.7%	864	77.8%	.001	
そう思う	44 24.4%	136 26.2%	67 16.3%	247	22.2%		
旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる							
そう思わない	100 55.6%	259 49.8%	218 53.0%	577	51.9%	.352	
そう思う	80 44.4%	261 50.2%	193 47.0%	534	48.1%		
旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる							
そう思わない	87 48.3%	231 44.4%	208 50.6%	526	47.3%	.165	
そう思う	93 51.7%	289 55.6%	203 49.4%	585	52.7%		
居住地以外の場所の方が、HIV抗体検査を利用しやすい							
そう思わない	105 58.3%	297 57.1%	225 54.7%	627	56.4%	.657	
そう思う	75 41.7%	223 42.9%	186 45.3%	484	43.6%		
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか? (複数回答)							
仙台市	13 7.2%	30 5.8%	27 6.6%	70	6.3%	.757	
東京都	64 35.6%	190 36.5%	182 44.3%	436	39.2%	.030	
名古屋市	34 18.9%	117 22.5%	94 22.9%	245	22.1%	.530	
大阪市	41 22.8%	160 30.8%	148 36.0%	349	31.4%	.006	
岡山市	16 8.9%	46 8.8%	32 7.8%	94	8.5%	.825	
福岡市	38 21.1%	119 22.9%	80 19.5%	237	21.3%	.448	
沖縄県	14 7.8%	60 11.5%	79 19.2%	153	13.8%	<0.01	
いずれも訪れていない	63 35.0%	140 26.9%	102 24.8%	305	27.5%	.036	
過去6カ月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか? (複数回答)							
ゲイバー	109 60.6%	353 67.9%	242 58.9%	704	63.4%	.013	
ゲイナイト	42 23.3%	138 26.5%	84 20.4%	264	23.8%	.094	
ゲイショップ	15 8.3%	63 12.1%	51 12.4%	129	11.6%	.322	
PC出会い系サイト	10 5.6%	37 7.1%	32 7.8%	79	7.1%	.624	
携帯出会い系サイト	17 9.4%	64 12.3%	68 16.5%	149	13.4%	.040	
mixiなどSNS	13 7.2%	52 10.0%	46 11.2%	111	10.0%	.334	
工口系SNS(HuGs や男子寮など)	6 3.3%	14 2.7%	11 2.7%	31	2.8%	.890	
スマートフォンのゲイ向けアプリ	58 32.2%	199 38.3%	167 40.6%	424	38.2%	.153	
ゲイ向けサークル	11 6.1%	14 2.7%	21 5.1%	46	4.1%	.065	
ゲイ向け合コン	0 .0%	9 1.7%	5 1.2%	14	1.3%	.199	
ゲイの乱パ	2 1.1%	10 1.9%	6 1.5%	18	1.6%	.720	
有料のハッテン場	33 18.3%	108 20.8%	100 24.3%	241	21.7%	.208	
野外のハッテン場	3 1.7%	16 3.1%	19 4.6%	38	3.4%	.160	
ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設	6 3.3%	33 6.3%	48 11.7%	87	7.8%	.001	
いずれもない	36 20.0%	67 12.9%	75 18.2%	178	16.0%	.024	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをしましたか?							
はい	63 35.0%	180 34.6%	138 33.6%	381	34.3%	.924	
いいえ	117 65.0%	340 65.4%	273 66.4%	730	65.7%		
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手 (複数回答)							
彼氏恋人	18 10.0%	62 11.9%	21 5.1%	101	9.1%	.001	
友達セフレ	28 15.6%	76 14.6%	55 13.4%	159	14.3%	.757	
ネットで面識あり実際に会うのは初めて	10 5.6%	27 5.2%	18 4.4%	55	5.0%	.783	
その場限り	21 11.7%	55 10.6%	70 17.0%	146	13.1%	.012	
その他	1 .6%	3 .6%	3 .7%	7	.6%	.949	
そのときのアナルセックスでコンドームを使いましたか?							
使った	46 73.0%	123 68.3%	91 65.9%	260	68.2%	.305	
使わなかった	10 15.9%	45 25.0%	39 28.3%	94	24.7%		
覚えていない	7 11.1%	12 6.7%	8 5.8%	27	7.1%		

表3-1 地域別属性、施設等利用、 Condominium保持、エイズに関する対話経験（2016年GCQ調査）

	地域ブロック〈7地域〉														Pearson カイ 2 乗		
	東北(N=41)		関東(N=293)		東海(N=208)		関西(N=53)		中四国(N=206)		九州(N=181)		沖縄(N=129)			合計(N=1111)	
年齢3群																	
25未満	8	19.5%	32	10.9%	40	19.2%	6	11.3%	36	17.5%	37	20.4%	21	16.3%	180	16.2%	.000
25-35歳未満	18	43.9%	115	39.2%	107	51.4%	23	43.4%	98	47.6%	95	52.5%	64	49.6%	520	46.8%	
35歳以上	15	36.6%	146	49.8%	61	29.3%	24	45.3%	72	35.0%	49	27.1%	44	34.1%	411	37.0%	
現在お住まいの地域にどれくらいの期間住んでいますか？																	
産まれてからずっと	16	39.0%	56	19.1%	70	33.7%	12	22.6%	81	39.3%	52	28.7%	69	53.5%	356	32.0%	.000
1年未満	3	7.3%	47	16.0%	26	12.5%	10	18.9%	15	7.3%	22	12.2%	11	8.5%	134	12.1%	
1-5年未満	9	22.0%	57	19.5%	49	23.6%	10	18.9%	25	12.1%	47	26.0%	13	10.1%	210	18.9%	
5-10年未満	4	9.8%	46	15.7%	15	7.2%	8	15.1%	17	8.3%	20	11.0%	11	8.5%	121	10.9%	
10-20年未満	3	7.3%	58	19.8%	21	10.1%	6	11.3%	26	12.6%	22	12.2%	15	11.6%	151	13.6%	
20年以上	6	14.6%	29	9.9%	27	13.0%	7	13.2%	42	20.4%	18	9.9%	10	7.8%	139	12.5%	
あなたは以下のどれにあてはまりますか？																	
ゲイ	35	85.4%	267	91.1%	155	74.5%	43	81.1%	155	75.2%	151	83.4%	108	83.7%	914	82.3%	.000
バイセクシュアル	3	7.3%	15	5.1%	43	20.7%	8	15.1%	37	18.0%	25	13.8%	14	10.9%	145	13.1%	
ヘテロセクシュアル	0	.0%	2	.7%	3	1.4%	0	.0%	3	1.5%	0	.0%	0	.0%	8	.7%	
分からない	0	.0%	5	1.7%	3	1.4%	1	1.9%	8	3.9%	1	.6%	3	2.3%	21	1.9%	
決めたくない	2	4.9%	0	.0%	4	1.9%	1	1.9%	2	1.0%	2	1.1%	4	3.1%	15	1.4%	
その他	1	2.4%	4	1.4%	0	.0%	0	.0%	1	.5%	2	1.1%	0	.0%	8	.7%	
過去6か月間にゲイバーを利用しましたか																	
利用なし	14	34.1%	64	21.8%	56	26.9%	16	30.2%	71	34.5%	22	12.2%	36	27.9%	279	25.1%	.000
利用した	27	65.9%	229	78.2%	152	73.1%	37	69.8%	135	65.5%	159	87.8%	93	72.1%	832	74.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間 ゲイナイト																	
利用なし	32	78.0%	159	54.3%	112	53.8%	33	62.3%	148	71.8%	118	65.2%	90	69.8%	692	62.3%	.000
利用した	9	22.0%	134	45.7%	96	46.2%	20	37.7%	58	28.2%	63	34.8%	39	30.2%	419	37.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間 スマートフォンのゲイ向けアプリ（Grindrや Jack 'dなど）																	
利用なし	20	48.8%	109	37.2%	97	46.6%	19	35.8%	89	43.2%	69	38.1%	56	43.4%	459	41.3%	.288
利用した	21	51.2%	184	62.8%	111	53.4%	34	64.2%	117	56.8%	112	61.9%	73	56.6%	652	58.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間 有料のハッテン場																	
利用なし	29	70.7%	182	62.1%	132	63.5%	29	54.7%	159	77.2%	127	70.2%	105	81.4%	763	68.7%	.000
利用した	12	29.3%	111	37.9%	76	36.5%	24	45.3%	47	22.8%	54	29.8%	24	18.6%	348	31.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間 野外のハッテン場																	
利用なし	37	90.2%	271	92.5%	191	91.8%	48	90.6%	192	93.2%	171	94.5%	113	87.6%	1023	92.1%	.449
利用した	4	9.8%	22	7.5%	17	8.2%	5	9.4%	14	6.8%	10	5.5%	16	12.4%	88	7.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間 ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設																	
利用なし	31	75.6%	220	75.1%	170	81.7%	43	81.1%	175	85.0%	159	87.8%	112	86.8%	910	81.9%	.006
利用した	10	24.4%	73	24.9%	38	18.3%	10	18.9%	31	15.0%	22	12.2%	17	13.2%	201	18.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験																	
ある	21	51.2%	172	58.7%	111	53.4%	29	54.7%	105	51.0%	102	56.4%	63	48.8%	603	54.3%	.506
ない	20	48.8%	121	41.3%	97	46.6%	24	45.3%	101	49.0%	79	43.6%	66	51.2%	508	45.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？																	
いつも持っていた	13	31.7%	94	32.1%	98	47.1%	31	58.5%	66	32.0%	72	39.8%	44	34.1%	418	37.6%	.001
時々持っていた	9	22.0%	85	29.0%	60	28.8%	10	18.9%	61	29.6%	47	26.0%	33	25.6%	305	27.5%	
持っていなかった	19	46.3%	114	38.9%	50	24.0%	12	22.6%	79	38.3%	62	34.3%	52	40.3%	388	34.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	

表3-2 地域別 コミュニティセンターの認知、啓発資料コミュニティペーパーの認知 (2016年GCQ調査)

	地域ブロック〈7地域〉														Pearson カイ2乗		
	東北(N=41)		関東(N=293)		東海(N=208)		関西(N=53)		中四国(N=206)		九州(N=181)		沖縄(N=129)			合計(N=1111)	
コミュニティセンター1 ZEL(宮城県仙台市) 認知																	
利用なし	8	19.5%	271	92.5%	201	96.6%	53	100.0%	205	99.5%	176	97.2%	123	95.3%	1037	93.3%	.000
利用した	33	80.5%	22	7.5%	7	3.4%	0	.0%	1	.5%	5	2.8%	6	4.7%	74	6.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
akta(東京都新宿区) 認知																	
利用なし	26	63.4%	90	30.7%	178	85.6%	43	81.1%	188	91.3%	158	87.3%	116	89.9%	799	71.9%	.000
利用した	15	36.6%	203	69.3%	30	14.4%	10	18.9%	18	8.7%	23	12.7%	13	10.1%	312	28.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
rise(愛知県名古屋) 認知																	
利用なし	36	87.8%	269	91.8%	109	52.4%	50	94.3%	201	97.6%	178	98.3%	125	96.9%	968	87.1%	.000
利用した	5	12.2%	24	8.2%	99	47.6%	3	5.7%	5	2.4%	3	1.7%	4	3.1%	143	12.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
dista(大阪府大阪市) 認知																	
利用なし	34	82.9%	251	85.7%	182	87.5%	21	39.6%	183	88.8%	172	95.0%	122	94.6%	965	86.9%	.000
利用した	7	17.1%	42	14.3%	26	12.5%	32	60.4%	23	11.2%	9	5.0%	7	5.4%	146	13.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
haco(福岡県福岡市) 認知																	
利用なし	34	82.9%	270	92.2%	197	94.7%	48	90.6%	191	92.7%	59	32.6%	125	96.9%	924	83.2%	.000
利用した	7	17.1%	23	7.8%	11	5.3%	5	9.4%	15	7.3%	122	67.4%	4	3.1%	187	16.8%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
mabui(沖縄県那覇市) 認知																	
利用なし	34	82.9%	266	90.8%	197	94.7%	51	96.2%	201	97.6%	172	95.0%	30	23.3%	951	85.6%	.000
利用した	7	17.1%	27	9.2%	11	5.3%	2	3.8%	5	2.4%	9	5.0%	99	76.7%	160	14.4%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
いずれも知らない																	
該当なし	34	82.9%	217	74.1%	111	53.4%	35	66.0%	44	21.4%	123	68.0%	103	79.8%	667	60.0%	.000
該当	7	17.1%	76	25.9%	97	46.6%	18	34.0%	162	78.6%	58	32.0%	26	20.2%	444	40.0%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
コミュニティペーパー-ZEL 認知																	
認知無し	17	41.5%	276	94.2%	197	94.7%	52	98.1%	206	100.0%	170	93.9%	122	94.6%	1040	93.6%	.000
認知有り	24	58.5%	17	5.8%	11	5.3%	1	1.9%	0	.0%	11	6.1%	7	5.4%	71	6.4%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
フリーペーパーakta monthly paper 認知																	
認知無し	34	82.9%	164	56.0%	191	91.8%	46	86.8%	203	98.5%	165	91.2%	121	93.8%	924	83.2%	.000
認知有り	7	17.1%	129	44.0%	17	8.2%	7	13.2%	3	1.5%	16	8.8%	8	6.2%	187	16.8%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
コミュニティペーパー-h.a.n.a. 認知																	
認知無し	39	95.1%	284	96.9%	175	84.1%	52	98.1%	205	99.5%	176	97.2%	126	97.7%	1057	95.1%	.000
認知有り	2	4.9%	9	3.1%	33	15.9%	1	1.9%	1	.5%	5	2.8%	3	2.3%	54	4.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
季刊誌 南界堂通信 認知																	
認知無し	39	95.1%	285	97.3%	204	98.1%	48	90.6%	205	99.5%	178	98.3%	128	99.2%	1087	97.8%	.004
認知有り	2	4.9%	8	2.7%	4	1.9%	5	9.4%	1	.5%	3	1.7%	1	.8%	24	2.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
ゲイコミュニティペーパーFight!! 認知																	
認知無し	40	97.6%	285	97.3%	201	96.6%	51	96.2%	175	85.0%	173	95.6%	127	98.4%	1052	94.7%	.000
認知有り	1	2.4%	8	2.7%	7	3.4%	2	3.8%	31	15.0%	8	4.4%	2	1.6%	59	5.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
コミュニティペーパー-season 認知																	
認知無し	39	95.1%	285	97.3%	205	98.6%	51	96.2%	203	98.5%	132	72.9%	127	98.4%	1042	93.8%	.000
認知有り	2	4.9%	8	2.7%	3	1.4%	2	3.8%	3	1.5%	49	27.1%	2	1.6%	69	6.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
コミュニティペーパー-nankr 認知																	
認知無し	39	95.1%	268	91.5%	200	96.2%	50	94.3%	204	99.0%	175	96.7%	75	58.1%	1011	91.0%	.000
認知有り	2	4.9%	25	8.5%	8	3.8%	3	5.7%	2	1.0%	6	3.3%	54	41.9%	100	9.0%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
さくら通信 認知																	
認知無し	40	97.6%	288	98.3%	202	97.1%	53	100.0%	206	100.0%	176	97.2%	121	93.8%	1086	97.7%	.013
認知有り	1	2.4%	5	1.7%	6	2.9%	0	.0%	0	.0%	5	2.8%	8	6.2%	25	2.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	

表3-3 地域別 啓発プログラムの認知および性行動（2016年GCQ調査）

	地域ブロック〈7地域〉												Pearson カイ2乗				
	東北(N=41)	関東(N=293)	東海(N=208)	関西(N=53)	中四国(N=206)	九州(N=181)	沖縄(N=129)	合計(N=1111)									
東京セーファーセックスキャンペーンを見たことがありますか？																	
ある	12	29.3%	116	39.6%	48	23.1%	13	24.5%	28	13.6%	44	24.3%	25	19.4%	286	25.7%	.000
ない	29	70.7%	177	60.4%	160	76.9%	40	75.5%	178	86.4%	137	75.7%	104	80.6%	825	74.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
aktaが配布している、HIV検査キット、HIVチェックを知っていますか？																	
利用した	1	2.4%	25	8.5%	19	9.1%	4	7.5%	1	.5%	9	5.0%	8	6.2%	67	6.0%	.000
認知のみ	17	41.5%	167	57.0%	73	35.1%	19	35.8%	73	35.4%	49	27.1%	23	17.8%	421	37.9%	
知らない	23	56.1%	101	34.5%	116	55.8%	30	56.6%	132	64.1%	123	68.0%	98	76.0%	623	56.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
キャンペーン(やるプロジェクト)を見たことがありますか？																	
ある	27	65.9%	143	48.8%	147	70.7%	26	49.1%	102	49.5%	79	43.6%	49	38.0%	573	51.6%	.000
ない	14	34.1%	150	51.2%	61	29.3%	27	50.9%	104	50.5%	102	56.4%	80	62.0%	538	48.4%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
これまでに「やる！プロジェクト」で配布されている資料をもらったことがありますか？																	
半年以内にもらった	4	14.8%	20	14.0%	83	56.5%	12	46.2%	41	40.2%	11	13.9%	12	24.5%	183	31.9%	.000
半年より前にもらった	3	11.1%	12	8.4%	7	4.8%	3	11.5%	14	13.7%	6	7.6%	12	24.5%	57	9.9%	
もらったことはない	20	74.1%	111	77.6%	57	38.8%	11	42.3%	47	46.1%	62	78.5%	25	51.0%	333	58.1%	
合計	27	100.0%	143	100.0%	147	100.0%	26	100.0%	102	100.0%	79	100.0%	49	100.0%	573	100.0%	
これまでに、男性とセックス(キスやフェラチオ、アナルセックス等)をしたことがありますか？																	
ある	37	90.2%	284	96.9%	202	97.1%	52	98.1%	195	94.7%	174	96.1%	122	94.6%	1066	95.9%	.316
ない	4	9.8%	9	3.1%	6	2.9%	1	1.9%	11	5.3%	7	3.9%	7	5.4%	45	4.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
これまでに、男性とアナルセックスをしたことがありますか？																	
ある	33	80.5%	266	90.8%	191	91.8%	48	90.6%	185	89.8%	166	91.7%	115	89.1%	1004	90.4%	.441
ない	8	19.5%	27	9.2%	17	8.2%	5	9.4%	21	10.2%	15	8.3%	14	10.9%	107	9.6%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？																	
現在から過去6か月の	23	69.7%	189	71.1%	144	75.4%	36	75.0%	118	63.8%	121	72.9%	76	66.1%	707	70.4%	.183
過去6か月から過去1	1	3.0%	16	6.0%	19	9.9%	3	6.3%	22	11.9%	16	9.6%	7	6.1%	84	8.4%	
一年以上前	7	21.2%	51	19.2%	23	12.0%	9	18.8%	40	21.6%	22	13.3%	27	23.5%	179	17.8%	
覚えていない	2	6.1%	10	3.8%	5	2.6%	0	.0%	5	2.7%	7	4.2%	5	4.3%	34	3.4%	
合計	33	100.0%	266	100.0%	191	100.0%	48	100.0%	185	100.0%	166	100.0%	115	100.0%	1004	100.0%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？																	
彼氏や恋人	12	36.4%	83	31.2%	51	26.7%	15	31.3%	62	33.5%	59	35.5%	45	39.1%	327	32.6%	.779
友達やセクフレ	11	33.3%	89	33.5%	81	42.4%	15	31.3%	69	37.3%	56	33.7%	35	30.4%	356	35.5%	
その場限りの相手	10	30.3%	88	33.1%	56	29.3%	17	35.4%	51	27.6%	47	28.3%	31	27.0%	300	29.9%	
その他	0	.0%	6	2.3%	3	1.6%	1	2.1%	3	1.6%	4	2.4%	4	3.5%	21	2.1%	
合計	33	100.0%	266	100.0%	191	100.0%	48	100.0%	185	100.0%	166	100.0%	115	100.0%	1004	100.0%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使用しましたか？																	
使った	21	63.6%	182	68.4%	132	69.1%	34	70.8%	111	60.0%	105	63.3%	67	58.3%	652	64.9%	.120
使わなかった	11	33.3%	73	27.4%	46	24.1%	13	27.1%	70	37.8%	54	32.5%	44	38.3%	311	31.0%	
覚えていない	1	3.0%	11	4.1%	13	6.8%	1	2.1%	4	2.2%	7	4.2%	4	3.5%	41	4.1%	
合計	33	100.0%	266	100.0%	191	100.0%	48	100.0%	185	100.0%	166	100.0%	115	100.0%	1004	100.0%	
過去6か月間に、男性とアナルセックスをしましたか？																	
はい	23	69.7%	195	73.3%	158	82.7%	40	83.3%	131	70.8%	128	77.1%	83	72.2%	758	75.5%	.077
いいえ	10	30.3%	71	26.7%	33	17.3%	8	16.7%	54	29.2%	38	22.9%	32	27.8%	246	24.5%	
合計	33	100.0%	266	100.0%	191	100.0%	48	100.0%	185	100.0%	166	100.0%	115	100.0%	1004	100.0%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手 彼氏恋人																	
していない	32	78.0%	229	78.2%	157	75.5%	42	79.2%	159	77.2%	131	72.4%	91	70.5%	841	75.7%	.589
した	9	22.0%	64	21.8%	51	24.5%	11	20.8%	47	22.8%	50	27.6%	38	29.5%	270	24.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手 トモダチセフレ																	
していない	30	73.2%	205	70.0%	130	62.5%	38	71.7%	147	71.4%	122	67.4%	101	78.3%	773	69.6%	.100
した	11	26.8%	88	30.0%	78	37.5%	15	28.3%	59	28.6%	59	32.6%	28	21.7%	338	30.4%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手 その場限り																	
していない	31	75.6%	215	73.4%	153	73.6%	39	73.6%	166	80.6%	145	80.1%	106	82.2%	855	77.0%	.212
した	10	24.4%	78	26.6%	55	26.4%	14	26.4%	40	19.4%	36	19.9%	23	17.8%	256	23.0%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	

表3-4 地域別 コンドーム使用、外国籍MSMとの性経験、受検行動 (2016年GCQ調査)

	地域ブロック (7地域)													Pearson カイ 2乗			
	東北(N=41)	関東(N=293)	東海(N=208)	関西(N=53)	中四国(N=206)	九州(N=181)	沖縄(N=129)	合計(N=1111)									
過去6か月間のアナルセックスで、コンドームをどのくらい使いましたか？																	
必ず使った	12	52.2%	88	45.1%	76	48.1%	19	47.5%	51	38.9%	46	35.9%	37	44.6%	329	43.4%	.064
使うことが多かった	2	8.7%	53	27.2%	39	24.7%	12	30.0%	34	26.0%	34	26.6%	18	21.7%	192	25.3%	
五分五分	2	8.7%	27	13.8%	30	19.0%	1	2.5%	14	10.7%	21	16.4%	13	15.7%	108	14.2%	
使わないほうが多かつ	2	8.7%	13	6.7%	6	3.8%	5	12.5%	16	12.2%	13	10.2%	7	8.4%	62	8.2%	
全く使わなかった	5	21.7%	14	7.2%	7	4.4%	3	7.5%	16	12.2%	14	10.9%	8	9.6%	67	8.8%	
合計	23	100.0%	195	100.0%	158	100.0%	40	100.0%	131	100.0%	128	100.0%	83	100.0%	758	100.0%	
過去6か月間に、外国の方とアナルセックスをしたことがありますか？																	
ある	3	13.0%	43	22.1%	35	22.2%	11	27.5%	28	21.4%	22	17.2%	17	20.5%	159	21.0%	.770
ない	20	87.0%	152	77.9%	123	77.8%	29	72.5%	103	78.6%	106	82.8%	66	79.5%	599	79.0%	
合計	23	100.0%	195	100.0%	158	100.0%	40	100.0%	131	100.0%	128	100.0%	83	100.0%	758	100.0%	
外国の方とセックスをした場所は国内、海外のどちらですか？																	
日本国内	3	100.0%	28	65.1%	25	71.4%	6	54.5%	23	82.1%	19	86.4%	14	82.4%	118	74.2%	.205
海外	0	.0%	15	34.9%	10	28.6%	5	45.5%	5	17.9%	3	13.6%	3	17.6%	41	25.8%	
合計	3	100.0%	43	100.0%	35	100.0%	11	100.0%	28	100.0%	22	100.0%	17	100.0%	159	100.0%	
過去6ヶ月間併用品 ぼつき薬(バイアグラなど)																	
利用無	39	95.1%	262	89.4%	192	92.3%	46	86.8%	191	92.7%	168	92.8%	122	94.6%	1020	91.8%	.375
利用有	2	4.9%	31	10.6%	16	7.7%	7	13.2%	15	7.3%	13	7.2%	7	5.4%	91	8.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間併用品 ラッシュ																	
利用無	41	100.0%	287	98.0%	204	98.1%	51	96.2%	204	99.0%	174	96.1%	125	96.9%	1086	97.7%	.450
利用有	0	.0%	6	2.0%	4	1.9%	2	3.8%	2	1.0%	7	3.9%	4	3.1%	25	2.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間併用品 SMEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)																	
利用無	41	100.0%	292	99.7%	207	99.5%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1109	99.8%	.860
利用有	0	.0%	1	.3%	1	.5%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	2	.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6ヶ月間併用品 静脈注射のドラッグ																	
利用無	41	100.0%	292	99.7%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	128	99.2%	1109	99.8%	.648
利用有	0	.0%	1	.3%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	1	.8%	2	.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？																	
ある	27	65.9%	228	77.8%	142	68.3%	38	71.7%	119	57.8%	107	59.1%	83	64.3%	744	67.0%	.000
ない	14	34.1%	65	22.2%	66	31.7%	15	28.3%	87	42.2%	74	40.9%	46	35.7%	367	33.0%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？																	
過去6か月の間	11	40.7%	81	35.5%	61	43.0%	14	36.8%	43	36.1%	33	30.8%	29	34.9%	272	36.6%	.201
過去6か月から1年の間	6	22.2%	34	14.9%	26	18.3%	9	23.7%	13	10.9%	20	18.7%	12	14.5%	120	16.1%	
過去1年から3年の間	7	25.9%	58	25.4%	35	24.6%	7	18.4%	28	23.5%	31	29.0%	29	34.9%	195	26.2%	
過去3年以上前	3	11.1%	55	24.1%	20	14.1%	8	21.1%	35	29.4%	23	21.5%	13	15.7%	157	21.1%	
合計	27	100.0%	228	100.0%	142	100.0%	38	100.0%	119	100.0%	107	100.0%	83	100.0%	744	100.0%	
生涯STI罹患 梅毒																	
罹患無	37	90.2%	258	88.1%	184	88.5%	46	86.8%	189	91.7%	167	92.3%	123	95.3%	1004	90.4%	.215
罹患有	4	9.8%	35	11.9%	24	11.5%	7	13.2%	17	8.3%	14	7.7%	6	4.7%	107	9.6%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
生涯STI罹患 A型肝炎																	
罹患無	41	100.0%	285	97.3%	205	98.6%	53	100.0%	205	99.5%	181	100.0%	127	98.4%	1097	98.7%	.136
罹患有	0	.0%	8	2.7%	3	1.4%	0	.0%	1	.5%	0	.0%	2	1.6%	14	1.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
生涯STI罹患 B型肝炎																	
罹患無	39	95.1%	257	87.7%	199	95.7%	46	86.8%	194	94.2%	166	91.7%	125	96.9%	1026	92.3%	.003
罹患有	2	4.9%	36	12.3%	9	4.3%	7	13.2%	12	5.8%	15	8.3%	4	3.1%	85	7.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
生涯STI罹患 C型肝炎																	
罹患無	41	100.0%	290	99.0%	207	99.5%	52	98.1%	203	98.5%	181	100.0%	127	98.4%	1101	99.1%	.625
罹患有	0	.0%	3	1.0%	1	.5%	1	1.9%	3	1.5%	0	.0%	2	1.6%	10	.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
生涯STI罹患 クラミジア																	
罹患無	41	100.0%	275	93.9%	197	94.7%	47	88.7%	188	91.3%	168	92.8%	122	94.6%	1038	93.4%	.282
罹患有	0	.0%	18	6.1%	11	5.3%	6	11.3%	18	8.7%	13	7.2%	7	5.4%	73	6.6%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
生涯STI罹患 HIV 感染症																	
罹患無	40	97.6%	274	93.5%	200	96.2%	49	92.5%	200	97.1%	180	99.4%	123	95.3%	1066	95.9%	.044
罹患有	1	2.4%	19	6.5%	8	3.8%	4	7.5%	6	2.9%	1	.6%	6	4.7%	45	4.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	

表3-5 地域別 国内移動、海外移動および訪問先での性行動（2016年GCQ調査）

	地域ブロック（7地域）										Pearson カイ2乗						
	東北(N=41)	関東(N=293)	東海(N=208)	関西(N=53)	中四国(N=206)	九州(N=181)	沖縄(N=129)	合計(N=1111)									
旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい																	
そう思わない	15	36.6%	59	20.1%	45	21.6%	6	11.3%	44	21.4%	29	16.0%	36	27.9%	234	21.1%	.016
そう思う	26	63.4%	234	79.9%	163	78.4%	47	88.7%	162	78.6%	152	84.0%	93	72.1%	877	78.9%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい																	
そう思わない	19	46.3%	109	37.2%	72	34.6%	14	26.4%	69	33.5%	57	31.5%	45	34.9%	385	34.7%	.443
そう思う	22	53.7%	184	62.8%	136	65.4%	39	73.6%	137	66.5%	124	68.5%	84	65.1%	726	65.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと思う																	
そう思わない	40	97.6%	265	90.4%	173	83.2%	46	86.8%	187	90.8%	161	89.0%	113	87.6%	985	88.7%	.070
そう思う	1	2.4%	28	9.6%	35	16.8%	7	13.2%	19	9.2%	20	11.0%	16	12.4%	126	11.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい																	
そう思わない	31	75.6%	189	64.5%	126	60.6%	33	62.3%	144	69.9%	116	64.1%	86	66.7%	725	65.3%	.379
そう思う	10	24.4%	104	35.5%	82	39.4%	20	37.7%	62	30.1%	65	35.9%	43	33.3%	386	34.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅行に行く前や道中は、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい																	
そう思わない	14	34.1%	86	29.4%	78	37.5%	16	30.2%	82	39.8%	55	30.4%	52	40.3%	383	34.5%	.103
そう思う	27	65.9%	207	70.6%	130	62.5%	37	69.8%	124	60.2%	126	69.6%	77	59.7%	728	65.5%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅行に行く前や道中では、旅先に住んでいるゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す																	
そう思わない	24	58.5%	128	43.7%	91	43.8%	18	34.0%	99	48.1%	87	48.1%	61	47.3%	508	45.7%	.280
そう思う	17	41.5%	165	56.3%	117	56.3%	35	66.0%	107	51.9%	94	51.9%	68	52.7%	603	54.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う																	
そう思わない	34	82.9%	244	83.3%	138	66.3%	43	81.1%	165	80.1%	134	74.0%	106	82.2%	864	77.8%	.000
そう思う	7	17.1%	49	16.7%	70	33.7%	10	18.9%	41	19.9%	47	26.0%	23	17.8%	247	22.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる																	
そう思わない	22	53.7%	161	54.9%	95	45.7%	29	54.7%	101	49.0%	98	54.1%	71	55.0%	577	51.9%	.413
そう思う	19	46.3%	132	45.1%	113	54.3%	24	45.3%	105	51.0%	83	45.9%	58	45.0%	534	48.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる																	
そう思わない	22	53.7%	153	52.2%	87	41.8%	23	43.4%	90	43.7%	90	49.7%	61	47.3%	526	47.3%	.250
そう思う	19	46.3%	140	47.8%	121	58.2%	30	56.6%	116	56.3%	91	50.3%	68	52.7%	585	52.7%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
居住地以外の場所の方が、HIV抗体検査を利用しやすい																	
そう思わない	23	56.1%	185	63.1%	117	56.3%	30	56.6%	106	51.5%	95	52.5%	71	55.0%	627	56.4%	.192
そう思う	18	43.9%	108	36.9%	91	43.8%	23	43.4%	100	48.5%	86	47.5%	58	45.0%	484	43.6%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ 仙台市																	
訪れていない	14	34.1%	266	90.8%	202	97.1%	51	96.2%	205	99.5%	177	97.8%	126	97.7%	1041	93.7%	.000
訪れた	27	65.9%	27	9.2%	6	2.9%	2	3.8%	1	.5%	4	2.2%	3	2.3%	70	6.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ 東京都																	
訪れていない	16	39.0%	132	45.1%	124	59.6%	33	62.3%	144	69.9%	127	70.2%	99	76.7%	675	60.8%	.000
訪れた	25	61.0%	161	54.9%	84	40.4%	20	37.7%	62	30.1%	54	29.8%	30	23.3%	436	39.2%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ 名古屋																	
訪れていない	39	95.1%	253	86.3%	79	38.0%	34	64.2%	177	85.9%	161	89.0%	123	95.3%	866	77.9%	.000
訪れた	2	4.9%	40	13.7%	129	62.0%	19	35.8%	29	14.1%	20	11.0%	6	4.7%	245	22.1%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ 大阪市																	
訪れていない	32	78.0%	222	75.8%	132	63.5%	19	35.8%	111	53.9%	146	80.7%	100	77.5%	762	68.6%	.000
訪れた	9	22.0%	71	24.2%	76	36.5%	34	64.2%	95	46.1%	35	19.3%	29	22.5%	349	31.4%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ 岡山市																	
訪れていない	40	97.6%	283	96.6%	202	97.1%	48	90.6%	140	68.0%	176	97.2%	128	99.2%	1017	91.5%	.000
訪れた	1	2.4%	10	3.4%	6	2.9%	5	9.4%	66	32.0%	5	2.8%	1	.8%	94	8.5%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベント目的で以下の都市を訪れたことがありますか？ 福岡市																	
訪れていない	38	92.7%	256	87.4%	192	92.3%	41	77.4%	162	78.6%	71	39.2%	114	88.4%	874	78.7%	.000
訪れた	3	7.3%	37	12.6%	16	7.7%	12	22.6%	44	21.4%	110	60.8%	15	11.6%	237	21.3%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6カ月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベント目的で以下の都市を訪れたことがありますか？ 沖縄県																	
訪れていない	38	92.7%	238	81.2%	200	96.2%	41	77.4%	193	93.7%	156	86.2%	92	71.3%	958	86.2%	.000
訪れた	3	7.3%	55	18.8%	8	3.8%	12	22.6%	13	6.3%	25	13.8%	37	28.7%	153	13.8%	
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	

表3-6 地域別 国内移動と訪問先での施設等利用、性行動（2016年調査）

	地域ブロック〈7地域〉													Pearson カイ 2 乗			
	東北(N=41)	関東(N=293)	東海(N=208)	関西(N=53)	中四国(N=206)	九州(N=181)	沖縄(N=129)	合計(N=1111)									
過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？	ゲイバー													.000			
利用なし	15	36.6%	96	32.8%	87	41.8%	20	37.7%	93	45.1%	41	22.7%	55		42.6%	407	36.6%
利用した	26	63.4%	197	67.2%	121	58.2%	33	62.3%	113	54.9%	140	77.3%	74		57.4%	704	63.4%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？	ゲイナイト													.005			
利用なし	36	87.8%	219	74.7%	149	71.6%	37	69.8%	171	83.0%	128	70.7%	107		82.9%	847	76.2%
利用した	5	12.2%	74	25.3%	59	28.4%	16	30.2%	35	17.0%	53	29.3%	22		17.1%	264	23.8%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？	スマートフォンのゲイ向けアプリ（Grindrや Jack 'dなど）													.076			
利用なし	22	53.7%	170	58.0%	141	67.8%	29	54.7%	131	63.6%	105	58.0%	89		69.0%	687	61.8%
利用した	19	46.3%	123	42.0%	67	32.2%	24	45.3%	75	36.4%	76	42.0%	40		31.0%	424	38.2%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？	有料のハッテン場													.000			
利用なし	30	73.2%	225	76.8%	146	70.2%	35	66.0%	174	84.5%	146	80.7%	114		88.4%	870	78.3%
利用した	11	26.8%	68	23.2%	62	29.8%	18	34.0%	32	15.5%	35	19.3%	15		11.6%	241	21.7%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？	野外のハッテン場													.091			
利用なし	37	90.2%	284	96.9%	197	94.7%	53	100.0%	199	96.6%	178	98.3%	125		96.9%	1073	96.6%
利用した	4	9.8%	9	3.1%	11	5.3%	0	.0%	7	3.4%	3	1.7%	4		3.1%	38	3.4%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをしましたか？														.177			
はい	12	29.3%	92	31.4%	80	38.5%	26	49.1%	66	32.0%	63	34.8%	42		32.6%	381	34.3%
いいえ	29	70.7%	201	68.6%	128	61.5%	27	50.9%	140	68.0%	118	65.2%	87		67.4%	730	65.7%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手	彼氏恋人													.270			
なし	40	97.6%	269	91.8%	184	88.5%	46	86.8%	193	93.7%	162	89.5%	116		89.9%	1010	90.9%
あり	1	2.4%	24	8.2%	24	11.5%	7	13.2%	13	6.3%	19	10.5%	13		10.1%	101	9.1%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手	友達セフレ													.737			
なし	33	80.5%	253	86.3%	181	87.0%	47	88.7%	170	82.5%	156	86.2%	112		86.8%	952	85.7%
あり	8	19.5%	40	13.7%	27	13.0%	6	11.3%	36	17.5%	25	13.8%	17		13.2%	159	14.3%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手	リアル初めて													.448			
なし	40	97.6%	273	93.2%	198	95.2%	51	96.2%	198	96.1%	170	93.9%	126		97.7%	1056	95.0%
あり	1	2.4%	20	6.8%	10	4.8%	2	3.8%	8	3.9%	11	6.1%	3		2.3%	55	5.0%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手	その場限り													.460			
なし	34	82.9%	254	86.7%	181	87.0%	41	77.4%	183	88.8%	159	87.8%	113		87.6%	965	86.9%
あり	7	17.1%	39	13.3%	27	13.0%	12	22.6%	23	11.2%	22	12.2%	16		12.4%	146	13.1%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
過去6か月に最後に訪れた場所でアナルセックスをした相手	その他													.824			
なし	41	100.0%	291	99.3%	206	99.0%	52	98.1%	205	99.5%	180	99.4%	129		100.0%	1104	99.4%
あり	0	.0%	2	.7%	2	1.0%	1	1.9%	1	.5%	1	.6%	0		.0%	7	.6%
合計	41	100.0%	293	100.0%	208	100.0%	53	100.0%	206	100.0%	181	100.0%	129	100.0%	1111	100.0%	
そのときのアナルセックスでコンドームを使いましたか？														.582			
使った	9	75.0%	68	73.9%	53	66.3%	18	69.2%	45	68.2%	42	66.7%	25		59.5%	260	68.2%
使わなかった	3	25.0%	17	18.5%	21	26.3%	7	26.9%	19	28.8%	13	20.6%	14		33.3%	94	24.7%
覚えていない	0	.0%	7	7.6%	6	7.5%	1	3.8%	2	3.0%	8	12.7%	3		7.1%	27	7.1%
合計	12	100.0%	92	100.0%	80	100.0%	26	100.0%	66	100.0%	63	100.0%	42	100.0%	381	100.0%	

MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較 (2) -Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価-

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）

金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、柴田恵、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人 akta）、市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

研究要旨

本研究は、Community-Based Organization (CBO) が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することにより、適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することで、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的としている。《調査 1》新宿二丁目内のゲイ向け飲食施設にポスターおよび調査サイトへのリンク QR コードを記したカードを配布しゲイ・バイセクシュアル男性を対象に調査参加者を募集した。CBO 活動に対する共感や受け入れが高いほど生涯検査受検経験および過去 1 年以内の検査受検経験が高かった。過去 6 か月間に友達や知り合いとあるいは彼氏や恋人と HIV/AIDS について話したことがあると答えた人はそれ以外の人に比べて検査受検経験が高かった。《調査 2》新宿二丁目地区で開催されている街のイベントにおいて調査サイトへのリンクを記したカードを配布して、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象にインターネット質問票調査を行った。有効回答データ 190 件を分析対象とした。akta の活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿 2 丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で 3 年以内の HIV 検査受検と関連していた。CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちに共感される HIV/AIDS 予防啓発活動を行うことによって、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動を促進していく必要がある。

A. 研究目的

これまでのプログラム評価研究から、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV/AIDS の予防啓発を担う Community-Based Organization (CBO) は新宿二丁目という地域を起点として啓発活動を行うにあたり、大きく 2 つのプロセスを重要視して予防啓発活動を実施していることが明らかになっている。

一つ目のプロセスは、新宿二丁目の文化や価値観、文脈を尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員(仲間)

としての存在感を示し、コミュニティからの信頼と共感を得るプロセスである。

次のプロセスは、信頼のおける身近な仲間が、自分たちの街を盛り上げながら行っている HIV 予防啓発活動として受け入れてもらうことによって、CBO が出すメッセージは自分たちに対するメッセージだと感じてもらうことである。これら 2 つのプロセスがバランス良く達成されることによって、対象者に対して高い訴求力を持つ HIV の予防啓発メッセージを伝えることが可能になる。

本研究では、CBO が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動のプログラムプロセス評価を行うことによって、予防啓発介入プログラムとしての適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することで、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的としている。

B. 研究方法

《調査1》

【調査の実施】東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク QR コードを記したカードを配布し参加を呼びかけた。CBO がアウトリーチを行っている店舗だけではなく、これまでに CBO と関係性のなかった新規店舗に対して調査強力の依頼とリクルートを行った。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、回答した。質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。

【調査期間】平成 27 年 2 月、3 月、7 月および 10 月。2、3、7 月は新宿二丁目内の BAR へリクルート用カードを配布して調査参加者を募った。10 月はコミュニティセンターakta に来場した人に対してリクルート用カードを配布した。

【質問項目】年齢、新宿二丁目を訪れる頻度、HIV 感染予防行動、国内旅行と旅行先での性行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感 (5 項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚 (4 項目) に関して、選択形式で尋ねた。

コミュニティ感覚は Sense of Community index (McMillan & Chavis, 1986) の日本語版 (笹尾ら, 2003) の構成概念を参考に作成した。新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる (メンバーシップ)、新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる (メンバーシップ)、新宿二丁目ではしか得られないものがある (統合とニーズの充足)、新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたい (情緒的結合の共有) の 4 項目について、そう思うからそう思わないまでの 4 件法でたずねた。

【分析方法】質問項目ごとに記述集計を行わない、HIV 予防行動との関連を検討した。

《調査2》

【調査の実施】新宿二丁目の商業施設等を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク QR コードを記したカードを「東京レインボー祭り」会場にて配布した。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、調査に参加した。質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。謝礼はコミュニティセンターakta にて回答終了画面を確認の上、「東京レインボー祭り」開催期間中の 15 時から 18 時の間に 1,000 円分の QUO カードを謝礼として手渡した。

【調査期間】平成 28 年 8 月に開催された「東京レインボー祭り」のおおよそ 3 日前からポスター等を配布しイベント終了時刻の 18 時までの謝礼引き渡しとした。

【質問項目】年齢、居住地、利用施設、コミュニティセンターの認知、コミュニティペーパー等の認知、キャンペーンの認知、HIV 感染予防行動、CBO による HIV 予防啓発プロ

グラムの認知とコンセプトへの共感(5項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚(4項目)コミュニティ感覚について、それぞれ調査1と同様の質問を用いた。

【分析方法】質問項目ごとに記述集計を行った。年齢階級、生涯のHIV検査受検経験、過去1年以内のHIV検査受検経験、性感染症の罹患経験、一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用行動とのクロス集計を行って、関連を検討した。

【倫理的配慮】本研究に於ける調査1および2は侵襲を伴わない連結不可能匿名化のデータを収集する疫学調査である。本研究調査1および調査2の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号14025-3)。

C. 研究結果

《調査1》

【調査参加者の属性】昨年度の有効回答は148件に加えて、7月のBAR調査85件、来場者調査95件の4か所のリクルートサイトの合計328件を分析対象とした(表1)。いずれのリクルートサイトの参加者も東京および関東の居住者が多数を占めていた。年齢は昨年度(H27年3月)の調査では30歳以下が多いのに対して、H27年度(7月)調査は広く分布した。3月調査と7月調査の介入店舗群の合計(n=201)における年齢の平均値は31.1歳(SD8.5歳)、未介入店舗利用群(n=32)は26.0歳(SD5.6歳)、コミュニティセンター来場者調査群では33.4歳(SD7.4歳)であった。新宿二丁目への来所頻度が週1回以上である人の割合は、BAR調査介入店舗群でおおよそ60%であるのに対して未介入店舗群で47%、コミュニティセンター来場者群では40%であった。

【過去6ヵ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況】バーを起点としたリクルートであったため、バー利用が最多である。スマー

トフォンで利用するゲイ向けアプリを約7割が利用していたのに対して、従来型のパソコンからアクセスするタイプの出会い系サイトやSNSの利用割合はおおむね3割以下であった(表2)。

【HIV/AIDS 予防行動】生涯HIV検査受検経験は全体で77%であり、これまでの類似の調査と同等の結果であった(表3)。未介入店舗群が66%と比較的少ないのは年齢が若いことによるものと思われる。過去1年間のHIV検査受検経験は全体で58%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった(金子典代、他:MSMおよびゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(1)の報告参照)。一番最近のセックスでのコンドーム使用意図は52%から71%とサンプリングサイトによりばらつきがあるが半数以上の人々がコンドーム使用の意図を持っており、ほぼ同じ割合の人がコンドームを使用していた。

【CBO活動の受け入れ】「そう思う」と「ややそう思う」の回答を合計すると、「aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる」(61.3%)、「aktaのメッセージは自分へのメッセージだと感じる」(57.6%)、「aktaのメッセージはHIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる」(62.6%)、「新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしている」(66.8%)、「aktaの活動に共感する」(68.6%)と6割程度の人々が、aktaの活動コンセプトに共感的な認知を持っており、コミュニティセンターaktaの活動とそのやり方を、共感を持って受け入れていた(表4)。

【新宿二丁目に対するコミュニティ感覚】新宿二丁目というコミュニティに関する認知を4項目たずねた。「そう思う」と「ややそう思う」を各質問の該当者として合計した割合を集計した。「新宿二丁目にいると安心感のようなものを感じる(67.4%)」、「新宿二丁目に誇りや愛着のようなものを感じる(59.5%)」、

「新宿二丁目でしか得られないものがあると思う(80.5%)」、「新宿二丁目のために何かできることがあれば参加したい(64.9%)」のようにいずれの項目も6割を超える人が新宿二丁目というコミュニティとの結びつきに関する認知を持っており、コミュニティを基盤とした介入の有効性の前提となる「コミュニティ感覚」と呼べるものが存在することが確認された。また、「HIVや性感染症の予防活動に、何らかの形で参加や協力をしたいと思う(61.3%)」、「新宿二丁目にHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う(86.0%)」と、新宿二丁目というコミュニティにおいてHIVに関する予防の必要性を認知しており、それに貢献したいという思いを持っていた。一方で、新宿二丁目にはタブー感(ためらい)がある(34.8%)と、3割を超える人がHIV/AIDSについて話することにタブー感を持っていたタブー感を持っていた。

【コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、検査受検行動との関連】(表5) CBO活動への共感に関する項目では、CBO活動の共感や受け入れが高いほど生涯検査受検経験および過去1年以内の検査受検経験ともに高いという有意な関連がみられた。これに対してコミュニティ感覚の項目ではほとんど関連が見られなかった。また、過去6か月間に友達や知り合いと、あるいは彼氏や恋人とHIV/AIDSについて話したことがあると答えた人はそれ以外の人に比べて検査受検経験が高かった。さらに、「友達や知り合いに感染している人はいると思うか」に対して、いると思うまたはいると答えた人では生涯受検経験、過去1年の受検経験ともに高かった。

【コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、コンドーム使用との関連】(表6) 検査受検行動と比べて、知人や恋人とのHIV/AIDSについての会話経験は、最近のコンドーム使用行動及び使用意図には影響が見られなかった。HIV/AIDSの話をするにタブー感(ためらい)があるにそう思うと答え

た人ではコンドーム使用意図および使用割合が高かった。

【29歳以下と30歳以上の比較】(表7, 8) 新宿二丁目への来所頻度に有意差はなかった。ゲイショップ、エロ系SNS、スマートフォンのゲイ向けアプリの利用割合は29歳以下において有意に高く、性的なアクティブ度合いと関連して利用するツールが多いことが考えられる。HIV検査受検場所として保健所で受検したことがある人の割合が、若い人において有意に多かった(表7)。webサイトの充実や検索などからの誘導により、選択肢として一番初めに選択される検査サイトは保健所であることが考えられる。CBO活動への共感、愛着や心理的安全性などのコミュニティ感覚、話をするにタブー感、HIV/AIDS予防啓発活動の必要性の認知については、有意な年齢差は観察されなかった。

《調査2》

【調査参加者の属性】調査サイトへのアクセス数は248であったが有効回答データ190件を分析対象とした。

東京および近県の居住者が92%と多数を占めていた。年齢は24歳以下16.3%、25-29歳25.2%、30-39歳30.0%、40歳以上28.4%であった(表9)。

【過去6か月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況】コミュニティの街頭イベントでリクルートを行ったこともあり、バーの利用者が81.6%と最多であった。近年調査や啓発等で活用されることの多いスマートフォンのゲイ向けアプリは61.1%の人が使用しており、年齢階級による利用状況の傾向はみられなかった。有料のハッテン場の利用は40.5%であり、年齢との関係は見られなかった(表9)。

【CBOによる予防活動の認知】コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っている14.7%であった。資料の認

知割合はヤローページ 50.1%、akta monthly paper が 55.3%と約半数の人が今後も見かけたら読むとの好意的な認知をしている。(表 10)

【CBO による予防啓発活動に対する共感、年齢階級別】特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる、自分へのメッセージだと感じる、活動に共感する、の3項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている(表 11)。

【コミュニティ感覚、年齢階級別】「二丁目ではしか得られないものがあると思う」は24歳以下の層で比較的高く、年齢が上がると低下している。HIV について話すことにタブー感(ためらい)を感じるは24歳以下で48.4%と高く、その他の世代では約3割ほどであった。(表 12)

【HIV 検査の受検経験、年齢階級別】HIV 検査の生涯受検割合は若年層で低い傾向にある。若年層では一番最近に検査を受けた時期が1年以内である人が6割であるのに対して、年齢が高くなるにつれ、その割合が下がってくる。

【性感染症の既往】性感染症では毛じらみが25.8%と最も多いが、梅毒12.6%、B型肝炎11.6%といった感染症の罹患者も多い(表 13)。

【検査受検とコミュニティ活動の指標】コミュニティ活動への共感に関する5項目は「雰囲気や溶け込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯のHIV検査受検経験があることと関連しており、検査受検群ではCBOによる予防啓発活動への共感が高い人の割合が高かった。コミュニティ感覚の項目と生涯の検査受検には関連が見られなかった。aktaの活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿2丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で3年以内のHIV検査受検と関連していた。(表 14)

【コンドーム使用行動とコミュニティ活動

の指標】一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の60.5%でありCBO活動への共感とは有意な関連が見られなかったが、HIV や性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。(表 15)

D. 考察

《調査1》

HIV 陽性の人が身近にいると思っっている身近感検査受検行動を上げるが、コンドーム使用行動や意図には影響が見られなかった。また、HIV/AIDSについて話をすることタブー感(ためらい)を感じている人は、コンドーム使用行動と関連するが、検査受検行動には影響が見られなかった。検査受検行動の促進とコンドーム使用行動の促進は異なる要因の影響を受けている。HIV/AIDS 予防行動とひとまとめにはできないことから、検査受検のための予防啓発と、コンドーム使用などのSafer Sexによる予防啓発のそれぞれについて、明確な啓発メッセージを発信していく必要があるものと考えられる。

《調査2》

コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っっている14.7%であったのに対して、名前を知っているが行ってみようと思わないあるいは名前は聞いたこと程度で何かよく知らないが合わせて18.4%であった。知っているか否かを問う単純な認知割合では、CBOが運営するコミュニティセンターとしての認知のされ方に乖離があることがわかる。コミュニティペーパーにおいても同様で、ヤローページを知っている人は74.2%であるが、うち24.7%は読んだことはあるが今後読もうとは思わないまたは見かけたことはあるが読んだことがないであった。akta monthly paperも75.8%が見たことがあるが、20.6%が読んだことはあるが今後読もうとは

思わないまたは見かけたことはあるが読んでいない人であった。介入名称の認知の有無だけでコミュニティにおける予防啓発活動の評価指標とすることは大きな誤差を生じることが考えられる。また、啓発に曝露されている集団の中にもそのメッセージや手法がフィットする人とそうではない人がいることが明らかになった。コミュニティの予防啓発では一つのやり方だけではなく、フォーマティブリサーチを行いつつ、様々な対象層へ向けた情報コミュニケーションが重要であることが示唆される。

生涯のHIV検査受検経験は全体で74.7%であり、これまでの類似の調査と同等の結果であった。過去1年間のHIV検査受検経験は全体で57%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった。

CBOによる予防啓発活動に対する共感の3項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている。若年層に対する共感や信頼を獲得するとともに、若年層に向けたコミュニケーション手段の検討が必要であることが示唆される。ただし、若年層は相対的にCBO介入への曝露期間が短いことによる影響も考えられる。この場合は継続的にコミュニティに来てもらうためのアプローチ方法を検討することが必要になる。

生涯のHIV検査受検経験は全体で74.7%であった。生涯経験なので年齢が若いと低い傾向にあるが、それでも54.8%は受検経験のある対象であった。ただし、近年は年間数回の定期的な検査が推奨されているため、過去の検査履歴だけではなく、最近の性行為等で感染の可能性がある人に対して、検査ができる機会を紹介していくことも重要となる。

コミュニティ活動に対する共感は予防行動、特に検査受検行動に関連していたが、コミュニティ感覚は予防行動にあまり関連が見られなかった。今後はこの理由に関する検証と評価指標の再検討および活動プロセスの見直しが必要になると考える。

E. 結語

CBOが実施しているHIV/AIDS予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによりCBOへの共感や、コミュニティ感覚といったプログラム評価指標を策定し、プロセス評価を行った。CBOがコミュニティに根差して訴求力の高いHIV/AIDS予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちがCBOに対して共感を持っていることが重要であることが確認された。すなわち、CBOをコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持ち、発信されるメッセージは自分に向けたメッセージだと感じていることが、検査受検行動に関連していた。コミュニティセンターの効果評価の間接的なプロセス評価指標として対象者が持っているコミュニティ感覚や活動への共感を測定することが有用であった。

F. 発表論文等

論文発表

- 1) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016

学会発表 (国内)

- 1) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一. コミュニティセンターを起点とするアウトリーチ活動の効果評価—アウトリーチ介入実施店舗と未実施店舗の比較—. 日本エイズ学会, 2015年, 東京.
- 2) 本間隆之, 岩橋恒太, 木南拓也, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一. コミュニティを基盤とした組織 (CBO) の受け入れとコミュニティ感覚—コミュニティ

センターakta を起点とするアウトリーチ
の評価―. 日本エイズ学会、2015 年、東京.

引用文献

笹尾敏明, 小山梓, 池田満. 次世代型ファカルティ・ディベロップメント (FD)・プログラムに向けて: コミュニティ心理学的視座からの検討 国際基督教大学学報 1-A, 教育研究, 45:55-71, 2003.

表1.調査参加者属性、リクルートサイト別

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95	
	n	%	n	%	n	%	n	%
	居住地							
北海道東北	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
東京	81	(69.8%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	65	(68.4%)
関東甲信越 (東京を除く)	31	(26.7%)	11	(34.4%)	19	(22.4%)	21	(22.1%)
北陸	0	(0.0%)	1	(3.1%)	0	(0.0%)	2	(2.1%)
東海	2	(1.7%)	1	(3.1%)	1	(1.2%)	2	(2.1%)
近畿	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	5	(5.3%)
中四国	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
九州	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
年齢(5歳階級)								
24歳以下	42	(36.2%)	16	(50.0%)	12	(14.1%)	7	(7.4%)
25-29歳	30	(25.9%)	8	(25.0%)	17	(20.0%)	28	(29.5%)
30-34歳	22	(19.0%)	4	(12.5%)	20	(23.5%)	23	(24.2%)
35-39歳	7	(6.0%)	3	(9.4%)	13	(15.3%)	14	(14.7%)
40歳以上	15	(12.9%)	1	(3.1%)	23	(27.1%)	23	(24.2%)
最近3か月間の新宿二丁目来所頻度								
月1回以下	28	(24.1%)	11	(34.4%)	18	(21.2%)	34	(35.8%)
2, 3週に1回程度	18	(15.5%)	6	(18.8%)	15	(17.6%)	23	(24.2%)
週に1回程度	38	(32.8%)	8	(25.0%)	23	(27.1%)	24	(25.3%)
週に2回以上	32	(27.6%)	7	(21.9%)	29	(34.1%)	14	(14.7%)

表2.過去6ヶ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況、リクルートサイト別

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95	
	n	%	n	%	n	%	n	%
	過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	106	(91.4%)	23	(71.9%)	76	(89.4%)	72	(75.8%)
クラブ(男性限定)	49	(42.2%)	8	(25.0%)	30	(35.3%)	40	(42.1%)
ゲイショップ	50	(43.1%)	10	(31.3%)	31	(36.5%)	41	(43.2%)
出会い系サイト	31	(26.7%)	6	(18.8%)	22	(25.9%)	26	(27.4%)
エロ系SNS(HuGsや 男子寮など)	18	(15.5%)	6	(18.8%)	6	(7.1%)	6	(6.3%)
ゲイ向けアプリ (Grindr, Jackd, 9mon)	82	(70.7%)	24	(75.0%)	57	(67.1%)	66	(69.5%)
FacebookやTwitter 等のSNS	75	(64.7%)	17	(53.1%)	40	(47.1%)	60	(63.2%)
ゲイ向けサークル	15	(12.9%)	1	(3.1%)	9	(10.6%)	20	(21.1%)
ゲイ向け合コン	12	(10.3%)	2	(6.3%)	4	(4.7%)	8	(8.4%)
ゲイの乱パ	9	(7.8%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	2	(2.1%)
有料のハッテン場	38	(32.8%)	8	(25.0%)	18	(21.2%)	35	(36.8%)
ゲイが集まる銭湯や 施設	25	(21.6%)	7	(21.9%)	19	(22.4%)	25	(26.3%)
野外のハッテン場	13	(11.2%)	0	(0.0%)	6	(7.1%)	11	(11.6%)

表3.HIV/AIDS予防行動、リクルートサイト別

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセン ター来場者(10 月調査) n=95		合計 n=328	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
生涯検査受検経験										
なし	25	(21.6%)	11	(34.4%)	20	(23.5%)	18	(18.9%)	74	(22.6%)
あり	91	(78.4%)	21	(65.6%)	65	(76.5%)	77	(81.1%)	254	(77.4%)
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)										
なし	45	(40.9%)	14	(48.3%)	28	(35.0%)	40	(47.6%)	127	(41.9%)
あり	65	(59.1%)	15	(51.7%)	52	(65.0%)	44	(52.4%)	176	(58.1%)
一番最近のセックスでのコンドーム使用										
不使用/覚えていない	43	(38.4%)	14	(45.2%)	17	(22.1%)	27	(30.0%)	101	(32.6%)
使った	69	(61.6%)	17	(54.8%)	60	(77.9%)	63	(70.0%)	209	(67.4%)
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図										
それ以外	46	(41.1%)	15	(48.4%)	22	(28.6%)	29	(32.2%)	112	(36.1%)
使いたいと思っていた	66	(58.9%)	16	(51.6%)	55	(71.4%)	61	(67.8%)	198	(63.9%)

表4.CBO活動への共感とコミュニティ感覚、リクルートサイト別

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95		合計 n=328	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
	[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。									
それ以外	51	(44.0%)	17	(53.1%)	23	(27.1%)	36	(37.9%)	127	(38.7%)
そう思う	65	(56.0%)	15	(46.9%)	62	(72.9%)	59	(62.1%)	201	(61.3%)
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	58	(50.0%)	19	(59.4%)	30	(35.3%)	32	(33.7%)	139	(42.4%)
そう思う	58	(50.0%)	13	(40.6%)	55	(64.7%)	63	(66.3%)	189	(57.6%)
[共感3]aktaの活動に共感する。										
それ以外	42	(36.2%)	16	(50.0%)	24	(28.2%)	21	(22.1%)	103	(31.4%)
そう思う	74	(63.8%)	16	(50.0%)	61	(71.8%)	74	(77.9%)	225	(68.6%)
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	51	(44.0%)	18	(56.3%)	29	(34.1%)	26	(27.4%)	124	(37.8%)
そう思う	65	(56.0%)	14	(43.8%)	56	(65.9%)	69	(72.6%)	204	(62.2%)
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	40	(34.5%)	19	(59.4%)	23	(27.1%)	27	(28.4%)	109	(33.2%)
そう思う	76	(65.5%)	13	(40.6%)	62	(72.9%)	68	(71.6%)	219	(66.8%)
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	32	(27.6%)	15	(46.9%)	24	(28.2%)	36	(37.9%)	107	(32.6%)
そう思う	84	(72.4%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	59	(62.1%)	221	(67.4%)
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	39	(33.6%)	18	(56.3%)	30	(35.3%)	46	(48.4%)	133	(40.5%)
そう思う	77	(66.4%)	14	(43.8%)	55	(64.7%)	49	(51.6%)	195	(59.5%)
[コミュニティ感覚3]新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	16	(13.8%)	15	(46.9%)	13	(15.3%)	20	(21.1%)	64	(19.5%)
そう思う	100	(86.2%)	17	(53.1%)	72	(84.7%)	75	(78.9%)	264	(80.5%)
[コミュニティ感覚4]新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	39	(33.6%)	15	(46.9%)	27	(31.8%)	34	(35.8%)	115	(35.1%)
そう思う	77	(66.4%)	17	(53.1%)	58	(68.2%)	61	(64.2%)	213	(64.9%)
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	49	(42.2%)	17	(53.1%)	31	(36.5%)	30	(31.6%)	127	(38.7%)
そう思う	67	(57.8%)	15	(46.9%)	54	(63.5%)	65	(68.4%)	201	(61.3%)
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(66.4%)	19	(59.4%)	51	(60.0%)	67	(70.5%)	214	(65.2%)
そう思う	39	(33.6%)	13	(40.6%)	34	(40.0%)	28	(29.5%)	114	(34.8%)
新宿二丁目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	15	(12.9%)	6	(18.8%)	9	(10.6%)	16	(16.8%)	46	(14.0%)
そう思う	101	(87.1%)	26	(81.3%)	76	(89.4%)	79	(83.2%)	282	(86.0%)

表5.コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚、HIV検査受検経験別

	生涯検査受検経験				p値	過去1年以内の受検経験(陽性者除く)				p値
	なし		あり			なし		検査あり		
	(n= 74)		(n= 254)			(n= 127)		(n= 176)		
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	37	(50.0%)	69	(27.2%)	.000*	53	(41.7%)	47	(26.7%)	.006*
ある	37	(50.0%)	185	(72.8%)		74	(58.3%)	129	(73.3%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	57	(77.0%)	159	(62.6%)	.021*	92	(72.4%)	107	(60.8%)	.035*
ある	17	(23.0%)	95	(37.4%)		35	(27.6%)	69	(39.2%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	51	(68.9%)	90	(35.4%)	.000*	71	(55.9%)	63	(35.8%)	.001*
いる/いると思う	23	(31.1%)	164	(64.6%)		56	(44.1%)	113	(64.2%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	37	(50.0%)	90	(35.4%)	.000*	53	(41.7%)	58	(33.0%)	.001*
そう思う	37	(50.0%)	164	(64.6%)		74	(58.3%)	118	(67.0%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	41	(55.4%)	98	(38.6%)	.024*	58	(45.7%)	60	(34.1%)	.118
そう思う	33	(44.6%)	156	(61.4%)		69	(54.3%)	116	(65.9%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	33	(44.6%)	70	(27.6%)	.010*	43	(33.9%)	41	(23.3%)	.041*
そう思う	41	(55.4%)	184	(72.4%)		84	(66.1%)	135	(76.7%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	35	(47.3%)	89	(35.0%)	.005*	53	(41.7%)	52	(29.5%)	.043*
そう思う	39	(52.7%)	165	(65.0%)		74	(58.3%)	124	(70.5%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	32	(43.2%)	77	(30.3%)	.056	44	(34.6%)	46	(26.1%)	.028*
そう思う	42	(56.8%)	177	(69.7%)		83	(65.4%)	130	(73.9%)	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	23	(31.1%)	84	(33.1%)	.038*	34	(26.8%)	58	(33.0%)	.110
そう思う	51	(68.9%)	170	(66.9%)		93	(73.2%)	118	(67.0%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	28	(37.8%)	105	(41.3%)	.748	44	(34.6%)	76	(43.2%)	.248
そう思う	46	(62.2%)	149	(58.7%)		83	(65.4%)	100	(56.8%)	
新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	14	(18.9%)	50	(19.7%)	.589	18	(14.2%)	31	(17.6%)	.134
そう思う	60	(81.1%)	204	(80.3%)		109	(85.8%)	145	(82.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	25	(33.8%)	90	(35.4%)	.884	43	(33.9%)	55	(31.3%)	.422
そう思う	49	(66.2%)	164	(64.6%)		84	(66.1%)	121	(68.8%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	32	(43.2%)	95	(37.4%)	.794	52	(40.9%)	57	(32.4%)	.632
そう思う	42	(56.8%)	159	(62.6%)		75	(59.1%)	119	(67.6%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をすることに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	51	(68.9%)	163	(64.2%)	.364	88	(69.3%)	109	(61.9%)	.126
そう思う	23	(31.1%)	91	(35.8%)		39	(30.7%)	67	(38.1%)	
新宿二丁目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	12	(16.2%)	34	(13.4%)	.451	16	(12.6%)	17	(9.7%)	.185
そう思う	62	(83.8%)	220	(86.6%)		111	(87.4%)	159	(90.3%)	

表6.コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚、コンドーム使用意図および行動別

	一番最近のセックスでのコンドーム使用意図				p値	一番最近のセックスでのコンドーム使用				p値
	それ以外 (n= 112)		使いたいと思っていた (n= 198)			不使用/覚えてない (n= 101)		使った (n= 209)		
	n	%	n	%		n	%	n	%	
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	41	(36.6%)	55	(27.8%)	.106	33	(32.7%)	63	(30.1%)	.652
ある	71	(63.4%)	143	(72.2%)		68	(67.3%)	146	(69.9%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	69	(61.6%)	131	(66.2%)	.421	64	(63.4%)	136	(65.1%)	.769
ある	43	(38.4%)	67	(33.8%)		37	(36.6%)	73	(34.9%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	52	(46.4%)	75	(37.9%)	.141	45	(44.6%)	82	(39.2%)	.372
いる/いるよ	60	(53.6%)	123	(62.1%)		56	(55.4%)	127	(60.8%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	56	(50.0%)	63	(31.8%)	.002*	49	(48.5%)	70	(33.5%)	.023*
そう思う	56	(50.0%)	135	(68.2%)		52	(51.5%)	139	(66.5%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	62	(55.4%)	67	(33.8%)	.002*	52	(51.5%)	77	(36.8%)	.011*
そう思う	50	(44.6%)	131	(66.2%)		49	(48.5%)	132	(63.2%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	45	(40.2%)	50	(25.3%)	.000*	37	(36.6%)	58	(27.8%)	.014*
そう思う	67	(59.8%)	148	(74.7%)		64	(63.4%)	151	(72.2%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	57	(50.9%)	60	(30.3%)	.006*	50	(49.5%)	67	(32.1%)	.112
そう思う	55	(49.1%)	138	(69.7%)		51	(50.5%)	142	(67.9%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	49	(43.8%)	52	(26.3%)	.000*	40	(39.6%)	61	(29.2%)	.003*
そう思う	63	(56.3%)	146	(73.7%)		61	(60.4%)	148	(70.8%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	42	(37.5%)	62	(31.3%)	.002*	42	(41.6%)	62	(29.7%)	.067
そう思う	70	(62.5%)	136	(68.7%)		59	(58.4%)	147	(70.3%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	44	(39.3%)	81	(40.9%)	.268	46	(45.5%)	79	(37.8%)	.037*
そう思う	68	(60.7%)	117	(59.1%)		55	(54.5%)	130	(62.2%)	
新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	24	(21.4%)	37	(18.7%)	.780	27	(26.7%)	34	(16.3%)	.193
そう思う	88	(78.6%)	161	(81.3%)		74	(73.3%)	175	(83.7%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	46	(41.1%)	65	(32.8%)	.560	45	(44.6%)	66	(31.6%)	.030*
そう思う	66	(58.9%)	133	(67.2%)		56	(55.4%)	143	(68.4%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	54	(48.2%)	63	(31.8%)	.146	48	(47.5%)	69	(33.0%)	.026*
そう思う	58	(51.8%)	135	(68.2%)		53	(52.5%)	140	(67.0%)	
新宿二丁目では、HIVについて話することに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(68.8%)	124	(62.6%)	.004*	72	(71.3%)	129	(61.7%)	.014*
そう思う	35	(31.3%)	74	(37.4%)		29	(28.7%)	80	(38.3%)	
新宿二丁目HIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	18	(16.1%)	23	(11.6%)	.278	18	(17.8%)	23	(11.0%)	.098
そう思う	94	(83.9%)	175	(88.4%)		83	(82.2%)	186	(89.0%)	

表7.主な行動と予防行動、年齢(29歳以下と30歳以上)別

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p値
	n	%	n	%	度数	列のN%	
あなたはここ2,3か月の間にどの程度新宿二丁目を訪れましたか。							
月1回以下	46	(28.8%)	45	(26.8%)	91	(27.7%)	.774
2,3週間に1回程度	32	(20.0%)	30	(17.9%)	62	(18.9%)	
1週間に1回程度	46	(28.8%)	47	(28.0%)	93	(28.4%)	
1週間に2回以上	36	(22.5%)	46	(27.4%)	82	(25.0%)	
過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	138	(86.3%)	139	(82.7%)	277	(84.5%)	.380
クラブ(男性限定)	65	(40.6%)	62	(36.9%)	127	(38.7%)	.489
ゲイショップ	74	(46.3%)	58	(34.5%)	132	(40.2%)	.030*
出会い系サイト	41	(25.6%)	44	(26.2%)	85	(25.9%)	.907
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	25	(15.6%)	11	(6.5%)	36	(11.0%)	.009*
ゲイ向けアプリ(Grindr, Jackd, 9mon)	120	(75.0%)	109	(64.9%)	229	(69.8%)	.046*
FacebookやTwitter等のSNS	93	(58.1%)	99	(58.9%)	192	(58.5%)	.883
ゲイ向けサークル	18	(11.3%)	27	(16.1%)	45	(13.7%)	.205
ゲイ向け合コン	14	(8.8%)	12	(7.1%)	26	(7.9%)	.590
ゲイの乱パ	8	(5.0%)	6	(3.6%)	14	(4.3%)	.522
有料のハッテン場	51	(31.9%)	48	(28.6%)	99	(30.2%)	.515
ゲイが集まる銭湯や施設	43	(26.9%)	33	(19.6%)	76	(23.2%)	.121
野外のハッテン場	15	(9.4%)	15	(8.9%)	30	(9.1%)	.889
生涯検査受検経験							
なし	45	(28.1%)	29	(17.3%)	74	(22.6%)	.019*
あり	115	(71.9%)	139	(82.7%)	254	(77.4%)	
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)							
	n=153		n=150		n=303		
なし	60	(39.2%)	67	(44.7%)	127	(41.9%)	.336
あり	93	(60.8%)	83	(55.3%)	176	(58.1%)	
過去1年に受検した場所							
	n=93		n=83		n=176		
南新宿検査相談所	21	(22.3%)	17	(20.0%)	38	(21.2%)	.395
保健所	49	(52.1%)	35	(41.2%)	84	(46.9%)	.042*
臨時検査	13	(13.8%)	7	(8.2%)	20	(11.2%)	.134
病院や診療所	24	(25.5%)	38	(44.7%)	62	(34.6%)	.078
郵送検査	1	(1.1%)	0	(0.0%)	1	(0.6%)	
その他	3	(3.2%)	6	(7.1%)	9	(5.0%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用							
	n=148		n=162		n=310		
不使用/覚えていない	51	(34.5%)	50	(30.9%)	101	(32.6%)	.500
使った	97	(65.5%)	112	(69.1%)	209	(67.4%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図(アナルセックスありの人のみ)							
	n=148		n=162		n=310		
それ以外	55	(37.2%)	57	(35.2%)	112	(36.1%)	.717
使いたいと思っていた	93	(62.8%)	105	(64.8%)	198	(63.9%)	

表8.コミュニティ活動への共感及びコミュニティ感覚、年齢(29歳以下と30歳以上)別

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p値
	n	%	n	%	度数	列のN%	
[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。							
それ以外	63	(39.4%)	64	(38.1%)	127	(38.7%)	.812
そう思う	97	(60.6%)	104	(61.9%)	201	(61.3%)	
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。							
それ以外	74	(46.3%)	65	(38.7%)	139	(42.4%)	.166
そう思う	86	(53.8%)	103	(61.3%)	189	(57.6%)	
[共感3]aktaの活動に共感する。							
それ以外	53	(33.1%)	50	(29.8%)	103	(31.4%)	.512
そう思う	107	(66.9%)	118	(70.2%)	225	(68.6%)	
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。							
それ以外	64	(40.0%)	60	(35.7%)	124	(37.8%)	.424
そう思う	96	(60.0%)	108	(64.3%)	204	(62.2%)	
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。							
それ以外	53	(33.1%)	56	(33.3%)	109	(33.2%)	.968
そう思う	107	(66.9%)	112	(66.7%)	219	(66.8%)	
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいて、安心感のようなものを感じる。							
それ以外	54	(33.8%)	53	(31.5%)	107	(32.6%)	.671
そう思う	106	(66.3%)	115	(68.5%)	221	(67.4%)	
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。							
それ以外	66	(41.3%)	67	(39.9%)	133	(40.5%)	.801
そう思う	94	(58.8%)	101	(60.1%)	195	(59.5%)	
[コミュニティ感覚3]新宿二目でしか得られないものがあると思う。							
それ以外	32	(20.0%)	32	(19.0%)	64	(19.5%)	.828
そう思う	128	(80.0%)	136	(81.0%)	264	(80.5%)	
[コミュニティ感覚4]新宿二目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	60	(37.5%)	55	(32.7%)	115	(35.1%)	.366
そう思う	100	(62.5%)	113	(67.3%)	213	(64.9%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	62	(38.8%)	65	(38.7%)	127	(38.7%)	.991
そう思う	98	(61.3%)	103	(61.3%)	201	(61.3%)	
新宿二目では、HIVについて話をすることに、タブー感(ためらい)がある。							
それ以外	101	(63.1%)	113	(67.3%)	214	(65.2%)	.432
そう思う	59	(36.9%)	55	(32.7%)	114	(34.8%)	
新宿二目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。							
それ以外	24	(15.0%)	22	(13.1%)	46	(14.0%)	.619
そう思う	136	(85.0%)	146	(86.9%)	282	(86.0%)	

表 9. 居住地および利用施設等、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
首都圏在住										
それ以外	1	(3.2%)	4	(8.3%)	5	(8.8%)	5	(9.3%)	15	(7.9%)
東京千葉埼玉神奈川在住	30	(96.8%)	44	(91.7%)	52	(91.2%)	49	(90.7%)	175	(92.1%)
利用している施設など（過去6ヵ月）										
1 ゲイバー	28	(90.3%)	41	(85.4%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	155	(81.6%)
2 ゲイナイト	17	(54.8%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	12	(22.2%)	73	(38.4%)
3 ゲイショップ	12	(38.7%)	22	(45.8%)	23	(40.4%)	25	(46.3%)	82	(43.2%)
4 PC出会い系サイト	5	(16.1%)	8	(16.7%)	7	(12.3%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)
5 携帯出会い系サイト	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	18	(33.3%)	50	(26.3%)
6 mixi などの SNS	10	(32.3%)	11	(22.9%)	16	(28.1%)	20	(37.0%)	57	(30.0%)
7 エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	0	(0.0%)	5	(10.4%)	3	(5.3%)	6	(11.1%)	14	(7.4%)
8 ゲイ向けアプリ	21	(67.7%)	28	(58.3%)	38	(66.7%)	29	(53.7%)	116	(61.1%)
9 ゲイ向けサークル	9	(29.0%)	2	(4.2%)	13	(22.8%)	8	(14.8%)	32	(16.8%)
10 ゲイ向け合コン	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)
11 ゲイの乱バ	3	(9.7%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	10	(5.3%)
12 有料のハッテン場	14	(45.2%)	14	(29.2%)	29	(50.9%)	20	(37.0%)	77	(40.5%)
13 野外のハッテン場	5	(16.1%)	1	(2.1%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	13	(6.8%)
14 ハッテン場で有名な銭湯・プール等	9	(29.0%)	13	(27.1%)	15	(26.3%)	13	(24.1%)	50	(26.3%)
15 いずれもない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)
過去6ヵ月間に恋人・彼氏、友達とHIVやエイズについて話したことがありますか？										
ある	20	(64.5%)	26	(54.2%)	36	(63.2%)	35	(64.8%)	117	(61.6%)
ない	11	(35.5%)	22	(45.8%)	21	(36.8%)	19	(35.2%)	73	(38.4%)
過去6ヵ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？										
いつも持っていた	9	(29.0%)	14	(29.2%)	14	(24.6%)	18	(33.3%)	55	(28.9%)
時々持っていた	12	(38.7%)	16	(33.3%)	17	(29.8%)	19	(35.2%)	64	(33.7%)
持っていなかった	10	(32.3%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	17	(31.5%)	71	(37.4%)

表 10. CBO による予防啓発活動の認知、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
新宿2丁目にある「コミュニティセンターakta」という場所を、知っていますか？										
知っている/行ったことがある	16	(51.6%)	25	(52.1%)	36	(63.2%)	27	(50.0%)	104	(54.7%)
知っていて行ってみたい/行ったことはない	4	(12.9%)	8	(16.7%)	3	(5.3%)	13	(24.1%)	28	(14.7%)
知っているが行ってみようとは思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
名前は聞いたことがある程度で何か良く知らない	3	(9.7%)	9	(18.8%)	8	(14.0%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)
名前も聞いたことがない	7	(22.6%)	5	(10.4%)	8	(14.0%)	3	(5.6%)	23	(12.1%)
aktaが作っているヤローページを読んだことがありますか？										
読んだことがあり今後も読みたい	7	(22.6%)	12	(25.0%)	15	(26.3%)	18	(33.3%)	52	(27.4%)
読んだことがあり見かけたら読む	3	(9.7%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	12	(22.2%)	42	(22.1%)
読んだことはあるが今後読もうとは思わない	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
見かけたことはあるが読んだことはない	11	(35.5%)	10	(20.8%)	11	(19.3%)	11	(20.4%)	43	(22.6%)
知らない	9	(29.0%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	13	(24.1%)	49	(25.8%)
aktaが発行しているakta monthly paperを読んだことがありますか？										
読んだことがあり今後も読みたい	11	(35.5%)	14	(29.2%)	19	(33.3%)	24	(44.4%)	68	(35.8%)
読んだことがあり見かけたら読む	1	(3.2%)	11	(22.9%)	15	(26.3%)	10	(18.5%)	37	(19.5%)
読んだことはあるが今後読もうとは思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	6	(3.2%)
見かけたことはあるが読んだことはない	5	(16.1%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	12	(22.2%)	33	(17.4%)
知らない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	12	(21.1%)	7	(13.0%)	46	(24.2%)
新宿二丁目でコンドームなどを配布しているデリバリーボーイズを見かけたことがありますか？										
参加したことがある	5	(16.1%)	7	(14.6%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	24	(12.6%)
見かけたことがある	15	(48.4%)	21	(43.8%)	26	(45.6%)	34	(63.0%)	96	(50.5%)
見たことがない	3	(9.7%)	9	(18.8%)	11	(19.3%)	10	(18.5%)	33	(17.4%)
知らない	8	(25.8%)	11	(22.9%)	12	(21.1%)	6	(11.1%)	37	(19.5%)
aktaが運営している下のWEBサイトをみたことがありますか？										
見たことがある	12	(38.7%)	22	(45.8%)	22	(38.6%)	29	(53.7%)	85	(44.7%)
見たことがない	19	(61.3%)	26	(54.2%)	35	(61.4%)	25	(46.3%)	105	(55.3%)

表 11. CBO による予防啓発活動に対する共感、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
そう思う	10	(32.3%)	16	(33.3%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	71	(37.4%)
ややそう思う	8	(25.8%)	9	(18.8%)	14	(24.6%)	15	(27.8%)	46	(24.2%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	7	(14.6%)	7	(12.3%)	5	(9.3%)	24	(12.6%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	14	(7.4%)
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	8	(4.2%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	10	(20.8%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	27	(14.2%)
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。										
そう思う	8	(25.8%)	8	(16.7%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	51	(26.8%)
ややそう思う	7	(22.6%)	16	(33.3%)	21	(36.8%)	14	(25.9%)	58	(30.5%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	6	(10.5%)	11	(20.4%)	36	(18.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)
そう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	9	(18.8%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	28	(14.7%)
aktaの活動に共感する。										
そう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	27	(47.4%)	27	(50.0%)	81	(42.6%)
ややそう思う	7	(22.6%)	17	(35.4%)	14	(24.6%)	16	(29.6%)	54	(28.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	5	(10.4%)	5	(8.8%)	6	(11.1%)	21	(11.1%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	5	(9.3%)	27	(14.2%)
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
そう思う	13	(41.9%)	12	(25.0%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	70	(36.8%)
ややそう思う	6	(19.4%)	17	(35.4%)	16	(28.1%)	13	(24.1%)	52	(27.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	6	(10.5%)	9	(16.7%)	29	(15.3%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	4	(2.1%)
aktaの活動を知らない	7	(22.6%)	8	(16.7%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	30	(15.8%)
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	22	(38.6%)	20	(37.0%)	68	(35.8%)
ややそう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	4	(12.9%)	8	(16.7%)	6	(10.5%)	8	(14.8%)	26	(13.7%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.6%)	3	(1.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	29	(15.3%)

表 12. コミュニティ感覚、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
新宿二丁目にいて、安心感のようなものを感じる。											
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	67	(35.3%)	
ややそう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	18	(31.6%)	18	(33.3%)	62	(32.6%)	
どちらともいえない	7	(22.6%)	11	(22.9%)	11	(19.3%)	7	(13.0%)	36	(18.9%)	
あまりそう思わない	2	(6.5%)	7	(14.6%)	4	(7.0%)	6	(11.1%)	19	(10.0%)	
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。											
そう思う	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	14	(25.9%)	46	(24.2%)	
ややそう思う	7	(22.6%)	15	(31.3%)	16	(28.1%)	24	(44.4%)	62	(32.6%)	
どちらともいえない	12	(38.7%)	16	(33.3%)	16	(28.1%)	9	(16.7%)	53	(27.9%)	
あまりそう思わない	2	(6.5%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	4	(7.4%)	18	(9.5%)	
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	7	(12.3%)	3	(5.6%)	11	(5.8%)	
新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。											
そう思う	17	(54.8%)	24	(50.0%)	19	(33.3%)	32	(59.3%)	92	(48.4%)	
ややそう思う	11	(35.5%)	19	(39.6%)	19	(33.3%)	11	(20.4%)	60	(31.6%)	
どちらともいえない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	20	(10.5%)	
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	9	(15.8%)	3	(5.6%)	12	(6.3%)	
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。											
そう思う	15	(48.4%)	14	(29.2%)	17	(29.8%)	18	(33.3%)	64	(33.7%)	
ややそう思う	8	(25.8%)	17	(35.4%)	23	(40.4%)	19	(35.2%)	67	(35.3%)	
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	8	(14.0%)	14	(25.9%)	41	(21.6%)	
あまりそう思わない	1	(3.2%)	3	(6.3%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)	
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)	
新宿二丁目でのHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。											
そう思う	12	(38.7%)	10	(20.8%)	20	(35.1%)	17	(31.5%)	59	(31.1%)	
ややそう思う	8	(25.8%)	21	(43.8%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	70	(36.8%)	
どちらともいえない	8	(25.8%)	12	(25.0%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	41	(21.6%)	
あまりそう思わない	3	(9.7%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	4	(7.4%)	13	(6.8%)	
そう思わない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)	
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をするごとに、タブー感（ためらい）がある。											
そう思う	10	(32.3%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	7	(13.0%)	29	(15.3%)	
ややそう思う	5	(16.1%)	8	(16.7%)	16	(28.1%)	11	(20.4%)	40	(21.1%)	
どちらともいえない	10	(32.3%)	16	(33.3%)	13	(22.8%)	17	(31.5%)	56	(29.5%)	
あまりそう思わない	3	(9.7%)	10	(20.8%)	7	(12.3%)	13	(24.1%)	33	(17.4%)	
そう思わない	3	(9.7%)	8	(16.7%)	15	(26.3%)	6	(11.1%)	32	(16.8%)	
新宿二丁目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。											
そう思う	25	(80.6%)	35	(72.9%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	146	(76.8%)	
ややそう思う	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	9	(16.7%)	32	(16.8%)	
どちらともいえない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	8	(4.2%)	
あまりそう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)	
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)	

表 13. HIV 検査受検経験と性感染症罹患経験、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
生涯のHIV検査受検経験										
ある	17	(54.8%)	35	(72.9%)	43	(75.4%)	47	(87.0%)	142	(74.7%)
ない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	7	(13.0%)	48	(25.3%)
一番最近にHIV検査を受けた時期										
6か月以内	10	(58.8%)	18	(51.4%)	17	(39.5%)	12	(25.5%)	57	(40.1%)
6か月から1年以内	3	(17.6%)	5	(14.3%)	6	(14.0%)	10	(21.3%)	24	(16.9%)
1年から3年以内	4	(23.5%)	7	(20.0%)	12	(27.9%)	18	(38.3%)	41	(28.9%)
3年以上前	0	(0.0%)	5	(14.3%)	8	(18.6%)	7	(14.9%)	20	(14.1%)
これまでに罹患したことがある性感染症										
1 梅毒	0	(0.0%)	3	(6.3%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	24	(12.6%)
2 A型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	5	(2.6%)
3 B型肝炎	1	(3.2%)	1	(2.1%)	6	(10.5%)	14	(25.9%)	22	(11.6%)
4 C型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	1	(0.5%)
5 クラミジア	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	8	(14.8%)	12	(6.3%)
6 尖圭コンジローマ	0	(0.0%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	7	(13.0%)	11	(5.8%)
7 淋病	1	(3.2%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	4	(7.4%)	9	(4.7%)
8 HIV 感染症	1	(3.2%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	10	(18.5%)	17	(8.9%)
9 赤痢アメーバ	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	3	(1.6%)
10 毛じらみ	4	(12.9%)	12	(25.0%)	12	(21.1%)	21	(38.9%)	49	(25.8%)
11 性器ヘルペス	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	9	(4.7%)
12 その他	0	(0.0%)	2	(4.2%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
13 いずれもない	24	(77.4%)	30	(62.5%)	33	(57.9%)	14	(25.9%)	101	(53.2%)

表 14. CBO 活動への共感とコミュニティ感覚（2 区分）、HIV 検査受検経験別

	生涯でのHIV検査受検経験			1年以内のHIV検査受検			3年以内のHIV検査受検		
	ある		p 値	ある		p 値	ある		p 値
	n (列%)	n (列%)		n (列%)	n (列%)		n (列%)	n (列%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。									
そう思う/まあそう思う	94 (66.2%)	23 (47.9%)	0.024	50 (61.7%)	67 (61.5%)	0.971	79 (64.8%)	38 (55.9%)	0.228
それ以外	48 (33.8%)	25 (52.1%)		31 (38.3%)	42 (38.5%)		43 (35.2%)	30 (44.1%)	
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。									
そう思う/まあそう思う	88 (62.0%)	21 (43.8%)	0.027	51 (63.0%)	58 (53.2%)	0.179	75 (61.5%)	34 (50.0%)	0.125
それ以外	54 (38.0%)	27 (56.3%)		30 (37.0%)	51 (46.8%)		47 (38.5%)	34 (50.0%)	
aktaの活動に共感する。									
そう思う/まあそう思う	108 (76.1%)	27 (56.3%)	0.009	60 (74.1%)	75 (68.8%)	0.429	93 (76.2%)	42 (61.8%)	0.035
それ以外	34 (23.9%)	21 (43.8%)		21 (25.9%)	34 (31.2%)		29 (23.8%)	26 (38.2%)	
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。									
そう思う/まあそう思う	98 (69.0%)	24 (50.0%)	0.018	58 (71.6%)	64 (58.7%)	0.067	85 (69.7%)	37 (54.4%)	0.035
それ以外	44 (31.0%)	24 (50.0%)		23 (28.4%)	45 (41.3%)		37 (30.3%)	31 (45.6%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。									
そう思う/まあそう思う	102 (71.8%)	28 (58.3%)	0.082	60 (74.1%)	70 (64.2%)	0.148	88 (72.1%)	42 (61.8%)	0.141
それ以外	40 (28.2%)	20 (41.7%)		21 (25.9%)	39 (35.8%)		34 (27.9%)	26 (38.2%)	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	64 (79.0%)	65 (59.6%)	0.005	91 (74.6%)	38 (55.9%)	0.008
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		17 (21.0%)	44 (40.4%)		31 (25.4%)	30 (44.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	86 (60.6%)	22 (45.8%)	0.0749	47 (58.0%)	61 (56.0%)	0.777	72 (59.0%)	36 (52.9%)	0.418
それ以外	56 (39.4%)	26 (54.2%)		34 (42.0%)	48 (44.0%)		50 (41.0%)	32 (47.1%)	
新宿二目でしか得られないものがあると思う。									
そう思う/まあそう思う	118 (83.1%)	34 (70.8%)	0.0663	72 (88.9%)	80 (73.4%)	0.008	101 (82.8%)	51 (75.0%)	0.198
それ以外	24 (16.9%)	14 (29.2%)		9 (11.1%)	29 (26.6%)		21 (17.2%)	17 (25.0%)	
新宿二目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。									
そう思う/まあそう思う	100 (70.4%)	31 (64.6%)	0.4497	59 (72.8%)	72 (66.1%)	0.318	86 (70.5%)	45 (66.2%)	0.538
それ以外	42 (29.6%)	17 (35.4%)		22 (27.2%)	37 (33.9%)		36 (29.5%)	23 (33.8%)	
新宿二目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	58 (71.6%)	71 (65.1%)	0.345	89 (73.0%)	40 (58.8%)	0.046
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		23 (28.4%)	38 (34.9%)		33 (27.0%)	28 (41.2%)	
新宿二目では、HIV（エイズ）について話をするのに、タブー感（ためらい）がある。									
そう思う/まあそう思う	53 (37.3%)	16 (33.3%)	0.6192	34 (42.0%)	35 (32.1%)	0.162	46 (37.7%)	23 (33.8%)	0.594
それ以外	89 (62.7%)	32 (66.7%)		47 (58.0%)	74 (67.9%)		76 (62.3%)	45 (66.2%)	
新宿二目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。									
そう思う/まあそう思う	136 (95.8%)	42 (87.5%)	0.042	79 (97.5%)	99 (90.8%)	0.060	118 (96.7%)	60 (88.2%)	0.021
それ以外	6 (4.2%)	6 (12.5%)		2 (2.5%)	10 (9.2%)		4 (3.3%)	8 (11.8%)	

表 15. CBO 活動への共感とコミュニティ感覚、性感染症罹患経験別、アナルセックス時のコンドーム使用別

コミュニティ感覚と性感染症罹患経験 コンドーム使用										
	何らかの性感染症に罹患した経験				p 値	一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用				
	ある (n=89)		ない (n=101)			使った (n=115)		使わなかった/不明 (n=58)		
	n	(列%)	n	(列%)		n	(列%)	n	(列%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
そう思う/まあそう思う	62	(69.7%)	55	(54.5%)	0.032	76	(66.1%)	34	(58.6%)	0.335
それ以外	27	(30.3%)	46	(45.5%)		39	(33.9%)	24	(41.4%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
そう思う/まあそう思う	56	(62.9%)	53	(52.5%)	0.146	70	(60.9%)	32	(55.2%)	0.472
それ以外	33	(37.1%)	48	(47.5%)		45	(39.1%)	26	(44.8%)	
aktaの活動に共感する。										
そう思う/まあそう思う	69	(77.5%)	66	(65.3%)	0.065	82	(71.3%)	42	(72.4%)	0.878
それ以外	20	(22.5%)	35	(34.7%)		33	(28.7%)	16	(27.6%)	
aktaからのメッセージは、HIV(エイズ)や性感染症に対して前向きに話しやすい雰囲気を感じる。										
そう思う/まあそう思う	58	(65.2%)	64	(63.4%)	0.796	73	(63.5%)	39	(67.2%)	0.625
それ以外	31	(34.8%)	37	(36.6%)		42	(36.5%)	19	(32.8%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
そう思う/まあそう思う	64	(71.9%)	66	(65.3%)	0.331	76	(66.1%)	45	(77.6%)	0.119
それ以外	25	(28.1%)	35	(34.7%)		39	(33.9%)	13	(22.4%)	
新宿二丁目にいて、安心感のようなものを感じる。										
そう思う/まあそう思う	59	(66.3%)	70	(69.3%)	0.657	75	(65.2%)	44	(75.9%)	0.154
それ以外	30	(33.7%)	31	(30.7%)		40	(34.8%)	14	(24.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
そう思う/まあそう思う	55	(61.8%)	53	(52.5%)	0.195	64	(55.7%)	36	(62.1%)	0.420
それ以外	34	(38.2%)	48	(47.5%)		51	(44.3%)	22	(37.9%)	
新宿二丁目ですごく得られないものがあると思う。										
そう思う/まあそう思う	71	(79.8%)	81	(80.2%)	0.942	95	(82.6%)	45	(77.6%)	0.427
それ以外	18	(20.2%)	20	(19.8%)		20	(17.4%)	13	(22.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
そう思う/まあそう思う	63	(70.8%)	68	(67.3%)	0.607	83	(72.2%)	36	(62.1%)	0.176
それ以外	26	(29.2%)	33	(32.7%)		32	(27.8%)	22	(37.9%)	
新宿二丁目のHIV(エイズ)や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
そう思う/まあそう思う	63	(70.8%)	66	(65.3%)	0.423	85	(73.9%)	34	(58.6%)	0.040
それ以外	26	(29.2%)	35	(34.7%)		30	(26.1%)	24	(41.4%)	
新宿二丁目では、HIV(エイズ)について話をするごとに、タブー感(ためらい)がある。										
そう思う/まあそう思う	34	(38.2%)	35	(34.7%)	0.612	42	(36.5%)	23	(39.7%)	0.688
それ以外	55	(61.8%)	66	(65.3%)		73	(63.5%)	35	(60.3%)	
新宿二丁目にHIV(エイズ)や性感染症の予防活動は必要だと思う。										
そう思う/まあそう思う	87	(97.8%)	91	(90.1%)	0.030	111	(96.5%)	55	(94.8%)	0.593
それ以外	2	(2.2%)	10	(9.9%)		4	(3.5%)	3	(5.2%)	

商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 -初性交時周辺に焦点をあてた予防介入-

研究分担者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部/MASH 大阪 助教）

研究協力者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）、後藤大輔、町登志雄、
宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、
大畑泰次郎、伴仲昭彦、飯塚諒（MASH 大阪）、新山賢（HaaT えひめ）
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）、
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）、
安井典子（大阪市保健所感染症対策課）、
柴田敏之（大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長）

研究要旨

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。啓発介入は CBO と協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価した。

連続横断調査を用いて従来型啓発介入の効果評価を実施した結果、若年層では介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は調査 1(2.7%)、調査 2(10.2%)、調査 3(16.0%)、調査 4(25.3%)、調査 5(45.1%)と増加した($p<0.01$)。調査時期が同一の調査 1、調査 2、調査 3 の結果について、調査 1 のデータをベースラインデータとして年齢層・介入認知別に分析をした。29 歳以下の若年層の認知群では過去 1 年間の受検経験（2014 年 41.5%、2015 年 52.5%、2016 年 61.9%、以下同順）、過去 6 ヶ月間の受検経験（27.6%、45.0%、50.8%）、一番最近のアナルセックスにおけるコンドーム使用割合（54.4%、67.5%、74.6%）で有意差がみられた。一方非認知群では検査行動、コンドーム使用行動に有意差はみられず、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズについての対話経験のみ有意差がみられた（65.0%、58.6%、42.2%）。

また大阪府内の受検者調査によって介入機関別の MSM 割合の推移を比較したところ、介入機関では 2014 年上半期 10.1%から 2016 年上半期 15.7%と 5.6%上昇した ($p=0.04$)。一方で非介入機関、大阪市の保健福祉センターでは著変はなかった。

したがって本研究の新型啓発介入は若年層 MSM における HIV やエイズの規範を涵養し、彼らの自発的な HIV 抗体検査受検行動を促進し、コンドーム使用行動を促進した可能性がある。

A. 研究目的

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。CBO（Community-based

organization）と協働で啓発介入を開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。初年度に基礎的な調査を行い、プ

プログラムを開発し2年度目・3年度目でWEB等を活用し啓発介入を展開あるいは他地域に拡大し、新型啓発介入の体制を他地域も含めた体制として構築した。また効果評価とするために大阪地域では上記の2つの調査を実施した。

B. 研究方法

1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入

「やる!プロジェクト」の実施と展開

CBOと協働し、商業施設を利用しはじめる若年層MSMを24歳以下の若年層と仮定して、初年度に得られた基礎資料と先行研究の結果にもとづき、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を展開した。2年度目の進行が遅れたために、新規介入の期間を2016年4月から7月として、この時期に進学や就職で移動する若年層を対象に配布先を選定した。

展開する過程で、インターネットにおける訴求性や地域連携を考慮して、他地域のCBOの意見をふまえて展開できる体制の維持を目指し、6月に連携会議を開催した。その結果、連携体制は、初年度近畿地域(大阪)・中国・四国地方(愛媛)・沖縄だったが、2年度目には東海地域(名古屋)が展開に加わり、最終年度には関東地域(横浜)・東北地域(仙台)が「やる!プロジェクト」の資材配布に加わった。また関東地域(東京)とは10月下旬からALL JAPANの枠組みの中でコラボレーションを行いキャンペーンの展開を図った。このALL JAPANの取り組みについては効果評価よりも枠組みの構築を優先した。そのため研究デザインとしては初年度から継続して近畿地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象として効果評価を行うことにした。

最終年度は平成28年8月の調査によって一旦最終評価を行い、初年度・2年度目の介入の効果との経年的比較分析を試みた。

研究デザインとしては連続横断調査であり、配布した全てのセットに下記のロゴマークを貼り付け、その認知によって訴求力を測ることとした。



2 コミュニティベース調査

1) 調査方法

初性交時の状況を明らかにし、展開した従来型啓発介入における訴求性を示すベースラインを得るために、コミュニティベース質問紙調査(GCQ アンケート)を初年度と同様の方法・質問項目で5回実施した。

2) 分析方法

得られたすべての回答のうち、近畿地域に居住するMSMおよびゲイ・バイセクシュアル男性を分析対象とした。それぞれの調査について年齢を24歳以下、25歳-29歳、30-34歳、35-39歳、40-44歳、45歳以上の6区分の年齢層に分類し、比較した。次いで調査回答者の属性・検査行動・性行動・啓発介入への接触状況に関して、第1回目と第2回目、第3回目、第4回目、第5回目の調査結果についてカイ2乗検定を用いて分析した。また「やる!プロジェクト」認知別に分析し、認知群と非認知群の特性を明らかにしようとした。

データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 23を用いた。統計的有意水準は

5%未満とした。

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。

(2014年4月27日、ID番号14025-3)

3 HIV抗体検査受検者を対象とした調査

1) 調査方法

啓発介入に効果があった場合には、MSMにおける検査行動が促進されることとなり、保健所等のHIV抗体検査を利用するMSMが増加することが考えられる。副次項目の指標とする目的で、本研究では大阪市・大阪府の施策担当者に研究協力者となっていただき、大阪市・大阪府の実施するHIV抗体検査の受検者を対象とした無記名自記式質問紙調査を集計・分析し、MSM受検者の動向を把握することとした。

2) 分析方法

分析に用いた質問項目は年齢、居住地、性別、性行為経験、生涯における性行為相手の性別、過去6ヵ月間の金銭を介した性行為経験、HIV抗体検査受検経験と受検時の状況であり、個人を特定する情報は含まなかった。

分析では年齢を19歳以下、20歳-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60歳以上の6区分の年齢層に分類した。居住地については大阪府内在住者とそれ以外の都道府県在住者に分類した。

本研究ではMSMを「これまでに同性間性的接触を有した男性」と定義し、性別の他に、これまでに性行為をした相手の性別について尋ねた。選択肢は、性別では男性、女性、その他とし、性行為をした相手の性別は男性のみ、女性のみ、男性と女性の両方とした。分析ではこれまでに男性もしくは男性と女性の両方と性行為経験のあった男性をMSMとして分類し、MSM以外の男性、女性、MSMの3群を性的指向として分析を進めた。また検査場所の満足度として、話し方や言葉づかい、質問

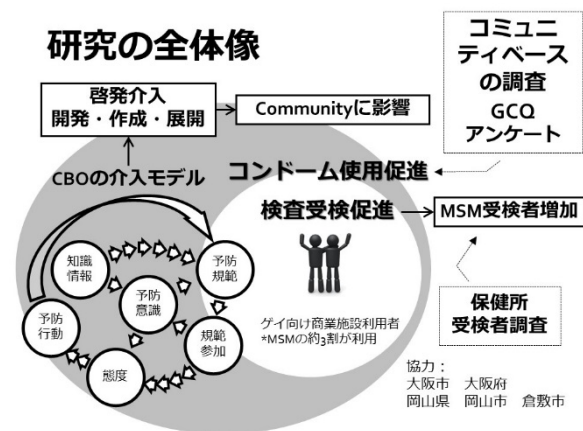
しやすい雰囲気、安心できる雰囲気、プライバシー保護について4件法で尋ねた。

本報告ではポストカードを用いて広報した大阪府の4保健所を介入機関としそれ以外を非介入機関としてMSM割合の推移を比較した。

データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 23 (Windows)を用いた。

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。

(2015年4月21日、ID番号14032-4)

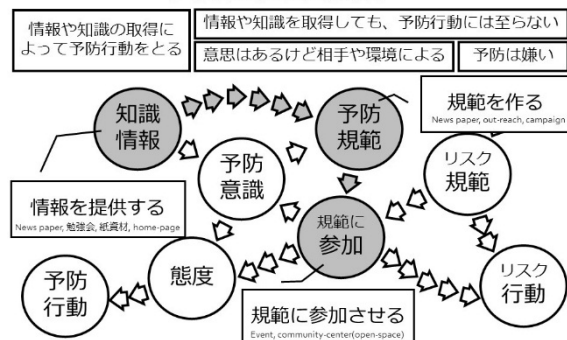


C. 研究結果

1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入「やる!プロジェクト」のアウトカム

図はMASH大阪の介入方法の仮説を示した。これまでの活動においてMAHS大阪は、ゲイコミュニティの中でも感染リスクが高いゲイ向け商業施設利用層(大阪の商業施設に流入する層)を介入対象の中心として考えてきた。

背景：商業施設利用者への介入 予防介入の仮説



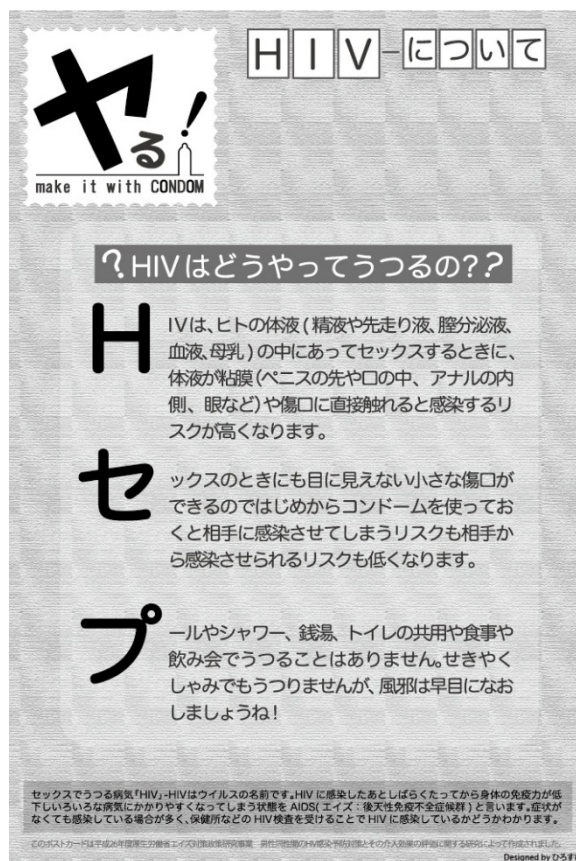
戦略的に予防行動を促進するためには、従来の予防介入によって醸成した HIV 感染に対する予防意識といったコミュニティの規範やネットワークに、より多くの人に参加することによって、集団をとりまく環境そのものを変容させ、予防規範やネットワークとのつながりを強く密にしていくことで、コミュニティ全体の予防行動を促進させることが重要であると考えた。

その方法として、当事者目線で作成されたニューズペーパー・紙資材・ホームページや、当事者参加型の勉強会によって「情報を提供する(第1段階)」、ネットワークを構築する継続的なアウトリーチや予防・セーフターセックスを想起させるキャンペーンによって「予防規範を作る(第2段階)」、イベントやオープンスペースのあるコミュニティセンターに自発的に来場することで対象自身が「規範に参加する(第3段階)」といった段階を準備し、それぞれのプログラムが全て連動している状態を目指した。初年度に実施した質問紙調査の結果から、初および最近の性交時の予防行動の関連要因では最近の性交時のコンドーム使用意図(4.68倍、95%CI: 2.10-10.44)が最も強く、次いで初性交時のコンドーム使用意図(4.06倍、95%CI: 1.97-8.37)も関連していた。

また初めて話したゲイ男性との性交割合は78.4%-86.7%と極めて高いことから、初性交時周辺に焦点をあてた介入は妥当であると考えた。コンドーム使用に影響する要因としては、コンドーム使用意図があると使用割合も高く(初性交時の使用割合: 意図あり 61.1%、意図なし 15.3%)、使用意図を醸成する啓発が有用と考えられた。

これをもとに HaaT えひめと協働し MASH 大阪では初性交周辺の対象者に必要な知識として、数種類のポストカードを作成した(図参照)。そしてコンドームやローションとともに

セットにしたプログラムを開始し、継続し参加地域を広げ、最終的には近畿、中国・四国、沖縄、東海の4地域で配布した。



やる!

make it with CONDOM

コンドームの使い方

より詳しい方法を知りたい人は
dista にきてね!
HP: <http://www.dista.be>

- 袋から取り出す。表裏を確認しよう! 袋の破り方は端に寄せてちぎり切る感じで。
- 表裏の確認をしてから、精液だまりの空気を抜く。袋からとり出すとき爪で傷つけないように注意。
- 勃起したペニスの皮を根元までたぐり寄せ、コンドームを途中までおろす。
- 包茎の場合は、コンドームの根元を持ちながら根元で余っている皮を亀頭の方向へ寄せ上げる。陰毛を巻き込まないように注意。
- 寄せ上げられた包皮をコンドームでおおって、根元まで巻き下ろせば装着 OK。
- 射精後はすみやかに陰やアナルからペニスを抜いて、コンドームの根元を押さえながらペニスを抜く。使用済みのコンドームは口を縛って可燃ゴミとして処分する。
- 一度使用したコンドームは捨てましょう。つけるのに失敗したコンドームは使わない。

7つのやくそく!

このイラストは平成27年度厚生労働省委託事業「HIV感染予防啓発事業」男性向け性行為啓発教材「その入り方」の作成に際して作成されました。Illustrated by SUV. Designed by O591P.

やる!

make it with CONDOM

「ヘルプ」

倉田めば

薬物を使い始める前
私には
助けが必要だった
どうやって助けを求めたらいいいのか
わからなかった
薬物を使い始めたころ
私には
助けが必要だった
助けを求めた気がなかった
薬物が止まらなくなってしまう
私には
助けが必要だった
誰に助けを求めればいいのか
わからなかった
薬物を本当にやめたいと願った
私には
助けが必要だった
助けが必要だった
薬物がなくなった

薬物依存症に苦しむ人と
その周りの人のための電話相談
06-6320-1196

■時間
毎週土曜 pm3:00~pm7:00
(年末年始 休み)

■住所
大阪市北区堂山町 17-5 翼ビル 4F

■開館時間
pm5:00~pm10:30 (火曜定休)

Freedom | 薬物依存症相談センター | フリーダム

dista

この資料は、平成27年度厚生労働省委託事業「HIV感染予防啓発事業」男性向け性行為啓発教材「その入り方」の作成に際して作成されました。

やる!

make it with CONDOM

コンドーム保存法

より詳しい方法を知りたい人は
dista にきてね!
HP: <http://www.dista.be>

圧力や摩擦にも弱いので、
財布や定期入れなどには入れない。
ハードケースなどを利用する。

熱に弱いので、
高温になるところ(車の中など)や
日光のあたる場所は避ける。

2つを重ねて使うと
破損する可能性がある。

箱に記載されている使用期限を守る。
箱から出すと個別には使用期限は
書いてない場合が多いよ。

防虫剤と一緒に保管すると、
薬品が小袋を浸透しラテックスと
化学反応をおこして破れやすくなる。

コンドームは大きさや材質、厚さ薄さ、形など
いろいろなものがあるよ。

油分にも弱いので、
ベビーオイルや油性ゼリーと一緒に使わない。
潤滑剤を使用するときは水溶性のものを選ぶ。
ドラッグストアなどでもお手軽に買えるよ。

コンドームの
秘密

このイラストは平成27年度厚生労働省委託事業「HIV感染予防啓発事業」男性向け性行為啓発教材「その入り方」の作成に際して作成されました。Illustrated by SUV. Designed by O591P.

やる!

make it with CONDOM

「わたしが手渡したいもの」

倉田めば

わたしがクスリをやめたいと心の底から願った時
私の友人たちは皆去っていた。
孤独だった。
お金もなく、仕事もなく、未来への希望さえ
なかった鉄格子の中で、世間を覗き、自分を
責め続けたある日
一人の薬物依存者がわたしに面会に訪れた
「あなたの薬物依存の体験は、あなたの財産ですよ」
その財産は
まだ苦しんでいる薬物依存者に手渡す瞬間光り輝き
今日一日わたしがクスリを使わないで生きる糧となる
生きるためにクスリをやめようとするのではなく
クスリをやめるために生きることを始めた
気がついたら
わたしは、笑っていた

薬物依存症に苦しむ人と
その周りの人のための電話相談
06-6320-1196

■時間
毎週土曜 3:00p.m~7:00p.m
(年末年始 休み)

■住所
大阪市北区堂山町 17-5 翼ビル 4F

■開館時間
5:00p.m~10:30p.m (火曜定休)

Freedom | 薬物依存症相談センター | フリーダム

dista

この資料は、平成27年度厚生労働省委託事業「HIV感染予防啓発事業」男性向け性行為啓発教材「その入り方」の作成に際して作成されました。

近畿圏における平成28年8月までの配布実績としては配布総数 13,614 セットであり、ゲイ向けイベント(46 イベント)、ゲイ向け商業施設(178 軒)に配布した。ポストカードの裏

面の情報を検査情報などに変更することによって、大阪府（四條畷、岸和田、泉佐野、藤井寺）から堺市・東大阪市に広がり、岡山県との連携も可能となり、検査情報と本研究班で作成した情報を、配布先の雰囲気に合わせてイラストを変更し、他の資料と混ぜて配布した。

またゲイツーリズムを背景に、このプロジェクトで連携している4地域のCBO（MASH大阪、HaaT えひめ、nankr 沖縄、ANGEL LIFE NAGOYA）で意見交換会を総計5回もち、「やる！プロジェクト」の展開や方向性について検討した。本プロジェクトは、性行動の活発なMSMを対象として、彼らの資料の潜在的な需要をベースに、HIV や性感染症の知識の普及や意識の向上を通じて、セーフターセックスの規範を身近なものに変容していくことを目的として、ゲイツーリズムを踏まえて展開していくことを共有した。

また最終年度には、6地域のCBO/NPO（やろっこ、akta、ANGEL LIFE NAGOYA、MASH大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄）で共同し、コンドーム使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーによるALL JAPAN CAMPAIGN（akta Safer Sex Campaign と「やる！プロジェクト」の合同キャンペーン）を10月～1月末まで商業施設やWebを介して展開した。

2 コミュニティベース調査

本研究で開発した「やる！プロジェクト」の認知割合は調査1(2.7%)、調査2(10.2%)、調査3(16.0%)、調査4(25.3%)、調査5(45.1%)と増加した($p<0.01$)。いずれの調査でも24歳以下、25-29歳層の若年層では高い傾向であったが有意差がみられなかった。検査行動やコンドーム使用行動についてはいずれの調査での有意差はみられなかったが、年齢層および過去6ヶ月間のアナルセックス経験の割合では有意差がみられ、調査4の回答

者は他の調査回答者に比べ35-39歳層、40-44歳層の割合が高く、アナルセックス経験の割合も高かった。一方で過去6ヶ月間の相手の人数や頻度については調査1、調査2の回答者が高かった。

調査時期によって回答者の特性が異なると考えられたため、調査時期が同一の調査1、調査2、調査3の結果について、調査1で介入認知のなかった217人のデータをベースラインデータとして年齢層・介入認知別に分析をした。その結果を付表4に示した。

29歳以下の若年層の認知群で有意差がみられた項目は過去1年間の受検経験(2014年41.5%、2015年52.5%、2016年61.9%、以下同順)、過去6ヶ月間の受検経験(27.6%、45.0%、50.8%)、一番最近のアナルセックスにおけるコンドーム使用割合(54.4%、67.5%、74.6%)であった。一方非認知群では検査行動、コンドーム使用行動に有意差はみられず、過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験のみ有意差がみられた(65.0%、58.6%、42.2%)。

30歳以上の層は認知群で一番最近のアナルセックスにおけるコンドーム使用割合(59.9%、77.8%、80.5%)のみ有意差がみられた。

3 HIV抗体検査受検者を対象とした調査

大阪市・大阪府が保健所等でHIV抗体検査を受検する人を対象に質問紙調査を行っており、本研究では大阪市3保健福祉センター・chot CAST なんば・大阪府13保健所の回答について2014年1月から2016年9月までを分析した。回収率は大阪市3保健福祉センターで56.8%(2014年)42.3%(2015年)62.7%(2016年)、大阪府12保健所では94.4%(2014年)89.1%(2015年)88.2%(2016年)、chot CAST なんばでは97.2%(2014年)95.6%(2015年)94.8%(2016年)であった。平均受検者数は大阪市3保健福祉センターでは、

406.7 人/月 (2014 年)、382.3 人/月 (2015 年)、379.4 人/月 (2016 年) であり、大阪府 12 保健所では、275.2 人/月 (2014 年)、216.5 人/月 (2015 年)、181.6 人/月 (2016 年) であった。ここでは MSM 受検者の動向に焦点をあて分析した結果を報告する。

MSM 受検者の割合について大阪市では 2014 年 5 月 (20.5%) から 12 月 (13.0%) と低下傾向であったが、2015 年 (年間 14.2%) は横這いとなり、2016 年は 1 月 (12.9%) から 7 月 (18.0%) にかけて上昇傾向であった。大阪府では 2014 年 2 月 (6.3%) から 11 月 (12.2%) と徐々に上昇し、2015 年 (年間 10.1%)、2016 年も 2 月 (8.9%) から 8 月 (14.8%) にかけて上昇傾向であった。chot CAST なんばでは 2014 年 (年間 18.6%)、2015 年 (年間 21.1%) とほぼ横這いであったが、2016 年は 1 月 (20.8%) から 6 月 (28.9%) にかけて上昇傾向であった。またいずれの機関の MSM においても「やる!プロジェクト」の認知割合は上昇していた。

介入機関別の MSM 割合の推移を比較したところ、介入機関では 2014 年上半期 10.1% から 2016 年上半期 15.7% と 5.6% 上昇した ($p=0.04$)。一方で非介入機関、大阪市の保健福祉センターでは著変はなかった。

D. 考察

本研究では若年層向けに予防啓発の新型介入を開発・展開し、効果評価を行った。従来型の介入との相違点は商業施設利用者への配布のみならずインターネットでの介入と組み合わせた点と、他地域で連携して展開した点である。連携体制の構築については①プログラムの進め方 (配布物の確定や実際の動き方など) ではまだ詰め切れていない部分があったこと、②参加地域によってキャンペーンの捉え方が様々となり十分な共有の機会を持てなかったこと、③WEB 広報やゲイメディアとの連携については東京中心になってしまい負

担を等分にできなかったこと、④コミュニティセンターのない地域でインターネットや郵送を通じて展開できる可能性があったが、現時点でその仕組みはまだ完成されているとは言えないこと、⑤ゲイコミュニティにおける HIV 感染者の割合はどの地域でも 5% 前後であり啓発介入、特に連動した取り組みにはこれらの現状や地域の偏見の差を踏まえ可視化できる仕組みも必要となるなど課題も多い。

しかし、研究対象となった近畿地域において認知率は経年的に上昇しており、新型介入の開始後の認知上昇率 (2015 年 7 月 16.0%、2016 年 8 月 45.1%) は 29.1% と、従来型介入開始後の認知上昇率 13.3% (2014 年 7 月 2.7%、2015 年 7 月 16.0%) と 2.1 倍と高く、訴求効果を示したと言える。

先行研究では単年度の調査研究では予防行動についてプログラム認知別にみて、HIV 抗体検査受検では有意差がみられ認知群で高いが、コンドーム使用行動では有意差はみられないという現象が複数あり、十分な啓発介入の効果評価を示すことができていない。本研究では同一集団を対象とし、連続横断的な調査から得られる結果を認知別に経年的に分析した。その結果、検査行動・コンドーム使用行動ともに認知群では上昇し、非認知群では対話経験が減少していることが明らかとなり、本研究で開発された予防介入の効果が示されたと考えられる。

また、保健所の受検者調査の結果では MSM 割合が増加していることが示唆された。2014 年から 2016 年にかけて受検者数が減少していることをふまえて考えるとこの 3 年間では MSM の受検者数が維持されており、MSM コミュニティにおける受検行動は定着化しつつあることが考えられる。大阪府の介入施設別に MSM 割合をみると介入施設群で MSM 割合が有意に増加しており、新型啓発介入の効果が示されている。chot CAST なんばでは利便性の高い受検機会が研究後半で増加したため、MSM

割合が増加したと思われる。

予防行動とは当事者の属する環境や規範に影響を受けやすく、介入活動とはコミュニティの環境や規範を変容させ、予防的な環境を醸成する活動が主体であるため、介入活動の効果評価にはある程度長期的な視点が必要であると考えられる。また検査行動は単独の行動であるが、アナルセックスなど感染リスクの高い性行動については単数・複数に関わらずパートナーが存在している。パートナーが介入非認知群であっても、コンドームを使用した場合には使用割合に加算されるため、単年度認知別の分析では有意差が現れない可能性が高い。したがって予防啓発介入の効果評価には、本研究で行ったような連続横断調査による認知別経年比較分析が必要となる。

本研究の限界としては複数のゲイ向け商業施設利用者のうち、1種類の施設利用者を対象とした調査であったため、本研究で示された予防啓発介入効果がゲイ・バイセクシュアル男性全体にも適応されるかは不明である。また、介入活動の効果評価を考える上では複数のプログラムの蓄積効果をふまえていく必要があり、本研究で実施した分析では、その点について考慮されているとは言えない。

残された課題として複数のゲイ向け商業施設利用者で同様の効果を得ることができるのか再現性を確認する必要がある。また本研究はHIV対策として検査行動・コンドーム使用行動を促進させる可能性の高い介入方法に資する知見となったと考えられるが、啓発介入を持続する基盤は脆弱なままであり、若年層の流入やゲイツーリズムを意識した場合、コミュニティセンターのない地域とある地域の現状を踏まえた取り組みが必要となってくる。さらにTreat as PreventionやPrEPなどの新たな予防方法についての対応は今後の課題と言える。

保健所受検者を対象とした質問紙調査は「エイズ予防のための戦略研究」より継続し

て研究班で実施してきたが、平成28年10月より大阪府・大阪市で事業としての取り組みが開始され、実施・入力を地方行政で行うことになった。保健所受検者を対象とした質問紙調査の実施によってCBO・研究者・行政の協働体制の基盤が構築されており、啓発介入についても部分的な協力を得られたと考える。

E. 結論

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層MSMを対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的として実施した。HIV対策として検査行動・コンドーム使用行動を促進させる可能性の高い介入方法に資する知見を得られた。また介入方法開発の過程で地域連携体制の可能性を構築し、効果評価として分析する過程では、先行研究で指摘されていた課題の解決に資する研究となったと考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 発表論文等

1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態-2009年調査と2012年調査の比較-. 日本エイズ学会誌, 日本エイズ学会誌, 19巻1号, 16-23, 2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men)におけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016
- 3) Nigel Sherriff¹, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa:

Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015

2. 学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. エイズとコミュニティ-MASH 大阪とは何か?. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」大阪, 2016
- 2) 鬼塚哲郎. MASH 大阪のはじまりと 10 年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」大阪, 2016
- 3) 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下 優. 塩野 徳史. 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 27 年度実績報告. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島, 2016
- 4) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志: 全国 8 都府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 5) 細井舞子, 安井典子, 青木理恵, 安保貴行, 松村直樹, 奥町彰礼, 廣川秀徹, 半羽宏之, 松本健二, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 塩野徳史: ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 検査受検経験及び関連する要因, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 6) 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子: コミュニティセンターdista における HIV 抗体検査の意義, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 7) 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子: コミュニティセンターdista 来場者の特性, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 8) 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 大畑泰次郎, 塩野徳史, 町登志雄, 後藤大輔: コミュニティセンターdista における中高年層 MSM 来場者誘致プログラム「南界堂茶会」の効果評価, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 9) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい: 近畿地域在住の MSM (Men who have sex with men) における初性交時の予防行動に関連した要因-10 年間の変化-, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 10) 川畑拓也, 森治代, 小島洋子, 駒野淳, 古林敬一, 岩佐厚, 田端運久, 亀岡博, 中村幸生, 杉本賢二, 近藤雅彦, 高田昌彦, 菅野展史, 塩野徳史, 柴田敏之: MSM 向け HIV 即日抗体検査における急性感染期の抗体陰性例の検出, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2015
- 11) 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 田中信雄, 後藤大輔, 尾崎拓治, 野崎丈晴, 塩野徳史, 市川誠一, 鬼塚哲郎: 地方自治体と NGO の協働による中高年 MSM 層を対象とした HIV 予防啓発定期刊行物の発行および発行を促進した要因, 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2014
- 12) 川畑拓也, 森治代, 小島洋子, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生,

古林敬一：診療所を窓口とした MSM 向け検査キャンペーン(2013 年度)，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014

- 13) 岩橋恒太，高野操，大島岳，阿部甚兵，柴田恵，矢島嵩，加藤悠二，佐久間久弘，大木幸子，塩野徳史，金子典代，市川誠一，生島嗣，荒木順子：首都圏居住の MSM を対象とした、HIV 抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査サーチ」の構成とその検討，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014
- 14) 荒木順子，佐久間久弘，木南拓也，岩橋恒太，大島岳，柴田恵，阿部甚兵，塩野徳史，金子典代，市川誠一：MSM を対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014
- 15) 宮田良，塩野徳史，市川誠一，金子典代：セックスワーカー女性の実態調査-インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014
- 16) 塩野徳史：HIV 抗体検査受検者の特性-8 都府県の保健所受検者調査の結果から-(HIV 検査の体制-早期発見と早期治療に向けて)，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014

3. 学会発表 (国外) なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 近畿地域における調査別分析① 基本属性・検査行動・性意識

	調査1		調査2		調査3		調査4		調査5		合計		Pearsonの カイ2乗
	n=602		n=236		n=500		n=296		n=286		n=1920		
年齢層													
24歳以下	139	23.1%	66	28.0%	109	21.8%	49	16.6%	61	21.3%	424	22.1%	<0.01
25-29歳	200	33.2%	60	25.4%	175	35.0%	73	24.7%	79	27.6%	587	30.6%	
30-34歳	115	19.1%	53	22.5%	94	18.8%	59	19.9%	68	23.8%	389	20.3%	
35-39歳	82	13.6%	26	11.0%	59	11.8%	53	17.9%	36	12.6%	256	13.3%	
40-44歳	40	6.6%	22	9.3%	38	7.6%	39	13.2%	26	9.1%	165	8.6%	
45歳以上	26	4.3%	9	3.8%	25	5.0%	23	7.8%	16	5.6%	99	5.2%	
居住形態													
1人暮らし	282	46.8%	124	52.5%	250	50.0%	147	49.7%	143	50.0%	946	49.3%	0.74
同性のパートナー・友達	76	12.6%	20	8.5%	49	9.8%	34	11.5%	30	10.5%	209	10.9%	
親・家族・異性・その他	244	40.5%	92	39.0%	201	40.2%	115	38.9%	113	39.5%	765	39.8%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？													
正規雇用	347	57.6%	129	54.7%	291	58.2%	168	56.8%	181	63.3%	1,116	58.1%	0.16
非正規雇用	62	10.3%	27	11.4%	48	9.6%	37	12.5%	26	9.1%	200	10.4%	
パートタイマー	9	1.5%	0	0.0%	8	1.6%	4	1.4%	5	1.7%	26	1.4%	
アルバイト	60	10.0%	24	10.2%	46	9.2%	22	7.4%	19	6.6%	171	8.9%	
経営者	30	5.0%	6	2.5%	13	2.6%	15	5.1%	13	4.5%	77	4.0%	
学生	62	10.3%	37	15.7%	51	10.2%	35	11.8%	28	9.8%	213	11.1%	
その他	32	5.3%	13	5.5%	43	8.6%	15	5.1%	14	4.9%	117	6.1%	
「やる！プロジェクト」で配布されている資料を知っていますか？													
知っている	16	2.7%	24	10.2%	80	16.0%	75	25.3%	129	45.1%	324	16.9%	<0.01
知らない	586	97.3%	212	89.8%	420	84.0%	221	74.7%	157	54.9%	1,596	83.1%	
これまで「やる！プロジェクト」で配布されている資料をもらったことがありますか？													
もらったことはない	601	99.8%	230	97.5%	462	92.4%	245	82.8%	233	81.5%	1,771	92.2%	<0.01
過去6カ月以内にもらった	1	0.2%	6	2.5%	38	7.6%	51	17.2%	53	18.5%	149	7.8%	
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？													
ある	378	62.8%	160	67.8%	333	66.6%	218	73.6%	186	65.0%	1,275	66.4%	0.03
ない	224	37.2%	76	32.2%	167	33.4%	78	26.4%	100	35.0%	645	33.6%	
これまで何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？*													
1回だけ	138	36.5%	66	41.3%	138	41.4%	90	41.3%	75	40.3%	507	39.8%	0.85
2回	74	19.6%	30	18.8%	53	15.9%	40	18.3%	35	18.8%	232	18.2%	
3回	54	14.3%	24	15.0%	45	13.5%	25	11.5%	31	16.7%	179	14.0%	
4回以上	112	29.6%	40	25.0%	97	29.1%	63	28.9%	45	24.2%	357	28.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？													
ない	392	65.1%	137	58.1%	296	59.2%	181	61.1%	176	61.5%	1,182	61.6%	0.23
ある	210	34.9%	99	41.9%	204	40.8%	115	38.9%	110	38.5%	738	38.4%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？													
ない	451	74.9%	169	71.6%	357	71.4%	216	73.0%	207	72.4%	1,400	72.9%	0.73
ある	151	25.1%	67	28.4%	143	28.6%	80	27.0%	79	27.6%	520	27.1%	
過去6カ月間に振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか？													
意図なし	198	32.9%	72	30.5%	175	35.0%	81	27.4%	97	33.9%	623	32.4%	0.22
意図あり	404	67.1%	164	69.5%	325	65.0%	215	72.6%	189	66.1%	1,297	67.6%	
過去6カ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？													
いつも持っていた	250	41.5%	118	50.0%	211	42.2%	138	46.6%	122	42.7%	839	43.7%	0.24
時々持っていた	144	23.9%	56	23.7%	120	24.0%	77	26.0%	70	24.5%	467	24.3%	
持っていなかった	208	34.6%	62	26.3%	169	33.8%	81	27.4%	94	32.9%	614	32.0%	
過去6カ月間に男性とアナルセックスをしましたか？													
はい	388	64.5%	165	69.9%	349	69.8%	220	74.3%	195	68.2%	1,317	68.6%	0.04
いいえ	214	35.5%	71	30.1%	151	30.2%	76	25.7%	91	31.8%	603	31.4%	

*生涯に HIV 抗体検査受検経験のある人を対象として分析したため総数は異なる。

表 2 近畿地域における調査別分析② 性交時の予防行動

	調査 1	調査 2	調査 3	調査 4	調査 5	合計	Pearsonの カイ2乗
	n=388	n=165	n=349	n=220	n=195	n=1317	
過去6カ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？							
1人	121 31.2%	27 16.4%	105 30.1%	73 33.2%	60 30.8%	386 29.3%	0.02
2人-3人	108 27.8%	65 39.4%	101 28.9%	66 30.0%	59 30.3%	399 30.3%	
4人以上	159 41.0%	73 44.2%	143 41.0%	81 36.8%	76 39.0%	532 40.4%	
過去6カ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか？							
月に数回	331 85.3%	139 84.2%	310 88.8%	191 86.8%	159 81.5%	1,130 85.8%	0.03
週1回程度	40 10.3%	21 12.7%	25 7.2%	21 9.5%	17 8.7%	124 9.4%	
週2回以上	17 4.4%	5 3.0%	14 4.0%	8 3.6%	19 9.7%	63 4.8%	
過去6カ月間の併用品							
なし	334 86.1%	143 86.7%	307 88.0%	191 86.8%	174 89.2%	1,149 87.2%	0.52
ほっき葉のみ	22 5.7%	14 8.5%	21 6.0%	14 6.4%	14 7.2%	85 6.5%	
ドラッグ併用	32 8.2%	8 4.8%	21 6.0%	15 6.8%	7 3.6%	83 6.3%	
過去6カ月間のコンドーム使用状況							
非常用	216 55.7%	97 58.8%	209 59.9%	128 58.2%	100 51.3%	750 56.9%	0.35
常用	172 44.3%	68 41.2%	140 40.1%	92 41.8%	95 48.7%	567 43.1%	

表3 年齢層別 経年比較分析

	29歳以下					30歳以上					
	調査1	調査3	調査5	合計	Pearson の カイ2 乗	調査1	調査3	調査5	合計	Pearson の カイ2 乗	
	2014年 n=218	2015年 n=197	2016年 n=108			2014年 n=152	2015年 n=152	2016年 n=87			n=391
性的指向											
ゲイ	194 89.0%	165 83.8%	86 79.6%	445 85.1%	0.21	130 85.5%	130 85.5%	76 87.4%	336 85.9%	0.46	
バイ	20 9.2%	28 14.2%	18 16.7%	66 12.6%		16 10.5%	18 11.8%	11 12.6%	45 11.5%		
その他	4 1.8%	4 2.0%	4 3.7%	12 2.3%		6 3.9%	4 2.6%	0 0.0%	10 2.6%		
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？											
ない	82 37.6%	56 28.4%	33 30.6%	171 32.7%	0.12	27 17.8%	34 22.4%	16 18.4%	77 19.7%	0.57	
ある	136 62.4%	141 71.6%	75 69.4%	352 67.3%		125 82.2%	118 77.6%	71 81.6%	314 80.3%		
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？											
ない	128 58.7%	95 48.2%	46 42.6%	269 51.4%	0.01	80 52.6%	85 55.9%	49 56.3%	214 54.7%	0.80	
ある	90 41.3%	102 51.8%	62 57.4%	254 48.6%		72 47.4%	67 44.1%	38 43.7%	177 45.3%		
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？											
ない	158 72.5%	126 64.0%	62 57.4%	346 66.2%	0.02	94 61.8%	100 65.8%	60 69.0%	254 65.0%	0.52	
ある	60 27.5%	71 36.0%	46 42.6%	177 33.8%		58 38.2%	52 34.2%	27 31.0%	137 35.0%		
過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験											
ない	76 34.9%	75 38.1%	49 45.4%	200 38.2%	0.18	62 40.8%	70 46.1%	35 40.2%	167 42.7%	0.56	
ある	142 65.1%	122 61.9%	59 54.6%	323 61.8%		90 59.2%	82 53.9%	52 59.8%	224 57.3%		
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか？											
意図なし	78 35.8%	73 37.1%	32 29.6%	183 35.0%	0.41	42 27.6%	47 30.9%	24 27.6%	113 28.9%	0.78	
意図あり	140 64.2%	124 62.9%	76 70.4%	340 65.0%		110 72.4%	105 69.1%	63 72.4%	278 71.1%		
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？											
いつも持っていた	94 43.1%	91 46.2%	56 51.9%	241 46.1%	0.60	78 51.3%	79 52.0%	49 56.3%	206 52.7%	0.78	
時々持っていた	57 26.1%	52 26.4%	27 25.0%	136 26.0%		38 25.0%	42 27.6%	18 20.7%	98 25.1%		
持っていなかった	67 30.7%	54 27.4%	25 23.1%	146 27.9%		36 23.7%	31 20.4%	20 23.0%	87 22.3%		
過去6ヶ月間の併用品											
なし	194 89.0%	181 91.9%	100 92.6%	475 90.8%	0.57	126 82.9%	126 82.9%	74 85.1%	326 83.4%	0.74	
ぼっき薬のみ	9 4.1%	7 3.6%	5 4.6%	21 4.0%		12 7.9%	14 9.2%	9 10.3%	35 9.0%		
ドラッグ併用	15 6.9%	9 4.6%	3 2.8%	27 5.2%		14 9.2%	12 7.9%	4 4.6%	30 7.7%		
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況											
非常用	129 59.2%	120 60.9%	54 50.0%	303 57.9%	0.16	78 51.3%	89 58.6%	46 52.9%	213 54.5%	0.42	
常用	89 40.8%	77 39.1%	54 50.0%	220 42.1%		74 48.7%	63 41.4%	41 47.1%	178 45.5%		
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか？											
不使用	100 45.9%	69 35.0%	32 29.6%	201 38.4%	0.01	59 38.8%	44 28.9%	21 24.1%	124 31.7%	0.04	
使用	118 54.1%	128 65.0%	76 70.4%	322 61.6%		93 61.2%	108 71.1%	66 75.9%	267 68.3%		
「やる！プロジェクト」で配布されている資料を知っていますか？											
知らない	217 99.5%	157 79.7%	45 41.7%	419 80.1%	<0.01	142 93.4%	125 82.2%	46 52.9%	313 80.1%	<0.01	
知っている	1 0.5%	40 20.3%	63 58.3%	104 19.9%		10 6.6%	27 17.8%	41 47.1%	78 19.9%		

表4 年齢層別 やる!プロジェクト認知別 経年比較分析

【29歳以下】

	BaseLine				Pearsonの カイ2乗	BaseLine				Pearsonの カイ2乗
	2014年 n=217	認知群				2014年 n=217	非認知群			
	2014年 n=217	2015年 n=40	2016年 n=63	合計 n=320		2014年 n=217	2015年 n=157	2016年 n=45	合計 n=419	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ある	135 62.2%	30 75.0%	45 71.4%	210 65.6%	0.16	135 62.2%	111 70.7%	30 66.7%	276 65.9%	0.23
ない	82 37.8%	10 25.0%	18 28.6%	110 34.4%		82 37.8%	46 29.3%	15 33.3%	143 34.1%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ない	127 58.5%	19 47.5%	24 38.1%	170 53.1%	0.01	127 58.5%	76 48.4%	22 48.9%	225 53.7%	0.12
ある	90 41.5%	21 52.5%	39 61.9%	150 46.9%		90 41.5%	81 51.6%	23 51.1%	194 46.3%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ない	157 72.4%	22 55.0%	31 49.2%	210 65.6%	<0.01	157 72.4%	104 66.2%	31 68.9%	292 69.7%	0.44
ある	60 27.6%	18 45.0%	32 50.8%	110 34.4%		60 27.6%	53 33.8%	14 31.1%	127 30.3%	
過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験										
ない	76 35.0%	10 25.0%	23 36.5%	109 34.1%	0.42	76 35.0%	65 41.4%	26 57.8%	167 39.9%	0.02
ある	141 65.0%	30 75.0%	40 63.5%	211 65.9%		141 65.0%	92 58.6%	19 42.2%	252 60.1%	
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか?										
意図なし	77 35.5%	10 25.0%	17 27.0%	104 32.5%	0.25	77 35.5%	63 40.1%	15 33.3%	155 37.0%	0.57
意図あり	140 64.5%	30 75.0%	46 73.0%	216 67.5%		140 64.5%	94 59.9%	30 66.7%	264 63.0%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか?										
いつも持っていた	93 42.9%	25 62.5%	34 54.0%	152 47.5%	0.12	93 42.9%	66 42.0%	22 48.9%	181 43.2%	0.68
時々持っていた	57 26.3%	9 22.5%	13 20.6%	79 24.7%		57 26.3%	43 27.4%	14 31.1%	114 27.2%	
持っていなかった	67 30.9%	6 15.0%	16 25.4%	89 27.8%		67 30.9%	48 30.6%	9 20.0%	124 29.6%	
過去6ヶ月間の併用品										
なし	193 88.9%	33 82.5%	58 92.1%	284 88.8%	0.49	193 88.9%	148 94.3%	42 93.3%	383 91.4%	0.30
ぼつき薬のみ	9 4.1%	2 5.0%	3 4.8%	14 4.4%		9 4.1%	5 3.2%	2 4.4%	16 3.8%	
ドラッグ併用	15 6.9%	5 12.5%	2 3.2%	22 6.9%		15 6.9%	4 2.5%	1 2.2%	20 4.8%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況										
非常用	128 59.0%	23 57.5%	31 49.2%	182 56.9%	0.38	128 59.0%	97 61.8%	23 51.1%	248 59.2%	0.44
常用	89 41.0%	17 42.5%	32 50.8%	138 43.1%		89 41.0%	60 38.2%	22 48.9%	171 40.8%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか?										
使用	118 54.4%	27 67.5%	47 74.6%	192 60.0%	0.01	118 54.4%	101 64.3%	29 64.4%	248 59.2%	0.12
不使用	99 45.6%	13 32.5%	16 25.4%	128 40.0%		99 45.6%	56 35.7%	16 35.6%	171 40.8%	

【30歳以上】

	BaseLine				Pearsonの カイ2乗	BaseLine				Pearsonの カイ2乗
	2014年 n=142	認知群				2014年 n=142	非認知群			
	2014年 n=142	2015年 n=27	2016年 n=41	合計 n=210		2014年 n=142	2015年 n=125	2016年 n=46	合計 n=313	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ある	115 81.0%	20 74.1%	36 87.8%	171 81.4%	0.35	115 81.0%	98 78.4%	35 76.1%	248 79.2%	0.74
ない	27 19.0%	7 25.9%	5 12.2%	39 18.6%		27 19.0%	27 21.6%	11 23.9%	65 20.8%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ない	77 54.2%	15 55.6%	21 51.2%	113 53.8%	0.93	77 54.2%	70 56.0%	28 60.9%	175 55.9%	0.73
ある	65 45.8%	12 44.4%	20 48.8%	97 46.2%		65 45.8%	55 44.0%	18 39.1%	138 44.1%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?										
ない	89 62.7%	17 63.0%	28 68.3%	134 63.8%	0.80	89 62.7%	83 66.4%	32 69.6%	204 65.2%	0.65
ある	53 37.3%	10 37.0%	13 31.7%	76 36.2%		53 37.3%	42 33.6%	14 30.4%	109 34.8%	
過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験										
ない	58 40.8%	12 44.4%	17 41.5%	87 41.4%	0.94	58 40.8%	58 46.4%	18 39.1%	134 42.8%	0.57
ある	84 59.2%	15 55.6%	24 58.5%	123 58.6%		84 59.2%	67 53.6%	28 60.9%	179 57.2%	
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか?										
意図なし	39 27.5%	6 22.2%	10 24.4%	55 26.2%	0.82	39 27.5%	41 32.8%	14 30.4%	94 30.0%	0.64
意図あり	103 72.5%	21 77.8%	31 75.6%	155 73.8%		103 72.5%	84 67.2%	32 69.6%	219 70.0%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか?										
いつも持っていた	71 50.0%	15 55.6%	26 63.4%	112 53.3%	0.53	71 50.0%	64 51.2%	23 50.0%	158 50.5%	0.96
時々持っていた	36 25.4%	7 25.9%	6 14.6%	49 23.3%		36 25.4%	35 28.0%	12 26.1%	83 26.5%	
持っていなかった	35 24.6%	5 18.5%	9 22.0%	49 23.3%		35 24.6%	26 20.8%	11 23.9%	72 23.0%	
過去6ヶ月間の併用品										
なし	117 82.4%	22 81.5%	35 85.4%	174 82.9%	0.55	117 82.4%	104 83.2%	39 84.8%	260 83.1%	0.79
ぼつき薬のみ	11 7.7%	4 14.8%	4 9.8%	19 9.0%		11 7.7%	10 8.0%	5 10.9%	26 8.3%	
ドラッグ併用	14 9.9%	1 3.7%	2 4.9%	17 8.1%		14 9.9%	11 8.8%	2 4.3%	27 8.6%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況										
非常用	74 52.1%	15 55.6%	21 51.2%	110 52.4%	0.93	74 52.1%	74 59.2%	25 54.3%	173 55.3%	0.50
常用	68 47.9%	12 44.4%	20 48.8%	100 47.6%		68 47.9%	51 40.8%	21 45.7%	140 44.7%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか?										
使用	85 59.9%	21 77.8%	33 80.5%	139 66.2%	0.02	85 59.9%	87 69.6%	33 71.7%	205 65.5%	0.16
不使用	57 40.1%	6 22.2%	8 19.5%	71 33.8%		57 40.1%	38 30.4%	13 28.3%	108 34.5%	

表5 大阪府・大阪市・chatCAST なんば別 性的指向3群-MSM以外男性・女性・MSM（月別：2014年1月～2016年9月）

	2014年													2015年													2016年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計			
大阪市	N	256	237	246	287	264	255	257	239	196	207	166	162	2772	181	203	126	132	128	151	112	154	149	209	230	167	1942	155	213	213	185	221	285	283	299	286	2140		
MSM以外の男性	128	123	101	138	122	122	128	112	98	97	87	89	1345	98	90	59	62	67	72	45	78	62	108	118	85	944	87	106	106	93	120	136	131	155	148	1082			
	50.0%	51.9%	41.1%	48.1%	46.2%	47.8%	49.8%	46.9%	50.0%	46.9%	52.4%	54.9%	48.5%	54.1%	44.3%	46.8%	47.0%	52.3%	47.7%	40.2%	50.6%	41.6%	51.7%	51.3%	50.9%	48.6%	56.1%	49.8%	49.8%	50.3%	54.3%	47.7%	46.3%	51.8%	51.7%	50.6%			
女性	79	64	89	72	71	67	67	66	54	57	47	35	768	44	67	42	38	38	44	34	47	43	53	57	57	564	40	57	45	34	47	79	80	73	87	542			
	30.9%	27.0%	36.2%	25.1%	26.9%	26.3%	26.1%	27.6%	27.6%	27.5%	28.3%	21.6%	27.7%	24.3%	33.0%	33.3%	28.8%	29.7%	29.1%	30.4%	30.5%	28.9%	25.4%	24.8%	34.1%	29.0%	25.8%	26.8%	21.1%	18.4%	21.3%	27.7%	28.3%	24.4%	30.4%	25.3%			
MSM	42	34	37	49	54	44	43	41	33	32	24	21	454	28	23	16	19	11	24	24	17	30	31	38	15	276	20	33	36	36	37	45	51	53	38	349			
	16.4%	14.3%	15.0%	17.1%	20.5%	17.3%	16.7%	17.2%	16.8%	15.5%	14.5%	13.0%	16.4%	15.5%	11.3%	12.7%	14.4%	8.6%	15.9%	21.4%	11.0%	20.1%	14.8%	16.5%	9.0%	14.2%	12.9%	15.5%	16.9%	19.5%	16.7%	15.8%	18.0%	17.7%	13.3%	16.3%			
不明(性別がその他また)	7	16	19	28	17	22	19	20	11	21	8	17	205	11	23	9	13	12	11	9	12	14	17	17	10	158	8	17	26	22	17	25	21	18	13	167			
	2.7%	6.8%	7.7%	9.8%	6.4%	8.6%	7.4%	8.4%	5.6%	10.1%	4.8%	10.5%	7.4%	6.1%	11.3%	7.1%	9.8%	9.4%	7.3%	8.0%	7.8%	9.4%	8.1%	7.4%	6.0%	8.1%	5.2%	8.0%	12.2%	11.9%	7.7%	8.8%	7.4%	6.0%	4.5%	7.8%			
大阪府	N	300	269	259	203	260	266	217	232	213	239	213	187	2858	210	212	215	189	151	212	186	195	174	192	171	209	2316	176	187	207	149	119	155	149	155	145	1442		
MSM以外の男性	183	169	144	127	155	129	134	129	124	131	140	108	1673	126	139	131	110	91	112	111	107	99	100	96	133	1355	95	113	120	92	74	97	88	77	78	834			
	61.0%	62.8%	55.6%	62.6%	59.6%	48.5%	61.8%	55.6%	58.2%	54.8%	65.7%	57.8%	58.5%	60.0%	65.6%	60.9%	58.2%	60.3%	52.8%	59.7%	54.9%	56.9%	52.1%	56.1%	63.6%	58.5%	54.0%	60.4%	58.0%	61.7%	62.2%	62.6%	59.1%	49.7%	53.8%	57.8%			
女性	94	83	92	59	81	99	64	88	64	85	46	60	915	61	57	65	61	39	77	48	71	58	69	52	57	715	59	56	59	36	29	43	41	55	48	426			
	31.3%	30.9%	35.5%	29.1%	31.2%	37.2%	29.5%	37.9%	30.0%	35.6%	21.6%	32.1%	32.0%	29.0%	26.9%	30.2%	32.3%	25.8%	36.3%	25.8%	36.4%	33.3%	35.9%	30.4%	27.3%	30.9%	33.5%	29.9%	28.5%	24.2%	24.4%	27.7%	27.5%	35.5%	33.1%	29.5%			
MSM	23	17	21	17	23	35	18	15	23	22	26	18	258	21	15	18	17	21	21	26	16	16	23	22	19	235	21	16	27	21	16	13	20	23	17	174			
	7.7%	6.3%	8.1%	8.4%	8.8%	13.2%	8.3%	6.5%	10.8%	9.2%	12.2%	9.6%	9.0%	10.0%	7.1%	8.4%	9.0%	13.9%	9.9%	14.0%	8.2%	9.2%	12.0%	12.9%	9.1%	10.1%	11.9%	8.6%	13.0%	14.1%	13.4%	8.4%	13.4%	14.8%	11.7%	12.1%			
不明(性別がその他または不明)	0	0	2	0	1	3	1	0	2	1	1	1	12	2	1	1	1	0	2	1	1	1	0	1	0	11	1	2	1	0	0	2	0	0	2	8			
	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.4%	1.1%	0.5%	0.0%	0.9%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.9%	0.5%	0.5%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.5%	0.6%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.4%	0.6%			
chatCAST	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599		
なんば	MSM以外の男性	326	315	331	287	301	364	357	291	291	307	349	251	3770	279	243	277	258	270	278	275	278	269	263	297	349	3336	313	247	275	256	225	220	247	200	246	2229		
	53.4%	53.8%	50.8%	51.8%	53.0%	49.4%	53.0%	51.5%	51.7%	51.0%	54.4%	49.4%	51.9%	53.4%	47.2%	50.4%	50.2%	48.2%	46.0%	53.1%	50.8%	50.0%	44.4%	50.8%	52.2%	49.7%	51.1%	46.1%	49.4%	52.9%	47.2%	46.0%	46.0%	49.6%	47.8%	48.5%			
女性	166	159	191	125	167	215	175	172	172	163	150	136	1991	128	146	134	124	151	187	125	138	130	152	154	179	1748	161	155	123	117	119	112	119	83	121	1110			
	27.2%	27.2%	29.3%	22.6%	29.4%	29.2%	26.0%	30.4%	30.6%	27.1%	23.4%	26.8%	27.4%	24.5%	28.3%	24.4%	24.1%	27.0%	31.0%	24.1%	25.2%	24.2%	25.6%	26.3%	26.8%	26.0%	26.3%	28.9%	22.1%	24.2%	24.9%	23.4%	22.2%	20.6%	23.5%	24.1%			
MSM	106	94	120	128	90	144	126	95	93	115	132	107	1350	108	115	128	116	131	120	88	109	111	154	121	113	1414	127	113	138	102	122	132	155	107	133	1129			
	17.4%	16.1%	18.4%	23.1%	15.8%	19.5%	18.7%	16.8%	16.5%	19.1%	20.6%	21.1%	18.6%	20.7%	22.3%	23.3%	22.6%	23.4%	19.9%	17.0%	19.9%	20.6%	26.0%	20.7%	16.9%	21.1%	20.8%	21.1%	24.8%	21.1%	25.6%	27.6%	28.9%	26.6%	25.8%	24.5%			
不明(性別がその他または不明)	12	17	10	14	10	14	16	7	7	17	10	14	148	7	11	11	16	8	19	30	22	28	24	13	27	216	11	21	21	9	11	14	16	13	15	131			
	2.0%	2.9%	1.5%	2.5%	1.8%	1.9%	2.4%	1.2%	1.2%	2.8%	1.6%	2.8%	2.0%	1.3%	2.1%	2.0%	3.1%	1.4%	3.1%	5.8%	4.0%	5.2%	4.0%	2.2%	4.0%	3.2%	1.8%	3.9%	3.8%	1.9%	2.3%	2.9%	3.0%	3.2%	2.9%	2.8%			

表 6-1 大阪市 性的指向 3 群別 広報資材認知（四半期別：2014 年 1 月～2016 年 9 月、複数回答）

	MSM以外の男性												女性												MSM															
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年							
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月				
N	352	382	338	273	247	201	185	311	299	349	434		232	210	187	139	153	120	124	167	142	160	240		113	147	117	77	67	54	71	84	89	118	142					
大阪市ホームページ	35.2%	38.7%	44.1%	37.0%	43.7%	42.8%	47.6%	37.6%	47.8%	45.6%	47.9%		30.6%	32.4%	31.6%	36.0%	35.3%	48.3%	37.1%	44.9%	38.0%	38.1%	40.4%		38.9%	36.7%	37.6%	44.2%	40.3%	35.2%	38.0%	39.3%	34.8%	39.8%	40.8%					
大阪府ホームページ(PC用)	13.9%	15.2%	18.6%	13.6%	15.8%	16.9%	17.3%	18.6%	16.7%	16.6%	14.3%		9.9%	12.9%	11.8%	10.1%	7.8%	7.5%	6.5%	6.0%	10.6%	6.3%	10.0%		10.6%	15.6%	19.7%	13.0%	20.9%	9.3%	11.3%	11.9%	13.5%	10.2%	7.7%					
大阪府ホームページ(携帯用)	9.7%	7.3%	8.6%	10.3%	13.8%	15.4%	17.3%	14.1%	10.7%	16.6%	15.0%		14.2%	16.2%	16.0%	12.9%	20.3%	15.0%	28.2%	18.0%	19.7%	20.0%	21.7%		3.5%	4.1%	8.5%	10.4%	9.0%	16.7%	9.9%	13.1%	15.7%	15.3%	9.2%					
季刊誌 南界堂通信	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%		0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%		4.4%	2.7%	2.6%	0.0%	4.5%	5.6%	1.4%	4.8%	4.5%	8.5%	4.9%					
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	3.4%	2.6%	4.1%	4.4%	3.7%	3.5%	8.1%	4.2%	5.0%	4.0%	7.4%		5.6%	4.3%	4.8%	5.8%	7.9%	7.5%	6.5%	4.8%	5.6%	7.5%	5.8%		8.8%	10.2%	9.4%	11.7%	11.9%	24.1%	11.3%	11.9%	11.2%	13.6%	10.6%					
コミュニティセンター(dista)	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	2.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%		0.9%	0.5%	0.5%	1.4%	0.7%	1.7%	1.6%	0.6%	1.4%	1.3%	0.0%		13.3%	18.4%	9.4%	14.3%	10.4%	24.1%	18.3%	17.9%	21.3%	17.8%	16.9%					
HIV検査・相談マップ	17.6%	15.4%	11.2%	17.9%	14.2%	15.4%	18.9%	10.6%	13.4%	14.0%	14.7%		25.0%	20.0%	27.3%	14.4%	22.9%	23.3%	18.5%	15.6%	22.5%	16.3%	20.0%		26.5%	21.1%	27.4%	22.1%	34.3%	33.3%	15.5%	27.4%	21.3%	22.0%	19.0%					
おおさかエイズ情報NOWホームページ					6.5%	5.4%	4.5%		6.0%	5.4%	5.8%						7.5%	13.7%	3.6%		9.2%	11.3%	6.7%						18.5%	8.5%	7.1%		12.4%	10.2%	12.7%					
おおさかエイズ情報NOW冊子					1.0%	4.1%	3.7%		5.0%				2.4%	4.3%	4.3%		8.1%								1.4%	6.8%	7.8%		19.7%											
やる!プロジェクト					0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%						0.0%	0.8%	0.0%		0.7%	0.6%	0.0%						0.0%	0.0%	1.2%		7.9%	10.2%	12.7%					
エイズのはなし(大阪市)					11.4%	10.7%	9.5%	7.7%	1.2%				10.8%	15.2%	11.2%	6.5%	1.3%								28.3%	21.1%	23.9%	23.4%	1.5%											
エイズのはなし(大阪市)高校生のあなたに					2.0%	0.5%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.5%	1.0%	0.7%	1.1%	0.5%		2.2%	1.0%	1.1%	0.7%	0.0%	1.7%	4.8%	1.2%	0.7%	3.1%	0.0%		1.8%	3.4%	1.7%	2.6%	0.0%	3.7%	2.8%	2.4%	3.4%	1.7%	0.7%	
HIV検査啓発ポスター					5.7%	5.5%	4.1%	5.5%	4.5%	6.0%	5.9%	5.8%	4.3%	3.7%	5.5%		3.0%	5.2%	4.3%	4.3%	3.9%	5.0%	4.8%	3.6%	6.3%	1.9%	1.7%		5.3%	6.8%	10.3%	5.2%	4.5%	11.1%	1.4%	8.3%	6.7%	3.4%	5.6%	
青少年向けポスター					1.0%	0.5%	0.3%		0.3%	0.3%	0.2%						0.0%	0.8%	0.6%		0.7%	0.0%	0.4%						0.0%	1.4%	0.0%		0.0%	1.7%	0.7%					

* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる

表 6-2 大阪府 性的指向 3 群別 広報資材認知（四半期別：2014 年 1 月～2016 年 9 月、複数回答）

	MSM以外の男性												女性												MSM									
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年			2015年			2016年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
N	496	411	387	379	396	313	317	329	328	263	243	269	239	216	191	183	177	177	178	174	108	144	61	75	56	66	54	59	58	64	64	50	60	
大阪市ホームページ	1.6%	2.4%	2.3%	3.7%	4.0%	4.8%	3.5%	3.3%	2.4%	3.4%	2.9%	2.2%	2.9%	1.4%	3.7%	3.8%	1.1%	4.0%	4.5%	4.0%	2.8%	4.9%	0.0%	8.0%	5.4%	7.6%	5.6%	3.4%	10.3%	4.7%	7.8%	6.0%	1.7%	
大阪府ホームページ(PC用)	12.9%	16.8%	16.3%	17.2%	15.4%	17.9%	15.5%	15.8%	13.4%	18.3%	18.9%	12.3%	10.0%	11.1%	11.0%	16.9%	10.7%	15.8%	11.8%	15.5%	10.2%	12.5%	9.8%	10.7%	17.9%	22.7%	9.3%	25.4%	24.1%	17.2%	21.9%	20.0%	25.0%	
大阪府ホームページ(携帯用)	3.4%	5.6%	5.9%	6.9%	6.6%	6.4%	7.6%	5.8%	8.2%	5.7%	7.4%	7.8%	7.9%	8.3%	6.8%	9.3%	10.2%	6.2%	7.9%	6.3%	7.4%	6.3%	3.3%	10.7%	8.9%	10.6%	5.6%	8.5%	3.4%	9.4%	7.8%	6.0%	6.7%	
季刊誌 南界堂通信	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	1.6%	2.7%	1.8%	0.0%	3.7%	6.8%	1.7%	3.1%	4.7%	2.0%	3.3%	
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	3.6%	4.4%	3.4%	2.2%	3.0%	3.5%	2.5%	3.3%	4.3%	0.8%	2.1%	2.6%	5.0%	3.7%	4.3%	6.0%	6.2%	4.5%	3.9%	1.7%	2.8%	4.2%	9.8%	8.0%	14.3%	0.0%	1.9%	15.3%	12.1%	12.5%	15.6%	10.0%	0.0%	
コミュニティセンター(dista)	0.0%	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.6%	0.4%	0.8%	0.4%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.6%	0.0%	0.0%	14.8%	6.7%	8.9%	10.6%	9.3%	16.9%	13.8%	15.6%	12.5%	16.0%	13.3%	
HIV検査・相談マップ	27.8%	28.5%	31.5%	25.7%	24.2%	28.8%	23.0%	25.5%	23.8%	20.5%	26.7%	42.0%	28.0%	29.2%	30.5%	31.7%	35.6%	29.4%	27.5%	26.4%	26.9%	25.7%	54.1%	48.0%	44.6%	45.5%	48.1%	47.5%	43.1%	56.3%	32.8%	26.0%	46.7%	
おおさかエイズ情報NOWホームページ	3.8%	4.1%	5.2%	4.9%	7.3%	7.3%	8.2%	8.2%	4.3%	8.4%	2.9%	2.2%	4.6%	1.9%	4.3%	6.6%	5.1%	6.8%	6.7%	3.4%	1.9%	3.5%	1.6%	6.7%	3.6%	3.0%	3.7%	10.2%	13.8%	10.9%	9.4%	4.0%	3.3%	
おおさかエイズ情報NOW冊子	1.2%	2.6%	2.2%	3.0%	2.2%	3.2%	4.9%	3.7%	3.4%	1.2%	0.8%	5.1%	4.3%	6.0%	4.0%	6.8%	5.6%	3.4%	6.5%	1.4%	4.0%	0.0%	0.0%	1.9%	5.1%	3.4%	3.1%	12.5%	2.0%	6.7%				
やる!プロジェクト					0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	1.2%					0.0%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%								1.7%	3.4%	1.6%	6.3%	10.0%	11.7%	
保健所ホームページ	43.1%	42.6%	41.1%	39.6%	37.1%	40.6%	43.8%	40.7%	41.2%	42.6%	45.7%	39.8%	40.2%	43.5%	35.1%	42.1%	44.6%	41.2%	49.2%	37.9%	36.1%	37.5%	52.5%	41.3%	46.4%	48.5%	59.3%	37.3%	46.6%	46.9%	39.1%	46.0%	36.7%	
大阪府くまカード	0.4%	0.2%	0.5%	1.1%	0.8%							0.7%	0.8%	0.5%	3.1%	0.5%							0.0%	0.0%	1.8%	1.5%	0.0%							
アイヤン	0.6%	1.0%	0.8%	0.8%	0.3%	1.6%	0.3%	1.5%	1.5%	0.8%	1.2%	0.7%	0.4%	2.3%	1.0%	0.5%	2.8%	3.4%	4.5%	3.4%	1.9%	4.2%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	3.7%	1.7%	3.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	

* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる

表 6-3 chotCAST なんば 性的指向 3 群別 広報資材認知 (四半期別: 2014 年 1 月~2016 年 9 月、複数回答)

	MSM以外の男性												女性								MSM															
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	
N	972	952	939	907	799	806	822	909	835	701	693		516	507	519	449	408	462	393	485	439	348	323		320	362	314	354	351	367	308	388	378	356	395	
大阪市ホームページ	16.0%	16.5%	18.2%	19.1%	18.3%	18.2%	17.9%	17.5%	18.0%	17.0%	18.3%		16.1%	17.6%	17.5%	18.9%	13.5%	14.7%	14.2%	16.1%	11.4%	18.4%	18.6%		14.4%	13.3%	13.7%	15.8%	14.2%	15.3%	13.6%	13.9%	14.0%	12.9%	15.7%	
大阪府ホームページ(PC用)	13.6%	15.1%	14.9%	14.9%	13.0%	12.8%	12.4%	12.2%	9.8%	10.7%	9.1%		9.5%	7.9%	7.9%	6.9%	7.4%	5.4%	4.6%	5.4%	6.2%	6.0%	5.3%		10.0%	11.0%	11.8%	10.5%	9.7%	7.1%	7.5%	10.3%	6.1%	7.6%	6.3%	
大阪府ホームページ(携帯用)	7.3%	9.1%	8.6%	7.8%	7.5%	8.8%	8.0%	10.6%	7.7%	10.0%	11.5%		9.9%	11.2%	10.4%	9.8%	13.7%	13.2%	8.7%	10.9%	12.3%	9.5%	9.9%		3.8%	6.6%	4.8%	7.6%	6.8%	5.4%	9.4%	5.9%	5.0%	6.2%	4.3%	
季刊誌 南界堂通信	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%		0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%	0.4%	0.5%	0.4%	0.2%	0.3%	0.6%		1.6%	0.3%	1.9%	1.4%	3.4%	4.9%	6.8%	2.1%	4.2%	5.6%	3.3%	
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	38.8%	37.9%	37.4%	35.7%	44.1%	38.7%	42.6%	46.4%	41.2%	42.1%	39.2%		40.5%	39.6%	38.5%	41.6%	44.4%	43.1%	43.0%	43.1%	43.5%	43.7%	42.1%		41.9%	41.7%	43.0%	49.4%	50.1%	47.4%	55.5%	54.1%	54.0%	54.8%	56.7%	
コミュニティセンター(dista)	0.4%	0.5%	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.6%	0.6%	0.7%	0.3%	1.0%		0.4%	0.6%	0.2%	0.9%	0.0%	0.2%	1.0%	0.6%	1.4%	0.9%	0.9%		16.6%	16.0%	10.5%	13.0%	14.8%	15.3%	18.5%	14.9%	12.4%	18.0%	12.7%	
HIV検査・相談マップ	35.9%	34.6%	30.4%	28.4%	30.2%	28.9%	33.5%	29.6%	31.0%	26.2%	31.3%		42.1%	31.8%	33.5%	31.0%	33.1%	36.1%	36.1%	30.1%	29.8%	29.6%	35.9%		40.0%	43.9%	38.9%	36.4%	38.2%	37.3%	43.5%	43.3%	38.4%	34.6%	37.5%	
おおさかエイズ情報NOWホームページ					3.2%	3.6%	3.3%		3.8%	2.1%	3.8%						4.3%	2.8%	4.5%		3.6%	2.3%	3.4%						1.6%	3.6%	3.4%		3.7%	3.1%	2.3%	
おおさかエイズ情報NOW冊子	1.3%	2.6%	2.0%	3.0%									3.0%	1.7%	4.7%	3.9%									2.8%	2.5%	4.0%	1.7%								
やる!プロジェクト					0.1%	0.1%	0.1%		0.5%	0.0%	0.6%						0.2%	0.3%	0.0%		0.2%	0.0%	0.6%						3.0%	6.5%	2.8%		5.6%	14.6%	13.4%	
エイズのはなし(大阪市)	2.8%	4.0%	2.4%	3.1%	1.3%								2.5%	3.6%	2.5%	4.0%	1.0%								6.3%	5.8%	4.8%	2.5%	0.3%							
エイズのはなし(大阪市)高校生のあなたに	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	0.9%	0.4%	1.0%	1.3%		1.2%	0.2%	0.8%	1.3%	0.5%	0.9%	1.5%	3.3%	1.1%	0.3%	1.2%		0.9%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.8%	1.6%	0.8%	1.3%	0.8%	0.3%	
HIV検査啓発ポスター	5.1%	4.9%	5.0%	4.2%	5.4%	3.0%	3.2%	4.1%	3.5%	3.1%	2.3%		7.4%	6.7%	5.4%	4.9%	3.7%	4.8%	3.3%	3.3%	2.3%	2.9%	5.0%		5.9%	8.3%	8.6%	5.9%	8.3%	5.2%	6.2%	6.2%	4.8%	6.2%	5.1%	
青少年向けポスター					0.9%	0.5%	0.3%		1.0%	0.4%	0.6%						0.2%	1.0%	0.2%		0.7%	0.6%	0.3%						1.6%	1.0%	1.5%		1.1%	1.4%	0.3%	

* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる

表7 大阪府・大阪市・chotCAST なんば 介入機関別MSM割合の推移（上半期・下半期別：2014年1月～2016年9月、複数回答）

	2014年度				2015年度				2016年度		Pearson カイ2乗
	上半期		下半期		上半期		下半期		上半期		
大阪府保健所											
介入機関(4保健所：四条畷・岸和田・泉佐野・藤井寺)											
MSM以外	381	89.9%	339	91.6%	291	87.7%	298	87.6%	257	84.3%	0.04
MSM	43	10.1%	31	8.4%	41	12.3%	42	12.4%	48	15.7%	
合計	424	100.0%	370	100.0%	332	100.0%	340	100.0%	305	100.0%	
非介入機関(8保健所)											
MSM以外	879	90.9%	817	90.2%	699	90.2%	716	89.3%	505	89.1%	0.74
MSM	88	9.1%	89	9.8%	76	9.8%	86	10.7%	62	10.9%	
合計	967	100.0%	906	100.0%	775	100.0%	802	100.0%	567	100.0%	
大阪市保健福祉センター(3施設)											
MSM以外	1234	82.4%	901	86.2%	701	84.9%	1014	85.4%	1299	83.3%	0.05
MSM	264	17.6%	144	13.8%	125	15.1%	173	14.6%	260	16.7%	
合計	1498	100.0%	1045	100.0%	826	100.0%	1187	100.0%	1559	100.0%	
chotCASTなんば(SLN)											
MSM以外	2985	81.5%	2633	78.9%	1825	79.9%	1986	78.8%	1560	74.2%	<0.01
MSM	676	18.5%	705	21.1%	460	20.1%	533	21.2%	543	25.8%	
合計	3661	100.0%	3338	100.0%	2285	100.0%	2519	100.0%	2103	100.0%	

HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

研究分担者：佐野 貴子（神奈川県衛生研究所 主任研究員）

研究協力者：今井 光信（田園調布学園大学）、近藤 真規子（神奈川県衛生研究所）、
須藤 弘二（慶應義塾大学医学部）、加藤 真吾（慶應義塾大学医学部）、
星野 慎二（特定非営利活動団体 SHIP）、井戸田一朗（しらかば診療所）、
清水 茂徳（東日本国際大学）、杉浦 太一（株式会社 CINRA）、
市川 誠一（人間環境大学）

研究要旨

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」（<http://www.hivkensa.com>）の管理・運営を行った。本サイトによる情報提供の効果を調査するため、サイトアクセス解析と受検者および検査担当者へのアンケート調査を行った。

年間サイトアクセス数は、2015 年は 186 万件、2016 年は 151 万件となり、2016 年のアクセス数は 2015 年と比較して 19% 減となった。スマートフォンからの訪問数は、2015 年は 144 万件、2016 年は 122 万件であり、総アクセス数の約 8 割を占めた。訪問者別割合では新規訪問者が約 6 割、リピーターが約 4 割であり、一定数の複数回利用者の存在が分かった。月別アクセス数では、2015 年は 5 月から 10 月までは前年度を下回っていたが、11 月は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより前年度比 40% 増となったのに対し、2016 年は毎月 11~14 万件とほぼ横ばいであった。日別アクセス数でも、2015 年は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより、報道後 4 日間で約 9 万件のアクセスがあったが、2016 年は、11 月 30 日に STI/HIV 検査啓発資材（セーラームーン）の報道により一日に約 18,000 件のアクセスがあった以外には、突出してアクセス数が高い日は無かった。一日に 5,000 件を超えた日は、2015 年は年間を通して 107 日あったが、2016 年は 26 日しかなく、2016 年は国民に対して HIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、35% は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。

2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方に利用いただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されている HIV

検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

A. 研究目的

保健所等の HIV 検査相談施設の情報や HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、検査希望者への情報提供・受検サポートや HIV/エイズの理解促進を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>) の管理・運営を行った。また、アクセス解析やアンケート調査を行い、サイト利用状況等の調査を行った。

B. 研究方法

1. 新規情報掲載、情報修正作業

保健所等 HIV 検査相談施設で実施されている定期検査や不定期に実施される検査イベント情報、また、HIV・エイズに関する基礎知識等について、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(PC サイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイト) に掲載し、情報提供を行った。PC サイトは 2001 年 9 月に開設、携帯電話サイトは 2003 年 4 月に開設し、2009 年 10 月に PC サイトおよび携帯電話サイトともにリニューアルを行った。2013 年にはスマートフォンサイトを開設した。

定期のページ更新作業としては、2 月に新年度の検査日程等の情報確認のため、自治体等の詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、修正作業を行った。また随時の作業として、新規掲載、掲載情報修正、検査イベント情報の掲載等を行った。

また、2015 年度は、全ページにゲイ向け HIV 情報サイト「HIV マップ」

(<http://www.hiv-map.net>) と HIV 陽性者向けサイト「Futures Japan」

(<http://futures-japan.jp>) のリンクを設置した。2016 年度は外国語ページ(英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語)

の新規作成を行った。

2. サイト利用状況の調査 — Web 解析 —

本サイトのアクセス解析には「Google Analytics」を用いて、サイトアクセス数(年別、月別、日別)、情報端末別訪問数、新規・リピーター割合、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査し、利用者の動向、HIV/エイズ報道によるアクセス数の影響等を調査した。また、検索エンジン(Google、Yahoo! JAPAN、bing)での検索用語順位解析には「検索順位ツール GRC」を用い、HIV/エイズ関連キーワードによる検索順位を解析した。

3. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —

特設検査施設(MSM 対象検査会)の受検者および保健所 HIV/エイズ担当者に対しアンケート調査を実施し、サイトの活用状況を解析した。

C. 研究結果

1. 新規情報掲載、情報修正作業の状況

保健所等 HIV 検査相談施設の掲載数は、2015 年は 666 箇所、2016 年は 664 箇所であった(図 1)。検査イベント情報の掲載依頼は、2015 年は 157 件、2016 年は 186 件、情報修正依頼は、2015 年は 345 件、2016 年は 373 件であった。検査イベント情報の掲載依頼および情報修正依頼ともに、2016 年は 2015 年より 1~2 割依頼数が増加した。

新規事項としては、2015 年度には、全ページにゲイ向け HIV 情報サイト「HIV マップ」(<http://www.hiv-map.net>) と HIV 陽性者向けサイト「Futures Japan」(<http://futures-japan.jp>) のリンクを設置し、幅広い HIV 関連情報の提供に努めた(図 2)。

2016 年度は新たに外国語ページ(8 か国語 + やさしい日本語)を作成した(図 3)。内容とし

ては、HIV検査についての解説、検査施設紹介、電話相談リストの掲載を行った。

2. サイト利用状況の調査 - Web解析-

PCサイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイトでの2001年から2016年末の合計アクセス数は約1,702万件となった(図4)。年間サイトアクセス数は、2015年は186万件、2016年は151万件であり、2016年は2015年と比較して19%減となった。情報端末別では、スマートフォンからのアクセス数は、2015年は144万件で、総アクセス数に占める割合は78%、2015年は122万件、81%であった(図5)。2016年のアクセス数は2015年に比べて15%の減少となっていたが、スマートフォンの利用割合は増加していた。一方、PCからのアクセス数は、2016年は前年比27%減、携帯電話経由は55%減となり、どちらの端末も年々減少傾向が続いていることが分かった。訪問者別割合は、2015年は新規訪問者が59%、リピーターが41%、2016年は新規訪問者が63%、リピーターが37%で、約4割は複数回利用していることが分かった(図6)。月別アクセス数は、2015年では、5月から10月までは前年度を下回っていたが、11月は米国俳優のHIV感染公表のニュースにより前年度比40%増となった(図7)。2016年は毎月11~14万件とほぼ横ばいで推移し、突出してアクセス数が多い月は見られなかった。日別訪問数をみると、2015年で一番アクセス数が多かった日は、11月18日の米国俳優感染公表のニュース関連で36,946件、次いで、5月28日のエイズ動向委員会報告関連で28,144件、11月24日のエイズ動向委員会報告関連で17,918件であった(図8)。米国俳優のHIV感染公表のニュースでは、前日のアクセス数は5,123件であったが、ニュース当日の11月17日の日別アクセス数は24,702件と前日比約5倍増、翌日の11月18日は36,946件と約7倍増、11月19日は15,059件、11月20日は10,314件であり、本ニュース関連で約9

万件のアクセスが見られた。2016年で一番アクセス数が多かった日は、11月30日のSTI/HIV検査啓発資材(セーラームーン)の報道で18,178件であった。この啓発資材にはHIV検査・相談マップのサイトアドレスも掲載された(図9)。一日に5,000件を超えた日は、2015年は年間を通して107日あったが、2016年は26日と4分の1に減少した。

都道府県別のアクセス数では、2015年、2016年ともに東京都が最も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼玉県、兵庫県と続き、ほぼ人口順であった(図10、11)。

参照元からのアクセス数を見たところ、2015年、2016年ともにGoogle検索からのアクセスが一番多く、続いてYahoo! JAPAN検索、直接アクセスとなった(図12、13)。2016年のチャンネル別のアクセス割合を見ると、検索エンジンからのアクセスが77%、直接アクセスが12%、他サイトからのアクセスが11%、SNSからのアクセスが0.5%であった(図14)。他サイトのリンク元からのアクセス数をみると、2016年は「はじめての性病検査(<http://self-medical.info/>)」から約4.9万件と最も多かった(図15)。また、ゲイ向けサイトが上位10位中5サイトあり、MSMの方にも利用されていることが示唆された。公共サイトに限ってリンク元を見たところ、「東京都福祉保健局(<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>)」が5,502件、「東京都南新宿検査相談室(<http://www2.tmsks.jp/>)」が1,489件と多かった(図16)。

検索エンジン(Google、Yahoo! JAPAN、bing)の2016年12月での検索用語別表示順位を調べたところ、検索用語が「HIV」では1位、「エイズ」では2~3位であったが、「AIDS」では15位であった(図17)。「AIDS」と「検査」の検索用語を組み合わせると1位となった。

サイト内の「お問い合わせ」フォームからの問い合わせ内容としては、2015年、2016年とも

に、受検した検査施設の不安、苦情、要望（注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない等）やHIV検査を受けるにあたっての質問（結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検）が多く、その他、リンク・アドレス紹介・内容引用希望、検査結果の解釈について等があった（図18、19）。

3. サイト活用状況の解析 —アンケート調査—

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、2015年9月から2016年12月に特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどのように得たかを聞いたところ、SHIPのホームページからが53%、HIV検査・相談マップからが35%、9モンスター（MSM向けサイト）が14%であった（図20）。

全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に訊ねた。「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、

「ある」との回答は、保健所では2015年は92%、2016年は94%、特設検査施設では2015年、2016年ともに100%であった（図21-24）。「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」との回答は保健所では2015年は77%、2016年は81%、特設検査施設では2015年は95%、2016年は100%であった（図25-28）。「当サイトを見て受検した方はいるか」については2015年のみ質問したところ、「いる」が保健所では22%、特設検査施設では75%であった（図29、30）。「いる」と回答した保健所、特設検査施設の123箇所中、受検者の50%以上が当サイトをみて受検したと回答した施設が16箇所あった。

D. 考察

2015年度は、全ページにゲイ向けHIV情報サイト「HIV マップ」とHIV陽性者向けサイト「Futures Japan」のリンクを設置し、幅広いHIV関連情報の提供に努めた。2016年度は、

外国人の方へも広く日本のHIV検査情報を提供できるよう、外国語ページの作成を行った。今後、利用状況把握のためにアクセス数等を注視していきたい。

年間サイトアクセス数は、2015年は186万件、2016年は151万件であり、2016年は2015年と比較して19%減となった。月別アクセス数では、2015年では、5月から10月までは前年度を下回っていたが、11月は米国俳優のHIV感染公表のニュースにより前年度比40%増となったのに対し、2016年は毎月11~14万件とほぼ横ばいであった。日別アクセス数でも、2015年は米国俳優のHIV感染公表のニュース当日である11月17日の日別アクセス数は24,702件、翌日の11月18日は36,946件となり、本ニュース関連で約9万件的アクセスの増加があった。2016年は、11月30日にSTI/HIV検査啓発資材（セーラームーン）の報道で一日に約18,000件のアクセスがあった以外には、突出してアクセス数が高い日は無かった。2015年は年間を通して、5,000件を超えた日は107日あったが、2016年は26日しかなく、2016年は国民に対してHIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

参照元からのアクセス数をみると、検索エンジンからのアクセス数が全体の77%を占めており、「HIV」や「エイズ」の検索キーワードで高順位に表示されることから、本サイトへのアクセス誘導に結びついていると思われた。また、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置していただいているサイトからのアクセス数もあることから、MSMの利用率が高いサイトにバナーを設置してもらうことで、感染リスクの高い層へのアプローチが可能になると考えた。

サイト内の「お問い合わせ」フォームへの問い合わせ内容では、受検した検査施設の不安や苦情やHIV検査を受けるにあたっての質問が多かった。問い合わせに関しては、可能な限り研究班から発信者に返信を行い、正確

な情報の提供と過剰な不安の軽減に努めた。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどこで得たかを調査したところ、SHIPのホームページを直接見て情報を入手した方が53%であったが、当サイトから情報を入手した方も35%いた。このことから、MSMの方も当サイトを利用してHIV検査を受けていることが分かった。また、全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、2016年の調査において「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所は94%、特設検査施設は100%、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所81%、特設検査施設100%であり、当サイトは自治体HIV/エイズ担当者に認知されており、HIV検査相談事業に寄与していることが示唆された。

2001年の開設から2016年末で1,702万アクセスを超え、現在も多くの方に当サイトを利用していただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでもHIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されているHIV検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新のHIV検査情報を提供していくとともに、更なるHIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

E. 結論

ホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等HIV検査相談施設の最新情報やHIV検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。

2016年はサイトへの訪問数が約151万件と前年比2割減となったことから、HIV/エイズへの関心の低下が危惧される。アンケート調査結果からは受検者と保健所担当者の双方が当サイトを活用していることが分かり、当サイトの保健所HIV検査相談事業への寄与が示唆された。本サイトアドレスは日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等にも多方面で紹介されており、行政的にも非常に有効利用されていると考える。

F. 発表論文等

1. 論文

- 1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信. HIV無料・匿名検査相談の役割—保健所等HIV無料・匿名検査相談施設におけるHIV検査の現状と課題—, 日本エイズ学会誌, 17:125-132, 2015.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. HIV郵送検査の現状と展望. 日本エイズ学会誌, 17:138-142, 2015.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一. HIV検査・相談マップを用いたHIV検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016年11月24-26日, 鹿児島.
- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、

- 今井光信、加藤真吾. 中国のMSM間で大流行しているHIV-1 CRF01_AE variantの日本国内への拡散. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島.
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島.
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2015). 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島.
- 5) 加藤真吾、須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、藤原 宏、長谷川直樹. CDCが推奨するHIV検査手順の検討とHIV-1/2鑑別検査キットGeeniusの検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾. 民間検査センターにおけるHIV検査の実施状況に関する調査. 第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年11月30日-12月1日、東京.
- 7) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信. 新規HIV感染者における年次別感染初期割合の推移. 第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年11月30日-12月1日、東京.

図1

ホームページの施設情報、検査イベント情報、 情報修正依頼件数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
掲載依頼						
施設情報	645	663	664	666	666	664
検査イベント情報	111	173	200	177	157	186
情報修正依頼	379	377	462	591	345	373

図3

外国語ページの作成

- 英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語で作成

外国語対応	英語	ポルトガル語	スペイン語	タイ語	中国語	タガログ語	韓国語	ベトナム語	やさしい日本語
HIV検査について の解説	説明文と図	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	説明文と図
検査施設紹介	8か所	2か所	3か所	3か所	1か所	1か所	3か所	1か所	×
電話相談	8か所	3か所	3か所	4か所	1か所	2か所	1か所	1か所	×

図1：HIV検査の受付から結果を聞くまで
図2：HIV検査の流れ（通常検査、即日検査）

図2

HIV検査相談アプリ
検索条件から探す
検索履歴
検査・相談窓口
検査結果
HIV検査の
検査結果の
検査結果の
検査結果の
検査結果の

HIV検査相談アプリ
検索条件から探す
検索履歴
検査・相談窓口
検査結果
HIV検査の
検査結果の
検査結果の
検査結果の
検査結果の

**トップページに
HIVマップとFutures Japan
へのリンクバナーを作成**

<HIVマップ(トップページ)>
HIVマップ
Pick UP II!!
Pick UP II!!
Pick UP II!!

**<Futures Japan
(陽性とわかったばかりの人へ)>**

Futures Japan
HIV陽性者のための総合情報サイト
Pick Up
Pick Up
Pick Up

図4

サイトアクセス数 (2001年-2016年)

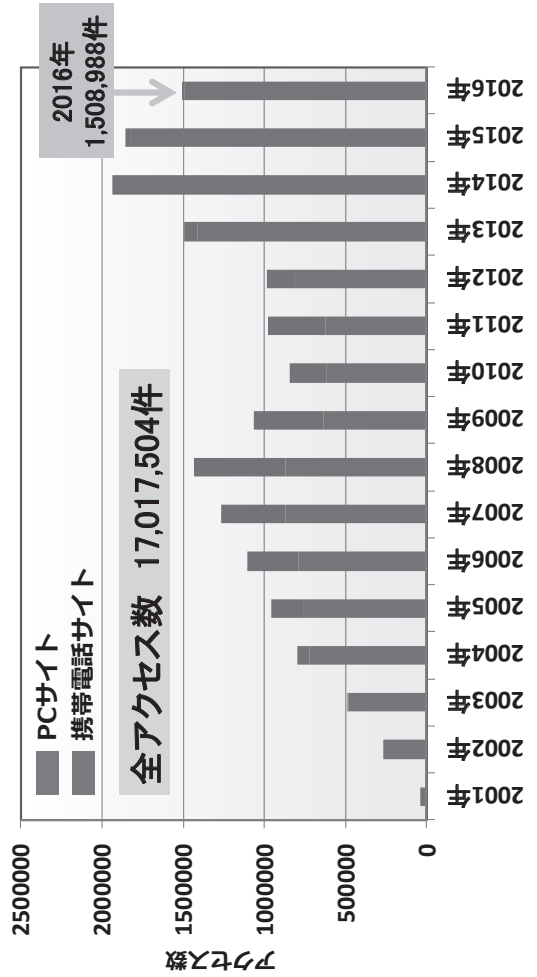


図5

情報端末別訪問数の推移(2010年~2016年)

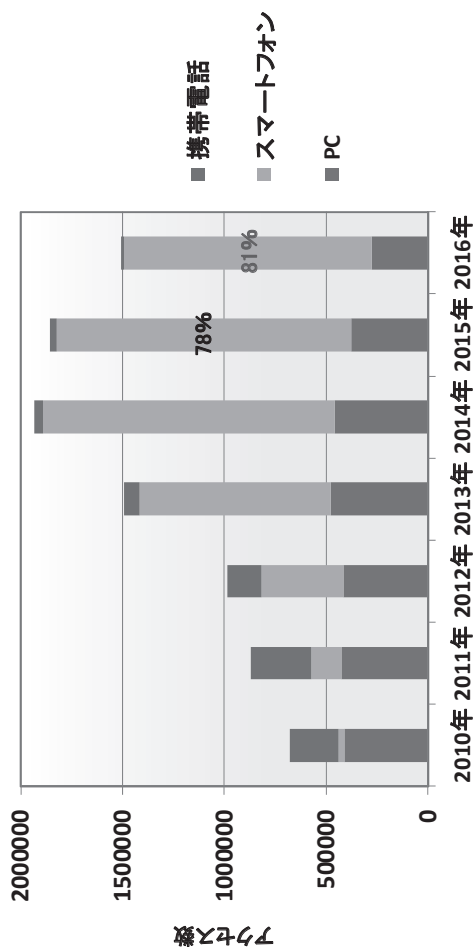


図6

訪問者(新規・リピーター)割合

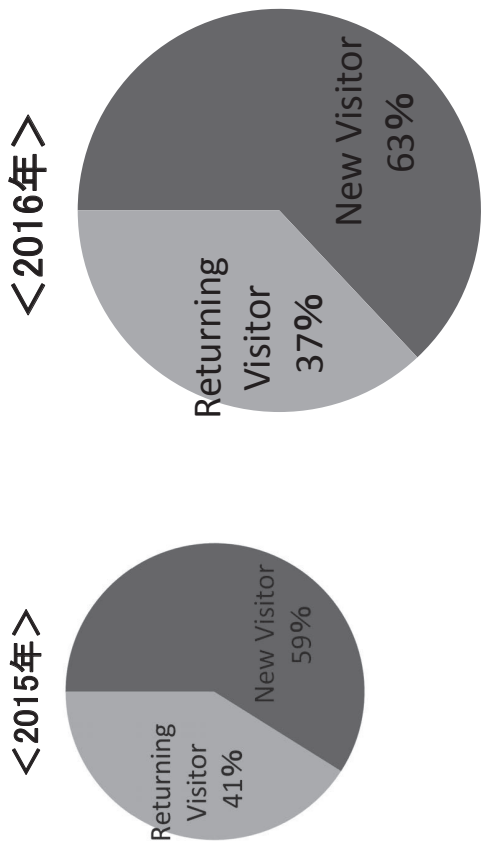


図7

月別アクセス数の推移(2011年~2016年)

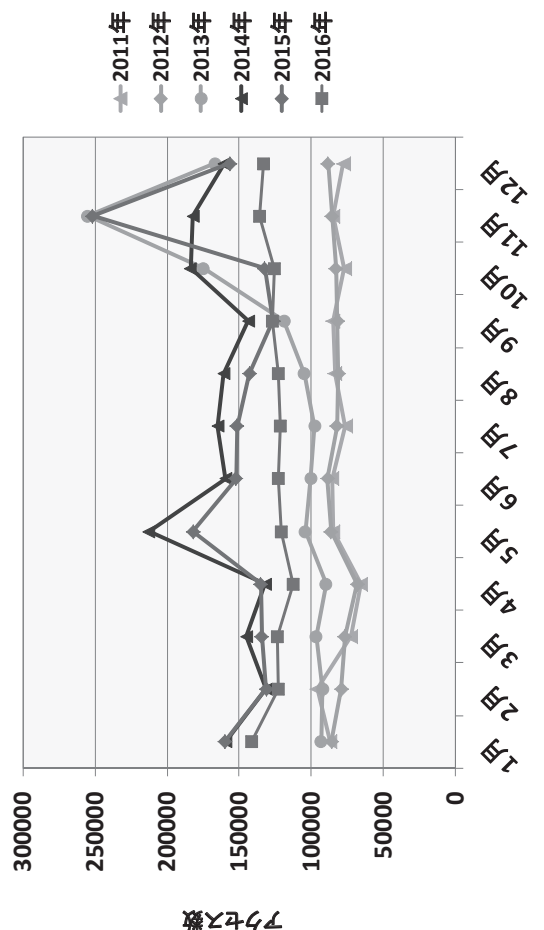


図8

日別訪問数(2015年、2016年)

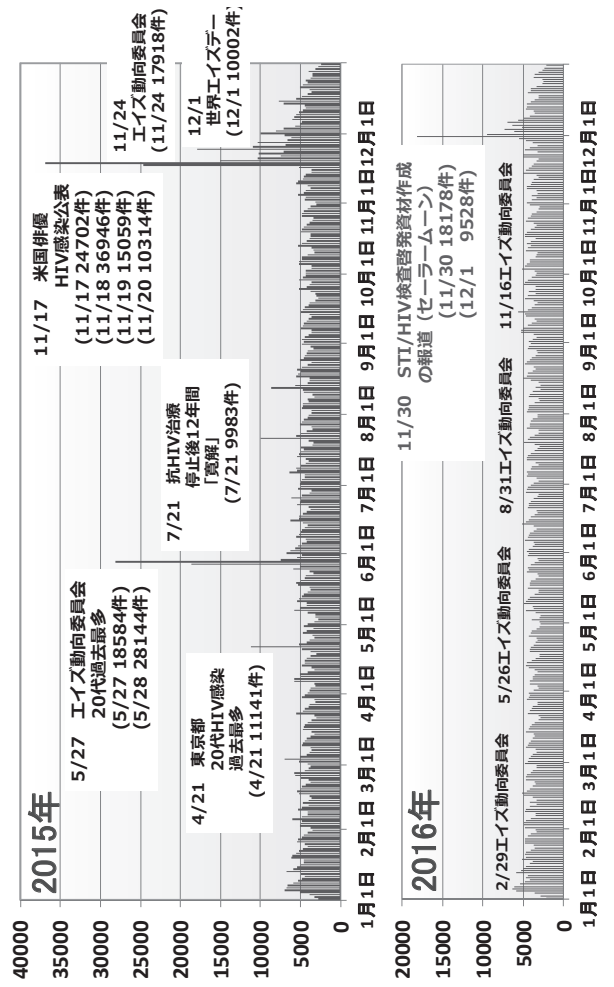


図9

STI/HIV検査啓発資材での
サイトアドレシ紹介
(厚生労働省結核感染症課)
2016年11月21日

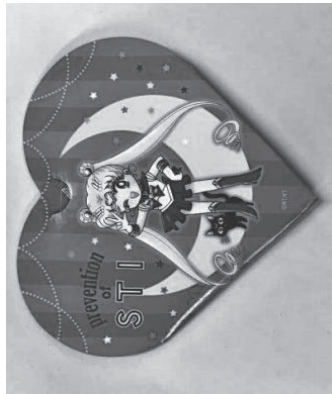


図10

検索都道府県別アクセス数 (2015年)

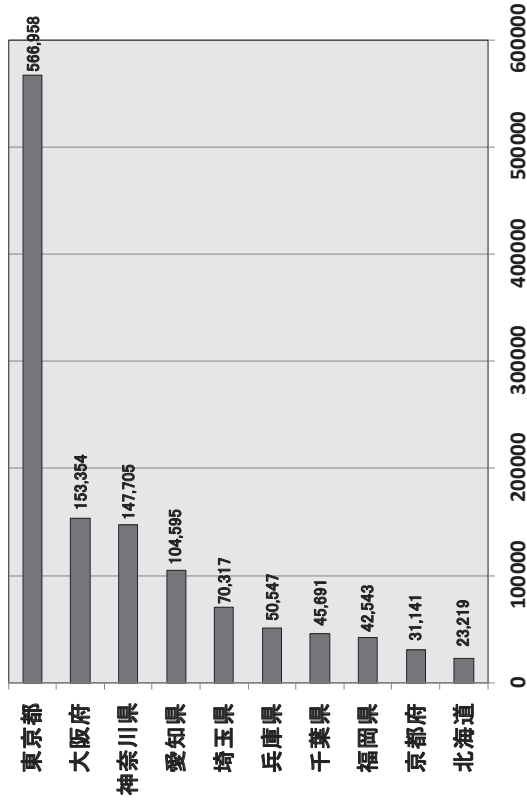


図11

検索都道府県別アクセス数 (2016年)

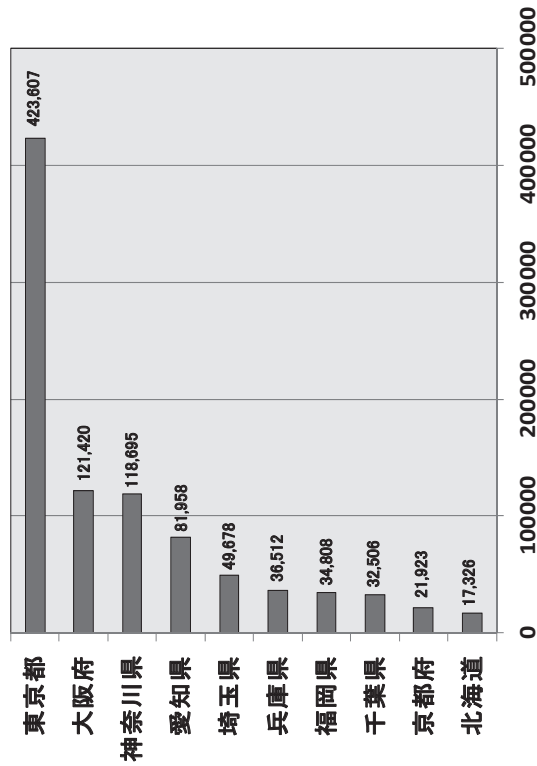


図12

参照元からのアクセス数 (2015年)

参照元	アクセス数
1 Google 検索	769,653
2 Yahoo! JAPAN 検索	549,740
3 Direct access	260,905
4 Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	61,358
5 はじめての性病検査 リンク	45,926
6 ドコモ 検索	22,406
7 bing 検索	20,292
8 au 検索	8,283
9 HIV感染症(エイズ)の検査・ 症状100問100答	6,389
10 東京都	5,039

図13

参照元からのアクセス数 (2016年)

参照元	アクセス数
1 Google 検索	706,162
2 Yahoo! JAPAN 検索	430,337
3 Direct access	173,607
4 はじめての性病検査 リンク	48,914
5 Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	20,836
6 bing 検索	20,118
7 ドコモ 検索	15,890
8 HIV感染症(エイズ)の検査・ 症状100問100答 リンク	13,348
9 東京都 リンク	5,502
10 au 検索	4,701

図14

チャネル別アクセス割合 (2016年)

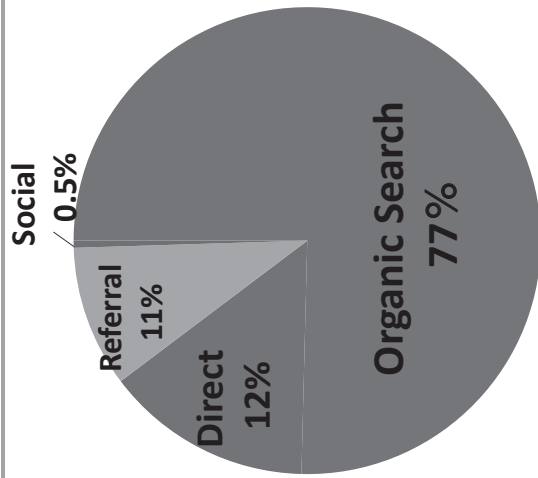


図15

リンク元からのアクセス数 (2016年)

参照元	アクセス数
1 はじめての性病検査	48,914
2 HIV感染症(エイズ)の検査・ 症状100問100答	13,348
3 東京都	5,502
4 KO MENS.TV *	3,433
5 Men's Net Japan *	1,908
6 G-men *	1,878
7 Twitter	1,537
8 東京都新宿検査相談室	1,489
9 日本赤十字社	1,280
10 ハッテンナビ 東京*	1,130
11 カナジヨ *	963

*ゲイ向け
サイト

図16

公共サイトからのアクセス数 (2016年)

参照元	アクセス数
1 東京都福祉保健局	5,502
2 東京都南新宿検査相談室	1,489
3 日本赤十字社	1,280
4 HIVマップ	855
5 エイズ予防情報ネット	694
6 神奈川県	614
7 大阪府	556
8 性の健康医学財団	550
9 横浜市	508
10 厚生労働省	437

図17

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語順位 (2016年12月)		
	HIV	エイズ	AIDS 検査
Google	1	2	15
Yahoo! JAPAN	1	2	15
bing	1	3	15

図19

問い合わせ件数・内容 (2016年)

2016 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	37件
受検した検査施設の不安、苦情、要望 (注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない)	9
HIV検査を受けるにあたっての質問 (結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検)	9
リンク・アドレス紹介、内容引用希望	8
検査結果の解釈について(HIV、HBV)	4
HIV検査・相談マップ紹介カード送付依頼	3
感染リスク・感染不安について	2
HIV陽性者の歯科受診について	1
郵送検査について	1

図18

問い合わせ件数・内容 (2015年)

2015 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	44件
HIV検査を受けるにあたっての質問 (住居地以外での検査、検査費用、子供の検査、薬の影響)	9
受検した検査施設の感想、不安、苦情 (職員の対応、注射針、手袋、検査結果の信頼性、結果返却)	8
掲載情報等の内容について	7
性的接触による感染リスクについて	4
当サイトの紹介(リンク)、掲載希望	4
感染リスクからの検査日までの期間による結果解釈について	3
HIV陽性判明後の通院・服薬等について	3
HIV/エイズの基本的な質問	2
性感染症検査の受検希望	2
保健所の検査体制について	2

図20

SHIP検査でのアンケート結果 (2015年9月～2016年12月)

Q. 当検査を何で知りましたか？(複数回答) (n=162)

情報収集手段	回答者数	回答率
SHIPのホームページ	86	53%
HIV検査・相談マップ	56	35%
9モンスター	23	14%
HIVマップ	10	6%
クチコミなど	8	5%
MNJ	5	3%
パンフレットなど	3	2%
Mixi	0	0%
HuGs	0	0%
Mens Mixi	0	0%
テレビ・新聞など	0	0%
電話相談など	0	0%

図21

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？（保健所）

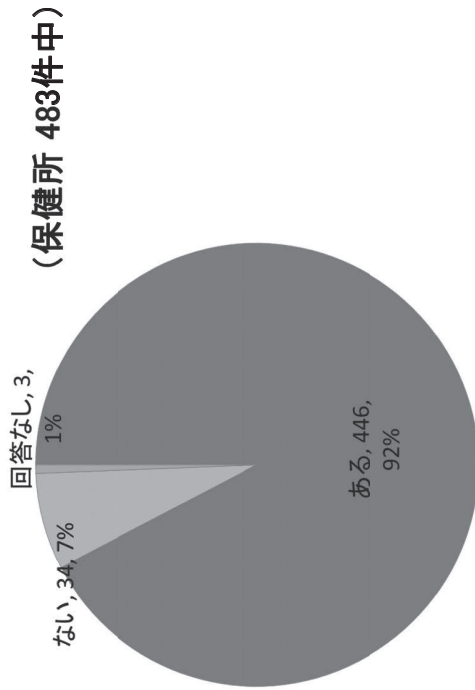


図22

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？（保健所）

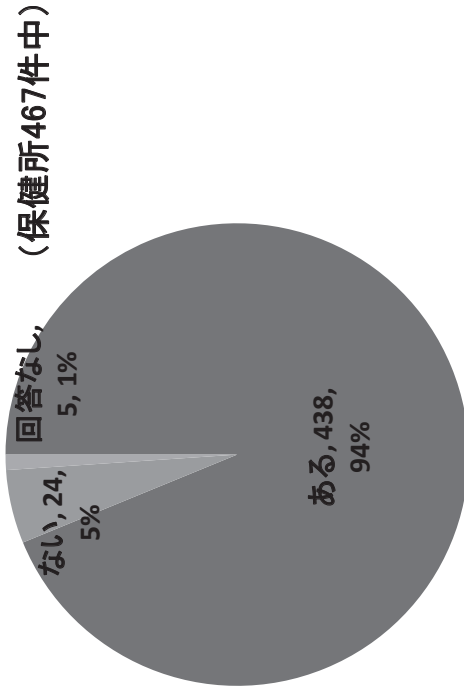


図23

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？（特設）

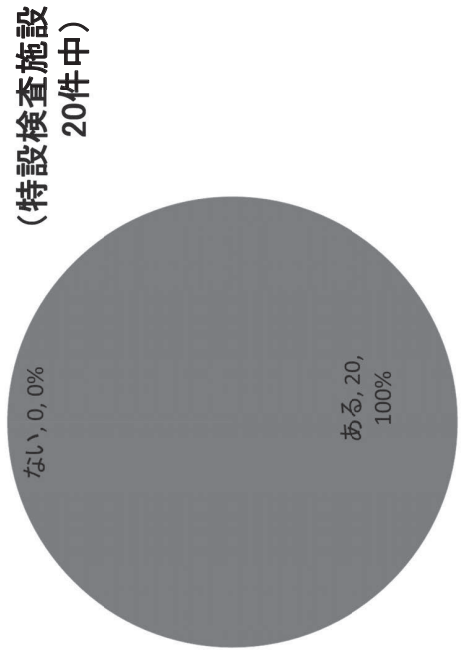


図24

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？（特設）

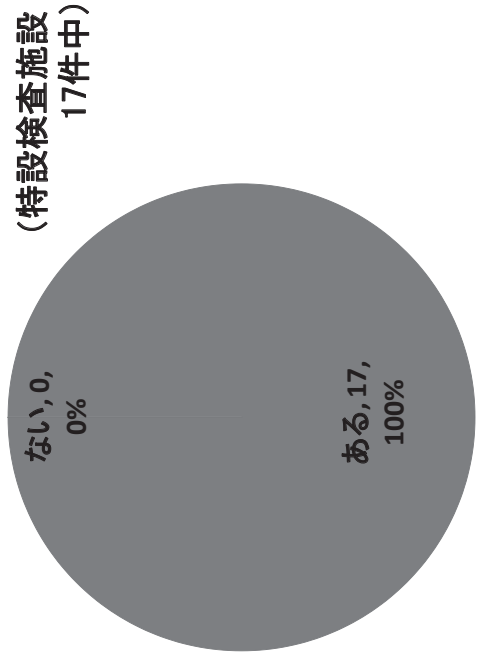


図25

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？（保健所）

(保健所 483件中)

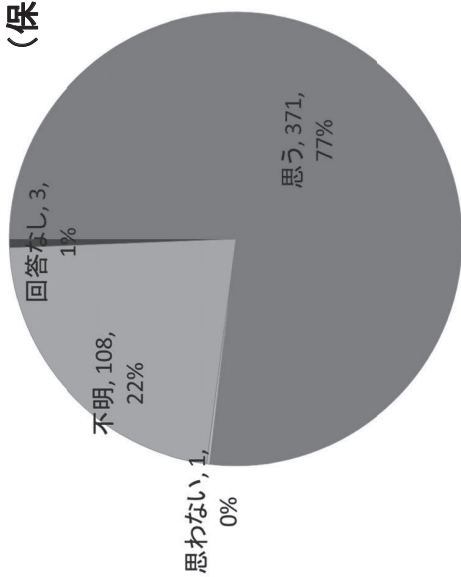


図26

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？（保健所）

(保健所467件中)

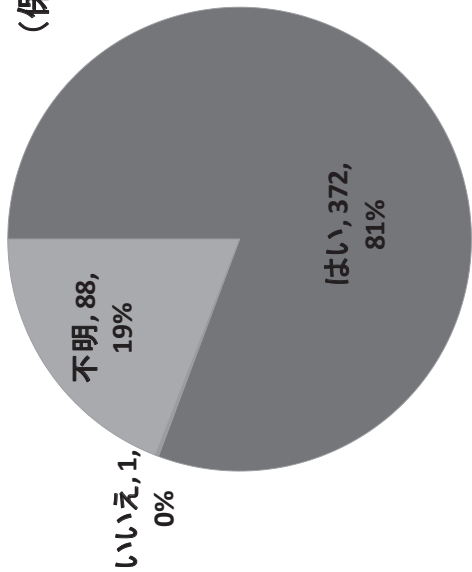


図27

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？（特設）

(特設検査施設
20件中)

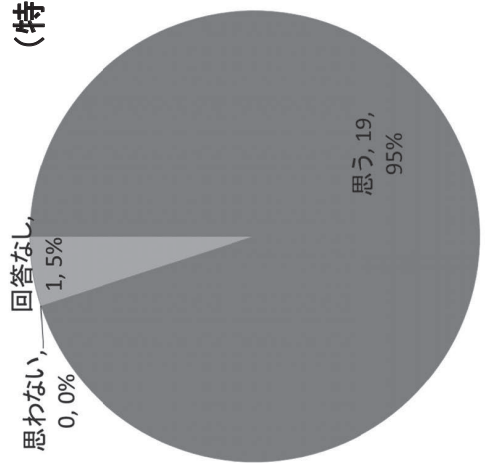


図28

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？（特設）

(特設検査施設
17件中)

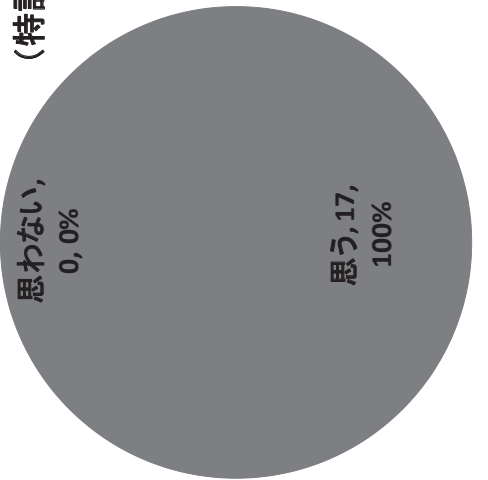


図29

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」から情報を得て
受検された方はいらっしゃいますか？（保健所）

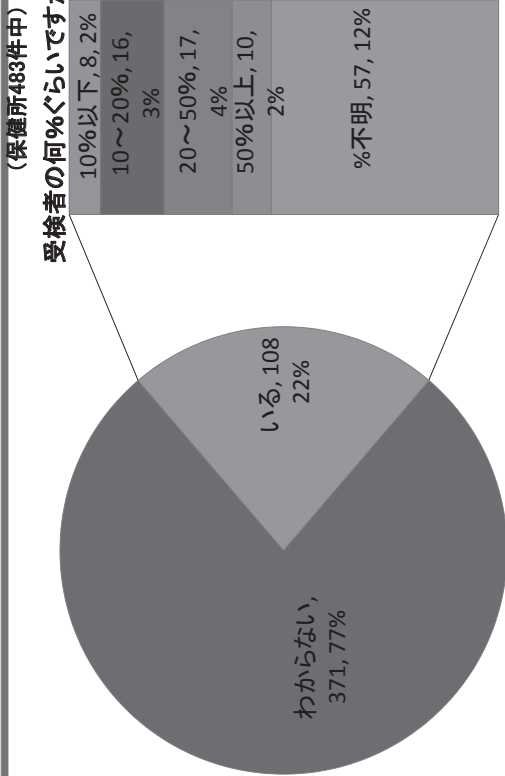
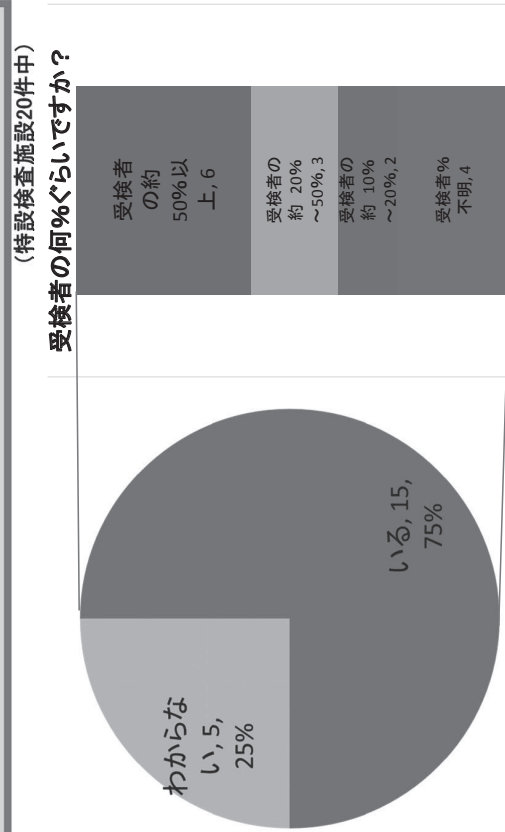


図30

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」から情報を得て
受検された方はいらっしゃいますか？（特設）



保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査

研究分担者	今井光信(田園調布学園大学 副学長)
研究協力者	近藤真規子、佐野貴子(神奈川県衛生研究所微生物部)、 大野理恵(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)、 須藤弘二、加藤真吾(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室)、 市川誠一(人間環境大学大学院看護学研究科)

研究要旨

HIV 感染者の対策を考える上でも、また、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査・相談に関するアンケート調査を平成 27 年度と平成 28 年度に実施した。なお、平成 28 年度には、梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。

1. 平成 27 年の結果

全国保健所アンケート調査では、565 保健所等施設のうち 484 施設(86%)から回答を得た。HIV 検査を実施している全国 483 施設で 87,856 件の HIV 検査が実施され、そのうち 254 件(0.29%)が陽性で、238 件(94%)が陽性結果を受け取り、その後 208 件(87%)が医療機関に受診していることが確認されていた。感染症法に基づく届け出は、陽性 254 件中 143 件(56%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、24 施設のうち 20 施設(83%)から回答があり、HIV 検査件数 24,412 件のうち陽性は 129 件(0.53%)で、121 件(94%)が結果を受け取り、このうち 113 件(93%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届け出は、129 件中 103 件(80%)が自施設からの報告であった。

2. 平成 28 年の結果

1) HIV 検査相談事業

全国の保健所・支所等 563 施設のうち 469 施設(83%)から回答を得た。HIV 検査相談を実施していた 467 施設で 75,584 件の HIV 検査が実施され、陽性 221 件(0.29%)のうち 209 件(95%)が陽性結果を受け取り、その後 162 件(78%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出は 221 件中 121 件(55%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、21 施設のうち 17 施設(81%)から回答があり、HIV 検査件数 22,183 件のうち陽性が 138 件(0.62%)で、そのうち 128 件(93%)に結果が伝えられ、その後 108 件(84%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 138 件中 119 件(86%)について自施設から報告が行われていた。

2) 梅毒検査

HIV 検査と共に梅毒検査を実施している保健所等施設は 469 施設中 327 施設(70%)で、特設検査相談施設では 17 施設中 6 施設(35%)であった。梅毒検査を行っている保健所の実施状況は、

HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 施設(84%)で、有料検査が 44 施設(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 施設(34%)、有料検査が 47 施設(14%)であった。HIV 検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

梅毒検査を実施していない保健所で実施可能となる条件としては、「自治体本庁の方針があれば」の回答が最も多く 94 施設(74%)、予算の増額 54 施設(43%)、マニュアルの配布 31 施設(24%)、職員の増員 31 施設(24%)、医療機関の協力・連携 24 施設(19%)等の意見であった。

3. まとめ

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。HIV 陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成 27 年が 56%、平成 28 年が 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。

近年の郵送検査等での HIV 受検件数の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についての検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

A. 目的

HIV 感染者の対策を考える上でも、また HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所およびその支所等(以下、保健所)、東京都南新宿 HIV 検査・相談施設等の特設検査相談施設(以下、特設検査相談施設)における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所および特設検査相談施設を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を平成 27 年度と平成 28 年度に実施した。平成 28 年度には HIV 検査に加えて、梅毒検査についても保健所等での実施状況を把握するため HIV 検査と同時にアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

全国の保健所の HIV 検査相談施設と特設 HIV 検査相談施設を対象に、HIV 検査相談及び梅毒検査(平成 28 年のみ)に関するアンケート調査票を郵送し、返送用封筒によりアン

ケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

1 月～12 月までの 1 年間のデータを解析するため、平成 27 年度は、全国の保健所およびその支所等 565 施設、特設検査相談施設 24 施設を対象に、平成 28 年 1 月 5 日にアンケート調査票を郵送し、平成 28 年 1 月 23 日を締め切り日とした。

平成 28 年度は、全国保健所およびその支所等 563 施設、特設検査相談施設 21 箇所を対象に、平成 29 年 1 月 4 日に HIV 検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成 29 年 1 月 20 日を締め切り日とした。

C. 研究結果

1. 保健所における HIV 検査件数および陽性判明の状況

平成 27 年(2015)、同 28 年(2016)の保健所からのアンケート調査集計結果を資料 1 に示した。

アンケート調査の回収率は、平成 27 年

85.7%、28年83.3%で、全国保健所・支所等のほぼ全体像を把握することができた。HIV検査を実施している保健所での検査件数は、平成27年87,856件、平成28年75,584件で、HIV陽性判明施設数は各々119施設(24.6%)、111施設(23.8%)で4施設に1施設の割合であった。また陽性件数は各年で254件、221件で両年共に0.29%の陽性率であった。

1)年間検査件数別保健所数およびその陽性率
年間検査数50件未満の保健所・支所等は両年共におよそ40%を占め、検査件数の占める割合は5%(およそ4,000件)と多くはないが、陽性率が全体の平均陽性率0.29%と大差はなく、それぞれの地域で一定の役割を果たしていることがわかった。

一方、年間検査数1,000件以上の保健所は平成27年11施設(2.3%)、28年9施設(1.9%)あり、検査件数は延べ18,249件(20.8%)、14,706件(19.5%)、陽性件数は66件、59件、陽性率はおよそ0.4%と全国平均0.29%に比べてかなり高い。これら保健所の検査施設のほとんどが東京、大阪、名古屋等の都市部にあり、感染リスクのより高い受検者の利用が多いためと思われる。

2)HIV検査結果の受け取り状況

HIV検査結果を受け取りに来なかった受検者は、保健所全検査件数のうち1.9%、2.4%で、検査結果が陽性であった者では平成27年6.3%、平成28年5.4%と、陰性であった者に比して多い傾向にあった。なお、即日検査と通常検査で比べると(表には示していない)、結果を受け取りに来なかった受検者率は、即日検査では1.1%(陰性例)と4.7%(陽性例)、通常検査では4.3%(陰性例)と7.3%(陽性例)で、即日に比べ通常検査では陰性時・陽性時の双方において結果を受け取りに来ない受検者の率が高い傾向にあった。

3)陽性者の医療機関受診の把握について

陽性者が医療機関を受診したかを把握する仕組みは、陽性経験のある保健所の80%程度

が有しているのに対して、陽性経験のない保健所では18%程度であった。

陽性結果の受け取り率は、平成27年93.7%、平成28年94.6%、そのうち医療機関を受診したことが把握できた割合は87.4%、77.5%であった。

4)感染症法に基づく届け出について

HIVの確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成27年は56.3%、同28年は54.8%の保健所の者が、保健所から報告が行われていた。残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していた。

2. 特設検査相談施設におけるHIV検査件数および陽性判明の状況

平成27年(2015)、同28年(2016)の特設検査相談施設からのアンケート調査集計結果を資料2に示した。

アンケート調査は、平成27年20施設(83.3%)、同28年17施設(81.0%)から把握することができた。特設検査相談施設での検査件数は、平成27年24,412件、平成28年22,183件で、HIV陽性判明施設数は各々14施設(70.0%)、13施設(76.5%)であった。また陽性件数は各年で129件(陽性率0.53%)、138件(同0.62%)であった。

1)年間検査件数別保健所数およびその陽性率
年間に1,000件以上の施設が5施設あり、これらの延べ検査件数が全体の67%、73%を占めていた。また、陽性件数も平成27年97件、同28年121件と大半を占め、陽性率は0.6%、0.74%と高かった。しかし、これよりも少ない年間検査件数の施設でも陽性率は保健所に比して高く、感染リスクの高い受検者が利用している可能性が示唆された。

2)HIV検査結果の受け取り状況

HIV検査結果を受け取りに来なかった受検者は、特設検査相談施設の全検査件数のうち1.5%、2.1%で、検査結果が陽性であった者では平成27年6.2%、平成28年7.2%と、保

健所と同様に、陰性であった者に比して多い傾向にあった。

3) 陽性者の医療機関受診の把握について

陽性者が医療機関を受診したかを把握する仕組みはほとんどの施設が有していた。

陽性結果の受け取り率は、平成 27 年 93.8%、平成 28 年 92.8%、そのうち医療機関を受診したことが把握できた割合は 93.0%、84.0%であった。

4) 感染症法に基づく届け出について

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 27 年は 79.8%、同 28 年は 86.2%の者について、自施設からの報告が行われていた。残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していた。

5) 保健所と特設検査相談施設での検査状況

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。

HIV 陽性判明件数のうち感染症発生动向に報告されたのは、保健所では平成 27 年が 56%、平成 28 年が 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。

3. HIV 検査以外の性感染症検査について

保健所において、HIV 検査と同時に性感染症検査を行っている施設は、平成 27 年 411 施設(85.1%)、同 28 年 415 施設(88.9%)であった。その内訳は、梅毒検査が最も多く(およそ 77%)、次いで B 型肝炎(およそ 75%)、C 型肝炎(およそ 72%)であった。クラミジア抗原、クラミジア抗体はおよそ 30%、淋菌は 10%程度であった。梅毒検査及び B 型肝炎と C 型肝炎のウイルス検査に関しては、70%を上回る施設で実施されていることが分かった。

特設検査相談施設で性感染症の検査を同時に実施していた施設は、平成 27 年 7 施設(35.0%)、同 28 年 8 施設(47.1%)で、その内訳は梅毒検査、B 型肝炎が多く、淋菌、C 型肝炎、クラミジアは少ない状況であった。

4. 受検者への対応に関する状況

平成 27 年と同 28 年では、ほとんど類似した結果であったことから主に 28 年の回答を中心に述べる。

1) 受検者について把握している内容

受検者に関する情報として、ほとんどの保健所では、性別と年齢・年代について把握しており(資料 1、2-⑥)、受検動機について 86%、感染機会の時期について 82%、感染リスクについて 73%、受検経験について 72%の保健所が把握していた。一方、居住地については 45%、性的指向については 43%の把握状況であった。なお、これら把握した情報を事業改善等に活用していた保健所は 60%程度で 30%ほどの保健所は活用していない状況であった。特設検査相談施設では、性別と受検経験については全ての施設が把握しており、性的指向について(94%)、感染リスクについて(88%)、居住地域・受検動機・感染機会の時期・情報源について(82%)などが多くの施設で把握されていた。

2) 結果説明について

結果説明の担当者についてみると、保健所の平成 28 年調査では、確認検査陽性時の担当者として医師が 98%、保健師・看護師が 86%、カウンセラー等が 27%関わっているとの回答であった。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者は、医師が 83%、保健師・看護師が 88%、カウンセラー等が 13%であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師 40%、保健師・看護師 80%、カウンセラー等が 14%と、陽性事例とは異なる対応が見られていた。

陽性者への対応として、カウンセラーの派

遣が可能かとの質問には、経験を有する施設が23%、実績はないが可能が22%、できないが41%であった。

特設検査相談施設における結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師91%、保健師・看護師27%、カウンセラー等54%が関わっていた。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者は、医師92%、保健師・看護師31%、カウンセラー等54%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師60%、保健師・看護師35%、カウンセラー等35%であった。

陽性者への対応におけるカウンセラー派遣については、派遣経験ありが5施設(29%)、実績はないが可能が5施設(29%)、できないが3施設(18%)であった。

3) 感染予防の行動変容への働きかけについて

感染予防の行動変容を働きかける相談については、保健所、特設検査相談施設において94%とそのほとんどがおこなっていた。保健所の83%、特設検査相談施設の63%が全員に実施し、検査後の結果説明時が25%(保健所等)、63%(特設)、検査前と両方で行うが57%(保健所等)、38%(特設)であった。

4) 対応困難者の経験とその対応について

対応困難者の経験を有する施設は保健所が39%、特設検査相談施設が71%であった。その際の紹介先を有している施設は22%(保健所等)、18%(特設)と少なかった。紹介先としては、医療機関が62%(保健所等)、NGO等が24%(保健所等)、100%(特設)であった。

5) 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)について

血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)の経験を有する保健所は139施設(30%)、特設検査相談施設では8施設(47%)であった。その状況としては、保健所では、針刺し事故60件、血液に触れたが23件、不安が12件であった。

6) 未成年の検査希望者への対応について

未成年の検査希望者への対応について通常通り行う施設は保健所が78%、特設検査相談施設が59%、特別な配慮を行うは、保健所では87件(19%)、特設検査相談施設では6施設(35%)であった。保健所等の検査相談施設における特別な配慮の内容としては、陽性時には親にも説明が29件、保護者の同意について質問が21件、丁寧なカウンセリングが9件、年齢により対応を考えるが16件であった。

特設検査相談施設においての特別な配慮としては、陽性時には親にも説明が1件、本人との相談により判断が3件、結果により検討が2件であった。

7) 日本語のわからない外国籍の人の受検

保健所で日本語のわからない外国籍の人の受検ができる仕組みのある施設は153施設(33%)で、その対応言語については、英語が99施設、中国語46施設、ポルトガル語40施設、韓国語・朝鮮語36施設、スペイン語37施設、タイ語19施設、タガログ語・フィリピン語17施設、ベトナム語7施設、ロシア語3施設であった。

特設検査相談施設では、外国籍の人の受検ができる仕組みを有するのは8施設(47%)で、その対応言語については、英語5施設、ポルトガル語1施設であった。

8) 「HIV検査・相談マップ」の利用

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧したことがある保健所は438施設(93%)で、多くの保健所が活用していた。「HIV検査・相談マップ」がHIV検査相談事業に役立っているとの回答は372施設(80%)からあった。また、特設検査相談施設の全施設がホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧し、HIV検査相談事業に役立っているとの回答であった。

5. 梅毒検査体制について

梅毒検査体制に関する調査結果は資料3、資料4に示した。保健所・支所等563施設の

うち 469 施設(83%)から、特設検査相談施設では21施設中17施設(81%)から回答を得た。

1) 梅毒検査の実施の有無と可能性について

保健所で梅毒検査を実施している施設は327施設(70%)、実施予定が13施設(3%)、実施していないが127施設(27%)であった(資料3)。

実施していない保健所では、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問に、「自治体本庁の方針があれば」が最も多く94施設(74%)、「予算の増額」54施設(43%)、「マニュアルの配布」31施設(24%)、「職員の増員」31施設(24%)、「医療機関の協力・連携」24施設(19%)等の意見であった。

特設の検査相談施設においては、梅毒検査を実施している施設が6施設(35%)、実施予定が1施設、実施していないが10施設(59%)であった(資料4)。実施していない施設において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、「自治体本庁の方針があれば」「予算の増額」が各4施設(40%)、「マニュアルの配布」2施設(20%)、「即日で信頼できる試薬」が3施設(30%)、「医療機関の協力・連携」1施設(10%)等の意見であった。

2) 梅毒検査の実施形態

保健所の梅毒検査実施状況は、HIV検査と一緒に受けられる無料検査が275施設(84%)で、有料検査が44施設(14%)であった。梅毒検査のみで無料で受けられる施設が110施設(34%)、有料検査が47施設(14%)であった。なお、有料の場合の費用については、500円以下が14施設、500円～1,000円が25施設、1,500円～2,000円が40施設であった。

特設検査相談施設では実施している6施設において、HIV検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

3) 梅毒検査の方法と検査数・陽性数・陽性率について

STS法による検査を行っている保健所は

259施設(79%)で、その検査数は37,625件、陽性は463件(1.2%)であった。TP抗体検査を実施しているのは、290施設(89%)で、その検査数は33,744件で陽性は846件(2.5%)であった。

特設検査相談施設では、STS法による検査を行っているのは4施設で、その検査数は6,665件、陽性は428件(6.4%)であった。TP抗体検査を実施しているのは6施設で、その検査数は1,471件で陽性は413件(28%)であった。

4) 梅毒検査陽性時の対応について

保健所では、医療機関を紹介するが206施設(63%)で、結果説明のみが77施設(24%)であった。なお、梅毒検査の結果返しに関しては、即日が64施設(20%)、2日～1週間が179施設(55%)、1週間～2週間が85施設(26%)であった。

特設検査相談施設においては、医療機関を紹介するが3施設で、結果説明のみが3施設であった。梅毒検査の結果返しに関しては、2日から1週間が3施設、1週間～2週間が1施設であった。

5) 梅毒検査の頻度・時間帯等について

保健所での梅毒検査の頻度は、月1回以下が67施設(21%)、月2～3回が97施設(30%)、月4回以上が158施設(48%)であった。また、予約については必要が210施設(64%)、必要なしが112施設(34%)であった。

D. 考察

1. HIV検査体制について

平成20年をピークに、その後は新型インフルエンザ、東日本大震災等の影響もあり、国民全体のHIVへの関心が下がり、保健所等におけるHIV検査相談数も平成21～22年と大きく減少し、その後は横ばい状態となり、平成27、平成28年の保健所アンケート調査においてもその状況が続いていることが分かった。

保健所および特設検査相談施設を合わせる

と、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。なお、HIV 陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成 27 年は 56%、平成 28 年は 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。保健所によっては陽性結果を受け取りに来た受検者を医療機関に紹介し、その医療機関から発生動向報告を依頼している。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設(31%)、即日検査のみが 213 施設(46%)、通常検査と即日検査が 110 施設 24%で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設(49%)、平日夜間検査が 174 施設(37%)、土日検査が 66 施設(14%)と、その比率も昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94%、特設検査相談施設の 94%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていると回答している。

受検者について把握している内容として、性別・年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的指向に関しては特設検査相談施設の 94%が把握していると回答していたのに対して、保健所では 43%であった。また、これらの内容を事業改善等

に活用していた保健所は 59%で、活用していないと保健所が 33%あった。各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の施設における課題と考える。

近年、HIV 郵送検査等で HIV 受検件数が急激に増加していることから、新たな HIV 検査システムの活用について検討する必要があると言われている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

2. 梅毒検査体制について

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設(70%)で、特設検査相談施設では 17 施設中 6 施設(35%)であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件(74%)、予算の増額 54 件(43%)、マニュアルの配布 31 件(24%)、職員の増員 31 件(24%)、医療機関の協力・連携 24 件(19%)等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設(40%)、マニュアルの配布 2 施設(20%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設(30%)、医療機関の協力・連携 1 施設(10%)等の意見であった。

梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件(84.1%)で、有料検査が 44 件(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件(34%)、有料検査が 47 件(14%)であった。なお、有料の場合の

費用については、500円以下が14件、500円～1,000円が25件、1,500円～2,000円が40件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての6施設において、HIV検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS法による検査を行っている保健所は259件(79%)で、その検査数は37,625件、陽性は463件(1.4%)であった。TP抗体検査を実施しているとの回答は、290件(89%)で、その検査数は33,744件で陽性は846件(2.5%)であった。特設検査相談施設においては、STS法による検査を行っている施設は4施設で、その検査数は5,825件、陽性は369件(6.3%)であった。TP抗体検査を実施しているとの回答は、6施設で、その検査数は1,412件で陽性は356件(25%)であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが206件(63%)で、結果説明のみが77件(24%)であった。特設検査相談施設においては、医療機関を紹介するが3施設で、結果説明のみが3施設であった。

保健所や特設検査相談施設における梅毒検査は、HIV検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

3. 検査結果の通知について

本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、平成27年においてはHIV検査に関して3件の誤通知があったが、平成28年においてはHIV検査に関しての報告は0件であった。しかしながら、STI検査に関して、梅毒検査で1件、クラミジア検査で1件、合計2件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間

違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は再発防止策の強化に努めているとのことであった。保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

今回の例からも、誤通知事例はどの施設でも起こりうることを共通認識として共有し、衛生研究所や民間検査機関においても、また、保健所等、検査相談機関、においても、誤通知等の発生防止に向けて継続した努力と注意喚起が今後とも必要である。

D. 結論

保健所および特設検査相談施設で行われているHIV抗体検査・相談の実態についてほぼ全数を把握した。

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成27年は、受検件数112,268件、陽性件数383件(0.34%)、359件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの321件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成28年は、受検件数97,767件、陽性件数359件(0.37%)、337件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの270件(80.1%)が医療機関を受診していた。

HIV陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成27年は56%、平成28年は55%、特設検査相談施設では80%、86%であった。

近年、郵送検査等でのHIV受検者の著しい増加がみられる新たなHIV検査システムの活用についての検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な

説明、そして医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、感染予防のための相談など重要な役割を果たしている。これらの体制の充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱である。

保健所および特設検査相談施設における梅毒検査の実施状況を調査した。HIV 検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

なお、保健所等での HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所および特設 HIV 検査相談関係者の皆様方に深く感謝致します。

E. 発表論文等

1. 論文発表

- 1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信、HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—、日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾、HIV 郵送検査の現状と展望、日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.

2. 学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加

藤真吾、今井光信、市川誠一、HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。

- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾、中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾、全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾、HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015)、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 5) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾、民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査、第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015 年 11 月 30 日-12 月 1 日、東京。
- 6) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中 晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信、新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移、第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015 年 11 月 30 日-12 月 1 日、東京。

資料1 保健所等におけるHIV検査相談に関する全国調査

	2015		2016	
アンケート送付数	565		563	
回収数	484	85.7%	469	83.3%

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？

	2015 n=484		2016 n=469	
はい	483件	99.8%	467件	99.6%
いいえ	1件	0.2%	2件	0.4%

「はい」と答えた保健所 → 平成27年1～12月の実施状況をお教え下さい。

① HIV検査件数

	2015 n=483	2016 n=467
検査数	87,856	75,584
うち陽性数	254	221
陽性率	0.29%	0.29%

陽性経験数

	2015 n=483		2016 n=467	
陽性者があった保健所	119件	24.6%	111件	23.8%
陽性がなかった保健所	364件	75.4%	355件	76.2%
回答なし			1件	

年間検査件数別保健所数

	年間検査数	保健所数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験数	陽性経験率
		件数	割合	件数	割合				
2015 n=483	50件未満	185	38.3%	4,207	4.8%	12	0.29%	12	6.5%
	50-99件	80	16.6%	5,790	6.6%	9	0.16%	7	8.8%
	100-199件	97	20.1%	13,918	15.8%	42	0.30%	29	29.9%
	200-499件	80	16.6%	24,592	28.0%	51	0.21%	35	43.8%
	500-999件	30	6.2%	21,100	24.0%	74	0.35%	25	83.3%
	1000件以上	11	2.3%	18,249	20.8%	66	0.36%	11	100.0%
	全体	483	100%	87856	100%	254	0.29%	119	24.6%
2016 n=467	50件未満	186	39.8%	3,814	5.0%	9	0.24%	8	4.3%
	50-99件	87	18.6%	6,174	8.2%	16	0.26%	15	17.2%
	100-199件	89	19.1%	12,696	16.8%	34	0.27%	26	29.2%
	200-499件	69	14.8%	20,573	27.2%	53	0.26%	34	49.3%
	500-999件	25	5.4%	17,621	23.3%	50	0.28%	19	76.0%
	1000件以上	9	1.9%	14,706	19.5%	59	0.40%	9	100.0%
	回答なし	2	0.4%						
	全体	467	100%	75,584	100%	221	0.29%	111	23.8%

② 検査結果を聞きにこなかった受検者数：

	受検者数	聞きに来なかった	聞きに来た
2015	87,856人	1,699人 1.9%	86,157人 98.1%
2016	75,584人	1,825人 2.4%	73,759人 97.6%

③ HIV検査での結果確認（陰性者、陽性者別）：

	2015				2016			
	陰性		陽性		陰性		陽性	
結果を聞きにきた	85,919人	98.1%	238人	93.7%	73,550人	97.6%	209人	94.6%
結果を聞きにこなかった	1,683人	1.9%	16人	6.3%	1,813人	2.4%	12人	5.4%
合計	87,602人	100%	254人	100%	75,363人	100%	221人	100%
受検者数	87,856人				75,584人			

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	2015				2016			
	全体		陽性経験施設n=119		全体		陽性経験施設n=111	
ある	277	57.3%	95件	79.8%	274	58.7%	92件	82.9%
ない	190	39.3%	22件	18.5%	180	38.5%	19件	17.1%

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数

2015 n=238	208人	87.4%
2016 n=209	162人	77.5%

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数

2015 n=254	143人	56.3%
2016 n=221	121人	54.8%

2. 貴保健所で行っているHIV検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

	2015 n=483		2016 n=467	
行っている	411件	85.1%	415件	88.9%
行っていない	69件	14.3%	52件	11.1%
不明	3件	0.6%		

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください 複数回答

	2015 n=411		2016 n=415	
梅毒	319	77.6%	319	76.9%
クラミジア抗体	151	36.7%	115	27.7%
クラミジア抗原	130	31.6%	146	35.2%
淋菌	49	11.9%	50	12.0%
B型肝炎	309	75.2%	308	74.2%
C型肝炎	294	71.5%	301	72.5%
HTLV-1	15	3.6%	13	3.1%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい。

		2015 n=483		2016 n=467	
通常検査を行っている		272	56.3%	254	54.4%
即日検査を行っている		328	67.9%	323	69.2%
1	通常検査のみ	155	32.1%	144	30.8%
2	即日検査のみ	211	43.7%	213	45.6%
3	通常+即日	117	24.2%	110	23.6%
483					
A	平日昼のみ検査	228	47.2%	227	48.6%
B	平日夜間検査	184	38.1%	174	37.3%
C	土日検査	71	14.7%	66	14.1%
467					
1A	通常のみ+平日昼のみ	118	24.4%	112	24.0%
1B	通常のみ+夜間も行っている	36	7.5%	31	6.6%
1C	通常+土日検査も	1	0.2%	1	0.2%
2A	即日のみ+平日昼のみ	84	17.4%	92	19.7%
2B	即日のみ+夜間も行っている	95	19.7%	91	19.5%
2C	即日+土日検査も	32	6.6%	30	6.4%
3A	通常+即日・平日昼のみ	26	5.4%	23	4.9%
3B	通常+即日・夜間も行っている	53	11.0%	52	11.1%
3C	通常+即日・土日検査も	38	7.9%	35	7.5%

③ ア通常検査の場合

A. 予約制ですか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		159	58.5%	151	59.4%
いいえ		113	41.5%	104	40.9%

B. 1回あたり上限はありますか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		114	41.9%	117	46.1%
いいえ		157	57.7%	135	53.1%
回答なし		3	1.1%	3	1.2%

上限がある場合、平均人数と分布

		2015 n=114		2016 n=117	
通常				通常	
平均数		11人		10人	
10人未満		73件		74件	
10-19人		22件		24件	
20-29人		9件		10件	
30-39人		4件		1件	
40-49人		2件		2件	
50人以上		3件		2件	
全体		113件		123件	

C. プレカウセリングを行っているか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		265	97.4%	245	96.5%
いいえ		7	2.6%	4	1.6%
回答なし		0	0.0%	5	2.0%

D. 結果返しは？

		2015 n=272		2016 n=254	
1週間後まで		191	70.2%	177	69.7%
1週から2週間まで		86	31.6%	77	30.3%
回答なし		4	1.5%	4	1.6%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

		2015 n=272		2016 n=254	
自保健所		44	16.2%	36	14.2%
他保健所		30	11.0%	31	12.2%
衛生研究所		115	42.3%	101	39.8%
外部委託		82	30.1%	90	35.4%

F. 確認検査の実施施設は？

		2015 n=272		2016 n=254	
自保健所		12	4.4%	8	3.1%
他保健所		14	5.1%	13	5.1%
衛生研究所		199	73.2%	173	68.1%
外部委託		57	21.0%	63	24.8%

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

	2015 n=272		2016 n=254	
a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	18	6.6%	20	7.9%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	6	2.2%	9	3.5%
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	235	86.4%	211	83.1%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	202		162	
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	25		39	
その他	9	3.3%	10	3.9%

④ イ即日検査の場合

A. 予約制ですか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	266	81.1%	265	82.0%
いいえ	60	18.3%	59	18.3%
回答なし	2	0.6%	0	0.0%

B. 1回あたり上限はありますか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	243	74.1%	242	74.9%
いいえ	82	25.0%	79	24.5%
回答なし	3	0.9%	2	0.6%

上限がある場合、平均人数と分布

	2015	2016
	即日	即日
平均数	13人	12人
10人未満	145件	149件
10-19人	50件	46件
20-29人	14件	17件
30-39人	14件	14件
40-49人	3件	5件
50人以上	12件	8件
全体	238件	239件

C. プレカウセリングを行っているか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	317	96.6%	318	98.5%
いいえ	5	1.5%	3	0.9%
回答なし	6	1.8%	2	0.6%

D. 迅速検査で陽性（要確認検査）となった場合の結果返しは？

	2015 n=328		2016 n=323	
1週間後	192	58.5%	164	50.8%
2週間後	125	38.1%	151	46.7%
2週間以降	0	0.0%	1	0.3%
回答なし	11	3.4%	7	2.2%

E. 確認検査 実施施設は？

	2015 n=328		2016 n=323	
自保健所	13	4.0%	18	5.6%
他保健所	8	2.4%	9	2.8%
衛生研究所	229	69.8%	213	65.9%
外部委託	77	23.5%	97	30.0%

F. 確認検査用 検体は？

	2015 n=328		2016 n=323	
迅速検査残血液	204	62.2%	181	56.0%
確認検査用再採血	115	35.1%	141	43.7%
迅速検査用と同時	58	17.7%	71	22.0%
結果通知後	53	16.2%	70	21.7%
不明	4	1.2%		
未記入	11	3.4%	11	3.4%

※2015年は、2保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

※2016年は、10か所の保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

⑤ 確認検査の方法は？（通常、即日共通）

	2015	n=483	2016	n=467
WB法のみ	167	34.6%	145	31.0%
2次スクリーニング+WB法	158	32.7%	127	27.2%
WB法+NAT法	78	16.1%	111	23.8%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	68	14.1%	47	10.1%
その他			16	3.4%

⑥ 受検者について把握している内容は？

	2015	n=483	2016	n=467
性別	482	99.8%	459	98.3%
年齢	350	72.5%	329	70.4%
年代	203	42.0%	212	45.4%
年齢・年代	476	98.6%	456	97.6%
居住地域	220	45.5%	208	44.5%
受検動機	398	82.4%	400	85.7%
受検経験			336	71.9%
感染リスク	338	70.0%	339	72.6%
性的指向	230	47.6%	200	42.8%
感染機会の時期	398	82.4%	385	82.4%
情報源	306	63.4%	304	65.1%
その他	80	16.6%	48	10.2784

上記の内容について事業改善等に活用していますか。

	2015	n=483	2016	n=467
活用している	297	61.5%	273	58.5%
活用していない	146	30.2%	153	32.8%

⑦ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

		陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
		記入数		記入数		記入数		記入数	
2015	医師	191	40.5%	249	83.8%	214	59.8%	426	98.4%
	保健師	334	70.8%	245	82.5%	272	76.0%	341	78.8%
	看護師	33	7.0%	10	3.4%	16	4.5%	16	3.7%
	その他（カウンセラー等）	63	13.3%	34	11.4%	38	10.6%	118	27.3%
2016	医師	183	40.0%	243	82.9%	206	60.1%	404	98.3%
	保健師	330	72.2%	242	82.6%	270	78.7%	334	81.3%
	看護師	37	8.1%	15	5.1%	19	5.5%	19	4.6%
	その他（カウンセラー等）	63	13.8%	38	13.0%	36	10.5%	110	26.8%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

	2015	n=483	2016	n=467
ある	247件	51.1%	245件	52.5%
ない	41件	8.5%	31件	6.6%
回答なし	195件	40.4%	191件	40.9%

B. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

	2015	n=483	2016	n=467
ある	332件	68.7%	332件	71.1%
ない	139件	28.8%	122件	26.1%
回答なし	12件	2.5%	13件	2.8%

C. 陽性者への説明資料はありますか？

		全体		陽性経験施設	
		記入数		記入数	
2015	ある	379件	78.5%	97件	81.5%
	ない	96件	19.9%	19件	16.0%
	回答なし	8件	1.7%	3件	2.5%
2016	ある	386件	82.7%	99件	89.2%
	ない	69件	14.8%	9件	8.1%
	回答なし	12件	2.6%	3件	2.7%

D. 陽性者への手渡し資料はありますか？

		全体		陽性経験施設	
		記入数		記入数	
2015	ある	407件	84.3%	107	89.9%
	ない	64件	13.3%	8	6.7%
	回答なし	12件	2.5%	4件	3.4%
2016	ある	400件	85.7%	107	96.4%
	ない	47件	10.1%	2	1.8%
	回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

E. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

2015		全体		陽性経験施設	
		件数	割合	件数	割合
2015	必ずおこなう	242件	50.1%	61件	51.3%
	ほぼおこなう	37件	7.7%	10件	8.4%
	おこなわない	31件	6.4%	12件	10.1%
	医療機関に依頼する	149件	30.8%	34件	28.6%
	回答なし	24件	5.0%	2件	1.7%
2016	必ずおこなう	231件	49.5%	61件	55.0%
	ほぼおこなう	37件	7.9%	12件	10.8%
	おこなわない	19件	4.1%	6件	5.4%
	医療機関に依頼する	164件	35.1%	33件	29.7%
	回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

F. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか？

	2015 n=483	2016 n=467
行っている	452	441
行っていない	19	17
回答なし	12	9

対象は？

	2015 n=452	2016 n=441
全員に	361	364
一部に	89	77

場面は？

	2015 n=452	2016 n=441
検査前に	67	67
結果説明後に	97	109
両方に	264	249

具体的手法は？

	2015	2016
パンフレット、結果説明書を活用して	133	130件
カウンセリング	62	40件
予防法を中心に説明	48	45件
口頭で説明、またはパンフレット配布	32	39件
感染リスクの説明および予防法について	31	31件
説明およびコンドーム等配布		19件
リスク行動の振り返り	17	29件
アンケート、クイズの実施		13件

G. 対応困難者の経験はありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	205件	182件
ない	265件	278件
不明	13件	7件

対応困難者の紹介先はありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	88件	102件
ない	344件	326件
不明	51件	39件

「ある」と答えた保健所→紹介先は？(複数回答あり)

	2015 n=88	2016 n=102
医療機関	53件	63件
NGO等	17件	24件
その他	31件	27件

H. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？

	2015 n=483	2016 n=467
通常通り行う	379件	364件
受け付けない	件	1件
特別な配慮をする	93件	87件
→陽性時には親にも説明	25件	29件
→保護者の同意を得られているか	18件	21件
→丁寧なカウンセリング	13件	9件
→年齢により対応を考える	12件	16件

⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	446件	438件
ない	34件	24件
回答なし	3件	5件

⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

	2015 n=483	2016 n=467
思う	371件	372件
思わない	1件	1件
不明	108件	88件
回答なし	3	

⑩ 「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？

	2015 n=483	2016 n=467
いる	108件	
受検者の約 10%以下	8件	22.4%
受検者の約 10%~20%	16件	
受検者の約 20%~50%	17件	
受検者の約 50%以上	10件	
わからない	371件	76.8%
回答なし	4	0.8%

⑪ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
なかった	479	463
あった	1	2
HIVについてあった	0	0
STIについてあった	1	2

以下は、2016年調査のみ

1. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=467) 複数回答あり

	全体	陽性判明施設 n=111	
経験あり	51件	10.9%	25件 22.5%
実績はないが可能	179件	38.3%	24件 21.6%
できない	191件	40.9%	45件 40.5%
検討中	12件	2.6%	6件 5.4%
その他	20件	4.3%	8件 7.2%
回答なし	16件	3.4%	3件 2.7%

2. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいましたか？ (n=565)

いない	307件	65.7%
いる	139件	29.8%
	H27	H28
→人数 5名以下	55件	86件
→人数 10名以下	4件	5件
→人数 11名以上	5件	3件
状況 針刺し事故	60件	
血液に触れた	23件	
不安	12件	

3 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？

ない	292件	62.5%	(n=467)
ある	153件	32.8%	
→英語	99件	64.7%	(n=153)
→ポルトガル語	40件	26.1%	
→スペイン語	37件	24.2%	
→中国語	46件	30.1%	
→韓国語、朝鮮語	36件	23.5%	
→タガログ語、フィリピン語	17件	11.1%	
→タイ語	19件	12.4%	
→ベトナム語	7件	4.6%	
→ロシア語	3件	2.0%	

資料2 特設検査施設におけるHIV検査・相談に関する全国調査

	2015	2016
アンケート送付数	24	21
回収数	20 83.3%	17 81.0%

① HIV検査件数

	2015 n=20	2016 n=17
検査数	24,412	22,183
うち陽性数	129	138
陽性率	0.53%	0.62%

陽性経験数

	2015 n=20	2016 n=17
陽性者があった施設	14件 70.0%	13件 76.5%
陽性者がなかった施設	6件 30.0%	4件 23.5%

年間検査数

	施設数	検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
		施設数	検査件数				
2015	50件未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0
	50-99件	1	5.0%	80	0.3%	0	0.00%
	100-199件	2	10.0%	297	1.2%	4	1.35%
	200-499件	4	20.0%	1,369	5.6%	9	0.66%
	500-999件	8	40.0%	6,365	26.1%	19	0.30%
1000件以上	5	25.0%	16,301	66.8%	97	0.60%	
2016	50件未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0
	50-99件	1	5.9%	72	0.3%	0	0.00%
	100-199件	2	11.8%	242	1.1%	1	0.41%
	200-499件	4	23.5%	1,668	7.5%	5	0.30%
	500-999件	5	29.4%	3,923	17.7%	11	0.28%
1000件以上	5	29.4%	16,278	73.4%	121	0.74%	

② HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数：

	受検者数	聞きに来なかった	聞きに来た
2015	24,412人	377人 1.5%	24,035人 98.5%
2016	22,183人	471人 2.1%	21,712人 97.9%

③ HIV検査での結果確認（陰性者、陽性者別）：

	2015				2016			
	陰性		陽性		陰性		陽性	
結果を聞きにきた	23,914人	98.5%	121人	93.8%	23,914人	98.0%	128人	92.8%
結果を聞きにこなかった	369人	1.5%	8人	6.2%	461人	1.9%	10人	7.2%
合計	24,283人	100%	129人	100%	24,412人	100%	138人	100%

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	17	85.0%	13件	92.9%	13	76.5%	11件	84.6%
ない	3	15.0%	1件	7.1%	4	23.5%	2件	15.4%

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数：

2015	113人	93.0%
2016	108人	84.0%

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数

2015	103人	79.8%
2016	119人	86.2%

2. 貴施設で行っているHIV検査相談事業の内容について教えてください。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

	2015 n=20	2016 n=17
行っている	7件 35.0%	8件 47.1%
行っていない	13件 65.0%	9件 52.9%

「行っている」と答えた施設 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください複数回答

	2015 n=7	2016 n=8
梅毒	6 85.7%	6 75.0%
クラミジア抗体	0 0.0%	0 0.0%
クラミジア抗原	2 28.6%	1 12.5%
淋菌	2 28.6%	2 25.0%
B型肝炎	5 71.4%	6 75.0%
C型肝炎	0 0.0%	1 12.5%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい。

		2015 n=20		2016 n=17	
通常検査を行っている		6	30.0%	4	23.5%
即日検査を行っている		16	80.0%	15	88.2%

1	通常検査のみ	4	20%	2	12%
2	即日検査のみ	14	70%	13	76%
3	通常+即日	2	10%	2	12%
A	平日昼のみ検査	0	0%	1	6%
B	平日夜間検査	2	10%	3	18%
C	土日検査	18	90%	13	76%
17					
1A	通常のみ+平日昼のみ	0	0%	0	0%
1B	通常のみ+夜間も行っている	1	5%	0	0%
1C	通常+土日検査	3	15%	2	12%
2A	即日のみ+平日昼のみ	0	0%	1	6%
2B	即日のみ+夜間も行っている	1	5%	3	18%
2C	即日のみ+土日検査	13	65%	9	53%
3A	通常+即日・平日昼のみ	0	0%	0	0%
3B	通常+即日・夜間も行っている	0	0%	0	0%
3C	通常+即日・土日検査	2	10%	2	12%

② ア通常検査の場合

A. 予約制ですか？

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		3	50.0%	2	50.0%
いいえ		3	50.0%	2	50.0%

B. 1回あたり上限はありますか？

(n=6)

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		3	50.0%	2	50.0%
いいえ		3	50.0%	2	50.0%

上限がある場合、平均人数と分布

		2015 n=3		2016 n=2	
通常				通常	
平均数		26人		43人	
10人未満		1件			
10-19人		0件			
20-29人		1件		1件	
30-39人		0件			
40-49人		1件			
50人以上		0件		1件	

C. プレカウンセリングを行っているか？

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		6	100.0%	4	100.0%
いいえ		0	0.0%	0	0.0%

D. 結果返しは？

		2015 n=6		2016 n=4	
1週間後まで		6	100.0%	4	100.0%
1週から2週後まで		0	0.0%	0	0.0%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

		2015 n=6		2016 n=4	
自施設		2	33.3%	1	25.0%
他施設		4	66.7%	3	75.0%

F. 確認検査の実施施設は？

		2015 n=6		2016 n=4	
自施設		3	50.0%	2	50.0%
他施設		3	50.0%	2	50.0%

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

	2015 n=6		2016 n=4	
	人数	割合	人数	割合
a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	1	16.7%	1	25.0%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	2	33.3%		
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	2	33.3%	3	75.0%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	2		3	
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	0		0	
その他（各医療機関により異なる）	1	16.7%		

② イ即日検査の場合

A. 予約制ですか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	9	56.3%	11	73.3%
いいえ	6	37.5%	3	20.0%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

B. 1回あたり上限はありますか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	14	87.5%	12	80.0%
いいえ	1	6.3%	2	13.3%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

上限がある場合、平均人数と分布

	2015	2016
	即日	即日
平均数	55人	55人
10人未満	0人	0人
10-19人	1人	1人
20-29人	2人	2人
30-39人	1人	1人
40-49人	1人	1人
50人以上	9人	7人

C. プレカウンセリングを行っているか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	15	93.8%	13	86.7%
いいえ	0	0.0%	0	0.0%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

D. 迅速検査で陽性（要確認検査）となった場合の結果返しは？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
1週間後	12	75.0%	9	60.0%
2週間後	2	12.5%	4	26.7%
回答なし	2	12.5%	2	13.3%

20

E. 確認検査 実施施設は？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
自施設	5	31.3%	4	26.7%
他施設	10	62.5%	10	66.7%
未記入	1	6.3%	1	6.7%

F. 確認検査用 検体は？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
迅速検査残血液	11	68.8%	8	53.3%
確認検査用再採血	4	25.0%	5	33.3%
迅速検査用と同時	1	6.3%	3	20.0%
結果通知後	2	12.5%	2	13.3%
未記入	1	6.3%	2	13.3%

③ 確認検査の方法は？（通常、即日共通）

	2015 n=20		2016 n=17	
WB法のみ	1	5.0%	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	8	40.0%	7	41.2%
WB法+NAT法	3	15.0%	6	35.3%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	5	25.0%	3	17.6%
その他（各医療機関により異なる）	1	5.0%		
未記入	2	10.0%	1	5.9%

④ 受検者について把握している内容は？

複数回答あり

	2015 n=20		2016 n=17	
性別	20	100.0%	17	100.0%
年齢	11	55.0%	8	47.1%
年代	12	60.0%	12	70.6%
年齢・年代	19	95.0%	17	70.6%
居住地域	15	75.0%	12	82.4%
受検動機	14	70.0%	14	82.4%
受検経験			17	100.0%
感染リスク	16	80.0%	15	88.2%
性的指向	16	80.0%	16	94.1%
感染機会の時期	14	70.0%	14	82.4%
情報源	15	75.0%	14	82.4%
その他	4	20.0%	2	11.8%

上記の内容について事業改善等に活用していますか。

	2015 n=20		2016 n=17	
活用している	16	80.0%	15	88.2%
活用していない	4	20.0%	1	5.9%

⑤ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	記入数		記入数		記入数		記入数	
2015	17		13		13		17	
医師	12	70.6%	10	76.9%	10	76.9%	17	100.0%
保健師	3	17.6%	3	23.1%	5	38.5%	6	35.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%
その他（カウンセラー等）	11	64.7%	9	69.2%	8	61.5%	12	70.6%
2016	17		13		11		12	
医師	10	58.8%	12	92.3%	10	90.9%	11	91.7%
保健師	3	17.6%	4	30.8%	3	27.3%	4	33.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
その他（カウンセラー等）	6	35.3%	7	53.8%	6	54.5%	8	66.7%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	11件	55.0%	12件	70.6%
ない	2件	10.0%	1件	5.9%
回答なし	7件	35.0%	4件	23.5%

B. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	16件	80.0%	15件	88.2%
ない	1件	5.0%	1件	5.9%
回答なし	3件	15.0%	1件	5.9%

C. 陽性者への説明資料はありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	17件	85.0%	13件	92.9%	15件	88.2%	12件	92.3%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	3件	15.0%	1件	7.1%	1件	5.9%	1件	7.7%

D. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	16件	80.0%	12	85.7%	15件	88.2%	12	92.3%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	4件	20.0%	2件	14.3%	1件	5.9%	1件	7.7%

E. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
必ずおこなう	14件	70.0%	9件	64.3%	9件	52.9%	7件	53.8%
ほぼおこなう	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
おこなわない	1件	5.0%	1件	7.1%	1件	5.9%	1件	7.7%
医療機関に依頼する	3件	15.0%	3件	21.4%	5件	29.4%	4件	30.8%
回答なし	2件	10.0%	1件	7.1%	2件	11.8%	1件	7.7%

F. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
行っている	18	90.0%	16	94.1%
行っていない	0	0.0%	0	0.0%
回答なし	2	12.5%	1	6.7%

対象は？

	2015 n=18		2016 n=16	
全員に	16	88.9%	10	62.5%
一部に	2	11.1%	6	37.5%

場面は？

	2015 n=18		2016 n=16	
検査前に	0	0.0%	3	18.8%
結果説明後に	11	61.1%	10	62.5%
両方に	7	38.9%	6	37.5%

具体的手法は？

	2015 n=18	2016 n=16
感染ルートの確認および予防法について	6	3
カウンセリング	4	6
今までの行動を振り返り、行動変容を促す	3	2
パンフレット、結果説明書を活用して	1	2
特にMSMに対して		1

G. 対応困難者の経験はありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	15件	75.0%	12件	70.6%
ない	2件	10.0%	3件	17.6%
不明	3件	15.0%	2件	11.8%

対応困難者の紹介先はありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	8件	40.0%	4件	23.5%
ない	10件	50.0%	8件	47.1%
不明	2件	10.0%	5件	29.4%

「ある」と答えた施設→紹介先は？(複数回答あり)

	2015 n=6		2016 n=17	
医療機関	3件	37.5%	0件	0.0%
NGO等	6件	75.0%	4件	100.0%
その他	2件	25.0%		

H未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？ (n=20)

	2015 n=20		2016 n=4	
通常通り行う	12件	60.0%	10件	58.8%
受け付けない	0件	0.0%	0件	0.0%
特別な配慮をする	6件	30.0%	6件	35.3%
→陽性時には親にも説明	3件	50.0%	1件	16.7%
→本人との相談により判断	3件	50.0%	3件	50.0%
→結果により検討			2件	33.3%

⑥ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	20件	100.0%	17件	100.0%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%

⑦「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
思う	19件	95.0%	17件	100.0%
思わない	0件	0.0%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.0%		

⑧ 「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
いる	15件	75.0%		
受検者の約 10%以下	0件			
受検者の約 10%～20%	2件			
受検者の約 20%～50%	3件			
受検者の約 50%以上	6件			
わからない	5件	25.0%		

⑥ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
なかった	19	95.0%	16件	94.1%
HIVについてあった	1	5.0%	0件	0.0%
STIについてあった	0	0.0%	1件	5.9%

○ 2016年調査のみ実施した項目

1. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=17) 複数回答あり

	全体		陽性経験施設 (n=13)	
経験あり	5件	29.4%	4件	30.8%
実績はないが可能	5件	29.4%	4件	30.8%
できない	3件	17.6%	2件	15.4%
検討中	1件	0.0%	0件	0.0%
その他	3件	17.6%	2件	15.4%
回答なし	4件	23.5%	3件	23.1%

2. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいましたか？ (n=17)

いない	8件	47.1%
いる	7件	41.2%
	H27	H28
→人数 5名以下	2件	2件
→人数 10名以下	1件	1件
→人数 11名以上	2件	3件
状況 血液に触れた	1件	
統計をとっていない	2件	

3 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？ (n=17)

ない	8件	47.1%
ある	8件	47.1%
→英語	5件	62.5%
→ポルトガル語	1件	12.5%

資料3 保健所における梅毒検査に関する調査

アンケート送付数	563	
回収数	469	83.3%

1. (1) 貴保健所では梅毒検査を実施していますか？ (n=469)

実施している	327件	69.7%
実施の予定	13件	2.8%
実施していない	127件	27.1%

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？ (複数回答 (n=127))

自治体本庁の方針であれば実施する	94	74.0%
職員の増員	31	24.4%
予算の増額	54	42.5%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	24	18.9%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	31	24.4%
必要性を感じていない	3	2.4%
その他	12	9.4%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ (n=327)

2. (1) どのように実施していますか？ (複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる (無料)	275	84.1%
HIV検査と一緒に受けられる (有料)	44	13.5%
梅毒検査のみで受けられる (無料)	110	33.6%
梅毒検査のみで受けられる (有料)	47	14.4%
回答なし	3	0.9%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】 (n=327)

RPRカードテスト	236	72.2%
自動化法	23	7.0%
実施していない	17	5.2%
回答なし	54	16.5%
検査数	37,625	
うち陽性数	463	
陽性率	1.2%	

(n=259)

陽性者があった保健所	127件	38.8%
陽性者がなかった保健所	131件	40.1%

【TP抗体検査】 (n=327)

通常検査で実施	229件	70.0%
即日検査で実施	61件	18.7%
回答なし	43件	
検査数	33,744	
うち陽性数	846件	
陽性率	2.51%	

通常+即日 6件

2. (3) 検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？ (n=327)

結果説明のみ	77件	23.5%
医療機関を紹介	206件	63.0%
STS法を実施し、後日結果通知	1件	0.3%
その他	50件	15.3%

2. (4) 検査時間帯は？ (n=327)

1回 /月末満	12件	3.7%
1回 /月	55件	16.8%
2~3回 /月	97件	29.7%
4回 /月	148件	45.3%
5回 /月以上	10件	3.1%
土日実施している	18件	5.5%
夜間実施している	100件	30.6%

2. (5) 予約制ですか？ (n=327)

はい	210	64.2%
いいえ	112	34.3%
未記入	5	1.5%

2. (6) 有料の場合の費用は？ 有効回答 = 79

500円以下	14件	17.7%
500～1000円	25件	31.6%
1000～1500円	0件	0.0%
1500円～2000円	40件	50.6%

2. (7) 結果返しは？ (n=327)

即日	64件	19.6%
2日～1週間	179件	54.7%
1週間～2週間	85件	26.0%
2週間以降	2件	0.6%

3. 問題点、課題等

検査の2週間後に受検者から電話してもらうことで、性感染症検査の告知を行っているが、H2811月～12月の間では42%が未告知であり、性感染症検査の結果が伝わらない。
梅毒検査相談担当者のスキルアップ
H29.1月から月1回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査（IC法）を追加して、2項目同時検査に変更実施する。梅毒のIC法は補助金（特定感染症等事業）の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見および梅毒検査を実施していくため、補助金対象にしていきたい。
受検者が少ない、検査の周知が課題。
匿名の検査であるため、検査陽性者の受診やその経過まではフォローできない。匿名での検査であるため、検査陽性者からの求めに応じて医療機関の紹介をすること等は可能だが、陽性者が実際に受診をしたか、およびその治療経過等は把握することができない。治療中断者に対する受診勧奨等も不可。
結果を聞きに来ない人がいること。
治療終了後に検査を受け、陽性になった場合（RPRも）判断が困難である。1回だけの検査では。
特に20代女性をターゲットにした予防啓発の充実が課題。（感染予防、検査の必要性等、疾病に関する情報）
HIV検査と同時実施のため匿名となっている。陽性者が結果説明に来所しない場合のフォローが難しい。
自覚症状等ある場合には予約時点で直接医療受診を勧めている。
即日検査でないため、検査結果の未返却が生じやすい。
外国語の対応がパンフレット等を介してしかできない。
特にありません。医療機関でSTI検査を無料で実施できる制度があれば、潜在患者も広く救い上げることができるのではないかと思います。
結果を聞きに来られない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や、予防行動につなげられない可能性がある。
当所ではHIV検査を即日検査で実施している。その際に梅毒検査の結果は1週間後に伝えるため、梅毒の検査結果を聞きに来ないものがある。
HIV検査（迅速）とのかねあい
匿名実施のため、受検者から連絡がない場合、結果も伝えられない。
後日結果をお電話でお伝えするため電話のない受検者に結果を伝えられないこと。
行政検査のため無料、匿名検査ではあるが予約制である。
検査のアクセスのしやすさで考えると保健所での検査は有益であるか。今のところは医療機関の検査でよいと考える。
HIV同様、相談者が徐々に減少している。
実際の症状、治療の状況など情報、知識が少ないので一般的な話ができていない。
梅毒に特化した説明パンフレット等があれば活用したい。
現行のHIV、HBs抗体、HCV抗体検査同様、保健所で実施するのであれば、梅毒検査も匿名可、無料検査とすることが好ましく、相談する立場からは検査を受けやすくなると思うが、陽性の場合は治療が必要となり、保健所で検査実施後、医療機関へも受診する必要がある、受検者の負担は逆に大きくなるのではないか。
臨床検査技師が1名配置となっており、病休等で不在となった場合、検査業務を休止しなければならない。
梅毒紹介時に病院先の選定に苦慮。診療を受けてくれる病院が少ない。

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？（複数回答「その他」回答）

本市では保健所ではなく区役所で実施しています。7区役所中2区役所でHIV、梅毒、クラミジア実施
梅毒検査とその判定に十分習熟した検査担当者が必要と考える
体制（非常勤、検査の流れ等も含め）
即日検査の性能の問題
今後検討予定
県内では広島市のみ実施しており、県内の状況をみながら考えていきたい
検討中
検査部署との調整
医療機関受診を勧めている
医療機関で実施可能な検査は医療機関で受けていただく方針である。陽性の場合医療につながりやすいため
HIV即日検査を実施しているため
HIVは即日だが梅毒は即日で結果がでないため。同市内他保健所が実施している。

資料4 特設検査施設における梅毒検査に関する調査

アンケート送付数	21	
回収数	17	81.0%

1. (1) 貴施設では梅毒検査を実施していますか？ (n=17)

実施している	6件	35.3%
実施の予定	1件	5.9%
実施していない	10件	58.8%

1. (2) どのような条件があれば即日検査が可能となりますか？ (複数回答可) (n=10)

自治体本庁の方針であれば実施する	4	40.0%
職員の増員	0	0.0%
予算の増額	4	40.0%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	1	10.0%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	2	20.0%
必要性を感じていない	0	0.0%
即日で信頼できる試薬がある場合。	3	30.0%
検査体制の整備、制度管理	1	10.0%
HIV即日検査イベントと同時に行いたい、即日に結果を返すことができない	1	10.0%

「梅毒検査を行っている」と答えた施設のみ

2. (1) どのように実施していますか？ (複数回答可) (n=6)

HIV検査と一緒に受けられる (無料)	6	100.0%
HIV検査と一緒に受けられる (有料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる (無料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる (有料)	0	0.0%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】

RPRカードテスト	3	50.0%
自動化法	1	16.7%
実施していない		0.0%
回答なし	2	33.3%
検査数	6,665	
うち陽性数	428	
陽性率	6.4%	

(n=6)

【TP抗体検査】

通常検査で実施	4件	66.7%
即日検査で実施	2件	33.3%
回答なし	0件	
検査数	1,471	
うち陽性数	413件	
陽性率	28.1%	

(n=6)

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？

結果説明のみ	3件	50.0%
医療機関を紹介	3件	50.0%
STS法を実施し、後日結果通知	0件	0.0%

(n=6)

2. (4) 検査時間帯は？ (n=6)

1回 /月未満	3件	50.0%
1回 /月	1件	16.7%
2~3回 /月	0件	0.0%
4回 /月	1件	16.7%
5回 /月以上	1件	16.7%
土日実施している	2件	33.3%
夜間実施している	4件	66.7%

2. (5) 予約制ですか？

(n=6)

はい	4	66.7%
いいえ	2	33.3%

2. (6) 有料の場合の費用は？

6件とも無料

2. (7) 結果返しは？

(n=6) 複数回答あり

2日～1週間	3件	50.0%
1週間～2週間	1件	16.7%
回答なし	2件	33.3%

3. 問題点、課題等

看護師不足
HIV検査は即日検査を行っており、梅毒検査の結果が出る時間的な差がある。梅毒の即日検査は制度について課題があり、導入は検討していない。
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
H29年4月から月に2回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査（IC法）を追加して2項目同時検査に変更、実施予定。梅毒のIC法は補助金（特定感染症検査等事業）の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見およびHIV受検促進のために、需要のある即日検査で梅毒検査を実施していただけるよう、補助金対象にしていきたい。
梅毒の診断や治療を受けていないが、RPR(-)TPHA(+)という場合がある。風邪等で抗生剤を処方された結果、RPRが陰性化した可能性が想定される。

HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

研究分担者：木村 哲（東京医療保健大学 学長）

研究協力者：生島 嗣（ふれいす東京）、今村 顕史（がん・感染症センター都立駒込病院感染症科）、岡 慎一（国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター）、加藤 真吾（慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室）、要 友紀子（SWASH）、白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部）、杉山 真一（原後綜合法律事務所）、高久 陽介（日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+）、福武 勝幸（東京医科大学医学部医学科臨床検査医学分野）、松下 修三（熊本大学エイズ学研究センター）、渡會 睦子（東京医療保健大学医療保健学部看護学科）

研究要旨

HIV 感染の早期発見（検査）と早期治療は AIDS 発症を予防し、また、新たな HIV 伝播を減らす重要な手段である。全国の保健所および自治体検査相談施設（以下、保健所等）で行っている HIV 抗体検査件数は 2009 年以降減少し、2015 年に至るまで 13～14 万件前後にとどまっている。一方、「HIV 郵送検査」による検査件数は年々増加し、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高まっていることが窺える。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられていることから、HIV 郵送検査の在り方を検討し、HIV 郵送検査を信頼性が高く、安心して受けられる検査として行くことを目的とし、本研究を計画した。2 年間にわたり市川班の分担研究として HIV 郵送検査事業者（以下、会社）に対するアンケート調査及び HIV 郵送検査精度に対する第三者精度調査を行った。また、「郵送検査の在り方について」をまとめ上げることができた。

「アンケート調査」では自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社 12～13 社にアンケートを依頼し、9～11 社から回答が得られた。2016 年の HIV 郵送検査全体の年間検査件数は 90,807 件で過去最高であった。団体検査の推定受検者率は 40～53%であった。HIV スクリーニング検査陽性件数は 2015 年 99 件、2016 年 149 件であった。検査結果は郵送、e-mail、ネットでの通知が選択できる事業者が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査事業者で病院あるいは保健所での検査を勧めていた。

郵送検査の「外部精度調査」を 2 年間で計 8 社に対し実施した。各施設が実際に使用している濾紙あるいは容器にランダムに陽性検体、陰性検体、合計 100 検体をスポットし、あるいは指定の容器に入れ、郵送し検査を実施してもらった。8 社中、6 社は陽性検体、陰性検体を全て正しく判定しており、感度、特異度とも 100%であった（判定保留を日本エイズ学会の推奨法に従い陽性と仮定）。残る 2 社で感度 100%・特異度 88%と感度 94%・特異度 100%であった。

「HIV 郵送検査在り方検討会」計 3 回とメールでの意見交換で、留意点は 1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供しているか、2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法が充実しているか、3) HIV

検査に関する個人情報の保護が徹底されているか、4) 定期的に適切な検査の精度管理が実施されているか、5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性が確保されているか、6) HIV 郵送検査キットの製造および販売、測定に係る法などが遵守されているか、の6点に絞られた。まとめた「HIV 郵送検査の在り方について」の全文を本分担報告書の末尾に記載した。

A. 研究目的

AIDS発症を予防し新たなHIV感染者を減らすために、HIV感染の早期発見（検査）と早期治療が重要である。全国の保健所および自治体検査相談施設（以下、保健所等）で行っているHIV抗体検査件数は2008年までは年々増加し年間約17万7千件余りに達したが、その後、急に減少し2015年に至るまで13~14万件前後にとどまっている。一方、「HIV郵送検査」による検査件数は2001年の3,600件からほぼ直線的に増加を続け、2015年には85,629件に達している。予約時間に縛られ保健所等に出向いて受けるよりも、保健所職員や他の受検者等と対面することなく、差別偏見の目を意識せず、自宅で、一人で、いつでも受けられるHIV郵送検査に対する社会的ニーズが高いことを示している。

しかし、現状のHIV郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられている。そこで本研究はHIV郵送検査を信頼性が高く安心して受けられる検査として、社会的ニーズに応えられるようにして行くことを目的として計画した。最終的に「HIV郵送検査の在り方について」を作成し、出来るだけ多くのHIV郵送検査事業者（以下、会社）に遵守してもらえよう、協力を得て行くことを目指す。

B. 研究方法

2年間にわたり、色々な立場の研究協力者と共に、「HIV 郵送検査」の実態を評価し、課題を抽出した。

検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検

査を取り扱う Web サイトを上位 100 位まで検索した。検索した 100 サイトの内、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社 12 ~13 社が抽出された。これらの郵送検査会社に対しアンケート調査を行った（研究協力者加藤真吾博士、須藤弘二博士による）。

「第三者による外部精度調査」を実施した。この調査では実際の HIV 郵送検査に用いられる指定の汙紙又は容器、陽性 51 検体、陰性 49 検体、合計 100 検体を HIV 郵送検査会社に送付した。各社による判定結果から感度・特異度等を検定した。陽性 51 検体は慶應義塾大学病院に来院した未治療の感染者の血漿 17 例と健常人の血球 7 例を組み合わせ作成した。陰性 49 検体も同様に、健常人の血漿 7 例と血球 7 例を組み合わせ作成した。

「HIV 郵送検査在り方検討会」を開催し、HIV 郵送検査の問題点を抽出し、「HIV 郵送検査の在り方」に盛り込むべき内容を検討した。

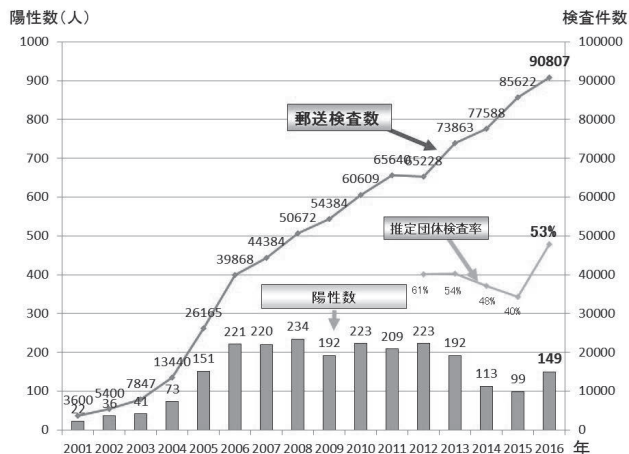
（倫理面への配慮）郵送検査に関する研究全体については東京医療保健大学の研究倫理委員会に提出し、承認を受けた（教 27-32）。精度管理調査に用いる HIV 陽性検体、陰性検体については慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会の承認を得た（20150176）。それに基づき、血液提供者の同意を得て血液を採取した。血液提供者の個人情報漏えいすることの無いよう、匿名化すると共にその取扱いには細心の注意を払った。

C. 研究結果

1. HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査
これまで加藤班で HIV 郵送検査会社に毎年継続的に行ってきたアンケート調査に準じた調査を実施した。

1) アンケート調査の集計から得られた年間 HIV 郵送検査件数と検査陽性件数：2015 年と 2016 年の HIV 郵送検査件数はそれぞれ 85,629 件と 90,807 件であった（図 1）。

図 1. 郵送検査件数の推移



団体受付の推定検査率は 40%と 53%であった。返送方法（複数回答）として、個人と依頼人両方に返送する会社、依頼人にまとめて返送する会社、依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送する会社が見られた。

2015 年と 2016 年の郵送検査による陽性件数は 99 件と 149 件であった。その内、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数は 24 件と 54 件であった。

b. 検査申込方法（複数回答）：インターネットでの申込は 9 社すべてで行われていた。その他、電話あるいは FAX での申込、店頭、診療所での販売は、郵便での申込が行われていた。

c. 検査費用：検査費用は 2,389～6,000 円（税抜）であった。

d. 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具：検査検体は全社すべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存・郵送は濾紙が 7 社、専用容器が 2 社であった。

e. 受検者から HIV 郵送検査会社への検体輸送方法：受検者から事業者への検体輸送は、全

社とも郵便を用いており、8 社が室温、1 社が冷蔵であった。

f. 検査の方法と使用キット：HIV 郵送検査会社で使用されている検査法は PA 法、イムノクロマト法、EIA 法、CLEIA 法など多様であった。

g. 検査の実施施設：検査を自社のラボで行っているのが半数以上で、残りはは提携している他の検査機関に依頼していた。

h. 検査結果の通知方法と通知までの日数（複数回答）：郵便での通知は総てで可能となっていた（希望者への通知を含む）。e-mail での通知、専用サイト（ID、パスワードあり）で通知していた会社が多かった。FAX、電話対応できる事業者もあった。結果通知までの日数は、平均 4～5 日であった。

i. 検査陽性時の対応（複数回答）：検査結果が陽性だった場合、大部分が病院で確認検査を受けるように勧めていたが、提携している医療機関に行くように勧めている会社が半数程度存在した。

相談については HIV に関する相談窓口を紹介している会社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせている会社などがあつた。

2. 検査の精度調査

検査精度の外部調査については HIV 抗体陽性または陰性が判明している検体を実際の HIV 郵送検査と同様の方法で HIV 郵送検査会社に郵送し、HIV 郵送検査会社による判定結果と照合し評価した。

2 年間で 8 社の精度調査を実施し、その内 6 社では感度、特異度共に 100%であり、真の判定と完全に一致した（判定保留を日本エイズ学会の推奨法に従い陽性と仮定）（表 2、4～8。残る 2 社で感度 100%、特異度 88%と感度 94%、特異度 100%であった（表 1、3）。

表 1. 施設 1 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 1	陽性	45	3	48
	陰性	0	43	43
	保留	6	3	9
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 88%)

表 5. 施設 5 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 5	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

表 2. 施設 2 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 2	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

表 6. 施設 6 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 6	陽性	44	0	44
	陰性	0	49	49
	保留	7	0	7
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

表 3. 施設 3 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 3	陽性	48	0	48
	陰性	3	49	52
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 94%、特異度 100%)

表 7. 施設 7 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 7	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

表 4. 施設 4 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 4	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

表 8. 施設 8 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 8	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

(感度 100%、特異度 100%)

3. HIV 郵送検査在り方検討会

HIV 郵送検査検討会は計3回開催した。メール討論も活用し、多くの研究協力者の参加の下、これまでの題点・課題について実り多い議論を行うことができた。

検討の結果、HIV 郵送検査における留意点は概ね次の6項目にまとめられた。カッコ内に留意内容の概略を記載した（詳しくは本分担報告書の末尾の資料を参照）。

- 1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること（HIV 感染症の感染経路、病態・症状、臨床経過、治療法、予後などに関する正しい情報が記載されていること、HIV 郵送検査利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、感染していても、治療を継続すれば HIV 感染症の進行を食い止めることができ、低下していた免疫力を回復させることができること、感染者が適切な治療を受けることにより、他者への HIV 伝播の確率を著しく低減することができること、など）
- 2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること（感染者が治療を受けずに放置しておく、エイズを発症してしまい予後が悪くなるので、できるだけ早く医療を受けるよう強く推奨すること、実際に受診したか否かの情報が確認できるようにするため、医療機関あるいは保健所・特設検査相談所から連絡がもらえるようにするなど、各検査事業所においてその方法を工夫すること、など）
- 3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること（HIV 郵送検査会社は、個人情報の漏洩を防止するため、保有個人情報データに関し、上記ガイドラインに定める安全管理措置をとらなければならないこと、HIV 検査結果が確実に受検者のみに通知され、事業者（勤務先等）に提供されることないように、郵送先及や郵送方法の選択、ID/パスワードの通知方法等について、適切な対処をすること、など）

4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること（精度管理調査においては実際の検体郵送過程を含めた検査結果と真の陽性・陰性とを照合し、感度・特異度を検定すること、感度・特異度はいずれも 95%以上となるよう速やかに検査法を改善すること、いずれの HIV 郵送検査事業者も中立的第三者機関による郵送過程を含めた精度調査を定期的に受けること、精度調査を現在は研究班で行っているが、いずれ民間の精度管理会社に委ねる必要があること、など）

5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること（国連規格のカテゴリ-A 容器を用い三重梱包とすること、など）

6) HIV 郵送検査キット（セット）の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること（HIV 郵送検査キット（セット）を作成するために、医療機器（ランセット等）を小分けしたり、他の製品と組み合わせる行為は医療機器の製造行為に該当すること、内容物に医療機器を含む HIV 郵送検査キットを製造する者は医療機器製造業の登録を受ける必要があること、など）

これらの検討事項の検討結果を、「HIV 郵送検査の在り方について」としてまとめた（全文を本分担報告書の「G. 知的財産権の出願・登録状況」の後のページに資料として記載）。これを HIV 郵送検査会社に示し、改善の努力をしてもらうこととする。

D. 考察

HIV 郵送検査件数は、2001 年に 3,600 件程度であったものが年々増加し、2005 年には 26,165 件、2010 年には 60,609 件、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高まっていることが窺える。2016 年における郵送検査全体の年間検査件数は 90,807 件（2015 年の 6%増）で、これまでの最高件数となった。エイズ動向委員会が発表した 2015 年における保健所等の検査件数は 128,241 件であり、

郵送検査件数は保健所等における検査件数の7割近くに達していることがわかった。

また郵送検査件数の内、40～53%が団体受付による検査と推定された。個人情報保護の観点から懸念があり、さらなる検討と対策が必要である。

郵送検査全体の検査陽性件数は2015年99件に対し、2016年は149件でかなり増加しており、今後の推移が注目される。

保健所等において、確認検査陽性者が医療機関へ受診したことが確認できた割合は87%（HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査報告書（H27年度）、今井光信ほか）であるのに対し、郵送検査において、陽性結果の内、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数が2015年24%、2016年36%であった。

HIV郵送検査結果が陽性であった場合、すべてのHIV郵送検査会社が医療機関もしくは保健所等での確認検査をすすめていたが、郵送やWebサイトを用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行われないため、医療機関等への受診について十分な情報を伝えにくい欠点があり、受診が確認できたのが2015年1件、2016年5件と少なかった点は課題として残る。

第三者（当研究班）による外部精度管理調査では対象とした8社中6社が感度、特異度とも100%であった（判定保留を日本エイズ学会の推奨法に従い陽性と仮定）。残る2社では感度100%・特異度88%と感度94%・特異度100%であった。このような結果から「HIV郵送検査の在り方について」では感度、特異度とも95%以上を目標とするよう定めた。

郵送検査は、HIV検査全体での割合も徐々に大きくなりつつあることから、今後、外部精度管理調査会社等の参画を得、継続的に精度管理が確認できる体制を構築する必要がある。

HIV郵送検査では、団体申し込みが約半数を占めており、検査結果の返却方法において、個人情報を守られていない恐れがある。「HIV郵送検査在り方検討会」においては、法律家の参加も得て、討議が煮詰まり、「HIV郵送検査の在り方について」をまとめることが出来た。検査結果は本人のみに通知すべきとした（資料：「HIV郵送検査の在り方について」を参照）。

HIV郵送検査会社にはこの「HIV郵送検査の在り方について」をよく読んでもらい改善すべき点を速やかに改善するよう、切に望むものである。

特に、個人情報の保護と定期的検査精度管理が重要である（資料：「HIV郵送検査の在り方について」を参照）。また、保健所等における対面検査と異なり、HIV郵送検査は対面せずに受けられる利点があるものの、郵送やWebサイトを用いた検査の特性上、説明が対面で行われないため、HIV検査に関する十分な情報を伝えにくい欠点があるので、これらの点を是正し、かつ、陽性者を医療機関等に繋げられるよう工夫してもらう必要がある。

E. 結論

HIV郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、検査件数は年々増加し2016年は90,807件で過去最高であった。

8社に対して外部精度管理調査を行い、8社中6社が感度、特異度が100%であった。検査の精度管理は、今後の継続性を考慮すると民間の検査精度管理会社の参画を得て実施して行くべきものと思われる。

「HIV郵送検査の在り方について」をまとめることが出来た（本報告の資料参照）。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Wada K, Yoshikawa T, Lee J. J., Mitsuda T,

- Kidouchi K, Kurosu H, Morisawa Y, Aminaka M, Okubo T, Kimura S, Moriya K; Sharp injuries in Japanese operating theaters of HIV/AIDS referral hospitals 2009–2011. *Industrial Health* 54: 224–229, 2016
- 2) 木村哲; 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規HIV感染者報告数の関連. *日本エイズ学会誌* 18 (1) : 79–85, 2016
- 3) 木村哲; HIV 感染症の最近の動向—世界と日本の疫学状況、抗 HIV 療法 (ART) の進歩等—. *感染制御* 11 (3) : 223–229, 2015
- 4) 木村哲; HIV 感染症について. *感染と消毒* 23 (2) : 86–92, 2016
- 5) 木村哲 (監訳); 成人および青少年 HIV-1 感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン 2016 年 7 月 14 日版. テクノミック, 東京, 2016
- 6) Ogishi M, Yotsuyanagi H, et al; Deconvoluting the composition of low-frequency hepatitis C viral quasispecies: Comparison of genotypes and NS3 resistance-associated variants between HCV/HIV coinfecting hemophiliacs and HCV monoinfected patients in Japan. *Plos One* 10 (3) : e0119145. doi: 10.1371/journal.pone.0119145, 2015
- 7) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 藤谷順子, 大金美和, 大平勝美, 木村哲; ICF (国際生活機能分類) コアセット 7 項目版尺度の信頼性と因子妥当性の検証—血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者を対象とした分析—. *日本エイズ学会誌* 17 (2) : 90–96, 2015
2. 学会発表
なし
- G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料：HIV 郵送検査の在り方について

厚労科研費エイズ対策政策研究事業

「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」（研究代表者：市川誠一）
分担研究「HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究」（研究分担者：木村哲）

HIV 郵送検査の意義について

HIV 感染の早期発見・早期治療は感染者自身の健康にとって極めて重要である。また、抗 HIV 療法により二次感染を 96～93%減少させられる (1, 2) ことから、HIV 抗体検査は HIV 感染の拡大阻止にも重要であり (Treatment as Prevention)、効果的な検査機会を増やす工夫が必要である。現在、全国の保健所および自治体特設検査相談施設 (以下、保健所・特設検査相談所) で行っている無料・匿名の自発的検査は新規 HIV 感染者報告数の約 4 割程度を占め重要な検査体制であるが、この検査による検査件数は 2008 年までは年々増加し年間約 17 万 7 千件余りに達したが、その後、急に減少し 2015 年に至るまで約 13 万件程度で停滞している。

この自発的検査は保健所・特設検査相談所へのアクセスの問題、検査可能な時間帯・曜日の制約、予約取得の煩わしさ、保健所・特設検査相談所の職員との対面が避けられず、他の受検者・訪問者にも顔を見られる可能性があるなどの理由から、敬遠されることもある。このように検査体制も受検者本位とは言えない場合が多く不便な面があり、しかも、これまでの実績から啓発等で検査件数を増やすと陽性率が低下する欠点がある (3) など、保健所・特設検査相談所における検査には限界がみられる。

保健所・特設検査相談所における検査のように対面による検査を受け入れられる層と、受け入れ困難な層があると考えられる。差別・偏見を危惧するリスク層にとってはアクセスしにくい側面があるのではないかと思われる。

一方、10 社以上の民間事業者が行っている「HIV 郵送検査」の検査件数は 2001 年頃からほぼ直線的に増加を続け、2015 年には 8 万 5 千件を超えた (4)。この状況は保健所職員や他人と顔を合わせる事ができない、予約時間などに縛られることがない、保健所などに出向かずに済む、差別偏見の目を意識せずいつでもどこでも受けられる検査を好む個人が相当数存在することを意味しており、HIV 郵送検査が保健所・特設検査相談所での検査とは異なる層の検査の受け皿となり得る可能性がある。この意味において、HIV 感染リスク層の啓発・支援活動を行っている NGO 等と協働した HIV 郵送検査は費用対効果に優れていると思われる。

しかし、現状の「HIV 郵送検査」には、検査の精度管理、提供する情報量、医療機関への紹介メカニズム、検査結果通知において個人情報保護などが不十分、などの問題も懸念される。

HIV 郵送検査の位置づけ

HIV 感染症診断のための検査として、その感度、特異度が保証され使用が国から承認されているのは、現在、医療機関や保健所・特設検査相談所で採用されている血液を用いるスクリーニング用抗体検査法、抗体抗原検査法および確認検査用のウエスタンブロット法、抗原検査法、HIV-RNA 定性・定量法である。HIV 郵送検査は最終段階においてこれらの承認されたスクリーニング検査用キットや試薬を用いていると思われるが、HIV 郵送検査自体には国の承認を得たものはない。検体採取量、検体の保存状況にばらつきがあり、郵送・保存に伴う検体の変質・劣化・漏出等に

関する保証が無く、汙紙法の場合には血液材料等の抽出条件などの細部が事業者によって区々であり、場合によってはこれらが検査結果に影響を及ぼしかねないが、これらを整え HIV 郵送検査法として国に承認申請されたものはない。

保健所・特設検査相談所における自発的受検が本来の形であるが、上述の様に保健所・特設検査相談所における対面検査には抵抗感があるが、HIV 郵送検査であればアクセスできる層に、保健所・特設検査相談所における検査を補完する検査として活用できる可能性がある。しかし、広く活用されるためには検査精度が適正に管理され、個人情報保護される体制であること等が求められる。後述の「HIV 郵送検査の在り方に関する留意事項」は、そのための最低限の必要条件を記載したものであり、HIV 郵送検査を信頼できる検査法とすべく、各 HIV 郵送検査事業者の当面の到達目標と考え、できるだけ早期に改善すべき点は改善し目標に到達して頂きたい。

次の段階として、HIV 郵送検査法の充実に図り、この方法が簡易スクリーニング検査の一つとして、何らかの形で国の承認・認可が得られるよう努力されることを期待する。ちなみに米国では 1996 年に Home Access HIV-1 Test System として FDA により承認され、活用されている。

HIV 郵送検査の実態調査の結果について

2015 年、厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」（研究代表者：市川誠一）の中で「HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究」（研究分担者：木村哲）においてアンケート法により HIV 郵送検査の実態調査を行った（研究協力者：加藤慎吾、須藤弘二）(4)。

検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検査を取り扱う Web サイトを上位 100 位まで検索した。検索した 100 サイトの内、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社が現在 12 社あることがわかった（前年より 1 社増加）。これらの郵送検査会社にアンケート調査を行った。

郵送法による HIV 抗体検査は回答のあった 11 社中 6 社が自社のラボで行っていた。5 社は提携している他の検査機関に検査を依頼していた。

受検者から事業者への検体輸送は、11 社とも郵便を用いていた。温度設定は、10 社が室温、1 社が冷蔵であった。

検査検体は 11 社すべてが血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存・郵送は濾紙が 7 社、専用容器が 4 社であった。専用容器で保存している 4 社のうち、2 社が遠心分離、1 社がフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

HIV 郵送検査事業者が最終段階で使用している検査法は PA 法が 4 社、イムノクロマト法が 3 社、EIA 法が 1 社、CLEIA 法が 1 社であった。PA 法ではジェネディア HIV-1/2 ミックス PA が主に使用されており、イムノクロマト法はダイナスクリーン HIV-1/2（アリーアメディカル社）、CLEIA 法はルミパルス オーズ HIV-1/2（オーソ社）が使用されていた。

検査結果の通知は 11 社すべてで郵便での対応が行われており、e-mail での通知は 5 社が対応していた。また、専用サイト（ID、パスワードあり）で通知していた会社は 4 社あった。結果通知までの日数は、検体受領後 1~14 日であり、中央値は 3 日、平均 5 日であった。

郵送検査による HIV 抗体検査陽性件数は 99 件で、抗体検査結果が陽性だった場合、11 社すべてが医療機関もしくは保健所・特設検査相談所で確認検査を受けるか、もしくは提携している医療機関に行く様に勧めていた。相談については HIV に関する相談窓口を紹介しているのが 3 社、自

社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが2社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカウンセリングを受けるよう勧めているのが1社であった。

11社の内、団体検査の受け付けがあったのは5社であった。返送方法(複数回答)として、個人にのみ返送が2社、個人と依頼人両方に返送が1社、依頼人にまとめて返送が1社、依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送が2社であった。

陽性結果99件中、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数が24件あった。尚、11社中6社が第三者による外部精度管理を希望していた。

HIV 郵送検査の在り方に関する留意事項

現状の「HIV 郵送検査」には全く基準・規制がなく検査事業者の自主的判断に委ねられているが、「HIV 郵送検査」を安心して受けられる、信頼できる検査とするために、各事業者が以下の点を遵守することを推奨する。

既述の研究班(市川班)による上記アンケート調査の結果をもとに、郵送検査という特性も考慮に入れ、「HIV 郵送検査」の留意事項をまとめると次のようになる

- 1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及びHIV感染症に関する十分な情報を提供すること
 - 2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること
 - 3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること
 - 4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること
 - 5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること
 - 6) HIV 郵送検査キット(セット)の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること
- それぞれについて主な留意内容を以下に記載する。

1. HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及びHIV感染症に関する十分な情報を提供すること

HIV 郵送検査は保健所・特設検査相談所における対面検査ではないため、情報伝達が一方通行で情報の理解度も不十分となる恐れがあるので、懇切丁寧な情報を提供する必要がある。そのために、「説明書等」においては単に検査器具等の使用法の説明に留めず、「HIV 郵送検査キット」の添付文書及びWeb画面の双方にHIV感染症および検査に関して、次の情報を提供すべきである。

- ・ HIV 感染症の感染経路、病態・症状、臨床経過、治療法、予後などに関する正しい情報が記載されていること
- ・ 保健所・特設検査相談所での HIV 検査は無料匿名であるが、郵送検査は有料であると
- ・ HIV 感染症は HIV に感染しているにも拘らず無症状の期間が数年～十数年と長いため、抗体検査等を受けなければ感染しているかどうかは分からないこと
- ・ HIV 郵送検査利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、感染していても、治療を継続すれば HIV 感染症の進行を食い止めることができ、低下していた免疫力を回復させることができることを、検査受検前の情報としても伝えておくべきであること
- ・ また、感染者が適切な治療を受けることにより、血液・体液中のウイルス量が減少し、他者への HIV 伝播(二次感染)の確率を著しく低減することができる(治療による伝播予防; Treatment as Prevention) (1, 2) こと
- ・ HIV 郵送検査は HIV に感染しているか否かを判断することを目指した検査であるが、国の承認

を得たものではないこと

- ・時として感染していても陰性と判断されたり（偽陰性）、感染していないのに陽性と判断される（偽陽性）こともあり、場合によっては「判定保留」となることもあることを十分に説明しておくこと
- ・HIV 郵送検査に限らずどの検査であっても見落としがない（感度が高い）ことが望ましいが、感度を上げすぎると偽陽性が増えることがあるので、このような検査の限界もあることも利用者に理解しておいてもらうこと
- ・感染して2～3か月以内では感染していてもまだ抗体が十分上がっていないため、陰性との結果になる（ウインドウ期）可能性がある。従って、2～3か月以内にHIVの曝露を受けた可能性がある場合は1か月後程度を目途に再検査を受けること

2. 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口の案内と受診確認法を充実させること

- ・HIV 郵送検査で、もし陽性と判定された場合は真に陽性であるか否かを確認するため医療機関または保健所・特設検査相談所で確認検査を受けることを強く推奨すること
- ・感染者が治療を受けずに放置しておく、エイズを発症してしまい予後が悪くなるので、できるだけ早く医療を受けるよう強く推奨すること
- ・受診または相談できる医療機関（HIV 診療拠点病院など）、保健所・特設検査相談所、相談窓口等のリストとともにその連絡先情報（住所、電話番号等）を提供すること
- ・非対面検査の欠点として医療機関受診への呼びかけが不十分になり勝ちである。実際に受診したか否かの情報が確認できるようにするため、医療機関あるいは保健所・特設検査相談所から連絡がもらえるようにするなど、各検査事業所においてその方法を工夫すること（ちなみに保健所で陽性と判定された受検者の87%、特設検査相談所では93%で医療機関を受診していたことが確認できている（5）が、既述の研究班（市川班）で行ったアンケート調査の結果ではすべてのHIV 郵送検査事業者が医療機関受診を勧めているものの、受診したかどうかはモニターできていない（4））
- ・判定保留の結果が出た場合は、陽性結果の場合に準じ、医療機関または保健所・特設検査相談所で確認検査を受けることを強く推奨すること
- ・陽性あるいは判定保留と判定された利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、治療を継続すればHIV感染症の進行を食い止め、免疫力を回復させることができる旨、伝えること

3. HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること

- ・HIV 検査に関する個人情報は、検査結果はもとより受検をしたこと自体が個人情報として保護されることに留意すること
- ・受検者の個人情報については「個人情報の保護に関する法律」（平成15年5月30日法律第57号、最終改正平成28年5月27日。以下「法」という）および「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」（厚生労働省 平成16年12月24日作成、最終改正平成22年9月17日）により、適正に取り扱わなければならない（注1のガイドライン参照）。法およびガイドラインの概要は以下のとおりである
- ・検査検体の利用目的は、HIV 検査を行いその結果を当該受検者に報告することに限定されて

おり、そのことが受検に際し明示される必要がある。実際の測定を外部業者に委託する場合は、その旨受検者に対し、明示すること

- ・受検者の明示の同意を得ることなく、上記利用目的以外の利用をしてはならない
- ・HIV 郵送検査事業者は、個人情報の漏洩を防止するため、保有個人情報データに関し、上記ガイドラインに定める安全管理措置をとらなければならない。また、当該個人からの開示請求、訂正・削除請求に適切に応じる態勢を整備しなければならない
- ・HIV 検査結果（とりわけ陽性の場合）は、いわゆるセンシティブ情報（個人情報の中でも特に他人に知られたくない情報であり、保護の必要性が高い情報）の一つであることから、可能な限り匿名化の措置をとることが推奨される（匿名化の定義については、上記ガイドライン 6 頁 II 2 参照）。特に、外部の業者に検査を委託する場合には、匿名化した情報のみを提供するか、当該委託先業者にも法及びガイドラインの遵守を具体的に実行させる必要がある
- ・HIV 検査結果（検査を受けたかどうかの情報も含む）は、受検者自身の個人情報であり、かつ保護の必要性の高い情報であるから、その漏洩がないよう、通知手段、方法、宛先等の選択には十分な配慮すること。具体的には、HIV 検査結果が確実に受検者のみに通知され、事業者（勤務先等）に提供されることないように、郵送先及び郵送方法の選択、ID/パスワードの通知方法等について、適切な対処をすること。
- ・HIV 検査結果が、受検者の明示的な同意なくして、事業者（勤務先等）に提供されないよう適正に対処すること

4. 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること

検査の精度管理は HIV 郵送検査の信頼性にかかわる極めて重要な作業である。信頼されなければ HIV 郵送検査はいずれ利用されなくなってしまう。国の承認を受けたスクリーニング検査法ではないものの、判定結果が受検者やその性的パートナー、関係者に与える影響度を考えると、感度と特異度がかなり高いことが望まれる。

- ・精度管理調査においては実際の検体郵送過程を含めた検査結果と真の陽性・陰性とを照合し、感度・特異度を検定すること
- ・感度が低い場合は陽性者の見落としにつながるので、95%以上となるよう速やかに検査法を改善すること
- ・感度を上げることにより特異度が低下することがあるが、特異度は 95%以上となるよう検査法を改善すること
- ・いずれの HIV 郵送検査事業者も中立的第三者機関による郵送過程を含めた精度調査を定期的に受けること（中立的第三者機関：当面は厚労科研費エイズ対策政策研究事業で HIV 郵送検査を扱う研究班が可能な範囲で行う。将来的には民間の精度管理会社に委ねる）
- ・いずれの事業者も中立的第三者による調査結果を真摯に受け止め、検査精度の向上に向け検査法を改善して行く必要がある
- ・自施設で測定・判定まで行う場合は、厚生労働省医政局「検体測定室に関するガイドライン」（7 ページ注 1 に記載のガイドライン）に準じ、衛生管理者（医師、薬剤師、看護師、または臨床検査技師）および精度管理者（医師、薬剤師または臨床検査技師）を置き、適正に精度管理を行うこと

・測定作業に従事する者は、医師、薬剤師、看護師、または臨床検査技師であること（7 ページ注1に記載のガイドライン）

5. 血液採取過程、検体郵送過程および検査過程における安全性確保について

- ・ランセット等の衛生的で安全な使用法、消毒を含めた指先部穿刺方法等については厚生労働省医政局「検体測定室に関するガイドライン」（注1）に準じた十分な説明文を添付すること
- ・ランセットは単回使用で、使用后刃先が自動的に収納される安全装置付きのものを提供すること
- ・血液採取量が不十分だと正しい結果が得られないことがあるので、受検者には正しい穿刺法、採取法を説明すること
- ・アスピリン等抗血栓薬、抗凝固薬等を使用中の受検者は止血困難となることがあるため、穿刺しないよう警告すること
- ・濾紙等で郵送する場合は、検体が多湿に曝されないように工夫すること
- ・郵送する検体が途中で露出してしまうことが無いよう、安全な包装とすること
- ・血液または血清（血漿）で郵送する場合、検体容器が途中で破損しても血液成分が外部に漏出することが無いよう、国連規格のカテゴリーA 容器を用い三重梱包とすること。一次容器（密封性）と二次容器（密封性）の間に緩衝材と内容物全量を吸収できる十分量の吸収材を充填し、更にその外側を国連規格三次容器（非密封性）で梱包すること（国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室「輸送容器について」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-biosafe/946-youkis.html>を参照のこと）

- ・測定作業に際しては血液検体を扱うことを認識し、作業者が肝炎ウイルス、HIV 等血液媒介性病原体に感染することが無いよう、作業員への教育、研修等を実施すること

6. HIV 郵送検査キット（セット）の製造および販売、測定にかかる法などの遵守

HIV 郵送検査キット（セット）を作成するために、医療機器（ランセット等）を小分けしたり、他の製品と組み合わせる行為は「医療機器の製造行為」に該当する（医薬品医療機器法；新薬事法）。従って、内容物に医療機器を含む HIV 郵送検査キットを製造する者は「医療機器製造業」（ランセットなどの医療機器を小分けし組み合わせる業）の登録を受ける必要がある。

小分け・組み合わせ医療機器の製造に該当する場合は、その医療機器の医薬品医療機器法上の分類に応じた「製造販売届出、認証申請および承認申請」のいずれかが必要である。

また、それらを販売する場合は、その医療機器の医薬品医療機器法上の分類に応じた「医療機器販売の許可又は届出」が必要である（下記、参考1～参考4を参照）。

自施設で検査を行う場合は、「衛生検査所」の業としての都道府県知事の登録を受ける必要がある（注1）。

医療機器の製造及びその販売に関しては、以下の参考1～参考4に代表されるような細かい決まりがあるので、それらを遵守し遺漏の無いように正規の手続きを進めなければならない。

（注1）自施設で検査を行う場合は、「衛生検査所」として都道府県知事の登録を受ける必要がある（「臨床検査技師等に関する法律」）。この法律が2014年に改正され、「利用者自らが採取した検体について民間事業者が血糖値や中性脂肪などの生化学的検査を行う事業については、診療の用

に供する検体検査を伴わないことから、「衛生検査所」としての登録が不要となり（医政発 0409 第 4 号、2014 年 4 月 9 日）、「検体測定室」として医政局指導課に届け出れば良いこととなった。しかし、その測定項目は血糖値や中性脂肪など「特定検診検査」等に該当する項目の範囲内とされており、HIV 検査は含まれていない。従って、HIV 郵送検査を自施設で行う場合は、引き続き「衛生検査所」として都道府県知事の登録が必要である。上記医政発 0409 第 4 号には別紙として「検体測定室に関するガイドライン」が付されており、血液の自己採取に関連する留意事項が盛り込まれている。HIV 郵送検査においてもこのガイドラインに準じて対応することが強く推奨される。このガイドラインは<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000098580.html> の最下段にある「関連通知等」からアクセスできる。

（参考 1）「組み合わせ医療機器に係る製造販売承認申請、製造販売認証申請及び製造販売届出に係る取り扱いについて（医食機発第 03381002 号 平成 21 年 3 月 31 日）」

今般、複数の医療機器を組み合わせた医療機器の製造販売承認申請、製造販売認証申請及び製造販売届出に係る取り扱いについて、あらかじめ医療機器同士を接続している組み合わせ医療機器に係る取り扱い等を含め、組合せ医療機器全般に係る取り扱いを下記のとおりとしたので、（中略）周知をお願いしたい。

記 1. 対象とする組合せ医療機器の範囲について 本通知が対象とする組合せ医療機器は、次のいずれかに該当するものとする。(1) 临床上、必要性が認められる範囲において、複数の医療機器を製造販売業者からの出荷時において接続することなく単に組み合わせた医療機器（複数の医療機器を接続することなく同時又は順次使用するもの、又は複数の医療機器を同時に接続するものをいう）。(2) ～ (4) …省略。2. 必要な申請又は届出について (1) 製造販売届出の対象になる場合…省略。(2) 認証申請の対象になる場合…省略。(3) 承認申請の対象になる場合…省略。3～8…省略

（参考 2）「医療機器の分割販売について（薬食監麻発 0411 第 3 号 平成 26 年 4 月 11 日）」
医療機器販売業者において、医療機器の直接の容器又は直接の被包を開き、小包装単位で供給する行為（以下「分割販売」という）は、特定の需要者の求めに応じて行う場合に限って認められる。ただし、広く一般に対し、販売等を行うために、あらかじめ分割する行為は、薬事法（昭和 35 年法律第 145 号）第 13 条第 1 項に規定する製造行為（（小分け製造）に該当する（後略）。

（参考 3）旧薬事法 第 13 条第 1 項
医薬品、医薬部外品又は化粧品の製造業の許可を得たものでなければ、それぞれ、業として、医薬品、医薬部外品又は化粧品の製造をしてはならない。

旧薬事法 第 13 条第 1 項の内容は平成 25 年の改正により医薬品医療機器等法（新薬事法）の第 23 条第 2 項の 3 に盛り込まれた。

（参考 4）医薬品医療機器等法（新薬事法） 第 23 条第 2 項の 3
業として、医療機器又は体外診断用医薬品の製造（設計を含む。以下この章及び第 80 条第 2 項において同じ）をしようとする者は、製造所（医療機器又は体外診断用医薬品の製造工程のうち設計、組立て、滅菌その他の厚生労働省令で定めるものをするものに限る。以下この章及び同項に

において同じ) ごとに、厚生労働省令で定めるところにより、厚生労働大臣の登録を受けなければならない(後略)。

研究協力者(五十音順、敬称略)：

生島嗣(ふれいす東京代表)、今村顕史(がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長)、岡慎一(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター長)、加藤真吾(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室専任講師)、要友紀子(SWASH代表)、白阪琢磨(国立病院機構大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部長)、杉山真一(原後綜合法律事務所弁護士)、高久陽介(日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+代表)、福武勝幸(東京医科大学医学部医学科臨床検査医学分野主任教授)、松下修三(熊本大学エイズ学研究センター教授)、渡會睦子(東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授)

参考文献

1. Myron S. Cohen, McCauley M, et al. (HPTN 052 Study Team). Prevention of HIV-1 Infection with Early Antiretroviral Therapy. N Engl J Med 2011; 365: 493-505
2. Cohen MS, Cohen YQ, McCauley, M et al. (The HPTN 052 Study Team): Antiretroviral therapy for the prevention of HIV-1 transmission. N Engl J Med 375(9): 830-839, 2016
3. 木村哲. 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規感染者報告数の関連. 日本エイズ学会誌 2016; 18: 79-85
4. 木村哲ほか研究協力者. HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究. 厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」(研究代表者: 市川誠一) 平成 27 年度総括・分担報告書 Mar 31, 2016: pp215-223
5. 今井光信ほか研究協力者. 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査. 厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」(研究代表者: 市川誠一) 平成 27 年度総括・分担報告書 Mar 31, 2016: pp167-213

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

著者	タイトル	雑誌名	巻号	ページ	出版年
松下修三、市川誠一、 生島嗣、木村哲、荒木順子	座談会「治療が予防になる時代のコミュニティセンター事業」	HIV 感染症と AIDS の治療 (別 冊)	5 巻 2 号	4-19	2014
Yasuharu Hidaka, Don Operario, Hiroyuki Tsuji, Mie Takenaka, Hirokazu Kimura, Mitsuhiro Kamakura, Seiichi Ichikawa	Prevalence of Sexual Victimization and Correlates of Forced Sex in Japanese Men Who Have Sex with Men	PLOS ONE	Vol. 9 Issue 5	E95675	2014
瀬藤ゆき、金子典代、 市川誠一	若年女性における過去と現在の性感 染症予防行動と情報入手状況の比較	日本ウーマン ズヘルズ学会 誌(別冊)	Vol.13	53-62	2014
Nigel Sheriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, and Seiichi Ichikawa	Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention	Health Promotion International	Doi: 10.1093 /heapro /dav096	1-13	2015
Nigel Sheriff, Jane Koerner、金子典代、 塩野徳史、高久道子、Ross Boseley、市川誠一	日本における“Everywhere”: ゲイ商業施設との協働による HIV 感 染予防介入のための国際的アプロー チ	Health Promotion International	Online Supplemental data		2015
岡慎一、市川誠一、 松下修三	座談会「HIV 検査と感染予防」	HIV 感染症と AIDS の治療	6 巻 2 号	4-11	2015
高久道子、市川誠一、 金子典代	愛知県に在住するスペイン語圏の南 米地域出身者におけるスペイン語対 応の医療機関に関する情報行動と関 連する要因	日本公衆衛生 雑誌	62 (11)	684- 693	2015
木村哲	HIV 感染症の最近の動向ー世界と日 本の疫学状況、抗 HIV 療法 (ART) の 進歩等ー	感染制御	11 (3)	223- 229	2015
木村哲	全国保健所等における HIV 抗体検査 件数と新規 HIV 感染者報告数の関連	日本エイズ学 会誌	18	79-85	2016
木村哲 (監訳)	成人および青少年 HIV-1 感染者にお ける抗レトロウイルス薬の使用に関 するガイドライン	2016 年 7 月 14 日版 テクノミック 東京			
市川誠一、塩野徳史、 金子典代、本間隆之、 岩橋恒太	MSM における HIV 感染予防とコミュ ニティセンターの役割	化学療法の領 域	32 (5)	1029- 1038	2016
金子典代、塩野徳史、 内海眞、山本政弘、健山正 男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、 市川誠一	成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身 近さの実態ー2009 年調査と 2012 年 調査の比較ー	日本エイズ学 会誌	19 (1)	16-23	2017